鳥取県教育文化財団調査報告書　63

一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡会見町

越敷山遺跡群

荻名第３遺跡

２０００

財団法人　鳥取県教育文化財団

鳥取県教育文化財団調査報告書　63

一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡会見町

越敷山遺跡群

荻名第３遺跡

２０００

財団法人　鳥取県教育文化財団

荻名第３遺跡全景（南東から）

SI04遺物出土状況（南東から）

序

鳥取県の西部にそびえたつ大山はその美しさから「伯耆富士」と呼ばれ、古来より伯耆地方の人々の暮らしを見守ってきました。その西に位置する会見町は自然豊かな美しい町であり、ここからは大山の四季折々の情緒ある姿を眺めることができます。そのような自然環境を活かして、昨年、越敷野地区に県立フラワーパーク「とっとり花回廊」が開園するなど、さらなる発展が期待されております。

さらにこの地は古くからの遺跡の宝庫としても知られており、古代人の生活の様子や、伯耆と出雲を結ぶ要所として栄えたことを物語る、貴重な遺跡、遺物が数多く存在しております。そして今回の発掘調査も、弥生～古墳時代の集落跡である越敷山遺跡群を眺めながらの調査となりました。

このような遺跡地帯において、町道改良工事によって失われる遺跡を記録保存するために、当財団では平成11年度に鳥取県の委託を受け、発掘調査を実施しました。その結果、弥生時代の住居跡を始め数多くの遺構・遺物が発見されました。これらは当時の越敷野周辺の生活環境、そして西伯耆一帯の弥生時代の様子を知るうえで、貴重な資料になるものと思われます。

今日、県民の埋蔵文化財に対する関心は高まってきております。本報告書がそのような県民の関心に応え、さらに認識を深める一助となると共に、教育及び学術研究のための資料として、広く御活用いただければ幸いであります。

最後になりましたが、発掘調査に際しまして多大な御理解と御協力をいただきました地元の皆様を始め、御指導いただきました方々、鳥取県土木部など関係各位に対し、心から感謝すると共に厚く御礼を申し上げます。

平成12年３月

財団法人　鳥取県教育文化財団
理事長　**有　田　博　充**

例　言

1．本報告書は「一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査」として平成11年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の記録である。

2．本発掘調査は下記に所在する遺跡を対象として実施された。
　鳥取県西伯郡会見町荻名字天野490、491、495～499、501-1、503、504、505-1・2、507-1・2、507-6～8（以上１区）、字上ヶ市247、249、250（以上２区）、字上ナル516、517-1、522-2（以上３区）

3．本報告書における標高値は海抜を、方位、座標値は国土座標第Ⅴ系を用いた。

4．本報告書に掲載した挿図１、挿図50は、会見町役場から提供された1/5,000会見町全図に越敷山遺跡群調査報告書の付図を合成したものであり、挿図３には国土地理院発行の1/50,000地形図「米子」を使用した。

5．本発掘調査にあたっては、調査指導を元島根大学教授の田中義昭先生に依頼した。

6．本発掘調査の実施にあたり、航空写真撮影と基準点測量をそれぞれ専門業者に委託した。

7．地形測量及び遺構の実測は調査員が行った。

8．遺物の実測は整理員が行った。

9．掲載図面は調査員が作成したものを整理員が清書を行った。

10．遺構の写真は調査員が撮影した。

11．遺物の写真撮影は奈良国立埋蔵文化財研究所の牛嶋　茂氏、杉本和樹氏に依頼し、調査員が補佐にあたった。

12．発掘調査によって作成された記録類は鳥取県埋蔵文化財センター、出土遺物は会見町教育委員会にそれぞれ保管されている。

13．本報告書の作成は調査員の協議に基づいて執筆及び編集し、文責は目次に記した。

14．現地調査および報告書の作成にあたっては関係各機関を始め、多くの方々からのご指導、ご教示およびご支援をいただいた。ご芳名を記して深謝の意を表する。（敬称略、順不同）
　稲田　豊、新井宏則、橋口妙子、岡田竜平、岸本浩忠、佐伯純也、中川　寧、禰宜田佳男、石崎善久、
　藤井　整、福島孝行、鈴木篤英、遠藤勝壽、村上恭通

凡　例

1．本報告書において採用した遺構の略称は以下のとおりである。
　ＳＩ：竪穴住居跡　　ＳＢ：掘立柱建物跡　　ＳＤ：溝状遺構　　ＳＫ：土坑状遺構
　ＳＳ：段状遺構　　Ｐ：ピット

2．調査時と報告時の遺構の名称は、一部の遺構とピットを除き同一である。詳しくは第３章を参照のこと。

3．遺構図中の遺物の出土位置を、土器は●、石器・石製品は▲、鉄器は■で示す。

4．遺構、遺物実測図に用いたスクリーントーンはそれぞれ以下のものを表す。

5．赤色顔料　磨面・砥石使用面　敲痕　焼土面　貼り床・埋め戻し

6．石器実測図に用いた矢印は敲痕、砥石使用面の範囲をあらわす。

7．遺物は土器、石器・石製品、鉄器・金属製品の３種に分け、それぞれ通し番号を付けた。土器は番号のみ、石器・石製品は番号の頭にＳを、鉄器・金属製品は番号の頭にＦを付けている。

8．遺物実測図のうち、床面出土のものには番号の前にドット（●）を打っている。

9．調査時の荻名第３遺跡の略称はＯＧ３とし、遺物の注記に使用している。

10．文章中で触れる土器型式名および年代は越敷山遺跡群土器編年を参考にする。

目　次

序
例言
凡例
目次

第１章　調査の経緯
　第１節　発掘調査に至る経緯 …… （柴田）　1
　第２節　調査の経過と方法 …… （家塚）　1
　第３節　調査体制 …… （柴田）　2

第２章　位置と環境
　第１節　地理的環境 …… （柴田）　3
　第２節　歴史的環境 …… （柴田）　4

第３章　調査の成果
　第１節　遺跡の概要 …… （家塚）　7
　第２節　竪穴住居跡 …… （家塚）　13
　第３節　掘立柱建物跡 …… （柴田）　43
　第４節　土坑状遺構 …… （柴田）　52
　第５節　溝状遺構 …… （柴田）　55
　第６節　段状遺構 …… （柴田）　55
　第７節　ピット …… （家塚）　56
　第８節　遺構外出土遺物 …… （家塚）　57

第４章　まとめ …… （家塚、柴田）　71

図版
報告書抄録

挿図目次

挿図１　遺跡周辺地形図 …… viii
挿図２　遺跡位置図 …… 3
挿図３　周辺遺跡図 …… 5
挿図４　調査前地形図 …… 8，9
挿図５　遺構配置図 …… 10，11
挿図６　SI01遺構図 …… 14
挿図７　SI01変遷図 …… 15
挿図８　SI01出土遺物実測図 …… 15
挿図９　SI02遺構図 …… 16
挿図10　SI02変遷図 …… 16
挿図11　SI02出土遺物実測図 …… 17
挿図12　SI03，06遺構図 …… 20，21
挿図13　SI03-a，b遺構図 …… 22
挿図14　SI03変遷図 …… 22
挿図15　SI03，06出土遺物実測図 …… 23
挿図16　SI03，06遺物出土状況図 …… 24
挿図17　SI04遺構図 …… 25
挿図18　SI04出土遺物実測図
（土器、北西側）…… 26
挿図19　SI04出土遺物実測図
（土器、北東側）…… 27
挿図20　SI04出土遺物実測図
（土器、南東側）…… 28
挿図21　SI04出土遺物実測図
（土器、南西側）…… 29
挿図22　SI04出土遺物実測図
（石器）…… 30
挿図23　SI04遺物出土状況図 …… 31
挿図24　SI05遺構図 …… 32
挿図25　SI05遺物出土状況図 …… 33
挿図26　SI05出土遺物実測図 …… 33
挿図27　SI07遺構図 …… 36
挿図28　SI07変遷図 …… 37
挿図29　SI07出土遺物実測図 …… 37
挿図30　SI08遺構図 …… 38
挿図31　SI08出土遺物実測図 …… 39
挿図32　SI09遺構図 …… 40
挿図33　SI09変遷図 …… 40
挿図34　SI09出土遺物実測図 …… 41
挿図35　SB20，25遺構図 …… 44
挿図36　SB03，04，09遺構図 …… 45
挿図37　SB02，12，16，
17，22，23遺構図 …… 46
挿図38　SB05，06，10，
13，19，26遺構図 …… 47
挿図39　SB01，07，08，
14，21，27遺構図 …… 48
挿図40　SB11，15，18，24遺構図 …… 49
挿図41　SK01，02，04遺構図 …… 52
挿図42　SK06，11，12遺構図 …… 53
挿図43　SK15，SD16遺構図、
SK出土遺物実測図 …… 54
挿図44　SS01遺構図 …… 55
挿図45　ピット内、
遺構外出土遺物実測図 …… 56
挿図46　遺構外出土遺物実測図 …… 57
挿図47　SI05に類似する
方形竪穴住居跡 …… 72
挿図48　掘立柱建物跡タイプ別分布図 … 75
挿図49　荻名第３遺跡変遷図 …… 76
挿図50　越敷山Ⅳ期の集落分布図 …… 78

挿表目次

挿表１　新旧遺構名対照表 …… 12
挿表２　SI01ピット一覧表 …… 18
挿表３　SI02ピット一覧表 …… 18
挿表４　SI03ピット一覧表 …… 34
挿表５　SI04ピット一覧表 …… 34
挿表６　SI05ピット一覧表 …… 34
挿表７　SI06ピット一覧表 …… 35
挿表８　SI07ピット一覧表 …… 35
挿表９　SI08ピット一覧表 …… 35
挿表10　SI09ピット一覧表 …… 42
挿表11　掘立柱建物跡
　　ピット一覧表（1） …… 50
挿表12　掘立柱建物跡
　　ピット一覧表（2） …… 51
挿表13　ピット一覧表（1） …… 58
挿表14　ピット一覧表（2） …… 59
挿表15　ピット一覧表（3） …… 60
挿表16　ピット一覧表（4） …… 61
挿表17　ピット一覧表（5） …… 62
挿表18　ピット一覧表（6） …… 63
挿表19　ピット一覧表（7） …… 64
挿表20　土器観察表（1） …… 65
挿表21　土器観察表（2） …… 66
挿表22　土器観察表（3） …… 67
挿表23　土器観察表（4） …… 68
挿表24　土器観察表（5） …… 69
挿表25　石器・石製品観察表 …… 70
挿表26　金属製品観察表 …… 70
挿表27　竪穴住居跡規模一覧表 …… 73
挿表28　掘立柱建物跡規模一覧表 …… 73
挿表29　土坑規模一覧表 …… 73

図版目次

巻頭図版　荻名第３遺跡全景
SI04遺物出土状況
図版1　調査前遠景（１区）
調査前遠景（１区）
調査前遠景（２，３区）
図版2　調査後遠景（１区）
調査後遠景（１区）
調査後遠景（１区）
図版3　調査後遠景（１，２，３区）
調査後遠景（２，３区）
調査後遠景（２，３区）
図版4　SI01完掘状況
SI01F-F’土層断面
SI01壺10出土状況
図版5　SI02-b完掘状況
SI02-a完掘状況
SI02有孔鉢30出土状況
図版6　SI03-c完掘状況
SI03-a，b完掘状況
SI03，06A-A’土層断面
（切り合い）
図版7　SI03C-C’土層断面（西半）
SI03C-C’土層断面（東半）
SI03遺物出土状況
SI06遺物出土状況
SI03，06完掘状況
図版8　SI04遺物出土状況
SI04完掘状況
図版9　SI04北西側遺物出土状況
SI04北東側遺物出土状況
図版10　SI04南東側遺物出土状況
SI04北東側遺物出土状況
図版11　SI04南西側遺物出土状況
SI04北西側遺物出土状況
図版12　SI05床面遺物出土状況
SI05完掘状況
図版13　SI05遺物出土状況
SI05D-D’土層断面
SI05-P5土層断面
図版14　SI07完掘状況
SI08完掘状況
SI08遺物出土状況
SI08E-E’土層断面
図版15　SI07遺物出土状況
SI07A’-A土層断面
SI09遺物出土状況
SI09-a中央ピット土層断面
SI09，07完掘状況
図版16　SB04，05完掘状況
SB06完掘状況
SB07完掘状況

図版17　SB09完掘状況
SB11，12，13完掘状況
SI04，SB15完掘状況
図版18　SB20完掘状況
SB22，23完掘状況
SB24完掘状況
図版19　SB25完掘状況
SB26，27完掘状況
２，３区中央遺構群
図版20　SK01完掘状況
SK02完掘状況
SK04完掘状況
図版21　SK01土層断面
SK02検出状況
SK02土層断面
SK02土層断面
SK02遺物出土状況
SK04土層断面
SK04埋土下層検出状況
SK04埋土下層土層断面
図版22　SK06完掘状況
SK12完掘状況
SK11完掘状況
図版23　SK06土層断面
SK12土層断面
SK11土層断面
SK11遺物出土状況
２区東側遺構群
図版24　SK15完掘状況
SK15底面
SK15土層断面
図版25　SS01完掘状況
SD16完掘状況
SD16A-A'土層断面
SD16B-B'土層断面
図版26　SI01，02，03出土土器
図版27　SI01，02出土土器
図版28　SI04出土土器（1）
図版29　SI04出土土器（2）
図版30　SI04出土土器（3）
図版31　SI04出土土器（4）
図版32　SI04出土土器（5）
図版33　SI04出土土器（6）
図版34　SI04，05出土土器
図版35　SI05，07，ピット出土土器
図版36　SI03，06，07出土土器
図版37　荻名第３遺跡出土石器
図版38　SI08，09，ピット，土坑，
遺構外出土土器
図版39　荻名第３遺跡出土鉄器・鉄製品

112.26
91.93
97
133.2
138.6
荻名第３遺跡
3b区
3a区
3c区
18b区
18a区
5区
19a区
19b区
17区
20a区
20b区
15e区
15c区
15d区
16a区
16b区
越敷山遺跡群
13区
12b区
S＝1：5,000　200 m

挿図１　遺跡周辺地形図

第１章　調査の経緯

第１節　発掘調査に至る経緯

会見町では平成11年の県立フラワーパーク「とっとり花回廊」開園に先立ち、交通対策の一環として、一級町道諸木鶴田線道路改良工事が平成７年度から年次的にすすんできた。今回の工事予定区域は、越敷山山頂に位置する全長35mの越敷山13号墳を中心とした、越敷山遺跡群の周辺地域にあたり、一部が土器散布地にかかっていた。そのため会見町は道路工事に先だって、予定地域内の遺跡、遺構の有無を確認する必要があった。

平成９年度に会見町教育委員会によって実施された試掘調査の結果、いくつかのトレンチから土坑、ピットなどの遺構や弥生土器などの遺物が出土し、遺跡の存在が確認された。この事業は鳥取県が代行することになったため、鳥取県土木部道路課及び鳥取県米子土木事務所は、鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の３に基づく発掘通知を文化庁長官に提出した。その結果、事前発掘調査の指示を得たため、鳥取県土木部道路課は財団法人鳥取県教育文化財団に発掘調査を委託した。鳥取県埋蔵文化財センター所長は文化庁長官に文化財保護法第57条第1項に基づく発掘届を提出した上で、西部埋蔵文化財米子調査事務所会見分室を設置し、２名の調査員で荻名第３遺跡の調査を担当することとなった。

第２節　調査の経過と方法

調査地は台地にたくさんの小谷が深く切り込んで形成された舌状丘陵の上に立地しており、大きく２つに分かれている。北西側を１区、南東側は農道を挟んで南側を２区、北側を３区と設定した。これらは地形的に一続きの尾根上にある。１区の北西側は施工が完了し、切り立った崖となっている。調査区内の農道は１区側を通行止めにしたが、２区と３区の間は車両の通行を確保する必要があった。発掘調査は１区、２・３区の順に着手することとなった。

１～３区の調査前地形の航空写真撮影後、４月５日より１区の調査前地形測量を行った。

４月12日から重機を使用して表土を除去した。排土は北西側の道路用地及び南側の谷部へ排出した。これらの排土は調査終了後に場外に搬出される。

基準点測量を業者に依頼した。調査区に設定した、グリッドと呼称する10m方眼の角度は国土座標第Ｖ系に準拠し、軸線を南北に０～15、東西にＡ～Ｒと振り当てる。交点の座標はＡ０（Ｘ：－70,320，Ｙ：－85,300）、Ｒ15（Ｘ：－70,470，Ｙ：－85,130）となる。交点には杭を打ち、グリッド名は南西隅交点の座標の名称を使用した。

４月20日から作業員を稼働して、遺構検出作業を行った。排土はベルトコンベヤーで調査区外へ排出した。調査後の地形測量と航空写真撮影を行い、９月28日に１区の調査を終了した。

９月29日に１区の調査成果の報告を主とする記者発表を行った。10月２日に現地説明会を開催し、町内を中心に約60名の参加者を得た。

１区の調査と並行して６月下旬から２・３区の調査前地形測量に取り掛かった。重機による表土剥ぎは３区から入り、続いて２区に着手する。排土は２区西側の谷部へ排出した。

２区、３区で検出した遺構の検出状況から未着手の農道部分にも遺構の広がりが予想された。そこで一部の表土を人力で掘削したところ、多くの遺構を検出した。車両の通行量が少ないことと、残存する遺構の深度から、農道封鎖は回避できると判断し、パネルの敷設や土嚢積みによる遺構の保全と段差の緩和、柵の設置など、安全確保に努めた上で町役場を通じて調査への理解を求め、通行時の注意を呼びかけた。

２・３区の航空写真撮影と地形測量を行い、10月29日にすべての作業を完了した。

第３節　調査体制

○調査主体　財団法人鳥取県教育文化財団

理事長	有田博充（鳥取県教育委員会教育長）
常務理事	大和谷　朝（鳥取県教育委員会事務局次長）
事務局長	岡山宏徳

財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター

所長	古井喜紀（鳥取県埋蔵文化財センター所長が兼務）
次長	八木谷　昇
調整係長	松田　潔
文化財主事	高垣陽子
主任事務職員	矢部美恵
事務職員	嶋村八重子

○調査担当　財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター
西部埋蔵文化財米子調査事務所会見分室

所長	国田俊雄
主任調査員	家塚英詞
調査員	柴田親臣
整理員	塚田文子

○調査指導　鳥取県教育委員会事務局文化課　鳥取県埋蔵文化財センター

下記の方々に発掘作業、整理作業に従事、または協力いただいた。（敬称略）

野口　基治	野口　文恵	細田　フサ子	頼田　つゆ子	吉村　京子	渡辺　静江
稲田　三枝子	富永　武子	後藤　菊夫	後藤　貞子	伊藤　景子	山川　愛子
宇田川　東功子	西村　美知枝	福井　徳子	永江　美枝子	小林　等子	田宮　繁
頼田　美佐子	池野　毅	野津　松夫	藤江　利夫	都田　三郎	遠藤　清子
板持　章	清水　房子	福田　弥千代	厨子　彰子	野島　尚子	

第２章　位置と環境

第１節　　地理的環境

荻名第３遺跡は鳥取県西伯郡会見町荻名に位置する。

１．鳥取県

中国地方の北部にあり、北は日本海に面し南は中国山地を望む。東西に細長く、総面積の86.3%が山地である。県の東・中・西部にはそれぞれ一級河川が流れ、下流域には沖積平野が広がる。そのうち西部を流れる日野川が最長で、下流域には米子平野が広がっている。

２．会見町

鳥取県の西端に位置し、東西南北をそれぞれ岸本町、西伯町、日野郡溝口町、米子市に接している。

地勢は盆地状で、周囲を見渡すと、東は越敷山、高塚山、粟津山、南は比婆山、西は要害山と一連の山脈に囲まれている。北側は米子市に接し平坦な水田地帯、東側は傾斜が緩やかで果樹園や畑地が多く、林野率66%の農山村である。粟津山を源とする朝鍋川と比婆山山麓を源とする小松谷川は、浅井地内で合流した後、米子市青木地内で日野川の支流である法勝寺川に合流している。

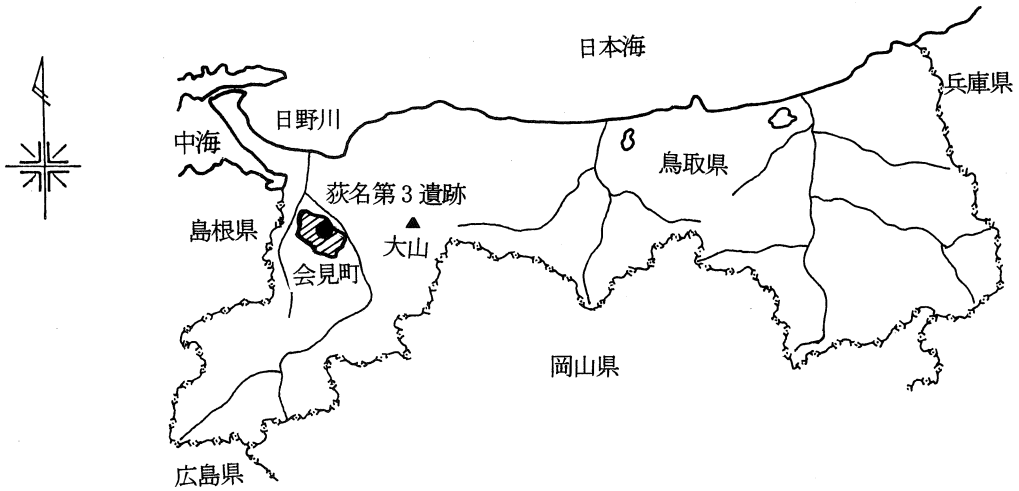
当町は発足時の経緯もあり、人口4,117人（平成12年１月末現在）、面積31㎢と規模的には県内でも小さい。また米子市に隣接しており、立地的には恵まれていると思われるが、鉄道、国道が通ってないため、地域発展には不利な面もある。しかし古代より山陰道の要所として栄えた地であり、貴重な文化遺産が点在し、町内からの大山の眺望は素晴らしく、自然も豊かである。なお、越敷野周辺は「ふるさと大山ふれあいリゾート構想」の重点整備地区になっており、東麗部には平成11年に県立フラワーパーク「とっとり花回廊」が開園した。今後は、このような観光資源と自然を生かした開発が期待されている。

３．越敷原台地

当調査地は会見町の北東部、越敷山（226.5m）を中心とする標高200m前後の越敷原台地上に位置する。

この台地はかつて採草地として利用され、「越敷野」と呼ばれることもあるが、そのほとんどが赤松林を主とする山林であった。現在は山林のほかに畑地や、梨、富有柿などの果樹園地が散在する。

地質は、基盤の花崗岩とこれを覆う鮮新世の玄武岩溶岩流があって、平坦面は溶岩流の上面にあたっている。平坦面上には、大山火山の噴出物である火山灰などが堆積している。脊稜部は比較的なだらかであるが、いたる所に深い谷が発達しており、特に深い谷奥には溜池が設けられ、谷間に水田が営まれている。なお、台地上の現在の集落である荻名、上野、池野、鶴田、小町はいずれも谷の小川が流れる所に位置している。



挿図２　遺跡位置図

第２節　歴史的環境

１．縄文時代

昭和50年頃、諸木地区で中学生がサヌカイト製の有舌尖頭器を発見した。これが会見町域最古の資料と思われる。草創期には大山山麓を中心に、このような有舌尖頭器や尖頭器が出土している。しかしいずれも遺構に伴わず、他の石器や土器などとも共伴しないため、当時の様子を知るには不十分である。

早期になると、大山山麓を中心に縄文遺跡が登場する。⑷米子市・上福万遺跡では押型紋土器とともに集石、土坑が、平成11年度に調査の行われた西伯町・龍徳遺跡では縄文土器、集石遺構が確認されている。これらは山陰では数少ない早期の遺跡となっている。

前期には、「縄文海進」といわれる海水面の上昇によってできた、海岸部のラグーン（潟湖）周辺に多くの遺跡が見られる。中海沿岸に位置する⑴米子市・目久美遺跡では、前期の土器をはじめ中期の貯蔵穴などが確認されている。

中期の遺跡は少ないが後・晩期になると、人々の生活の場は山裾の平野部にも広がっていく。それは初めて会見町にも及び、朝鍋川を挟んで西に天王原を望む⒅口朝金遺跡では、大量の土器や石器類などが出土している。一方、大山山麓の丘陵部では多数の落し穴が発見され、なかでも淀江～大山町・妻木晩田遺跡群（963基）、⑽越敷山遺跡群（341基）、⑶米子市・青木遺跡（228基）などで多く見られる。

２．弥生時代

この地方の弥生文化は目久美遺跡辺りで始まったとされ、その後河川に沿って急速に広がっていく。

前期には㉙諸木遺跡、㉗宮尾遺跡、⒄天王原遺跡で環濠をもつ集落が形成される。

中期になると居住地域は拡大し、㉖宮前遺跡や⒆浅井土居敷遺跡で集落跡が確認されている。また農業技術の進歩により、台地周辺の湿地でも稲作ができるようになると、人々は青木遺跡や天王原遺跡のような台地や、越敷山遺跡群のような奥まった丘陵にまで生活の場を広げていく。

後期には台地や丘陵上で居住地域がさらに広がる。長者原台地では、青木遺跡がさらに拡大するとともに、⑵福市遺跡などができ、越敷山遺跡群でも戸数の爆発的な増大が見られる。また妻木晩田遺跡群では、現発掘段階で九州・吉野ヶ里遺跡の約1.3倍、156haの広さを誇る弥生時代最大規模の集落とともに、四隅突出型墳丘墓が出現する。この墳墓形態は出雲地方を中心とした山陰地方に多く見られるが、会見町域ではまだ確認されていない。

この頃、⒁朝金小チヤ遺跡では大規模な墳丘墓が築かれており、当地域における古墳時代の息吹が感じられる。

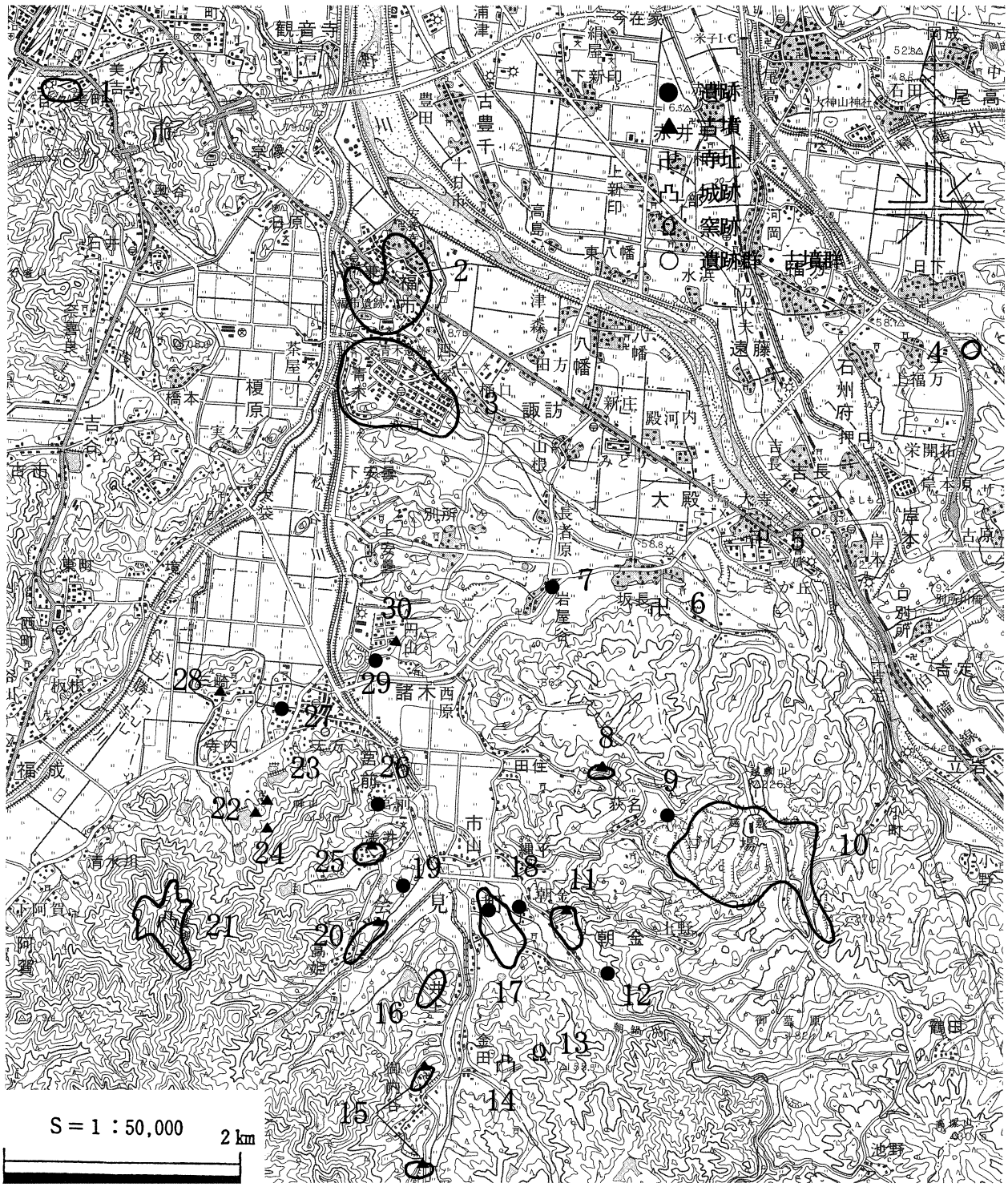
３．古墳時代

農耕社会の出現により貧富の差が生まれ権力者が出現すると、その葬送儀礼として大規模な古墳が築かれるようになる。

前期には県内でもいち早く㉓普段寺１号墳、㉔普段寺２号墳がつくられる。いずれも三角縁神獣鏡が出土しており、また１号墳は全長21.7mと前方後方墳では西伯耆最大である。

古墳が大型化する中期になると、㉘三崎殿山古墳が築かれる。全長108mの前方後円墳で、山陰第２位の大きさを誇る。西伯耆でそれに続くのは淀江町・向山４号墳の全長65mであり、この古墳の巨大さがうかがえる。また㉕浅井古墳群の11号墳では画文帯神獣鏡が確認されている。前述した会見町の前・中期古墳はいずれも近接しており、この地域の首長が西伯耆で早い時期に首長権を確立し、その後も一定の勢力を保っていたことを物語っている。

後期に入ると、首長や豪族のみならず有力農民層も古墳造営に取り組む。㉚後垰山古墳などで中型の前方後円墳が築かれ、さらに⑻田住古墳群、⑾朝金古墳群、⒃井上古墳群、⒂御内谷古墳群、⒇高姫古墳群など現集落の後背地に群集墳が営まれるようになる。また荻名、鶴田などの越敷山遺跡群周辺にも小型古墳が点在している。埋葬形態では、㉒寺内８号墳の横穴式石室で、山陰では十数例しかない陶棺が納められていたことが特筆される。



挿図３　周辺遺跡図

１．目久美遺跡	２．福市遺跡	３．青木遺跡	４．上福万遺跡	５．大寺廃寺
６．坂中廃寺	７．長者屋敷遺跡	８．田住古墳群	９．荻名第３遺跡	10．越敷山遺跡群
11．朝金古墳群	12．朝金小チヤ遺跡	13．金田瓦窯跡	14．小松城跡	15．御内谷古墳群
16．井上古墳群	17．天王原遺跡	18．口朝金遺跡	19．浅井土居敷遺跡	20．高姫古墳群
21．手間要害	22．寺内８号墳	23．普段寺１号墳	24．普段寺２号墳	25．浅井古墳群
26．宮前遺跡	27．宮尾遺跡	28．三崎殿山古墳	29．諸木遺跡	30．後垰山古墳

4.　歴史時代

律令期に入ると伯耆国は６郡に分かれ、現在の会見町は会見郡に相当した。前代の爆発的な古墳造営に歯止めをかけるため「薄葬令」が出され、また国家が仏教を保護したため、豪族はこぞって寺院を建立した。

この地域にも金堂に石製鴟尾をのせた⑸岸本町・大寺廃寺が建立され、変形の法起寺式伽藍をとっていた。この寺の瓦を焼いた窯跡とされるのが、南に６㎞離れた所にある⒀金田瓦窯跡である。さらに、この地方の有力豪族として知られている紀氏によって⑹坂中廃寺が建立されたと伝えられる。また、紀成盛は平安時代末期に焼失した大山寺再建に貢献したとされ、彼の屋敷跡とも会見郡の郡衙とも言われているのが⑺長者屋敷遺跡である。これら寺院と屋敷跡は近接しており、この辺りが会見郡の中心であったと考えられる。

中世において、当地域は出雲と伯耆・備中を結ぶ交通の要所であり、戦略拠点としても重要であった。そのため南北朝以後、⒁小松城、㉑手間要害などが築かれ、たびたびその争奪をめぐる激しい戦いが行われた。

（注１）西伯耆の範囲は名和町、大山町、淀江町、米子市、岸本町、会見町、西伯町の範囲とした。
（注２）会見町以外の遺跡については、遺跡名の前に市、町名を記した。

参考文献・参考資料

会見町誌続編編さん企画委員会『会見町誌続編』会見町1995年
米子市史編さん協議会『新修米子史誌　資料編考古　原始・古代・中世』米子市1999年
鳥取県埋蔵文化財センター『弥生時代の鳥取県』1987年
鳥取県埋蔵文化財センター『旧石器・縄文時代の鳥取県』1988年
鳥取県埋蔵文化財センター『歴史時代の鳥取県』1989年
会見町教育委員会　岸本町教育委員会『越敷山遺跡群』1992年
会見町教育委員会『天王原遺跡発掘調査報告書』1993年
財団法人鳥取県教育文化財団『鶴田荒神ノ峯遺跡　鶴田堤ヶ谷遺跡　宇代横平遺跡　宇代寺中遺跡』1996年
財団法人鳥取県教育文化財団『天萬土井前遺跡』1997年
財団法人鳥取県教育文化財団『御内谷遺跡群』1998年
会見町教育委員会『町内遺跡発掘調査報告書』1998年
鳥取県教育委員会『むきばんだ　妻木晩田遺跡発掘調査の概要』1999年
鳥取県埋蔵文化財センター『平成11年度発掘技術研修会「遺跡調査検討会」資料』2000年

第３章　調査の成果

第１節　遺跡の概要

調査前の１区は、農道より北側の平坦面は畑地と果樹園で、南側の斜面は竹林になっていた。畑地は戦後に開墾されたもので、地山面まで大きな削平を受けていた。平坦面では竪穴住居跡６棟、掘立柱建物跡20棟、土坑５基を検出した。平坦面の北側に北西－南東方向に伸びる、幅30㎝、深さ10㎝の溝が幾本も平行して並んでいた。埋土は上面の耕作土とは異なるものの、陶磁器が出土しており、新しい耕作痕と判断した。斜面は急勾配であり、部分的に竹林の加工段が施されている。段状遺構１の他、多くのピットを検出している。

２・３区の調査前は畑地・植林であり、地形は東の平坦面と西の斜面に大きく分かれる。平坦面は１区と同様に削平されていた。３区には方眼の区割りをもつ溝が掘られていた。表土掘削の前から溝状の落ち込みを確認しており、農道の側溝に並行することから畑地に関連する新しい時期のものと判断した。

２区はなだらかな斜面地であったが、厚く堆積した客土を除去すると大規模に削平された面が現れ、遺構未検出地帯の幅は14mにも及ぶ。北側の農道に面する部分は大きく切り落とされていて、深いところでは農道の遺構検出面から１m近く下がっている。ピット群を検出した西寄りの急斜面地は辛うじて自然の地形を残している。調査区西端の斜面はテラス状に整地されているが、埋土と出土品から近現代の施工によるものと考える。遺構は竪穴住居跡３棟、掘立柱建物跡７棟、土坑２基、溝状遺構１条を検出した。

竪穴住居跡は平面形が円形のものが８棟、小型の隅丸方形のものが１棟ある。円形の竪穴住居跡のうち５棟が規模の拡張を伴う建て替えを行っている。小型の竪穴住居SI04からは多量の土器が廃棄された状況で出土している。隅丸方形のSI05はピットの配置を含めた平面形態と焼土面の広範な広がりに特異性が認められる。全体的な配置は、現況の等高線に沿った連なりを見せる。

掘立柱建物跡は１間×２間が５棟、１間×１間が22棟で、大観して竪穴住居を取り巻くような状況を呈している。傾向として１間×２間は大型で竪穴住居から離れた位置にあり、１間×１間は小型で竪穴住居に隣接している。柱穴内から遺物が出土するものは少ない。

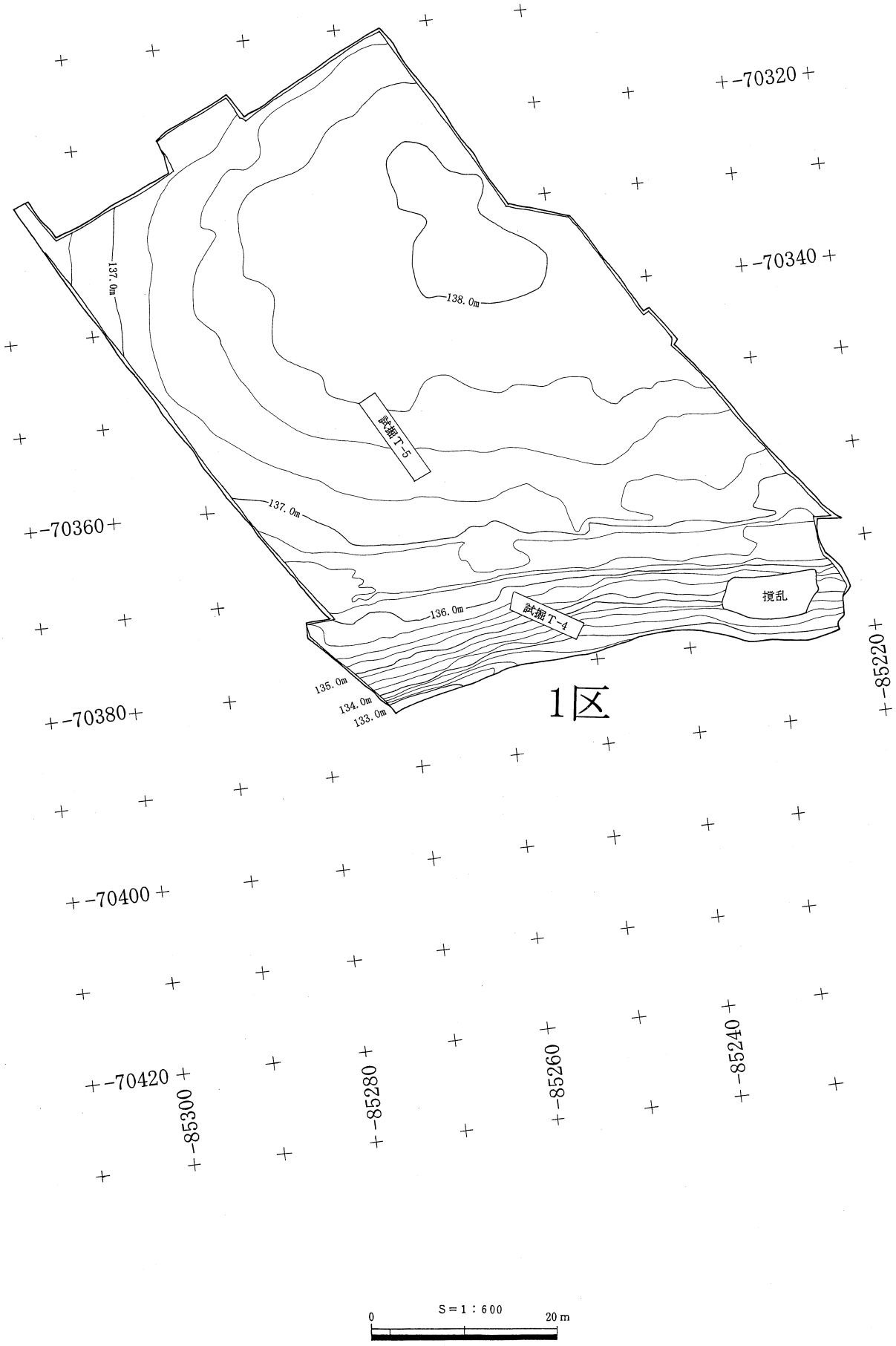
土坑SK01、02、04、06は掘立柱建物跡の北西に隣接しており、建物に付随するものと見られる。SK11は底面しか残存しないが、周溝を備えている。SK12は竪穴住居SI04に切られているが、ほぼ同時期の土器が出土している。SK15は２m近くの深さをもち、試掘調査では落とし穴と報告されていたものである。

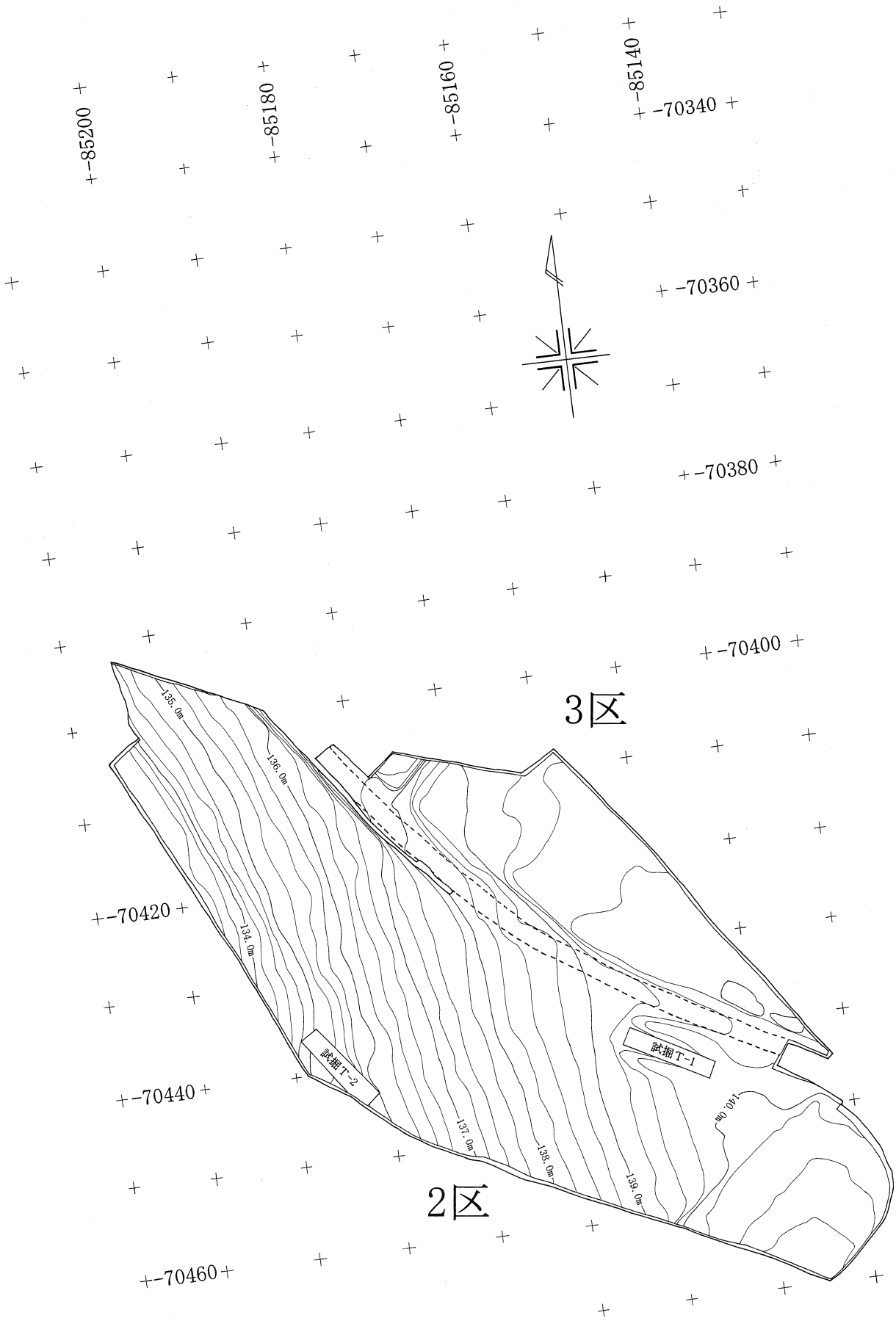
溝状遺構SD16は２区の斜面を、等高線に沿うように掘られた溝である。その上方で多くのピットを検出し、下方ではSK15を検出している。

段状遺構SS01は１区の斜面をＬ字状に加工して平坦面を作りだし、柱穴が並ぶものである。１区、２区ともに斜面では多くのピットを検出しており、遺物を包含するものも少なくない。平坦面だけでなく斜面にもSS01のような加工段上に、多くの建物が存在していたことが推測されるが、まとまりのある遺構としては捉えることができなかった。

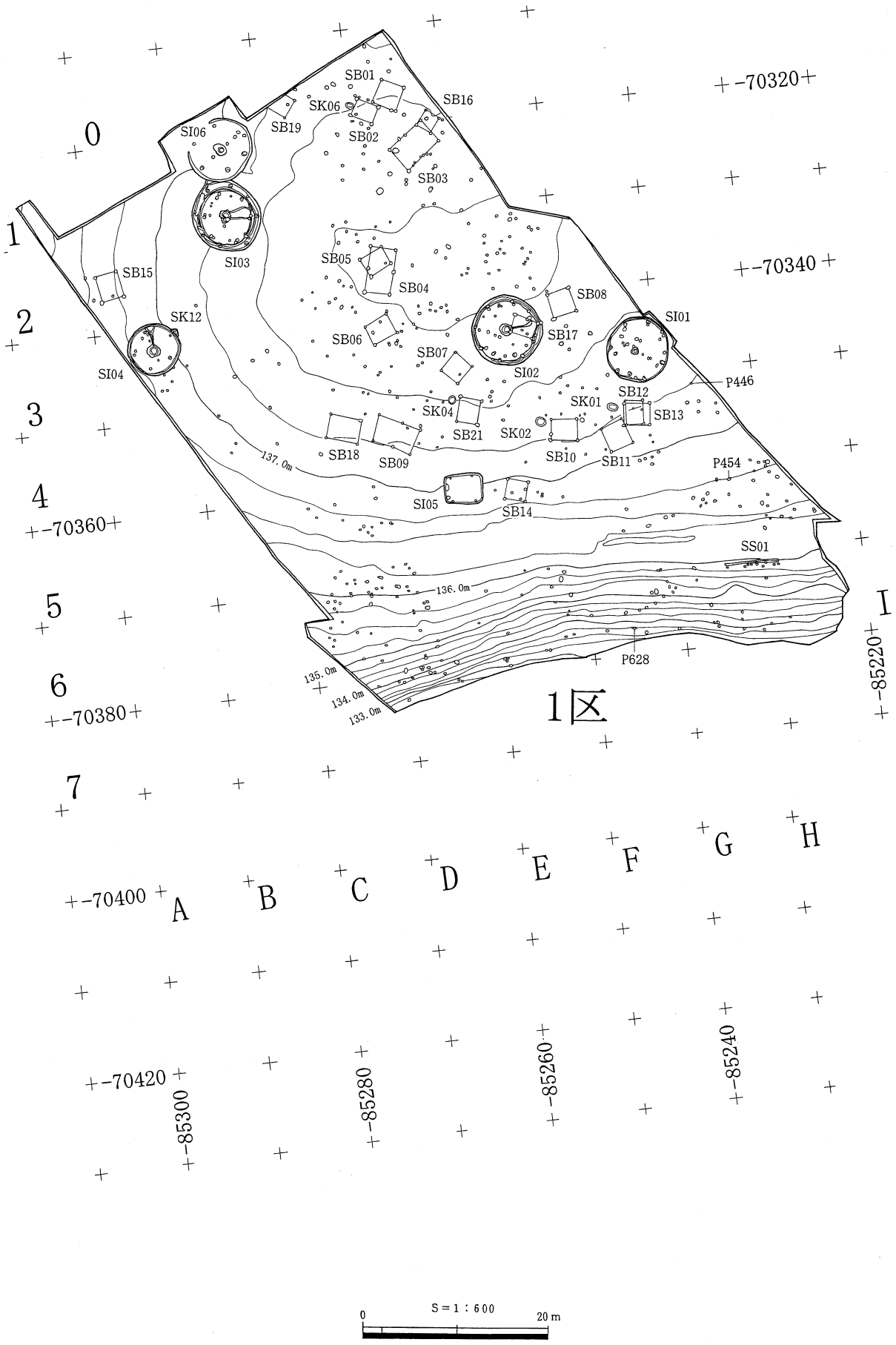
これらの遺構内から出土する土器は弥生時代後期のものが大半を占め、他の時代の土器は、弥生時代中期の土器片をわずかに含むのみである。遺構面を覆う耕作土中からは新しい陶磁器の他には出土せず、谷部の遺物包含層中からは弥生土器のみが出土する。これらの状況から、多くの掘立柱建物跡のように遺物が出土しなかった遺構についても、埋土の比較検討や遺跡内の遺構の位置関係から、弥生時代の遺構と判断している。

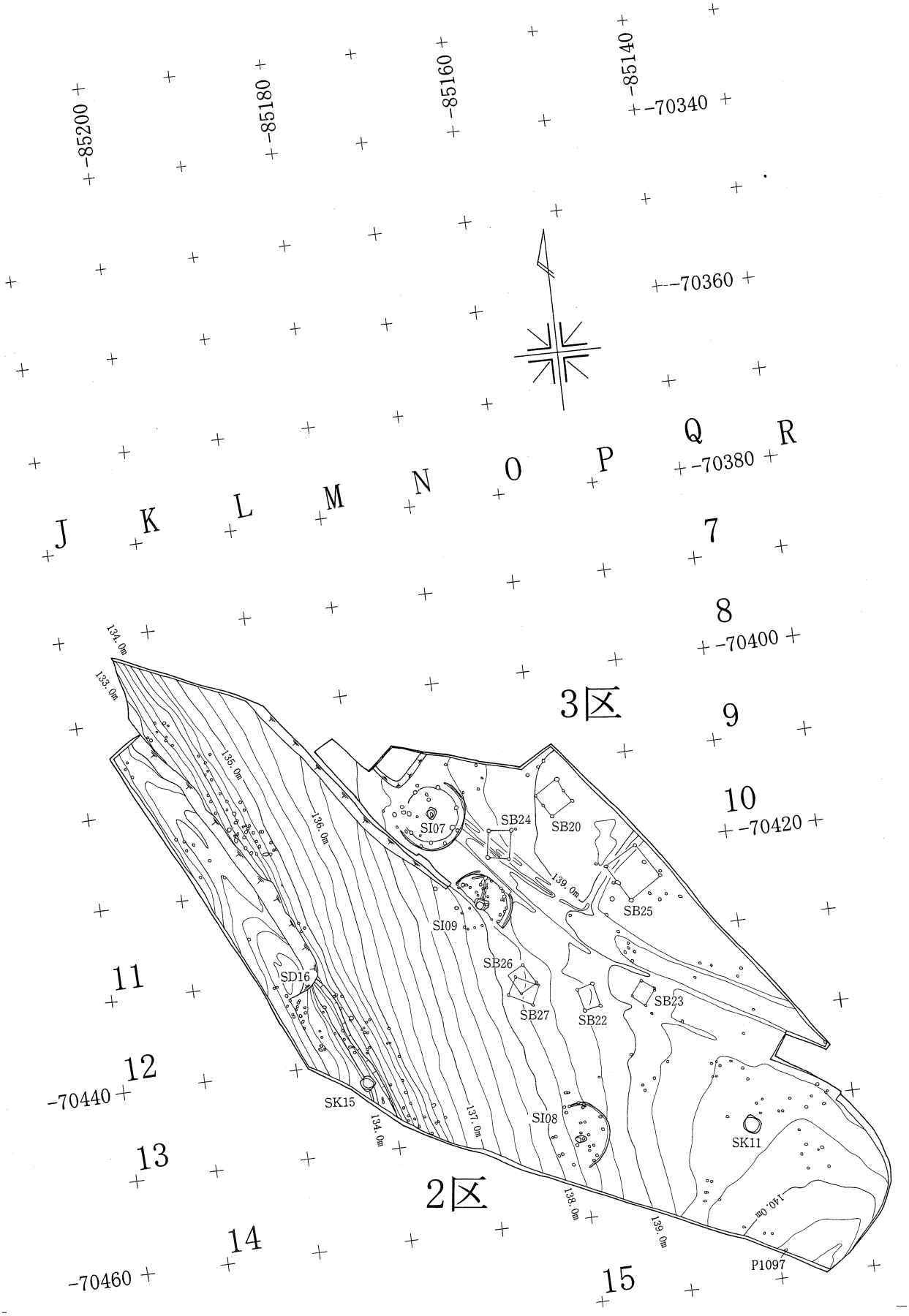
本調査区は、越敷山遺跡群の遺構分布の中心である18ａ、18ｂ区が立地する丘陵から北へ向かって派生する尾根上にあり、距離にして約200m北西に位置している（挿図１参照）。遺跡の存続期間は、越敷山遺跡群で最も集落規模が拡大する、弥生時代後期中葉の時期にあたり、検出した遺構や出土遺物の構成に差異は認められない。このことから荻名第３遺跡は越敷山遺跡群と一体の集落遺跡として捉えることができよう。


-70320
-70340
-70360
-70380
-70400
-70420
-85220
-85240
-85260
-85280
-85300
138.0m
137.0m
137.0m
136.0m
135.0m
134.0m
133.0m
試掘T-5
試掘T-4
撹乱
1区
S＝1：600
0
20 m


-85200
-85180
-85160
-85140
-70340
-70360
-70380
-70400
-70420
-70440
-70460
3区
2区
135.0m
136.0m
134.0m
137.0m
138.0m
139.0m
140.0m
試掘T-1
試掘T-2

挿図４　調査前地形図


SB01
SK06
SB16
SB19
SB02
SI06
SB03
SI03
SB05
SB04
SB15
SK12
SB08
SI01
SB06
SB17
SB07
SI02
SI04
P446
SB12
SK01
SK04
SB13
SB21
SK02
SB18
SB09
SB10
SB11
P454
137.0m
SI05
SB14
SS01
136.0m
P628
135.0m
134.0m
133.0m
1区
0
1
2
3
4
5
6
7
A
B
C
D
E
F
G
H
I
-70320
-70340
-70360
-70380
-70400
-70420
-85220
-85240
-85260
-85280
-85300
S＝1：600
0
20m


-85200
-85180
-85160
-85140
-70340
-70360
-70380
-70400
-70420
-70440
-70460
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
7
8
9
10
11
12
13
14
15
3区
2区
134.0m
133.0m
135.0m
136.0m
137.0m
138.0m
139.0m
140.0m
SI07
SI08
SI09
SB20
SB22
SB23
SB24
SB25
SB26
SB27
SD16
SK11
SK15
P1097

挿図５　遺構配置図

遺構は検出順に番号を振っている。本報告においても基本的に調査時の名称を踏襲している。近現代以降の施工や撹乱と判断したものは本報告では欠番とし、遺構の種別認識を変更したものは欠番扱いの後、新しい名称を与えている（例SS01）。以下の新旧対照表を参照されたい。

ピット名は１区をＰ１から、２・３区は調査時の便宜上Ｐ1001から始めている。そのうち掘立柱建物跡を構成するピットについては、本報告時に新名称を与えた。竪穴住居内ピットはその遺構内で名称をつけており、本報告時に一部変更を行っている。これらについてはそれぞれの遺構のピット一覧表を参照されたい。

新遺構名	旧遺構名	調 査 区	備　　考
欠番	SK03	１区	攪乱
欠番	SK05	１区	攪乱
欠番	SK07	１区	攪乱
欠番	SK08	１区	攪乱
欠番	SK09	１区	攪乱
欠番	SK10	１区	攪乱
欠番	SK13		名称未使用
欠番	SK14	１区	攪乱
欠番	SD01	１区	切りとおし農道
欠番	SD02	１区	現代畑作関連溝
欠番	SD03	１区	攪乱
欠番	SD04	１区	農道側溝
欠番	SD05	１区	現代畑作関連溝
欠番	SD06	１区	攪乱
欠番	SD07	１区	現代畑作関連溝
欠番	SD08	１区	現代畑作関連溝
欠番	SD09	１区	現代畑作関連溝
欠番	SD10	１区	現代畑作関連溝
欠番	SD11	１区	現代畑作関連溝
欠番	SD12	３区	現代畑作関連溝
SS01	SD13	１区	段状遺構
欠番	SD14	３区	現代畑作関連溝
欠番	SD15	３区	現代畑作関連溝

挿表１　新旧遺構名対照表

第２節　竪穴住居跡

SI01（挿図６～８、図版４・26・27）

１区Ｆ～Ｇ３グリッドに位置する、円形に近い楕円形の竪穴住居である。南にSB11、12、13、西にSI02がある。

長径6.8m、短径6.5mで床面積は32.3m²、壁高は最高で40cm、周溝は幅約12cm、深さ約８cmを測る。

周溝は１条しか検出していないが、主柱穴と見られる規模の大きいピットは内と外に２重に巡っている。内側のピットは上面が貼り床で覆われていたものがあるため、建て替えが行われていたことが判明した。内側の主柱穴を用いた住居をSI01－ａ、外側の主柱穴を用いた住居をSI01－ｂと呼称する。

SI01－ａの主柱はＰ８～13の６本であり、周溝から50～80cmの位置にある。

SI01－ｂの主柱はＰ１～Ｐ７の７本であり、周溝から約20cmの位置にある。ａからｂへの建て替えに際し、既存の床面積で最大限の居住空間を確保しようとしたことが伺われる。

Ｐ５に隣接するＰ19は半分が周溝にかかり、上面を貼り床で覆われている。実際には使用されなかった柱穴と考えられる。Ｐ14～18は補助柱と推測される。

中央ピットは住居の中心よりやや南西にずれた位置にあり、直径約70cmの円形、深さ約30cmを測る。ａ，ｂと通じて使用されたと考えられる。

埋土は黒ボクで床面付近は地山土ブロックがやや目立つ。他の遺構の切り合いも認められず、自然堆積と考える。

遺物は埋土中より甕（１、３、４～８）、底部（12～15）、石鏃（Ｓ２）が出土している。床面から甕（２、９）、底部（11）、台石（Ｓ１）が出土している。また、Ｐ８の柱痕上に、床面よりやや沈み込むような状態で、完形の小型壺（10）が出土している。Ｐ８の上面には埋めもどしの痕跡がなかったことから、当時Ｐ８には床面より下に柱が残っていて、その上に置かれた壺10は木質の腐敗とともに落ち込んでいったと推測される。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階に相当する。

SI02（挿図９～11、図版５・26・27）

１区Ｅ３グリッドに位置する、円形の竪穴住居跡。東にSB08、南西にSB07が隣接し、住居内でSB17と切り合う。２条の周溝を確認しており、床面積の拡張を伴う建て替えが１回行われている。内側のものをSI02－ａ、外側のものをSI02－ｂと呼称する。

SI02－ｂは長径7.6m、短径7.3mで東西方向にやや長く、壁高は最高で25cm、床面積は41.0m²。周溝は幅約10cm、深さ約８cmを測る。主柱はＰ１～８の８本であり、周溝から30～50cmの位置にある。向かい合う柱穴を結ぶ対角線の交点は１点に重なり、１辺約2.5mの正八角形を呈する。中央ピットは円形で直径約80cm、床面からの深さは約45cmを測る。中央ピットから派生する溝が東方向に直線的に掘られており、断面はＶ字形で、幅12cm、深さ４cmである。周溝に到達しない。

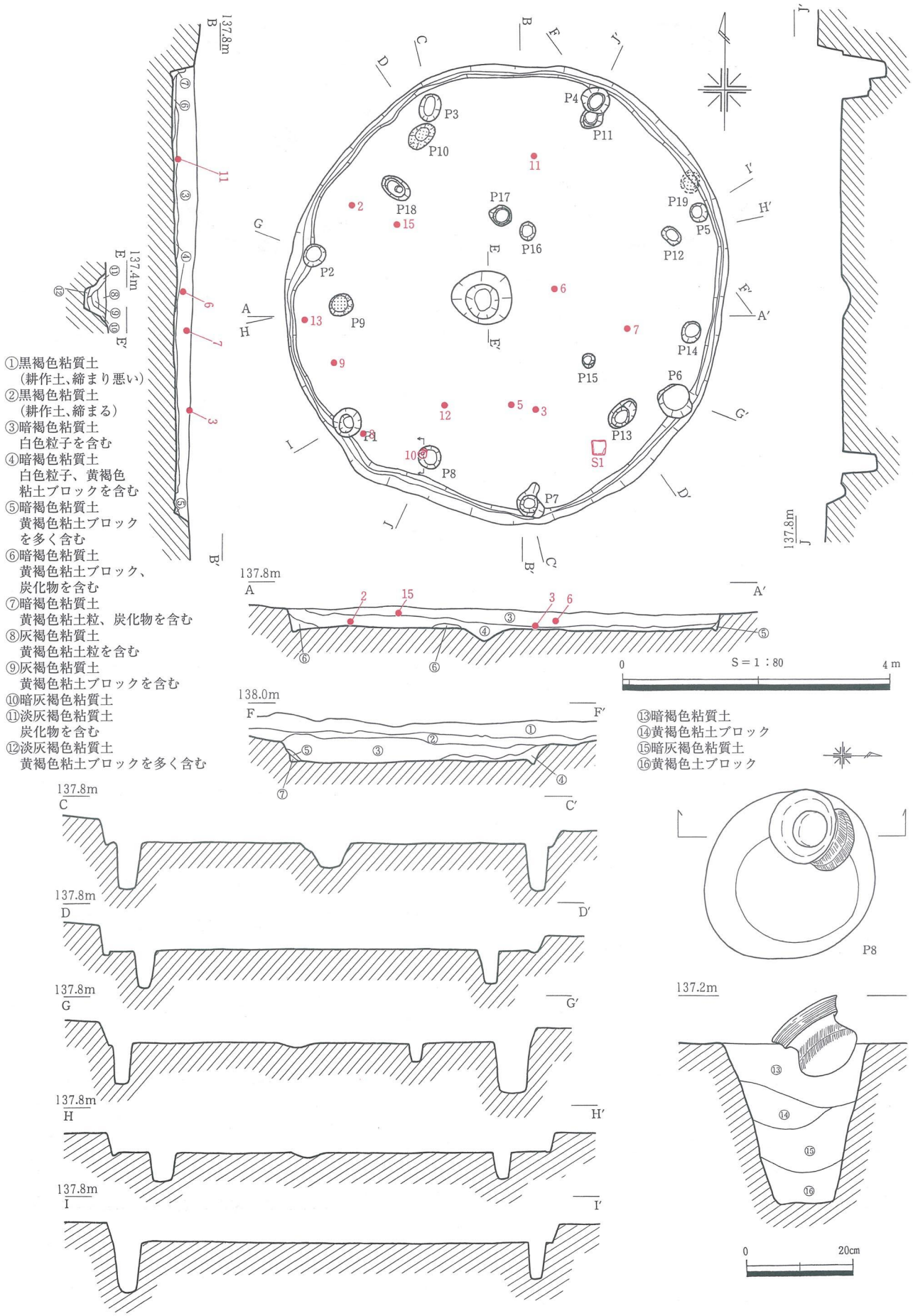
焼土面を大きく６カ所で確認しており、中心から1.8～２mの距離にある。

SI02－ａは長径7.2m、短径6.8m東西にやや長い。床面積は33.9m²。周溝は幅約12cm、深さ約８cmで、地山土と同質の土によって埋められており、SI02－ｂの主柱穴に切られている。

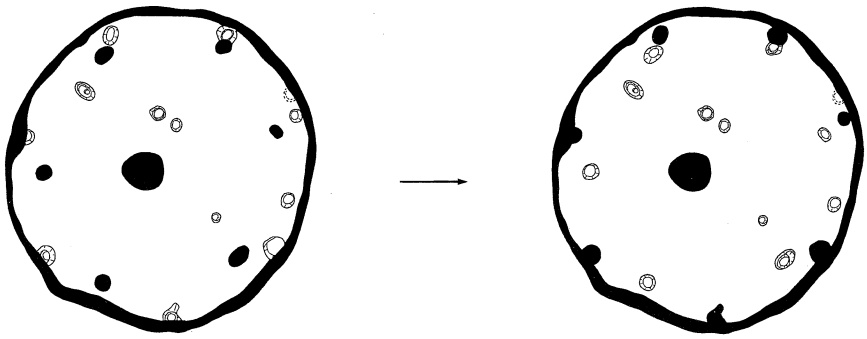
ａの主柱はＰ９～12、14、16～18の８本と考えられ、不整形な八角形を呈する。Ｐ12、14は地山土と同質の土で埋め戻されたピットを切って掘られており、他にＰ11、16が埋め戻されていた。柱穴間距離（約2.5m）と周溝との間隔（約40～50cm）から見ると、Ｐ９～11、13、15、29、18の７本柱となり、建築当初はこの均整の取れた七角形を想定していた可能性がある。

掘立柱建物跡SB17はSI02の周溝やピットを切っていること、また貼り床を施さないことからSI02に後出すると考えられる。

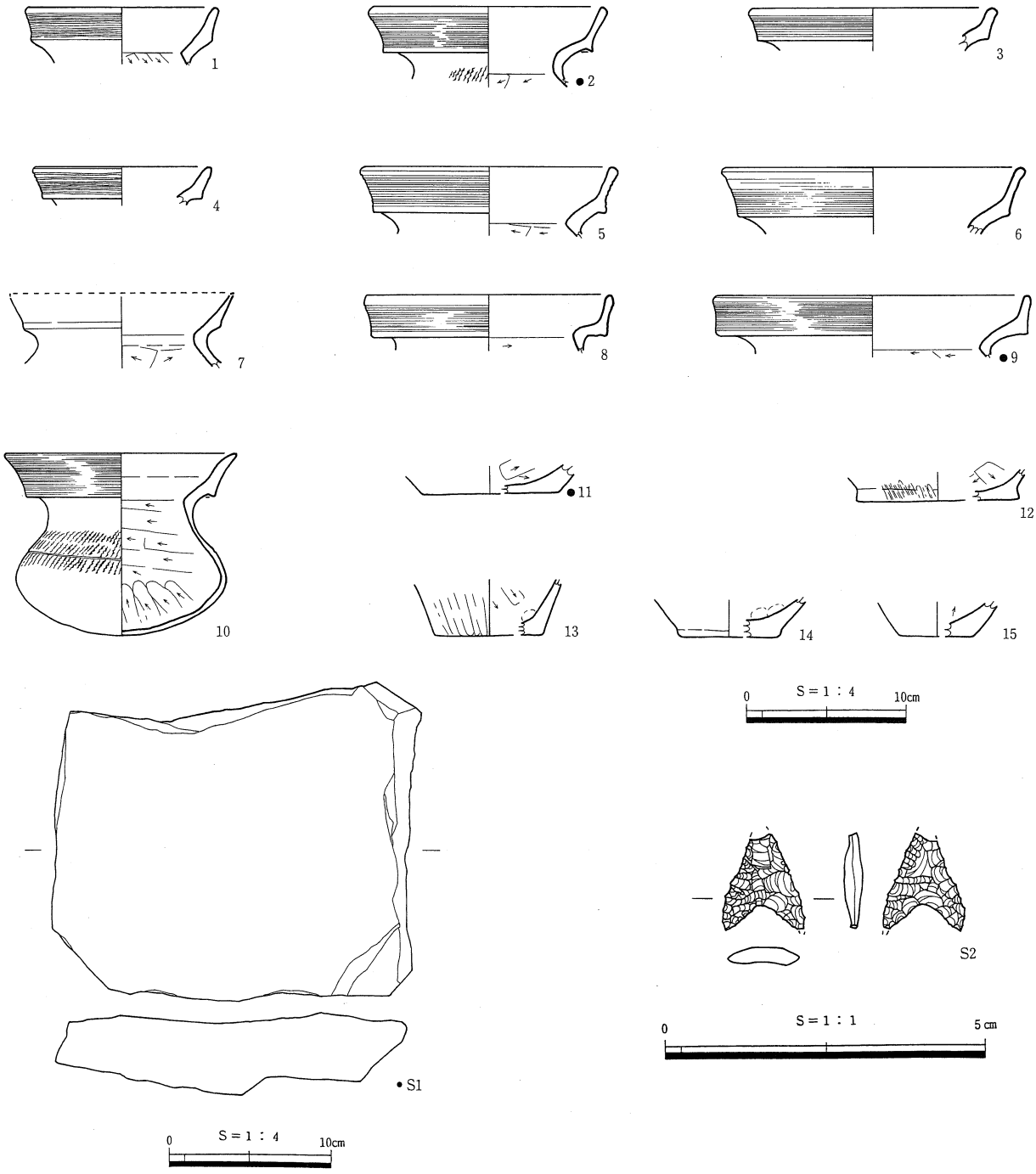
埋土は地山土ブロックを含む黒ボクであるが、後世の削平によってほとんど残っていない。埋土中より壺（16、


①黒褐色粘質土
（耕作土、締まり悪い）
②黒褐色粘質土
（耕作土、締まる）
③暗褐色粘質土
白色粒子を含む
④暗褐色粘質土
白色粒子、黄褐色
粘土ブロックを含む
⑤暗褐色粘質土
黄褐色粘土ブロック
を多く含む
⑥暗褐色粘質土
黄褐色粘土ブロック、
炭化物を含む
⑦暗褐色粘質土
黄褐色粘土粒、炭化物を含む
⑧灰褐色粘質土
黄褐色粘土粒を含む
⑨灰褐色粘質土
黄褐色粘土ブロックを含む
⑩暗灰褐色粘質土
⑪淡灰褐色粘質土
炭化物を含む
⑫淡灰褐色粘質土
黄褐色粘土ブロックを多く含む
⑬暗褐色粘質土
⑭黄褐色粘土ブロック
⑮暗灰褐色粘質土
⑯黄褐色土ブロック
137.8m
137.4m
138.0m
137.2m
S＝1：80
0
4 m
20cm
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
S1

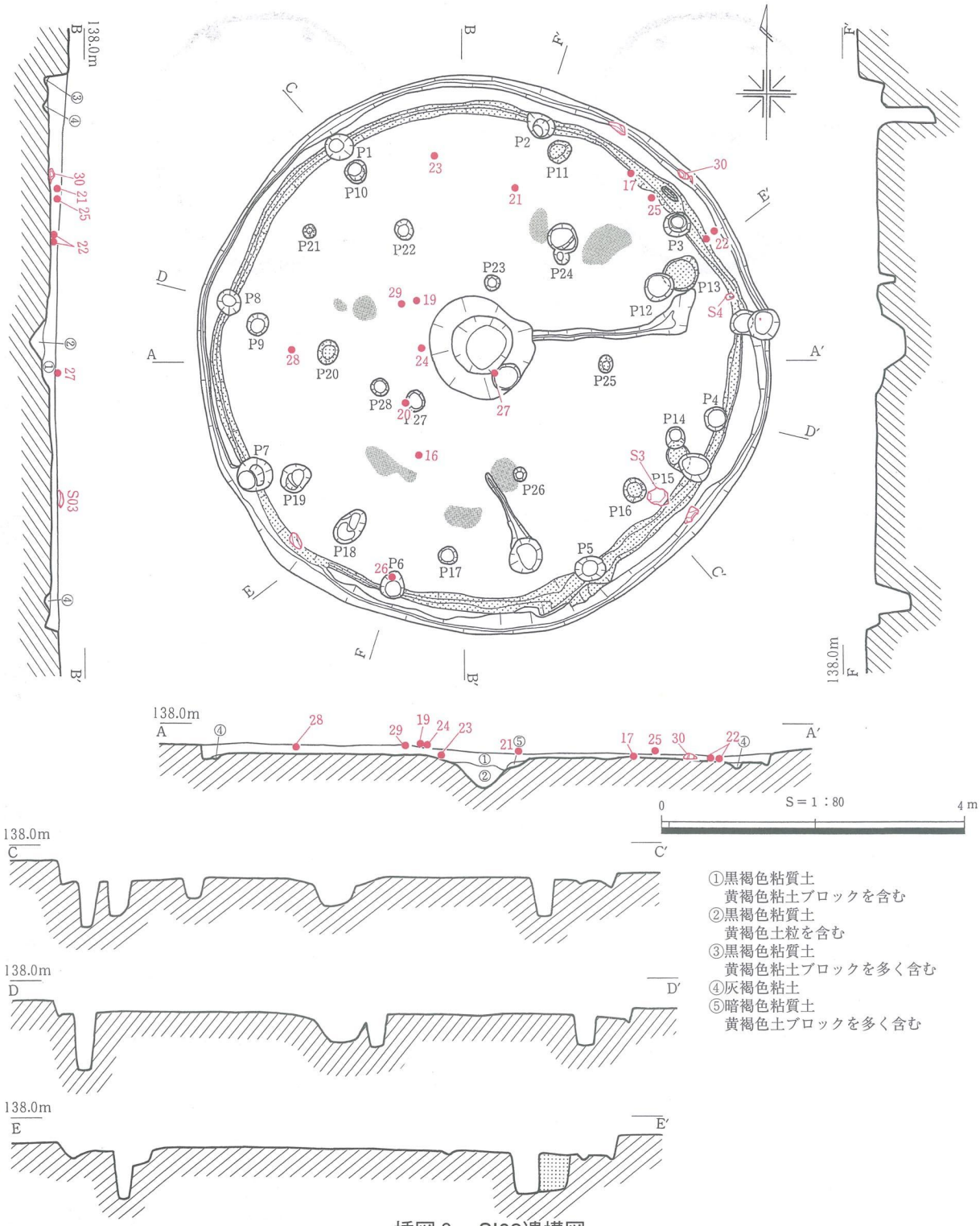
挿図６　SI01遺構図



挿図７　SI01変遷図

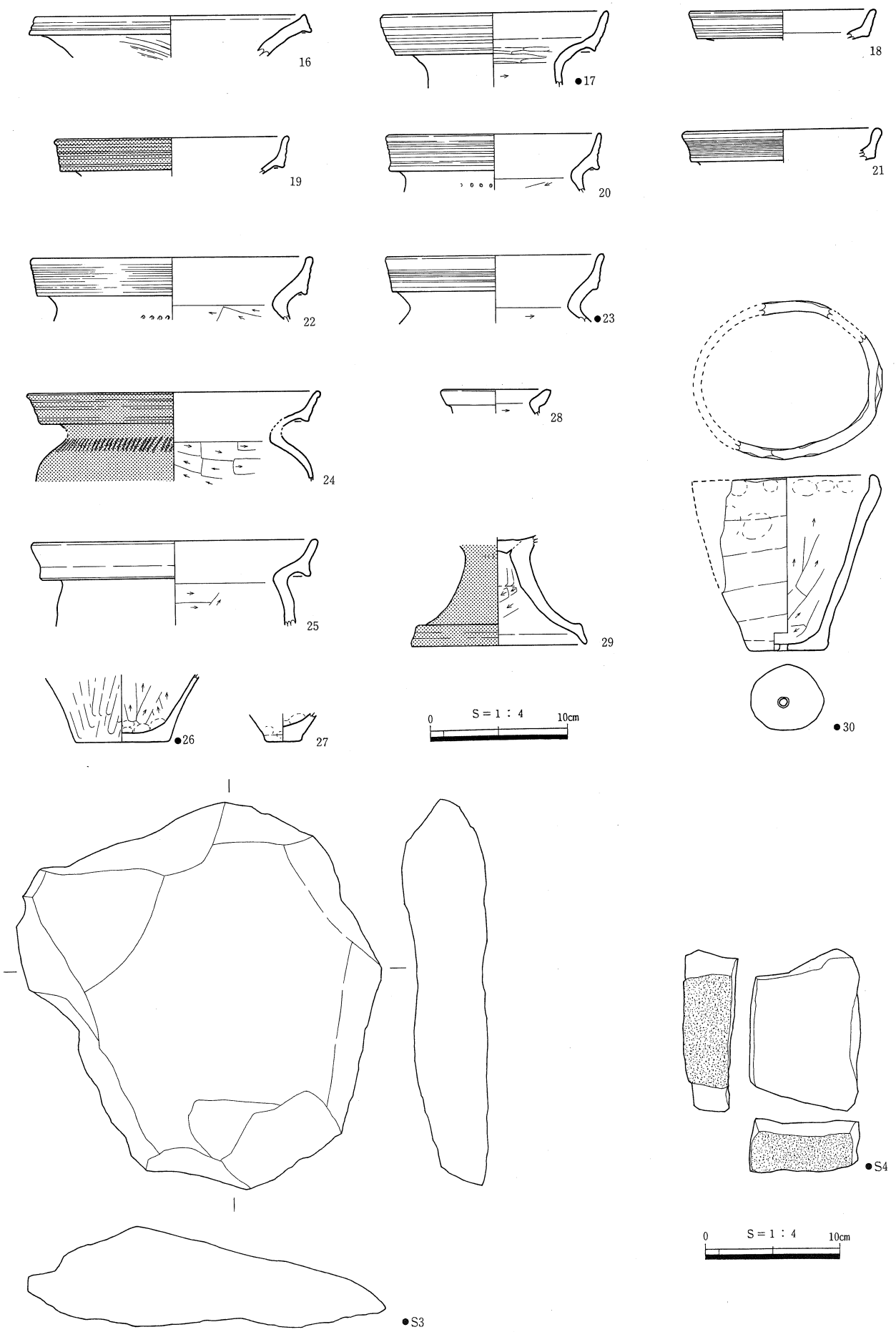


挿図８　SI01出土遺物実測図



挿図９　SI02遺構図

挿図10　SI02変遷図



挿図11　SI02出土遺物実測図

SI01

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	42	41	76	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、炭化物混		SI01－P１
P２	34	31	64	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、炭化物混		SI01－P２
P３	43	34	71	灰褐色粘質土、黄褐色土粒、炭化物混		SI01－P３
P４	42	38	69	黒褐色粘質土		SI01－P４
P５	29	28	54	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI01－P５
P６	51	50	77	黒褐色粘質土		SI01－P６
P７	38	32	71	黒褐色粘質土		SI01－P７
P８	42	34	53	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI01－P８
P９	35	32	44	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床を施す	SI01－P９
P10	46	32	58	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床を施す	SI01－P11
P11	32	30	41	暗褐色粘質土	Ｐ４に切られる	SI01－P12
P12	30	22	41	灰褐色粘質土		SI01－P13
P13	46	28	51	黒褐色粘質土		SI01－P16
P14	33	30	32	暗褐色粘質土		SI01－P14
P15	21	18	32	暗褐色粘質土		SI01－P17
P16	28	24	27	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI01－P24
P17	29	29	30	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI01－P23
P18	48	26	26	灰褐色粘質土		SI01－P10
P19	30	28	38	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床を施す	

挿表２　SI01ピット一覧表

SI02

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	39	33	64	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	床面マイナス46cmより土器	SI02－P１
P２	36	30	76	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02－P２
P３	37	32	54	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	床面マイナス46cmより亜角レキ	SI02－P３
P４	33	30	39	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02－P16
P５	41	33	61	暗褐色粘質土		SI02－P６
P６	38	32	47	黒褐色粘質土		SI02－P７
P７	47	42	447	黒褐色粘質土		SI02－P８
P８	34	31	77	暗褐色粘質土		SI02－P９
P９	31	29	36	暗褐色粘質土		SI02－P10
P10	30	29	49	灰褐色粘質土		SI02－P11
P11	33	27	49	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	貼り床	SI02－P32
P12	36	35	54	暗褐色粘質土		SI02－P15
P13	43	42	50	黒褐色粘質土ブロック、黄褐色土ブロック混	貼り床	SI02－P31
P14	25	22	39	褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI02－P17
P15	30	30	38	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	貼り床	
P16	33	29	49	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	貼り床	SI02－P33
P17	26	24	57	暗褐色粘質土		SI02－P20
P18	52	34	64	黒褐色粘質土		SI02－P21
P19	40	37	18	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI02－P22
P20	32	27	10	黄褐色土ブロック	貼り床	SI02－P34
P21	18	18	18	橙褐色土ブロック、炭化物混	貼り床	SI02－P36
P22	26	24	25	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI02－P12
P23	20	18	24	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02－P29
P24	20	20	17	暗褐色粘質土、炭化物混		SI02－P14
P25	23	20	8	橙褐色土ブロック	貼り床	SI02－P35
P26	20	19	10	黒褐色粘質土		SI02－P18
P27	27	25	10	暗褐色粘質土		SI02－P24
P28	25	22	33	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI02－P23

挿表３　SI02ピット一覧表

28)、甕（18～22、24、25)、底部（27)、高坏（29）が出土している。壺16は弥生時代中期のものとみられ、壺28は端部を拡張しない小型のものである。

床面から甕（23)、底部（26)、床面とＰ1内から壺（17)、SI02－ｂの周溝内に横倒しの状態で有孔鉢（30）が出土している。30は内外面をヘラか板のような工具を使い、削るように強くナデて整形していて、器壁外面に粘土の輪積みの痕跡が残る。口縁は楕円形をしていて、端部は指でつまんでいる。編紐の押圧痕が残る底面はやや丸みを帯びているため自立しない。また、台石（Ｓ３)、砥石（Ｓ４）も床面で出土している。いずれも明確な使用痕は認められない。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期古段階に相当する。

SI03（挿図12～16、図版６・７・26・36・39)

１区Ｂ１～２グリッドに位置する楕円形の竪穴住居跡。北側でSI06と接するように切り合い、SI06より後出する。

周溝を３条検出しており、埋土の堆積状況とピットおよび周溝の切り合い関係から、拡張を伴う建て替えが２度行われたことが判明している。内側の古いものから順にSI03－ａ、ｂ、ｃと呼称し、以下それぞれについて記述する。

SI03－ｃは長径８ｍ、短径７ｍの楕円の平面形を呈し、周溝より内側の床面積は39.3㎡を測る。壁高は10～50㎝であり、南東側が比較的よく残存する。

主柱はＰ１～８の８本で、いずれも壁面より約40㎝の位置にある。中央ピットは住居のほぼ中央に位置する。その平面形は長径1.1ｍ、短径0.9ｍの隅丸方形を呈し、深さは50㎝を測る。縁辺に高さ３㎝程度の周堤状の高まりをもつ。

中央ピットから東方に向かって派生する溝が床面に掘られており、断面形は緩いＶ字で幅18㎝、深さ３㎝を測る。この溝は緩い弧を描き、周溝へ向かって伸びているが、周溝には到達せず、深さを失っている。

周溝は幅10～20㎝、深さ約８㎝を測る。焼土面は大きく４カ所にあり、いずれも中央ピットから約２ｍ離れた位置にある。

埋土は全体的に地山土ブロックが多く混入しており、その度合いは東壁付近において著しいが、埋め戻しのような人為的な痕跡は明確に認められない。中央部には焼土ブロックを含む土がレンズ状に堆積し、炭化物の小片を多く含んでいるが、床面や埋土中においても炭化した建材が出土していないことから焼失住居とは考えにくく、二次的な所産のものと推定される。

SI03－ｂは長径6.6ｍ、短径6.1ｍの楕円形を呈し、床面積は28.5㎡である。

周溝は幅12～20㎝、深さ８～10㎝で、断面はＶ字形である。地山土と同質の土で埋め戻されていた。

主柱はＰ９～14の６本で、周溝から40～50㎝の位置にある。Ｐ12は柿の根が入っていたために全容を確認できなかったが、全体における位置から主柱穴と判断した。これらのピットはSI03－ｃの主柱穴と同時に検出しており、周溝のように埋め戻した痕跡は認められなかった。

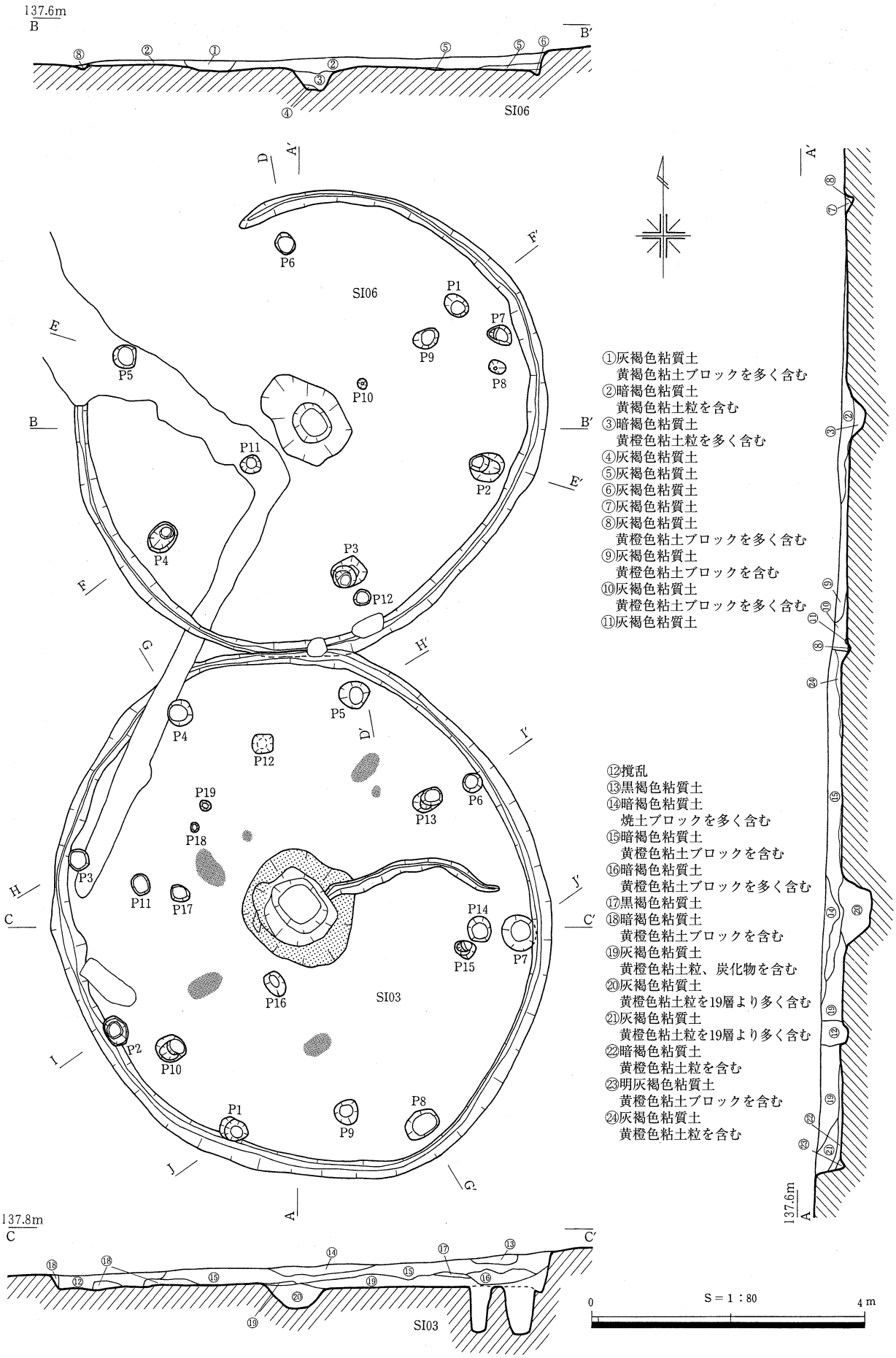
中央ピットは長径80㎝、短径70㎝の隅丸方形を呈し、深さは44㎝を測る。地山土と同質の土で埋め戻されていた。４分の１をｃの中央ピットによって切られている。

中央ピットから派生する溝がｃの溝と並行するように東壁方向に向かって掘られている。中央ピットａの周堤帯の下から検出されていて、幅12㎝、深さ３㎝で、これもまた周溝に到達していない。

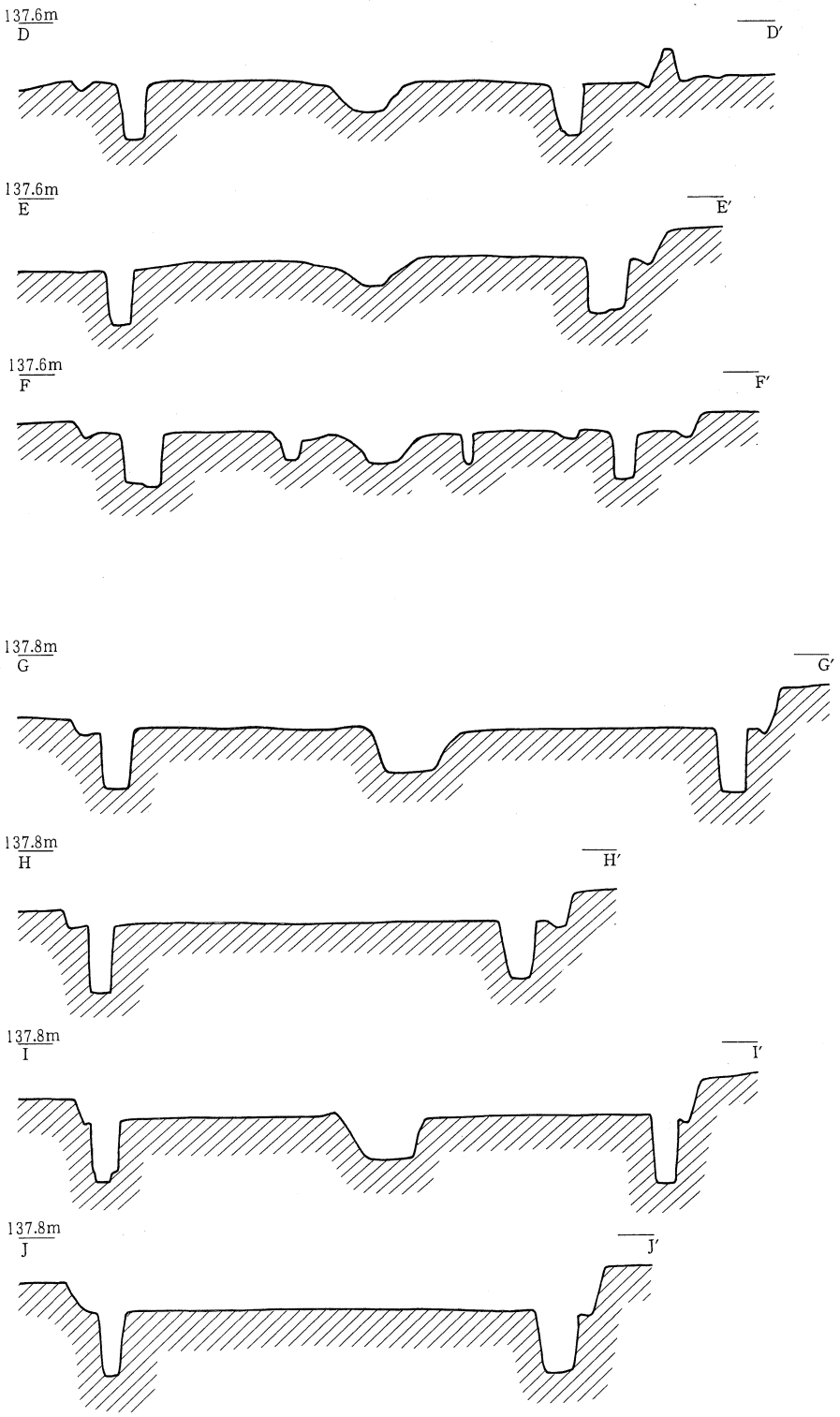
SI03－ａは長径6.2ｍ、短径5.6ｍの楕円形を呈し、床面積は25.6㎡である。

周溝は幅12～20㎝、深さ８～10㎝で、断面はＶ字形である。地山土と同質の土で埋め戻されていて、ｂの周溝によって切られている。

主柱はＰ15、13、20～23の６本で、周溝から40～60㎝の位置にある。SI03－bが柱穴を再利用したと見られるＰ13を除いた残りの５基のピットは、周溝と同様に地山土と同質の土で埋め戻されていた。さらにＰ22はＰ11に、Ｐ23はＰ９に切られている。

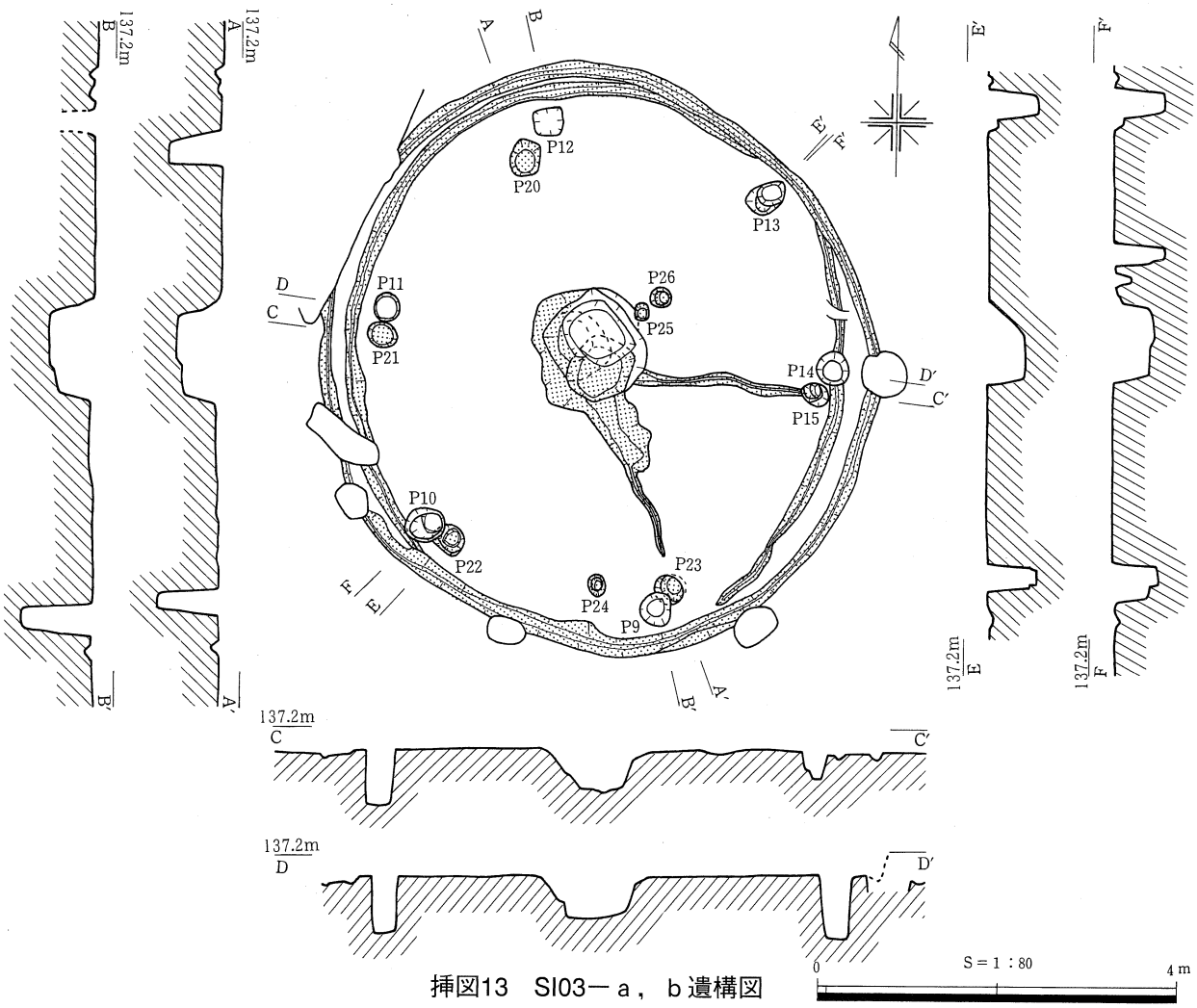


挿図12　SI03，06遺構図

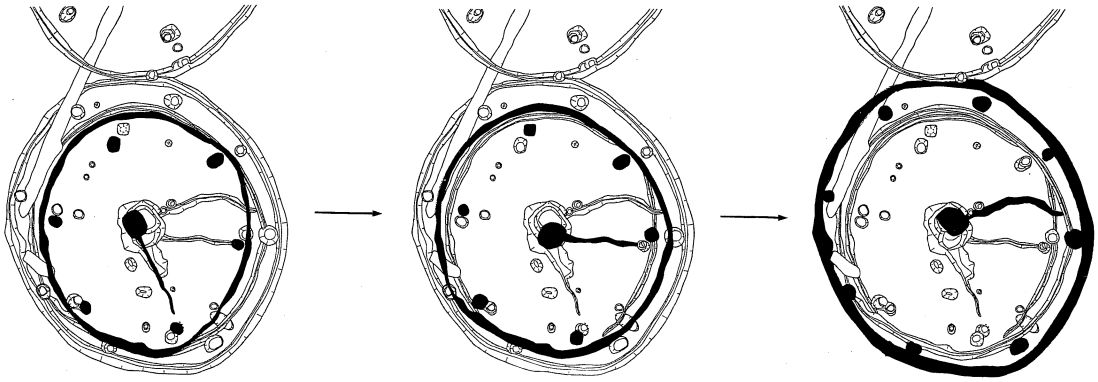


中央ピットは、切り合うｂ、ｃの中央ピットの西側にわずかに痕跡を残す、深さ24cmの掘りこみがそれにあたると考えられる。埋土は地山と同質であり、中央ピットbとの切り合いは確認できなかった。従って両者の前後関係は不明確である。中央ピットａがSI03－ａの中央に当たらず、むしろ中央ピットｂの位置に当たることから、ａ，ｂは同一のピットを使用した可能性も考えられる。

中央ピットから派生する溝は南々東方向に向かっており、周溝に達していない。中央ピットｃの周堤帯の下から検出され、幅７cm、深さ３cmである。中央ピット側は幅広となっている。



挿図13　SI03－ａ，ｂ遺構図



挿図14　SI03変遷図

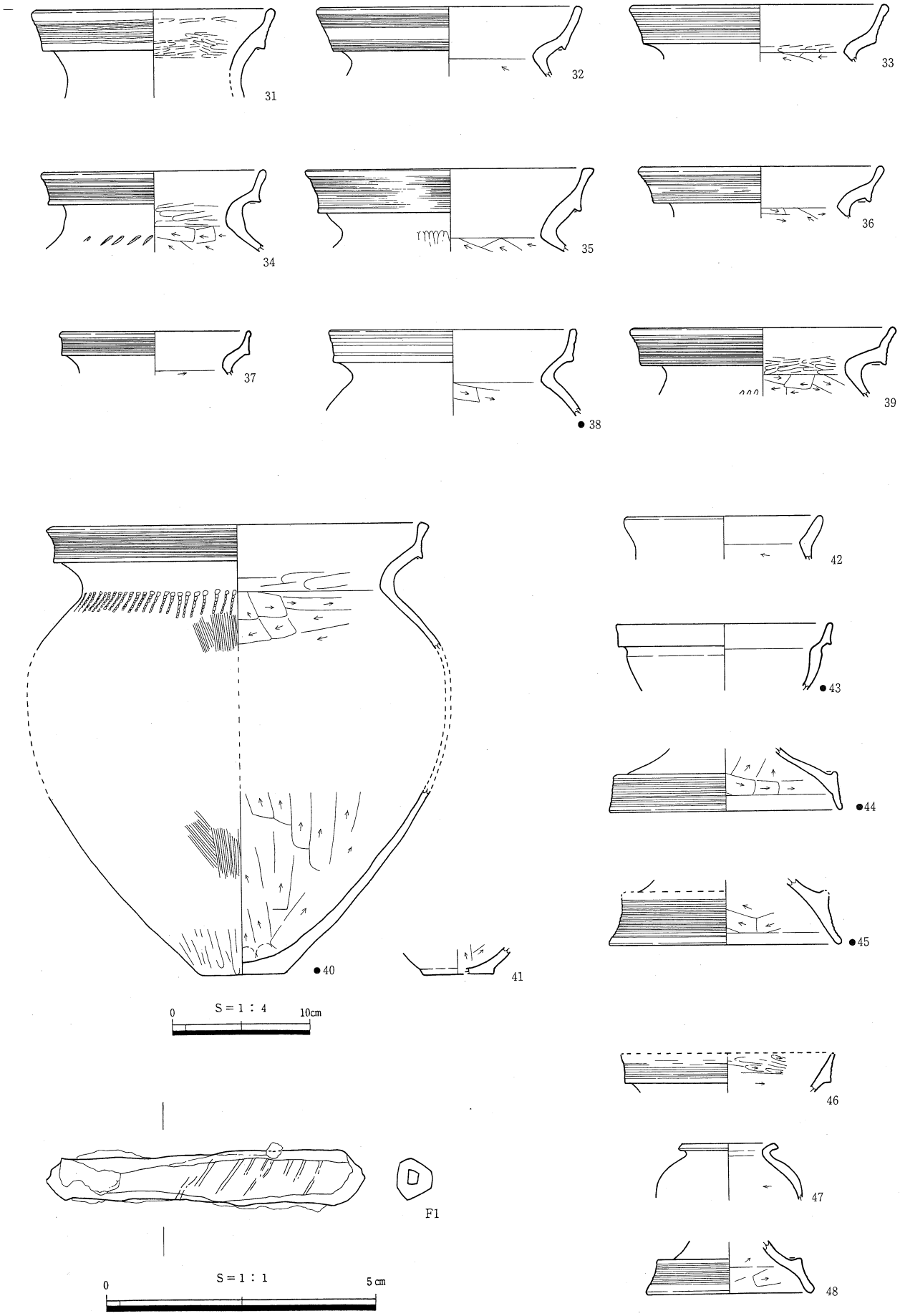
遺物は、SI03－ｃの埋土中より壺（31）、甕（35～37、39、42）、底部（41）、１点のみであるが棒状鉄製品（Ｆ１）が出土している。甕42は「くの字」状の口縁をもつものである。Ｆ１は筒状に加工されて中空になっていて、表面に繊維痕と木質が残る。器種は不明である。

床面直上の遺物は少ないが、甕（38）、鉢（43）、器台（44、45）といった小片、完品に近いものでは甕（40）が押し潰された状況で出土した。上半分と下半分が離れた位置で出土し、同一個体として復元している。

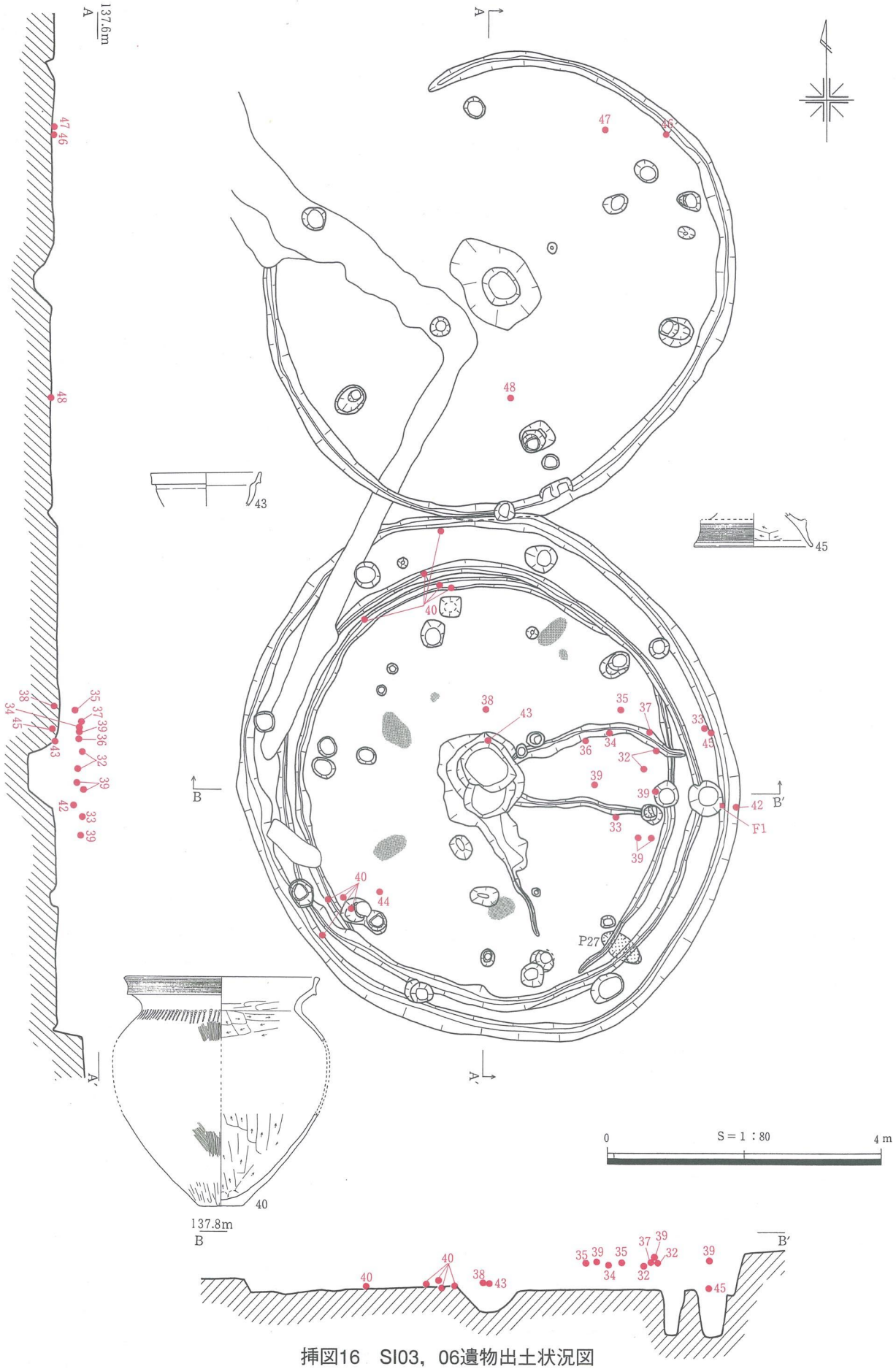
遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階に相当する。

SI06（挿図12・15・16、図版６・７・36）

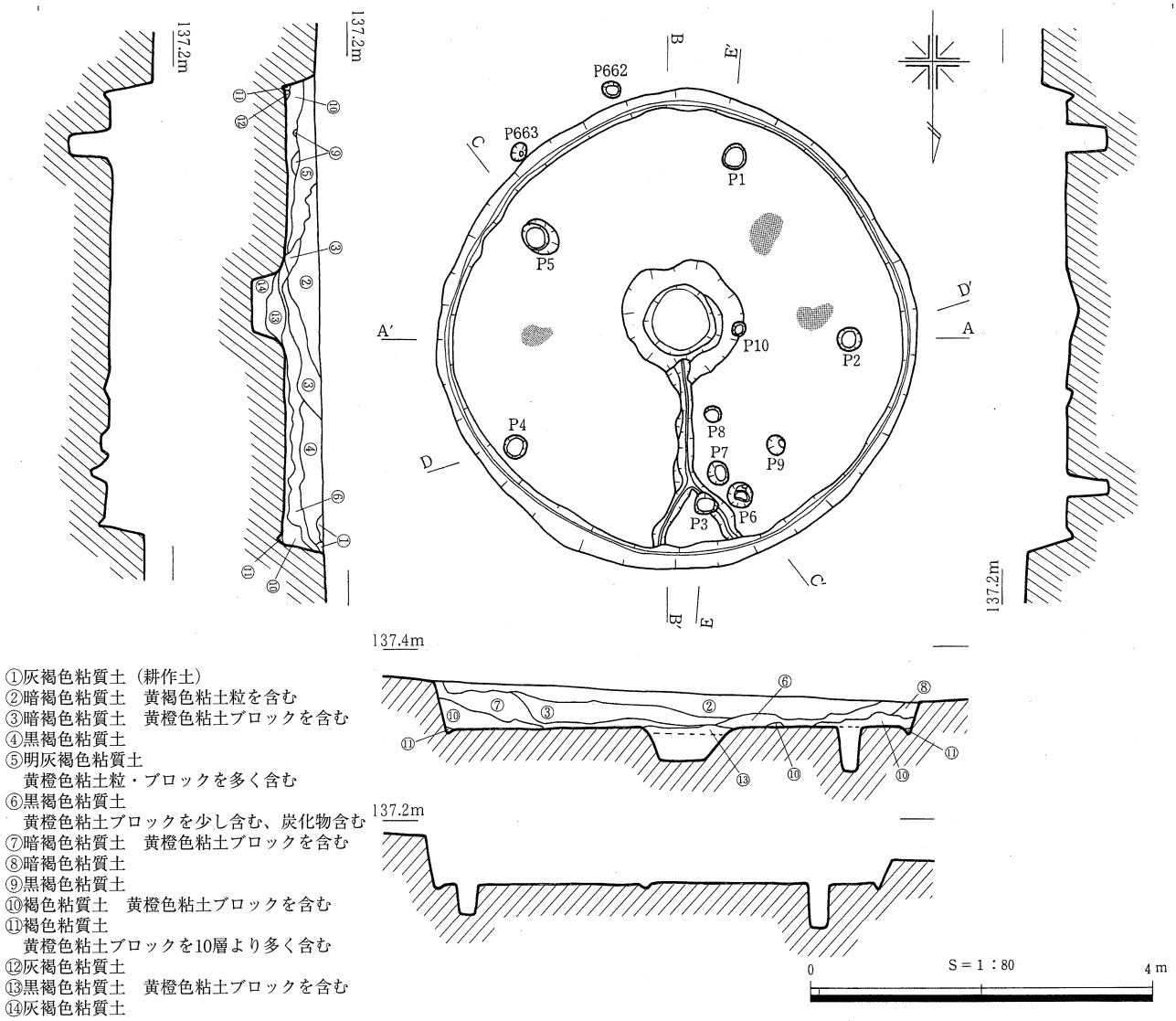
１区Ｂ０～１に位置する、楕円形の竪穴住居跡である。南端をSI03－ｃに切られている。北東にSB19がある。



挿図15　SI 03，06出土遺物実測図



挿図16　SI03，06遺物出土状況図



挿図17　SI04遺構図

全体に後世の削平および撹乱を強く受けているが、北西側は特に著しく、床面に達している。長径7.1m、短径6.4m、床面積30.7m²で、壁高は最高で40cmを測る。

主柱はＰ１～６の６本で、周溝から約70cm離れた位置にある。中央ピットは住居の中心に位置し、平面は直径約60cmの円形、深さは約30cmを測る。中央ピットとＰ１、Ｐ４の中心を貫くSI06の主軸線上で、中央ピットの両側に、主柱穴よりも規模の小さいＰ10、11があり、棟を支える補助柱と考えられる。周溝は幅約20cm、深さ約８cmを測る。

出土遺物は極めて少ない。埋土中から甕（46）、壺（47）、器台脚部（48）が出土しているが、いずれも小片である。47は如意形の口縁をもつものであるが、風化が著しく、甕の複合口縁が失われた姿の可能性がある。

遺構の時期はSI03との前後関係から弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期古段階に相当する。

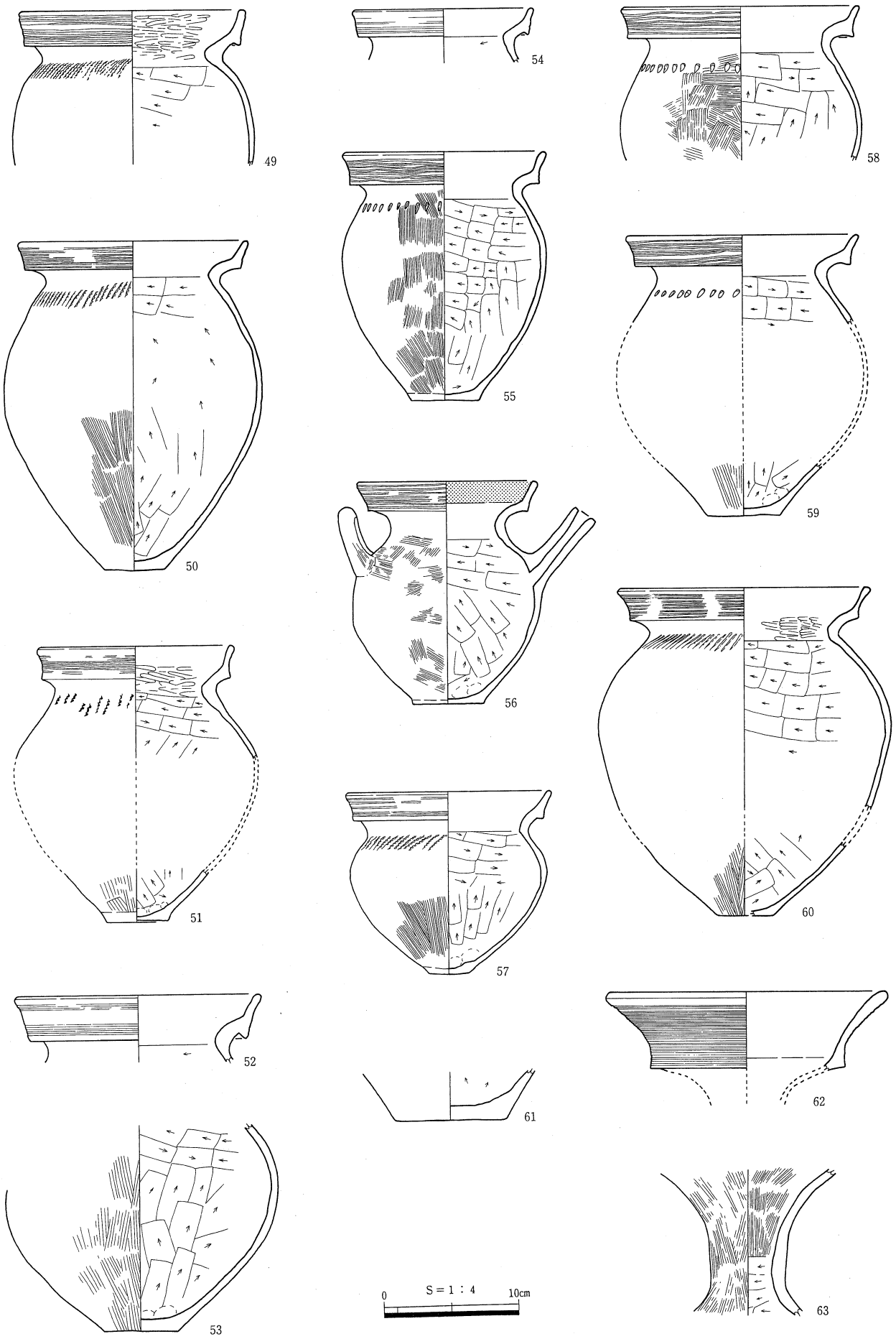
SI04（挿図17～23、図版８～11・28～34・37）

１区Ａ３グリッドに位置する。やや胴張りの隅丸方形に近い、円形の竪穴住居である。北々西にSB15がある。また、北東でSK12を切る。

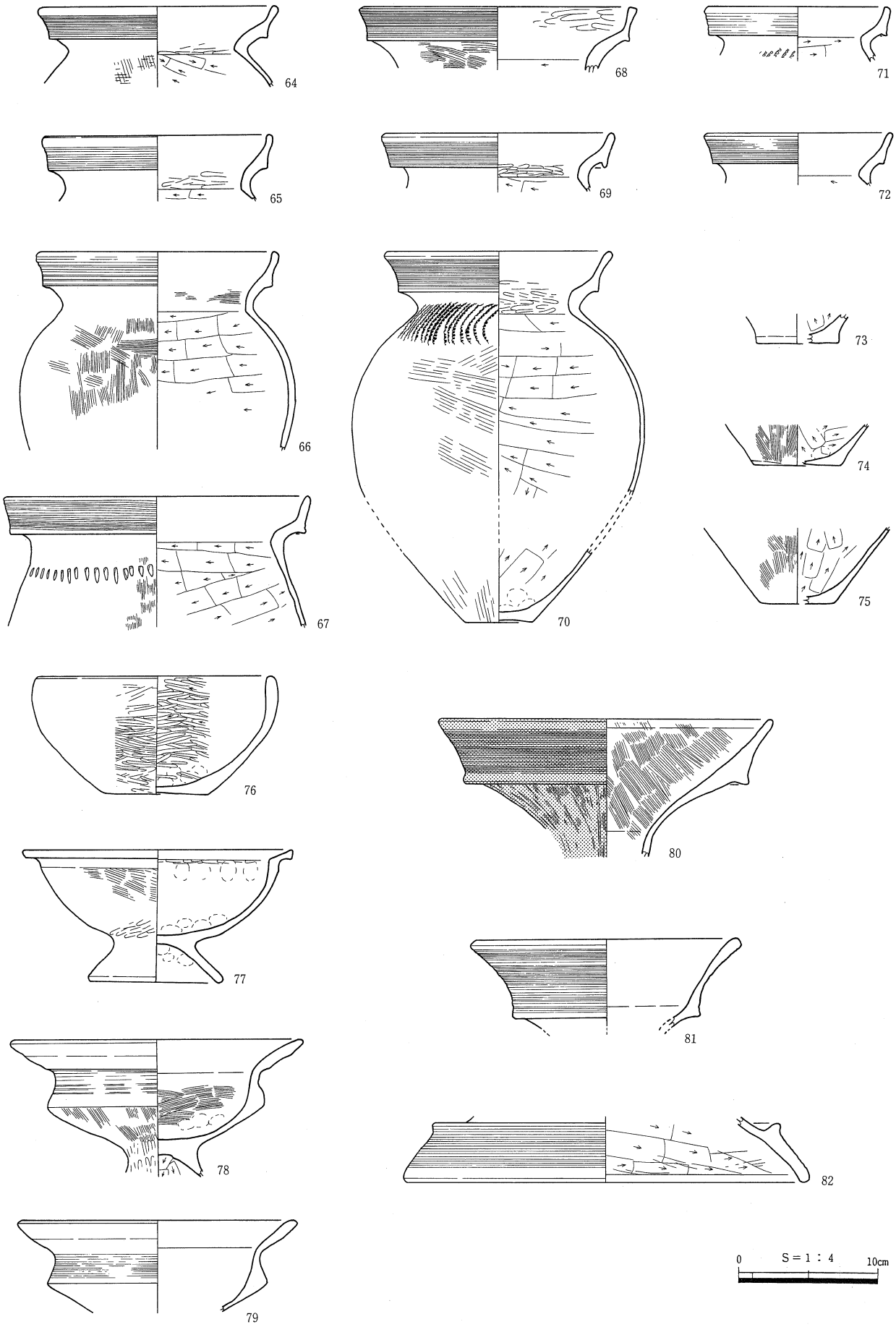
直径約5.4m、床面積20.1m²、壁高は最高で55cm、周溝は幅約12cm、深さ約８cmを測る。

主柱はＰ１～５の５本で、隣り合う柱穴の間隔は約2.5m、周溝から30～70cm離れた位置にある。

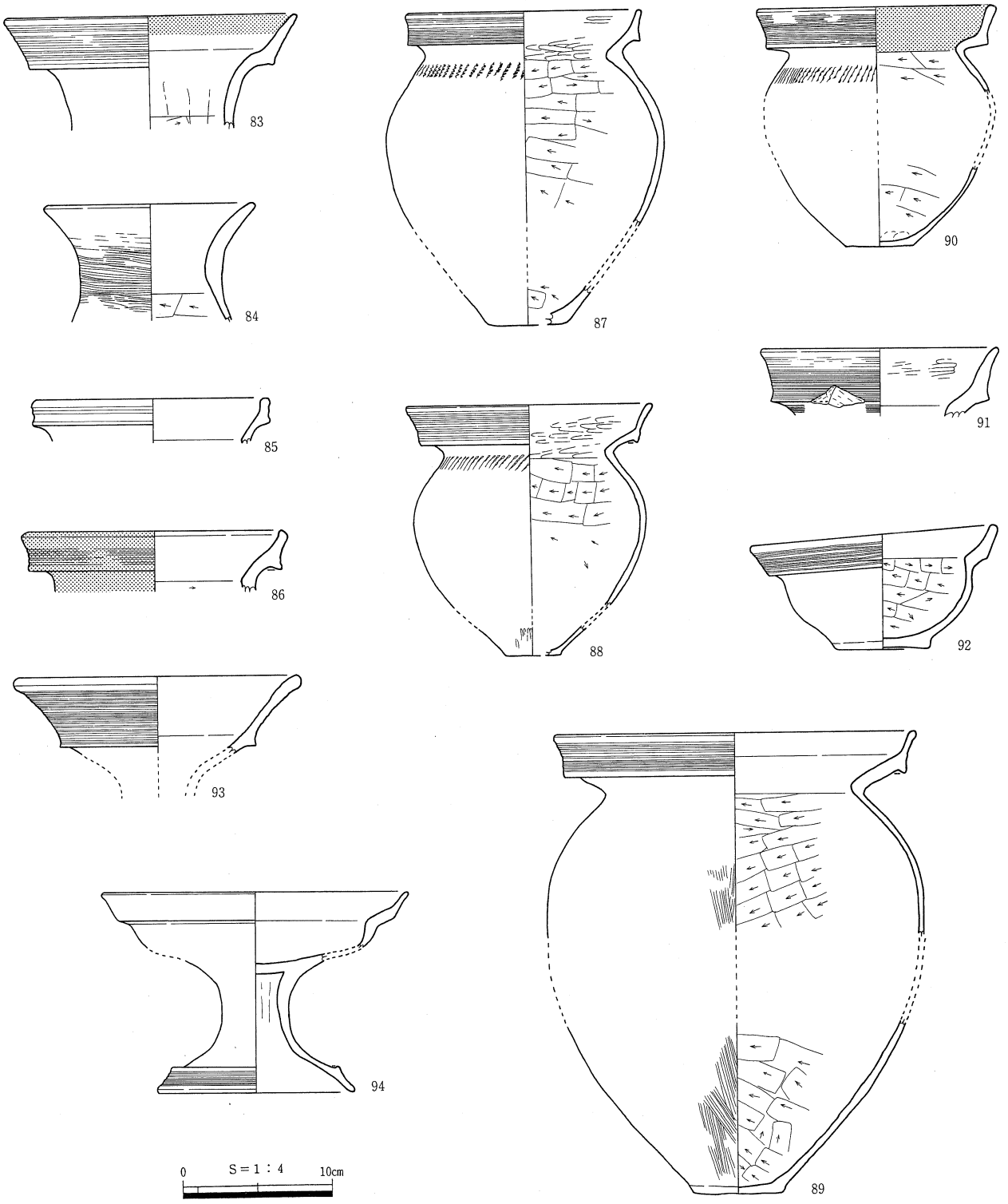
中央ピットは床の中央に位置し、直径約90cmの円形、深さは約40cmを測る。底部に15～25cmの厚さで地山と同質の土が堅く締まった状態で堆積していた。これが人為的なものか自然によるものか判断できない。



挿図18　SI04出土遺物実測図（土器，北西側）



挿図19　SI04出土遺物実測図（土器、北東側）

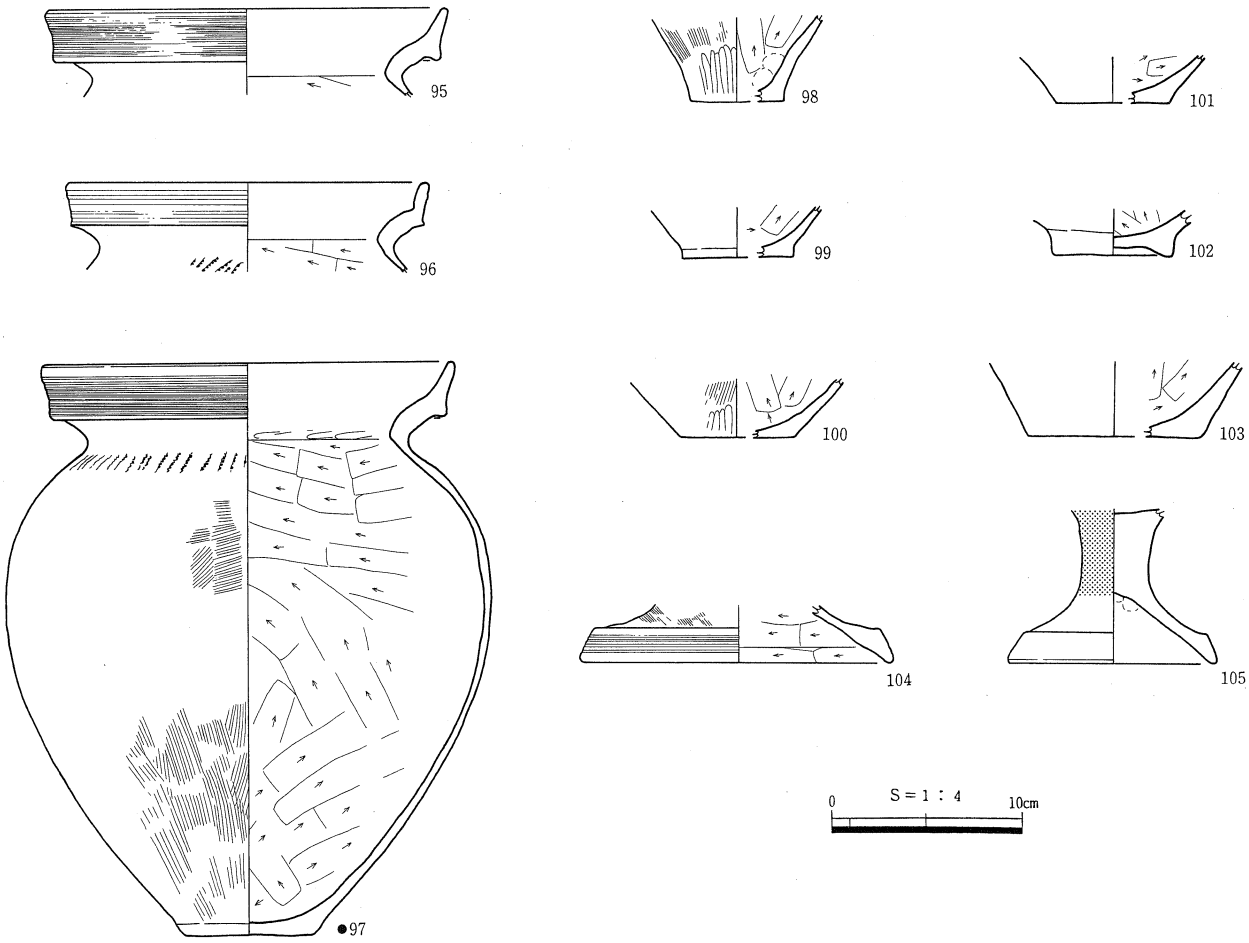


挿図20　SI04出土遺物実測図（土器、南東側）

中央ピットから派生する溝が北方向に掘られており、Ｐ３の手前で二股に分かれ、周溝に達する。そのうち西側の方はＰ２によって切られている。断面はＶ字形で幅12～16㎝、深さ３㎝。焼土面は３カ所で検出しており、中心から約1.5m離れた位置にある。

Ｐ662、663という２基のピットが住居跡の南々東に接するように掘られている。ピット間の距離は3.3mで、梯子の固定など、竪穴住居に関連する施設の存在が推測される。遺物は出土していない。

埋土は自然堆積によるものであり、北東方向からの流入が著しいことが分かる。遺物が多く出土しているが、



挿図21　SI04出土遺物実測図（土器、南西側）

その出土状況から、SI04は家屋の廃絶後、壁沿いから埋没し、大きな窪地状になった段階で、廃棄土坑として使用されたことが推測される。遺物は北東側、北西側、南東側、南西側の４カ所で集中的に出土している。とくに北西側、北東側の出土量が著しい。

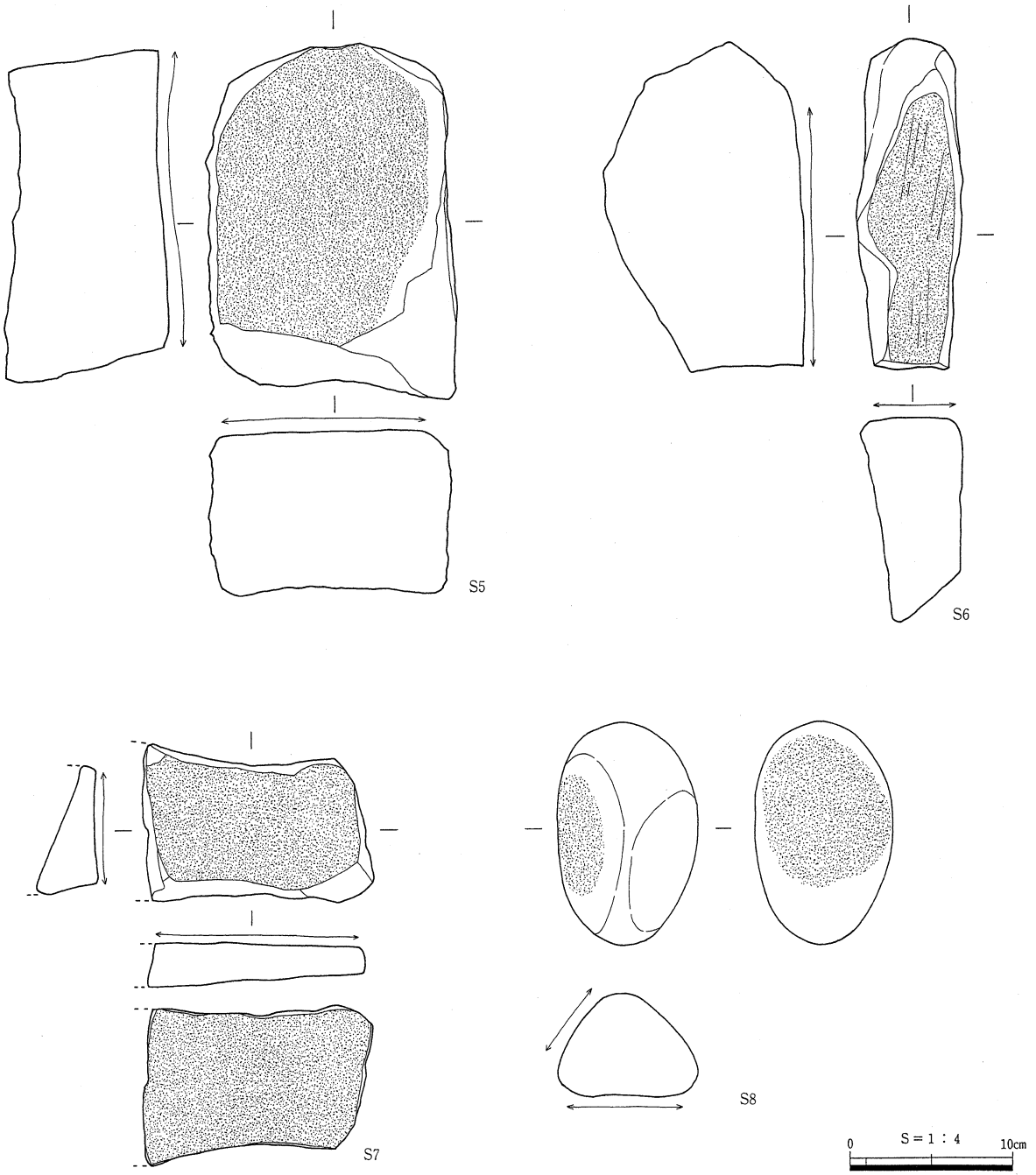
北西側は甕（49～51、53、55、57～60）、注口土器（56）が一カ所に集められていた。検出状況ではほとんどが横倒しでつぶれていた。56は外面にススが付着し、口縁内面に赤色顔料が塗布されている。49は口縁を下に向けた状態であった。そのほかに甕（52、54）、底部（61）、鼓形器台（62、63）が出土している。

北東側で原形をよく止めているものでは甕（66、67、70）、鼓形器台（80）、鉢（76）、台付鉢（77、78）が出土している。この区域はＰ４の上方辺りから土器を落としこんだ状況を呈している。76は精製、77は作りが丁寧だが胎土が粗い。78は内面に炭化物が付着していることから蓋として使用されていたものと推定される。そのほか甕（64、65、68、69、71、72）、底部（73～75）、鼓形器台（81、82）が出土している。

南東側は壺（83、84）、甕（87～90）、高坏（94）、鉢（92）が原形をよく止めている。84は端部を外反させ、頸部に擬凹線が施される。87、88、90は横倒しの状況でまとまって出土した。その近くで94は口を下に向けていた。風化が著しく、図上復元となった。89は口を上に向け、上から押し潰されたような状況で出土した。そのほか甕（85、86、91）、鼓形器台（93）が出土している。93は前掲の62、81と同一固体の可能性がある。

南西側は遺物が少なく、Ｐ１の南側で甕（97）が出土した。胴部片が上向きの口縁部を覆っていたことから、廃棄時に意図的に破片を重ねたものと考えられる。住居床面の出土であることから、住居の廃絶時に廃棄された可能性がある。そのほか甕（95、96）、底部（98～103）、器台脚部（104）、高坏脚部（104）が出土している。

土器のほかにも石器も出土しており、砥石（Ｓ５～７）、磨石（Ｓ８）を図化した。Ｓ５は１つの面が使用され、鏡面のように滑らかになっている。Ｓ６、Ｓ７は風化が著しい。



挿図22　SI04出土遺物実測図（石器）

前述した土器は原形をよく残しているものの、すべて破損したものであり、そのほかの土器片も含めて廃棄されたものと考えるのが自然である。土器の出土する層位が限られることと、土器に時期幅が見られないことから、恒常的に処分場として使用されたものではなく、ある時期に集中して土器が廃棄されたと考えられる。

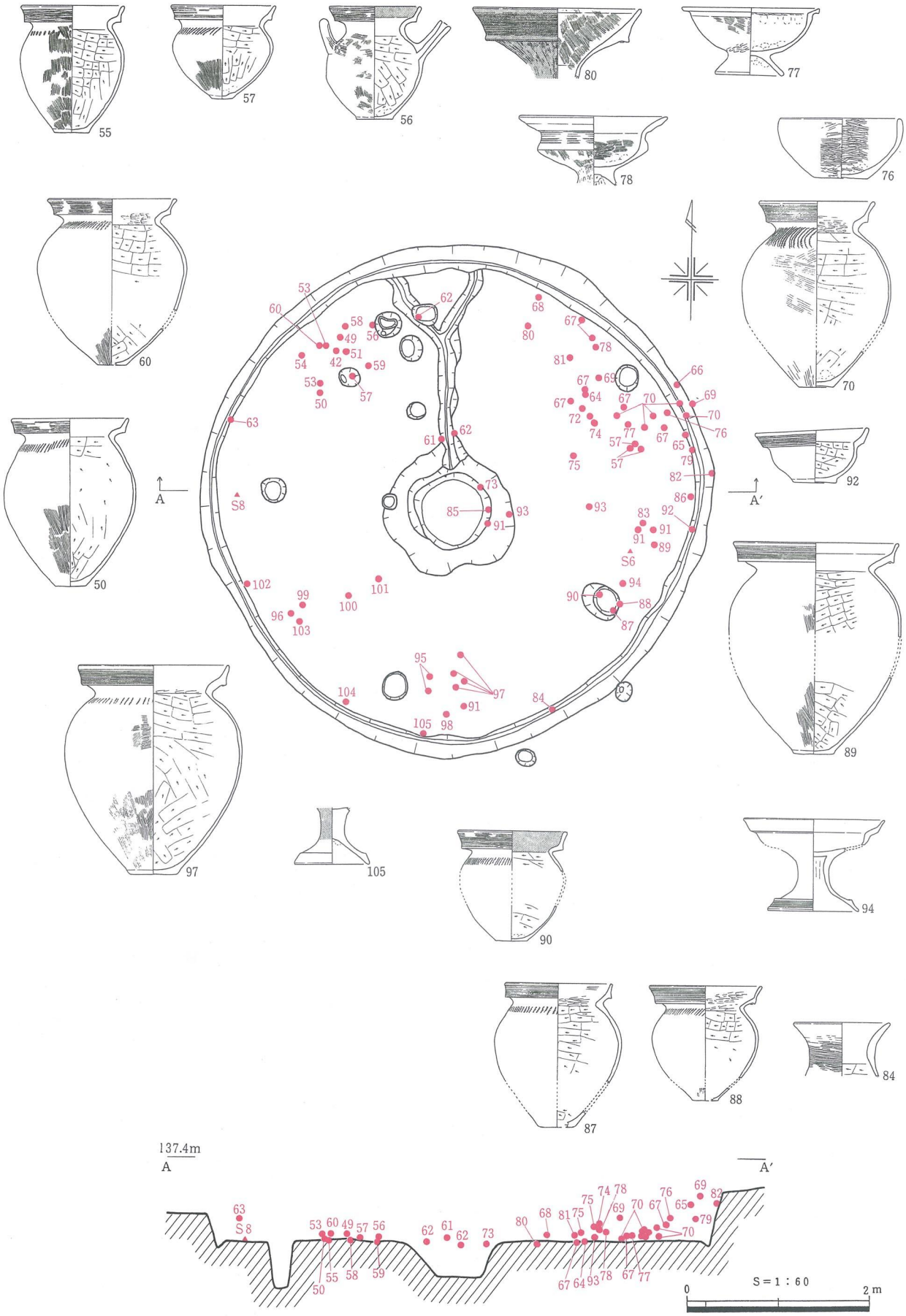
住居跡の廃絶および土器の廃棄は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階と考えられる。

SI05（挿図24～26、図版12・13・34・35・37）

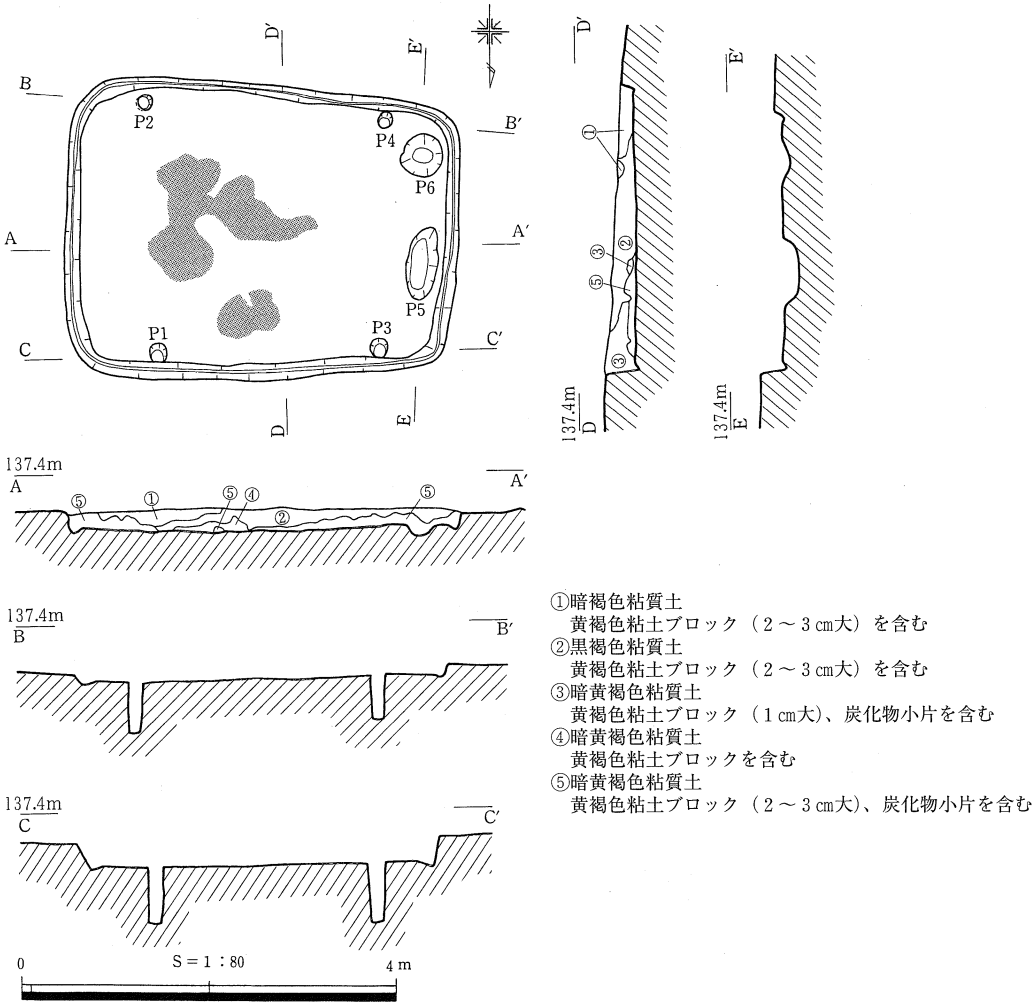
１区Ｄ５グリッドに位置する、隅丸方形の竪穴住居跡。東にSB14が隣接する。北にSB21、北西にSB18、SB19がある。

長辺4.2m、短辺は東側3.2m、西側2.7m、床面積は10.6m²、壁高は最高30cmを測る。周溝は幅約10cm、深さ約８cmを測る。

主柱はＰ１～４の４本で、周溝から15～20cmの位置にある。中央ピットは存在しないが、西側周溝と、Ｐ３－



挿図23　SI04遺物出土状況図



挿図24　SI05遺構図

Ｐ４を結ぶ線との間に、北側にＰ５、南側にＰ６が並ぶ。Ｐ５は平面長円形で長径80㎝、短径34㎝、深さ16㎝を測る。底部より炭化物が多く出土しているが、底面は焼土化していない。Ｐ６は住居跡の南西隅に位置し、平面円形で直径42～45㎝、深さ12㎝を測る。床面から皿状に掘り込まれており、炭化物が出土している。

床面は広範囲が焼土と化しており、主として中央より東寄りに広がっている。

埋土は床面付近で炭化物の小片が混じるが、建材は出土していない。全般に地山土ブロックが多く混在しており、人為的な埋めもどしの可能性がある。

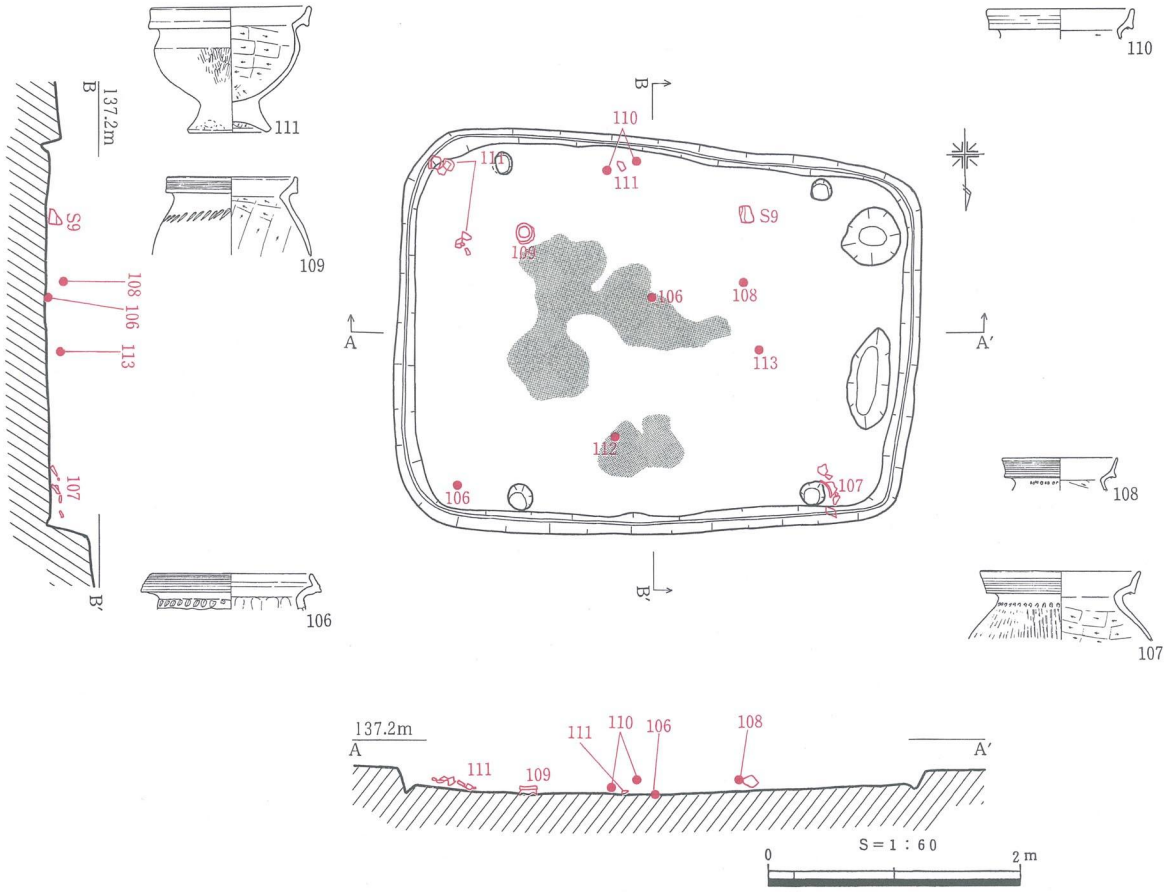
遺物は床面直上から甕（109）、砥石（Ｓ９）が出土している。109は上半部のみで口縁を上にして置かれていた。胴部は張り出さず、工具による「ノの字」状の刺突文が施される。Ｓ９は３面が使用されている。甕（107）、台付鉢（111）が床面から数㎝浮いた位置で出土している。111は台部が焼けている。そのほか埋土中から甕（106、108、110）、底部（112、113）が出土している。106は頸部にナデ消された指頭圧痕張付突帯文をもつ、弥生時代中期後葉の土器である。

床面の広範囲の焼土化は他の住居跡のものと比較して著しいものであるが、炭化した建材が出土しないことと、甕109の出土状況から、火災の可能性は低い。

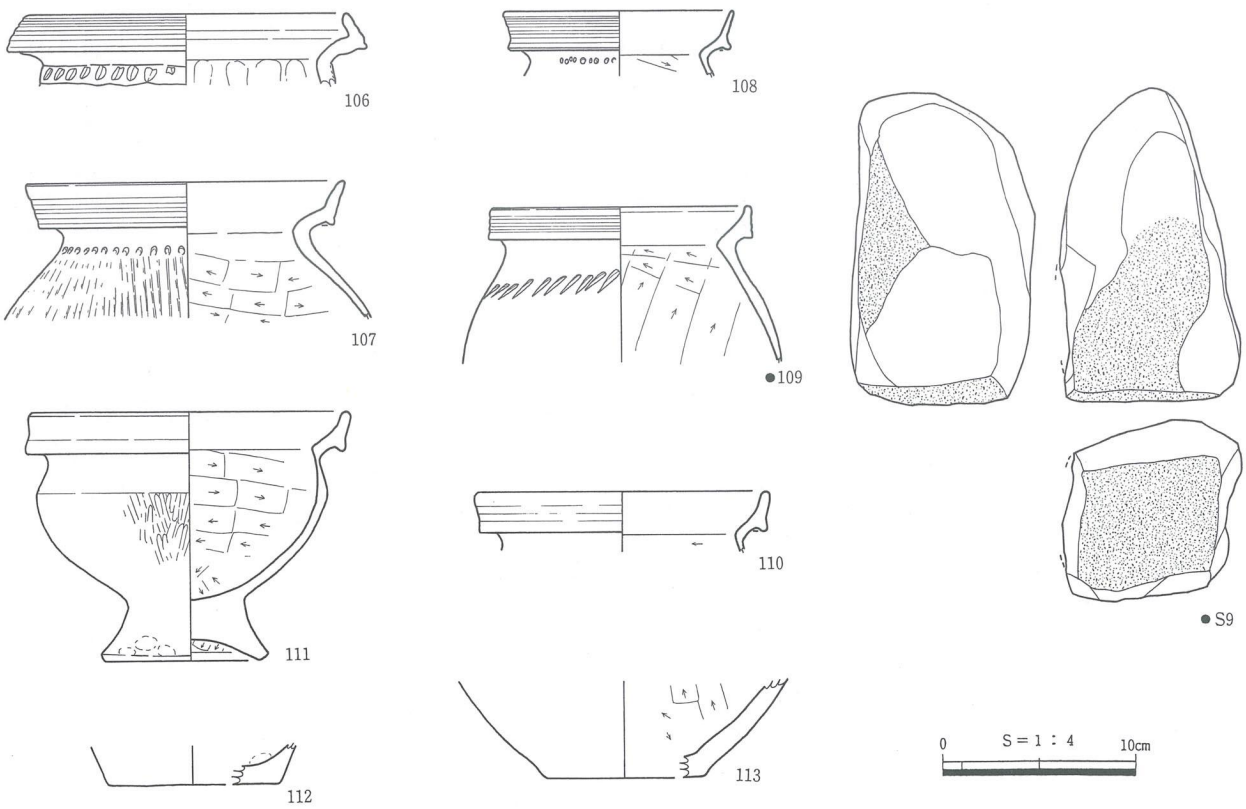
遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期古段階に相当する。

SI07（挿図27～29、図版14・15・35・36）

３区M10グリッドに位置する円形の住居跡。南東にSB24、南南東にSI09が並ぶ。中央ピットより南西側は農道敷設の際に削平されており、中央ピットの北東側も後世の溝の掘削によって撹乱を受けている。二重の同心円状の周溝を確認しており、埋土の堆積状況は床面積の拡張を伴う建て替えが行われたことを示している。内側をSI07－ａ、外側をSI07－ｂと呼称する。



挿図25　SI05遺物出土状況図



挿図26　SI05出土遺物実測図

SI03

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	42	30	70	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03－P１
P２	42	32	68	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03－P２
P３	32	31	77	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03－P３
P４	39	37	68	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03－P４
P５	45	39	64	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、淡褐色土粒混		SI03－P５
P６	39	28	76	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P６
P７	52	50	69	暗褐色粘質土、黄褐色土粒、淡褐色土ブロック混		SI03－P７
P８	52	36	73	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P８
P９	39	37	77	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P９
P10	45	38	48	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI03－P11
P11	30	25	66	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P10
P12	32	30	?	暗褐色粘質土	柿木の下	SI03－P15
P13	45	32	58	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P17
P14	38	34	69	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P18
P15	30	24	32	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P19
P16	37	29	12	灰褐色粘質土		SI03－P22
P17	28	23	34	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	柿木の下	SI03－P12
P18	15	14	21	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P27
P19	16	16	15	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI03－P26
P20	40	33	57	灰褐色粘質土	埋め戻し	SI03－P14
P21	33	28	62	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック	埋め戻し	SI03－P29
P22	34	30	55	黒褐色粘質土ブロック	上面に貼り床を施す	SI03－P31
P23	34	32	60	黄褐色土ブロック	埋め戻し	SI03－P33
P24	24	20	17	黄褐色土ブロック	埋め戻し	SI03－P32
P25	20	16	20	暗黄褐色土,灰褐色土	上面に貼り床を施す	SI03－P30
P26	26	23	56	暗褐色粘質土	埋め戻し	SI03－P28
P27	68	32	38	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	埋め戻し、SI03以前か	SI03－P24

挿表４　SI03ピット一覧表

SI04

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	30	28	46	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI04－P１
P２	28	27	53	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI04－P２
P３	27	24	48	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、炭化物混		SI04－P３
P４	27	27	37	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI04－P４
P５	30	28	60	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI04－P５
P６	29	28	18	淡黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI04－P６
P７	27	24	10	灰褐色粘質土	凹みか？	SI04－P７
P８	20	18	6	暗灰褐色粘質土	凹みか？	SI04－P８
P９	22	22	10	灰褐色粘質土、橙褐色土ブロック混		SI04－P９
P10	17	15	10	不明		SI04－P10

挿表５　SI04ピット一覧表

SI05

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	19	18	60	黒褐色粘質土		SI05－P１
P２	17	14	53	黒褐色粘質土		SI05－P２
P３	20	18	62	黒褐色粘質土		SI05－P３
P４	16	16	46	黒褐色粘質土		SI05－P４
P５	80	34	16	黒褐色粘質土、炭化物混	平面長円形	SI05－P５
P６	45	42	12	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	皿状	SI05－P６

挿表６　SI05ピット一覧表

SI06

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	37	29	55	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI06－P１
P２	48	44	62	暗褐色粘質土		SI06－P２
P３	50	43	50	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI06－P３
P４	50	38	60	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI06－P４
P５	35	34	72	黒褐色粘質土		SI06－P５
P６	31	27	63	黒褐色粘質土		SI06－P６
P７	35	26	18	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI06－P７
P８	25	18	11	暗灰褐色粘質土		SI06－P８
P９	38	25	9	暗灰褐色粘質土		SI06－P９
P10	16	15	36	暗灰褐色粘質土		SI06－P10
P11	28	26	28	不明		SI06－P11

挿表７　SI06ピット一覧表

SI07

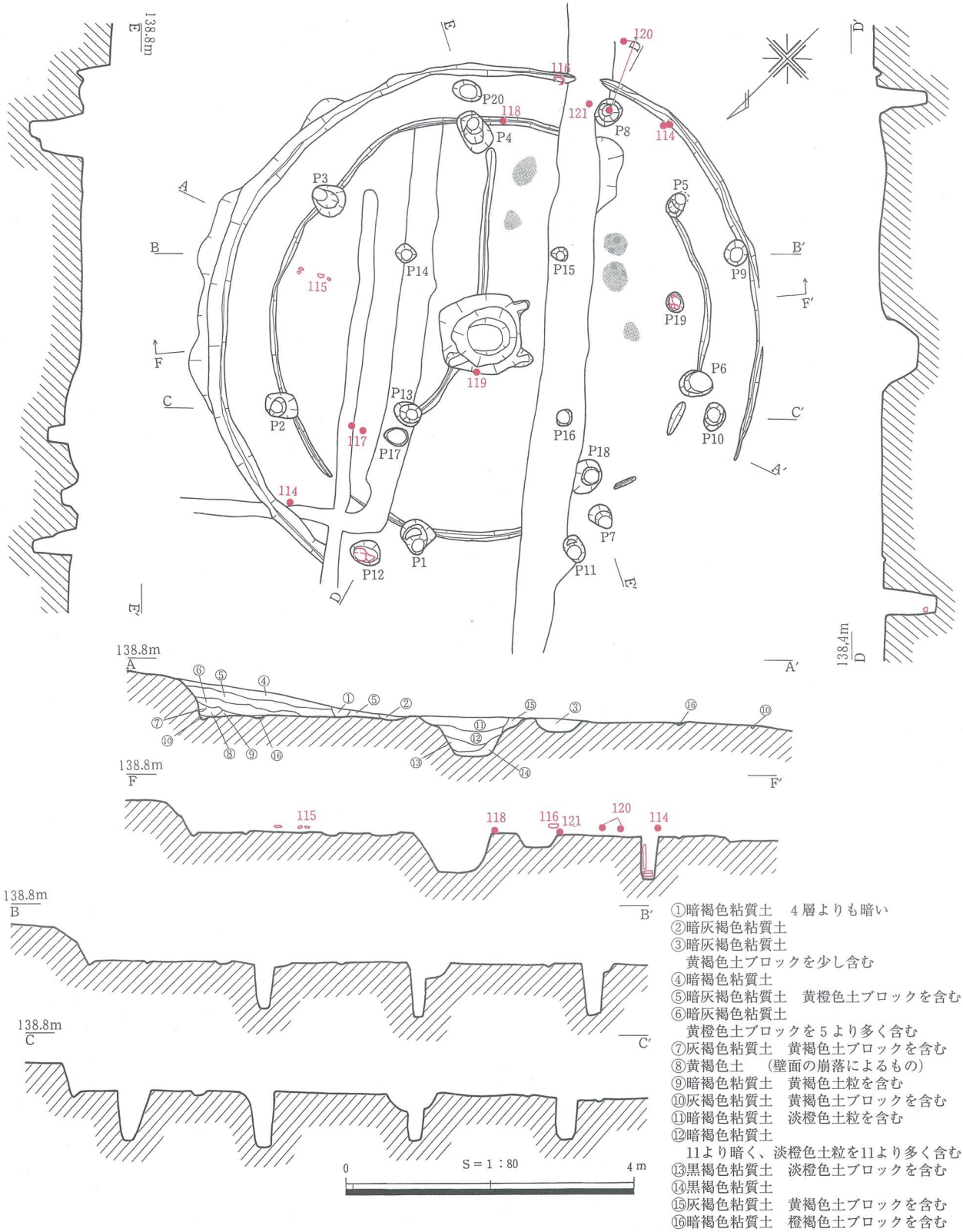
ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	40	40	80	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07－P１
P２	42	35	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07－P２
P３	50	42	90	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07－P３
P４	60	38	75	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック、粒混		SI07－P４
P５	34	26	70	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	比較的浅い	SI07－P６
P６	50	50	50	暗褐色粘質土、黄褐色土粒少し混		SI07－P９
P７	38	60	60	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07－P11
P８	38	34	70	不明		SI07－P５
P９	34	70	70	暗褐色粘質土、黄褐色土粒少し混	径小さいが深い	SI07－P７
P10	40	58	58	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI07－P10
P11	38	55	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI07－P20
P12	40	75	75	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI07－P17
P13	40	80	80	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI07－P14
P14	33	60	60	褐色土		SI07－P15
P15	22	75	75	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック少し混		SI07－P18
P16	23	26	26	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック少し混		SI07－P19
P17	31	10	10	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI07－P13
P18	18	7	7	淡褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI07－P16
P19	50	20	20	黒褐色粘質土		SI07－P12
P20	24	51	51	暗褐色粘質土、黄褐色土粒少し混		SI07－P８
P21	38	30	4	灰褐色粘質土		SI07－P21

挿表８　SI07ピット一覧表

SI08

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
P１	30	22	55	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック、粒多く混	底面より鉄器F2	SI08－P１
P２	26	22	55	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック、粒多く混、炭化物混		SI08－P２
P３	30	22	38	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック、粒多く混、炭化物混		SI08－P３
P４	30	25	46	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08－P４
P５	28	28	44	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック混	上面貼り床	SI08－P18
P６	40	34	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08－P６
P７	32	26	60	黒褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI08－P８
P８	28	24	58	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI08－P９
P９	28	24	42	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08－P５
P10	24	20	20	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08－P７
P11	18	18	25	灰褐色粘質土、焼土粒、炭化物粒混		SI08－P15
P12	23	23	35	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混		SI08－P13
P13	30	28	40	断面図参照		
P14	20	20	12	暗灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック混		SI08－P14
P15	25	25	43	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	埋め戻し	SI08－P19
P16	30	23	20	灰褐色粘質土、焼土粒、淡黄色土粒混		SI08－P16
P17	20	20	10	暗灰褐色粘質土	P11に似る	SI08－P12
P18	28	20	18	黒褐色粘質土		SI08－P10
P19	20	13	8	灰褐色粘質土、淡黄色土ブロック混		SI08－P20

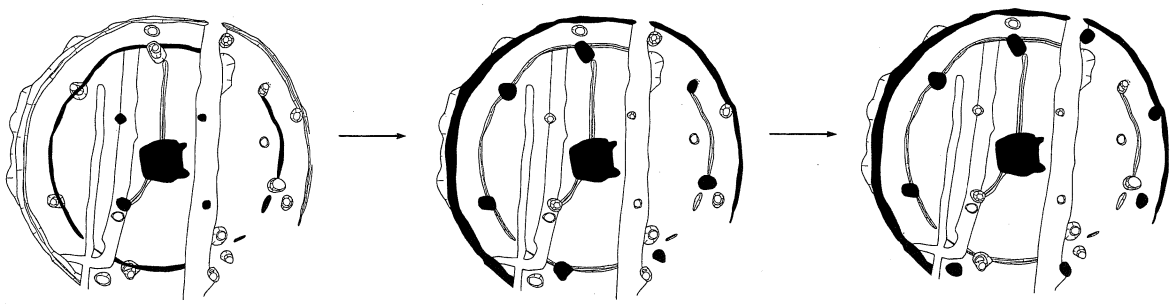
挿表９　SI08ピット一覧表



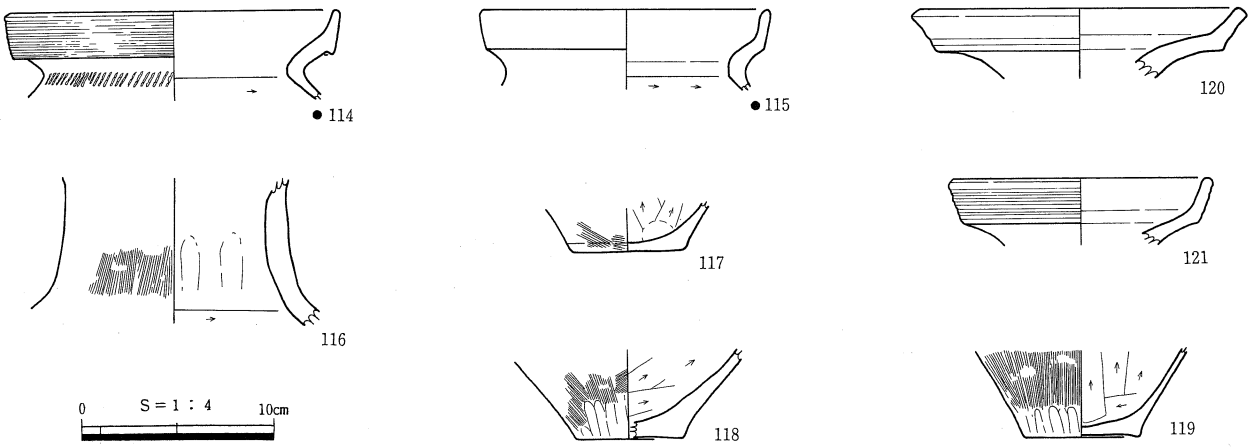
挿図27　SI07遺構図

SI07－ｂは直径7.7m、壁高は最高で50cm、床面積42.0m²を測る。周溝は幅10cm、深さ８cmで、北西側の４分の１は削平されている。

主柱はSI07－ａの周溝上に並ぶＰ１～７の７本が想定され、周溝からの距離は60～70cmを測る。この外側にＰ８～12が配されており、Ｐ２、３、４と合わせて８本柱の建物跡が復元できる。これをSI07－ｂの後に建て替え



挿図28　SI07変遷図



挿図29　SI07出土遺物実測図

られたSI07－ｃと呼称する。Ｐ12は底面に石を配している。

中央ピットは床面の中央に配され、上部は1.1ｍ×1.1ｍの隅丸方形、下部は直径80～90㎝の円形を呈し、深さは55㎝を測る。上部は西、南隅が突出し、あたかも木枠がはめられていたかのような状況を呈している。

中央ピットから北方向と南東方向に溝が伸びており、幅10㎝、深さ２㎝を測る。いずれも周溝に達しない。

焼土面は南側のみで検出しており、中心から２ｍ前後の距離にある。

SI07－ａは直径６ｍ、床面積26.0㎡を測る。周溝は幅10㎝、深さ５㎝を測る。主柱はＰ13～16の４本で、周溝からの距離は1.3～1.4ｍを測る。

上記の主柱穴のほかに、Ｐ13の北にＰ17、Ｐ７の東にＰ18、Ｐ５とＰ６の間に、底部に石を配するＰ19があり、これらは補助柱として使用されたと考えられる。Ｐ４の東にあるＰ20は深さ４㎝の浅い窪みであるが、SI07－ｃへの拡張時に、Ｐ４の柱を移動する予定地点として、あたりをつけた跡とも考えられる。

以上のように、SI07はａからｂで床面積の拡張を伴う建て替えが、ｂからｃでは床面積をそのままに、主柱穴を外に張り出す建て替えを行っている。

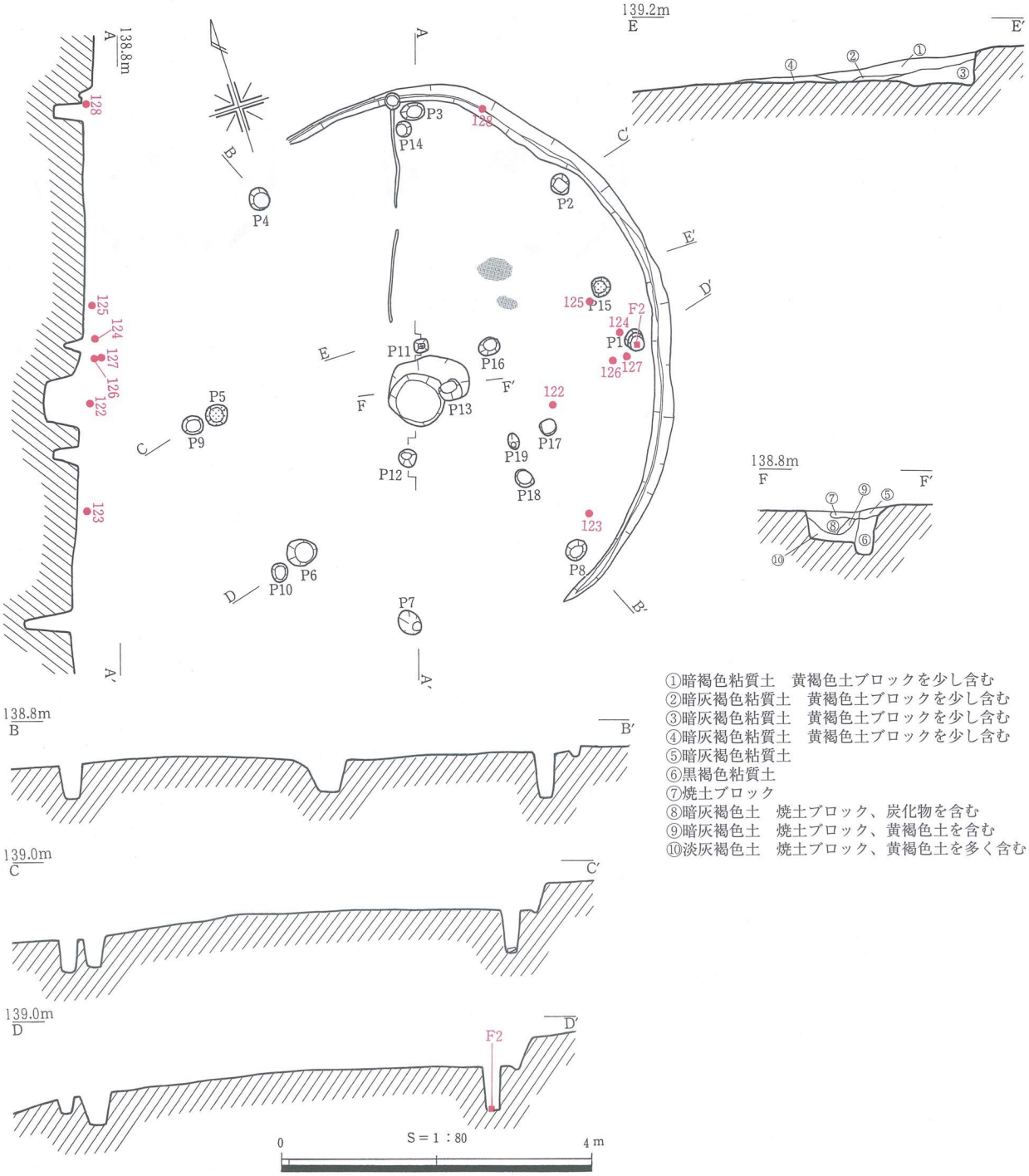
住居南東の壁際に、地山土のブロックが堆積していたが、これは壁土が崩落したものと見られる。人為的な痕跡は認められず、埋土は自然堆積と見られる。

遺物は床面から甕114、115、周溝内から壺頸部116、埋土中から器台120、121、底部117～119が出土している。また住居外であるが、棒状鉄製品（Ｆ４）が出土している。農道敷設時に住居内から流出したものであろうか。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期に相当する。

SI08（挿図30・31、図版14・15・38・39）

２区Ｎ～Ｏ－13～14グリッドに位置する、楕円形の竪穴住居跡。一帯は削平されており、特に住居跡の西半分は床面を削られている。現況は斜面であるが、開発の入る前は平坦地あるいは緩斜面であったと推察される。復元値で長径7.3ｍ、短径6.5ｍ、床面積33.6㎡を測る。周溝は幅約10㎝、深さ約５㎝で、西側は失われている。



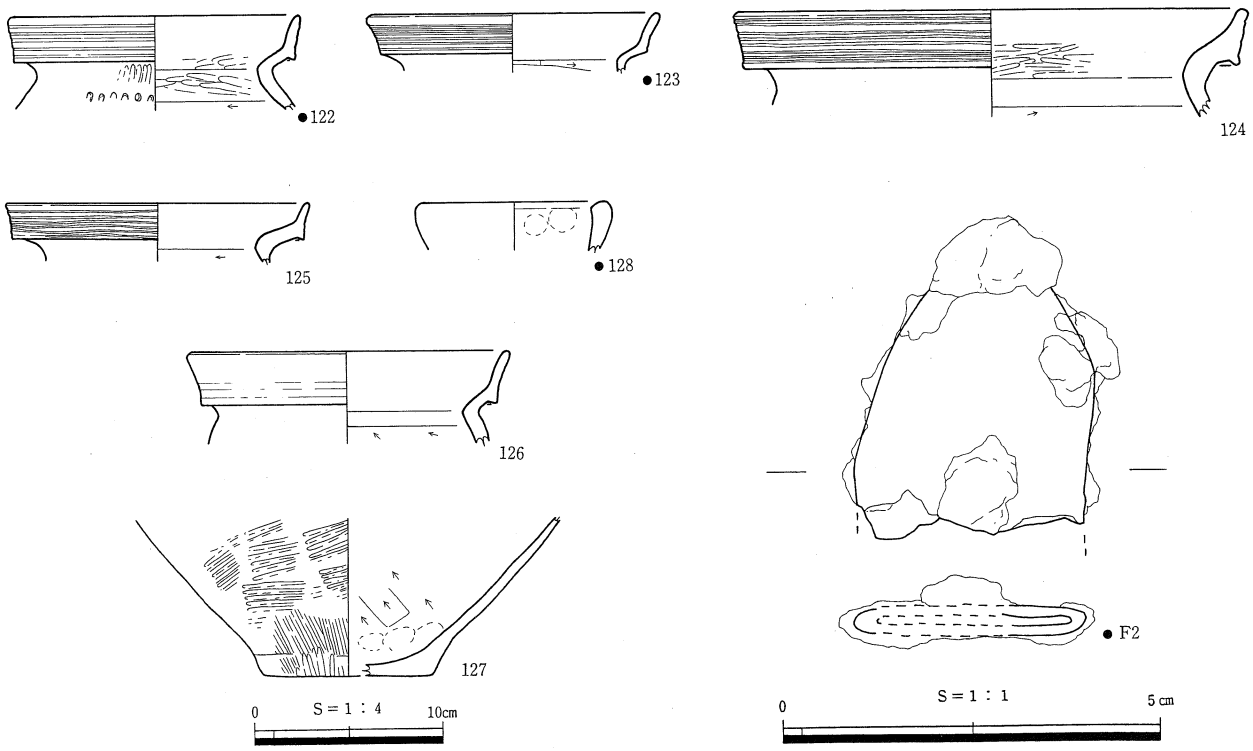
挿図30　SI08遺構図

主柱はＰ１～８の８本である。Ｐ２は底面に平石を配する。Ｐ５、Ｐ６それぞれに住居の外側に隣接するＰ９、10がある。Ｐ５の上面には貼り床が施されていたことから、SI08は部分的に柱の建て替えが行われていたようである。長軸のＰ３－Ｐ８間で中央ピットの両側にＰ11、12という主柱に比べて小規模なピットが並ぶ。これは位置的に棟材を支える補助柱の跡と考える。

中央ピットは床面の中央よりやや南寄りに位置し、平面形は直径約70㎝の円形、深さは約50㎝の規模を持つ。Ｐ13が東側に接するが、これも補助柱として使用されたものと考える。

中央ピットの北側に、Ｐ３方向に向かう溝を検出した。上面が削平されているため、検出した規模は幅約４㎝、深さ１～２㎝と小さいが、ほかの住居跡で検出している溝と同性格のものであろう。

焼土面は中央ピットとＰ２の中間に位置する。この直上の埋土は焼土の塊が多く混入していた。基本的には自



挿図31　SI08出土遺物実測図

然堆積と考えられる。

遺物は床面から甕（122、123）、鉢（128）が出土している。またＰ１の底面より三角形凹基式の鉄鏃（Ｆ２）が出土している。埋土中から甕（124～126）、底部（127）が出土している。127は胴部外面にタタキメを残し、当地域の土器には見られない技法である。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期古～新段階に相当する。

SI09（挿図32～34、図版15・37・38）

２～３区、M～N11グリッドに位置する、円形の竪穴住居跡である。北北西にSI07、北にSB24、南々東にSB26、27がある。北東側の半分を３区側の農道部分で検出し、北東端を農道の側溝によって、また２区の南西側半分は農道敷設時の削平によって大きく損なわれている。

周溝を３条検出しており、床面積の拡張を伴う建て替えが２度行われている。床面では多数の柱穴が確認されており、それらは近い距離で隣接し、あるいは切り合って、いくつかの群を形成している。周溝、中央ピットの位置、加えて柱穴の配列から４時期の建物を復元した。以下、古いものから順にａ、ｂ、ｃ、ｄと呼称する。

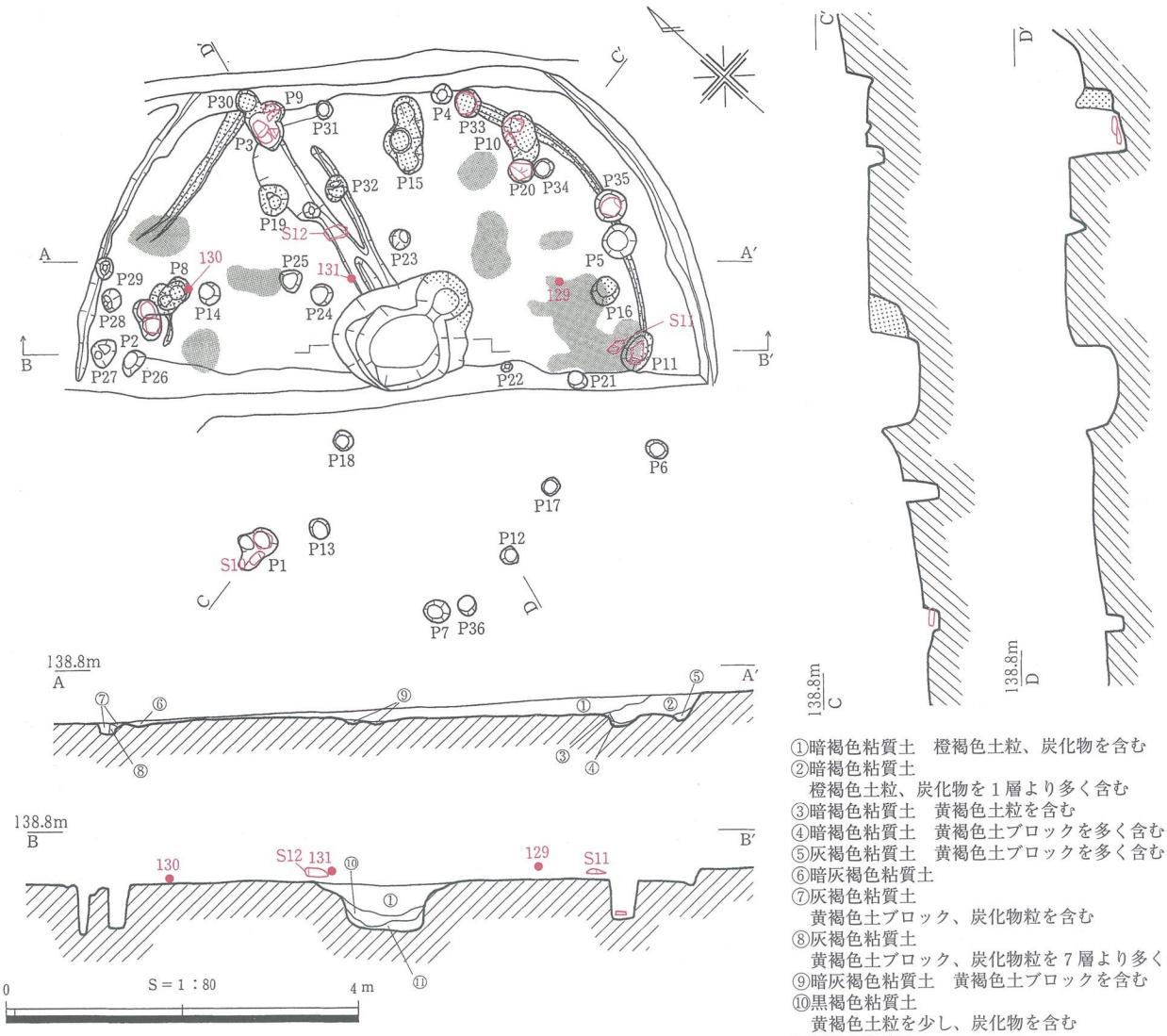
SI09－ｃ、ｄは外側を巡る周溝を伴う。直径7.2m、床面積は復元で36.5m²、壁高は最大で25cmを測る。周溝は幅12～15cm、深さ６cmを測る。

最も新しい時期のSI09－ｄの主柱は、埋土と切り合い関係及び柱穴間の距離からＰ１、Ｐ２（またはＰ26）、Ｐ３、Ｐ４（またはＰ33）、Ｐ５（またはＰ35）、Ｐ６、Ｐ７（またはＰ36）の７本を想定した。そしてSI09－ｃは埋め戻されたピットを含む、Ｐ１、Ｐ８～12を主柱とする６本柱の建物跡と考えられる。

中央ピットは床面の中央に位置し、南西部が削平されているが、平面は１辺約１ｍの隅丸方形を呈し、深さ約50cmを測る。縁辺は浅く掘りこまれ、緩い傾斜をもつ。

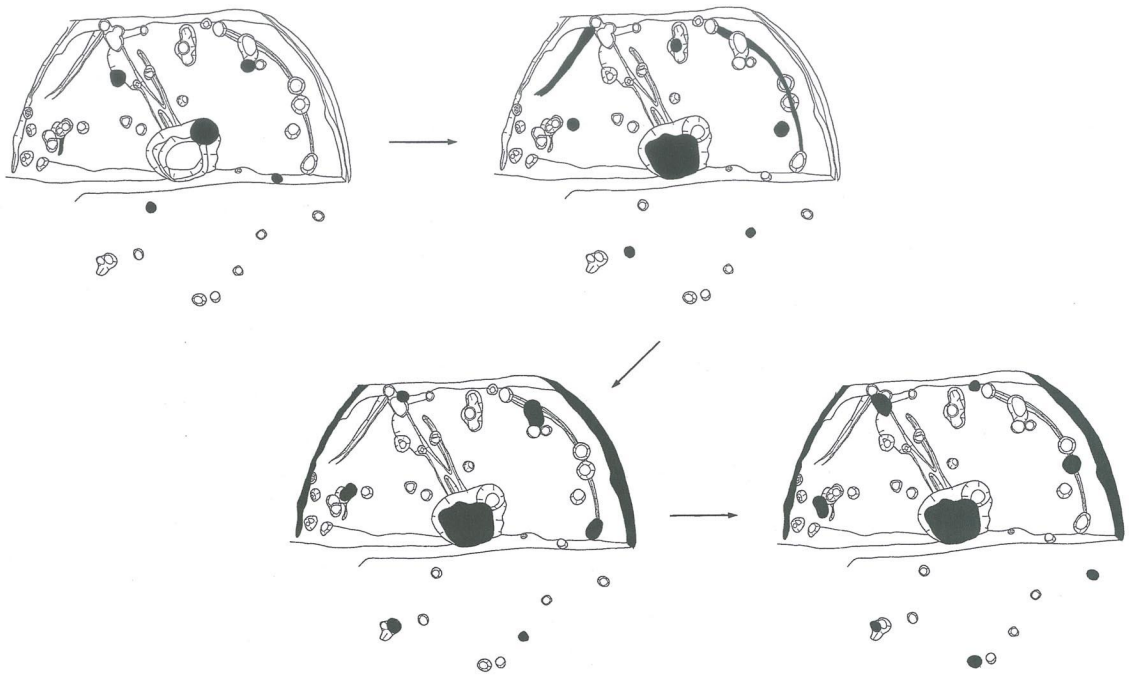
中央ピットから派生する溝を２条検出した。幅10～20cm、深さ３cmで北方向に並行して伸びている。中央ピットから50cmの位置で繋がっており、平面形はＮ字状を呈する。２条の前後関係は不明である。

SI09－ｂはｃ、ｄの周溝の内側を巡る周溝を伴う。直径5.9m、床面積は復元値で26.3m²。周溝は幅約10cm、深さ約５cmを測り、地山土と同質の土で埋め戻されていた。主柱穴は柱穴間距離からＰ13～17の５基が復元される。この内Ｐ15、Ｐ16は上面を地山土で埋め戻されていた。中央ピットはその位置からSI09－ｃ、ｄと同一と考える。

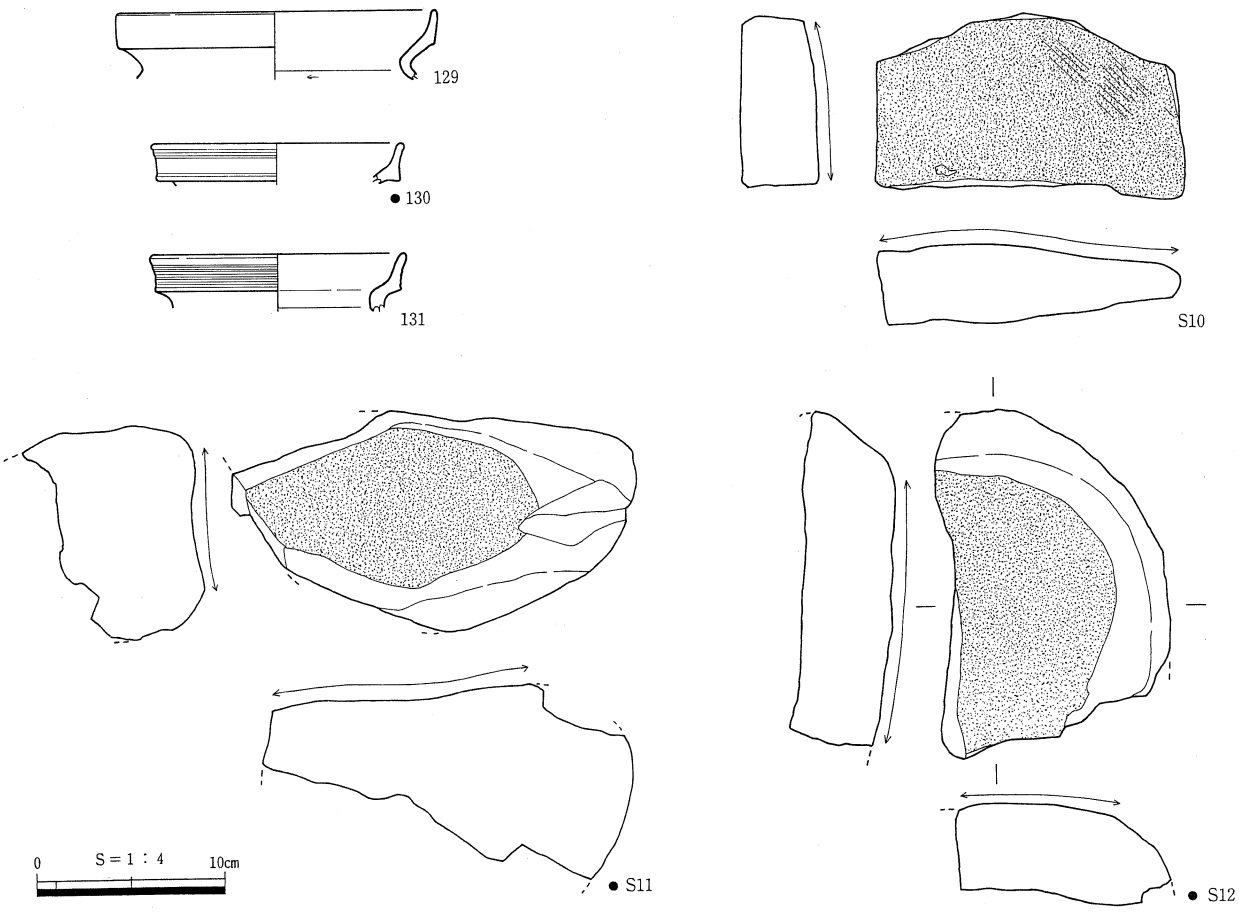


①暗褐色粘質土　橙褐色土粒、炭化物を含む
②暗褐色粘質土
　橙褐色土粒、炭化物を１層より多く含む
③暗褐色粘質土　黄褐色土粒を含む
④暗褐色粘質土　黄褐色土ブロックを多く含む
⑤灰褐色粘質土　黄褐色土ブロックを多く含む
⑥暗灰褐色粘質土
⑦灰褐色粘質土
　黄褐色土ブロック、炭化物粒を含む
⑧灰褐色粘質土
　黄褐色土ブロック、炭化物粒を７層より多く含む
⑨暗灰褐色粘質土　黄褐色土ブロックを含む
⑩黒褐色粘質土
　黄褐色土粒を少し、炭化物を含む
⑪灰褐色粘質土
　黄褐色土ブロックを含み、堅く締まる

挿図32　SI09遺構図



挿図33　SI09変遷図



挿図34　SI09出土遺物実測図

SI09－ｂ、ｃ、ｄに共通する中央ピットの東隅は地山土と同質の土で埋め戻された痕跡があった。その埋土を取り除くと、直径60cmの円形を呈し、深さ45cmを測るピットを検出した。これは先行する竪穴住居SI09－ａの中央ピットであると判断した。

主柱はＰ18～21の４本と考えられる。Ｐ19は埋め戻されている。周溝はＰ25の西側にわずか50cmの長さが残り、幅４cm、深さ２cmを測る。中央ピットを床面の中心とすると、直径6.2m、床面積約30.2m²と復元できる。

SI09はピット底面に平石を敷くものが多く検出され、Ｐ１～３、８～11、20、33、35がそれに当たる。Ｐ２は平石の下にさらにピットがあり、その底面にも同じく石が敷かれていた。これらの石は柱材の長さの調整に使われたものと考えられる。

焼土面は７カ所で検出している。南東側のものは埋め戻されたＰ11、16の上に広がることから、SI09－ｄの時期のものである。

農道敷設時に床面付近まで削平されたため、埋土は南東側にやや残すのみであった。炭化物粒を含むものの、火災の痕跡は認められない。中央ピットの底部には地山土と同質の土が堅くしまって堆積しており、SI04に似た状況を呈する。これが意図的に埋め戻されたかどうかは不明であるが、その上層は自然堆積と考えられる。

遺物は床面から甕（130）、砥石（Ｓ11、Ｓ12）が出土している。Ｓ11は焼土面上で出土しており、下側が焼けて赤変していたことから、別の用途をもっていたとも考えられる。砥石（Ｓ10）はＰ１の底面より出土した。埋土中から甕（129、131）が出土している。土器はいずれも小片である。

遺構の時期は弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期に相当するものと考える。

SI09

ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　　色	備　　考	旧ピット名
Ｐ１	42	32	18	暗褐色粘質土	砥石Ｓ10を根石に転用	SI09－Ｐ１
Ｐ２	46	26	74	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混	２つの根石	SI09－P24
Ｐ３	50	33	66	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	根石	SI09－P17
Ｐ４	24	22	66	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI09－P15
Ｐ５	38	38	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック、粒混	根石	SI09－P11
Ｐ６	22	20	31	黒褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI09－Ｐ７
Ｐ７	28	25	25	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混、炭化物混		SI09－Ｐ４
Ｐ８	47	34	71	暗灰褐色粘質土		SI09－P25
Ｐ９	27	25	73	灰褐色粘質土	Ｐ３と隣接、先行	SI09－P36
P10	59	36	64	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床	SI09－P34
P11	48	29	44	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面焼土、貼り床、根石	SI09－P31
P12	19	19	20	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI09－Ｐ５
P13	22	22	27	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI09－Ｐ２
P14	26	26	60	不明、灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混？		SI09－P29
P15	28	22	68	黒灰色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面貼り床	SI09－P37
P16	32	30	54	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	上面焼土、貼り床	SI09－P32
P17	21	19	35	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック、灰褐色土ブロック混		SI09－Ｐ６
P18	25	23	32	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混		SI09－Ｐ３
P19	40	38	67	暗褐色粘質土	埋め戻し	SI09－P30
P20	28	27	51	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混、炭化物混	根石	SI09－P14
P21	21	19	34	淡褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混、炭化物混		SI09－Ｐ８
P22	13	10	17	淡褐色粘質土、黄褐色土ブロック多く混	小穴	SI09－Ｐ９
P23	22	22	30	灰褐色粘質土、焼土ブロック混		SI09－P19
P24	26	24	21	灰褐色粘質土、焼土粒混		SI09－P27
P25	26	25	19	灰褐色粘質土、炭化物混	攪乱？	SI09－P26
P26	32	22	49	暗灰褐色粘質土		SI09－P28
P27	32	28	56	褐色粘質土、裏込めに黄褐色ブロック混		SI09－P20
P28	26	24	14	暗灰褐色粘質土、黄白色土ブロック混		SI09－P21
P29	25	20	25	暗灰褐色粘質土、黄白色土ブロック混		SI09－P22
P30	25	23	53	灰褐色粘質土	Ｐ３と隣接、先行	SI09－P35
P31	20	17	57	暗灰褐色粘質土、黄褐色土粒混		SI09－P16
P32	29	24	23	上,暗灰褐色粘質土、下,黄褐色土ブロック、白色粒子、炭化物混	埋め戻し、床溝より後	SI09－P18
P33	31	29	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	埋め戻し？、根石	SI09－P23
P34	22	22	17	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混、炭化物混		SI09－P13
P35	26	36	53	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	根石	SI09－P12
P36	23	20	27	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混、炭化物混	Ｐ７と似る	SI09－P10

挿表10　SI09ピット一覧表

第３節　掘立柱建物跡

SB01（挿図39）

１区Ｄ０グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行、桁行とも2.6mで、主軸はN－63°－Wである。南西にこれよりやや小さく、同じ方向を向くSB02が隣接している。

SB02（挿図37）

１区Ｄ０グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行2.0m、桁行2.5mで、主軸はN－61°－Wである。北東にSB01が隣接、北西梁側にSB06が接している。

SB03（挿図36）

１区Ｄ１グリッドに位置する１間×２間のもの。梁行3.0m、桁行4.6mで、桁行方向の柱穴間平均距離は2.3mを測る。主軸はN－55°－Eである。北西にこの約３分の１の大きさをもつSB16が重なる。南隅のＰ６からは３個体以上の甕の胴部片と底部片が重なって出土しており、柱を抜き取った後に投棄されたものと考えられる。底部（132、133）を図化した。

SB04（挿図36、図版16）

１区Ｄ２グリッドに位置する１間×２間のもの。梁行2.8m、桁行5.0mで、桁行方向の柱穴間平均距離は2.5mを測る。主軸はN－15°－Eである。ピット径が36～55㎝、深さも38～60㎝と他のものに比べ大きくしっかりしている。北半にSB05が重なるが、前後関係は不明である。

SB05（挿図38、図版16）

１区Ｄ２グリッドに位置し、SB04に重なる１間×１間のもの。梁行2.2m、桁行2.7mで、主軸はN－62°－Eである。

SB06（挿図38、図版16）

１区Ｄ３グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行2.2m、桁行2.7mで、主軸はN－65°－Eである。

SB07（挿図39、図版16）

１区Ｄ３グリッド、SI02の南西に位置する１間×１間のもの。梁行2.3m、桁行2.7mで、主軸はN－46°－Eである。

SB08（挿図39）

１区Ｅ～Ｆ3グリッド、SI02の東に位置する１間×１間のもの。梁行2.5m、桁行2.7mで、主軸はN－13°－Wである。

SB09（挿図36、図版17）

１区Ｃ～Ｄ４グリッドに位置する１間×２間のもの。梁行2.8m、桁行4.5mで、桁行方向の柱穴間平均距離は2.2mを測る。主軸はN－65°－Wである。

SB10（挿図38）

１区Ｅ～Ｆ4グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行2.3m、桁行2.8mで、主軸はN－85°－Wである。北西にSK02がある。ピットの深さが60～77㎝と他のものに比べて深い。

SB11（挿図40、図版17）

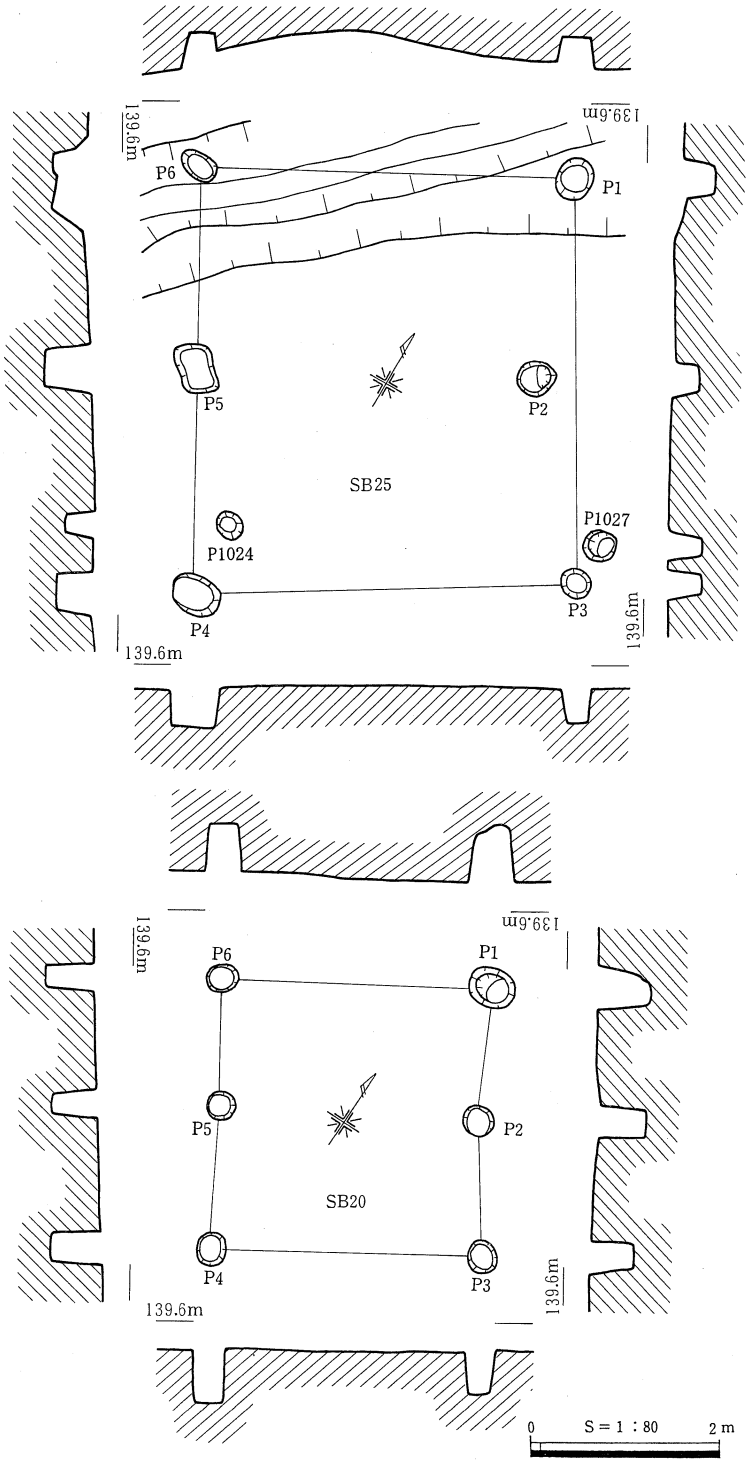
１区Ｆ４グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行2.6m、桁行2.9mで、主軸はN－22°－Wである。東桁辺にこれよりやや小さいSB13がかかり、SB12が隣接している。

SB12（挿図37、図版17）

１区Ｆ４グリッド、SI01の南に位置する１間×１間のもの。梁行1.8m、桁行2.5mで、主軸はN－４°－Eである。これより大きなSB13と主軸を直交して重なる。ピットの切り合いではSB13に先行する。

SB13（挿図38、図版17）

１区Ｆ４グリッド、SI01の南に位置する１間×１間のもの。梁行2.3m、桁行2.8mで、主軸はN－87°－Wである。



挿図35　SB20，25遺構図

南西でSB11と交差し、先行するSB12と同じ位置で重なる。北西にSK01がある。

SB14（挿図39）

１区Ｅ５グリッド、SI05の東に位置する１間×１間のもの。梁行、桁行とも2.2mで、主軸はN－18°－Eである。

SB15（挿図40、図版17）

１区Ａ２グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行2.5m、桁行2.9mで、主軸はN－13°－Wである。

SB16（挿図37）

１区Ｄ０～１グリッドに位置し、SB03に重なる１間×１間のもの。梁行1.8m、桁行2.0mと他のものに比べ小さく、調査区中最小である。主軸はN－37°－Eである。

SB17（挿図37）

１区Ｅ３グリッドに位置し、SI02に重なる１間×１間のもの。梁行2.0m、桁行2.8mで、主軸はN－65°－Wである。検出状況ではＰ３がSI02の埋土を切っていた。図化できなかったがP4、P5から甕口縁部が出土しており、弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階に相当する。

SB18（挿図40）

１区Ｃ４グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行2.6m、桁行3.4mで、主軸はN－89°－Eである。

SB19（挿図38）

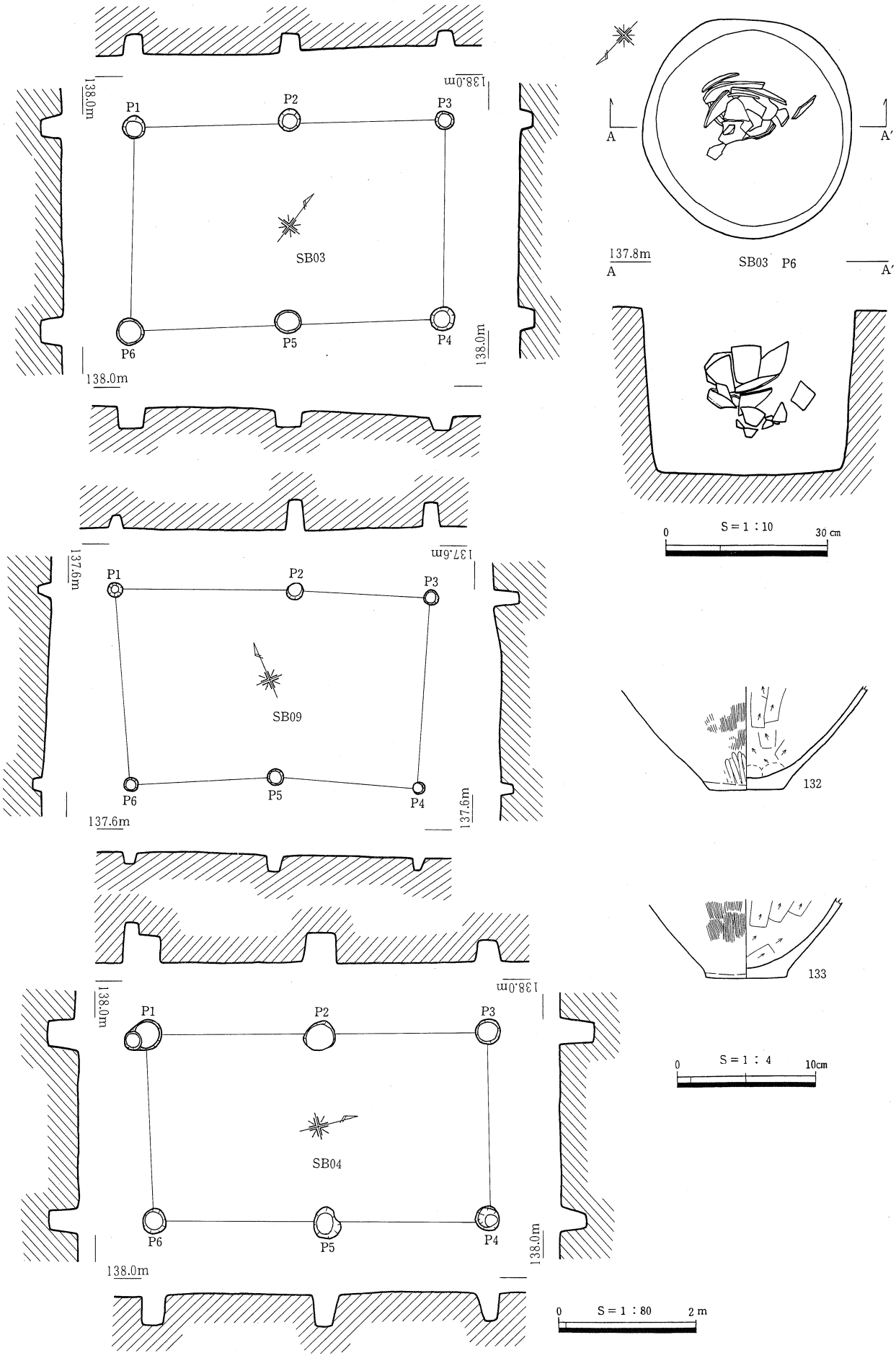
１区Ｃ０グリッドに位置し調査区外へと続く。他の掘立柱建物跡の柱穴間距離との比較から１間×１間のものと推測する。梁行2.2mで、主軸はN－55°－Wである。

SB20（挿図35、図版18）

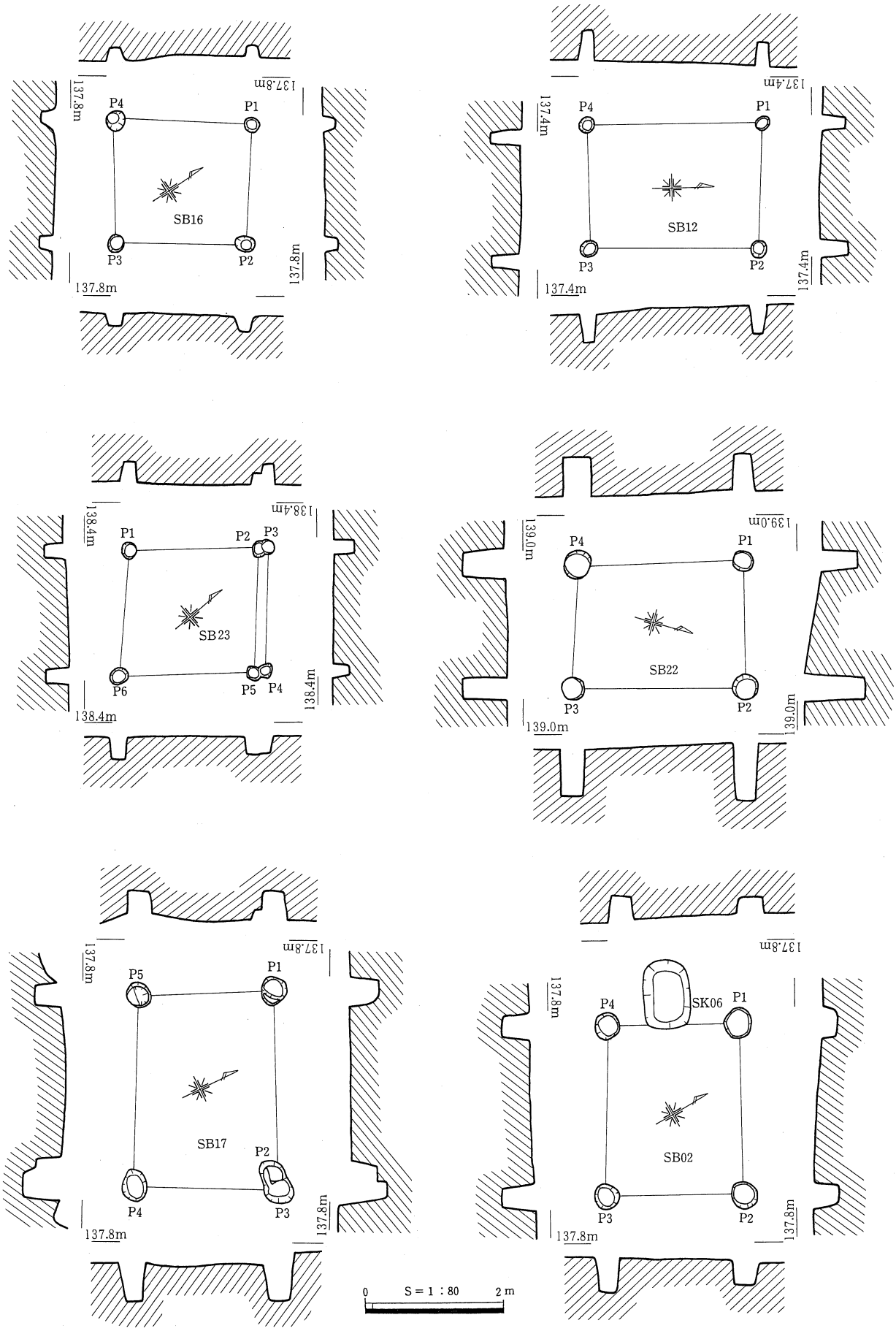
３区N～O10グリッドに位置する１間×２間のもの。梁行、桁行とも2.8mで、桁行方向の柱穴間平均距離は1.4mを測る。主軸はN－34°－Wである。ピット径が30～50㎝、深さも45～60㎝と他のものに比べて大きくしっかりしている。

SB21（挿図39）

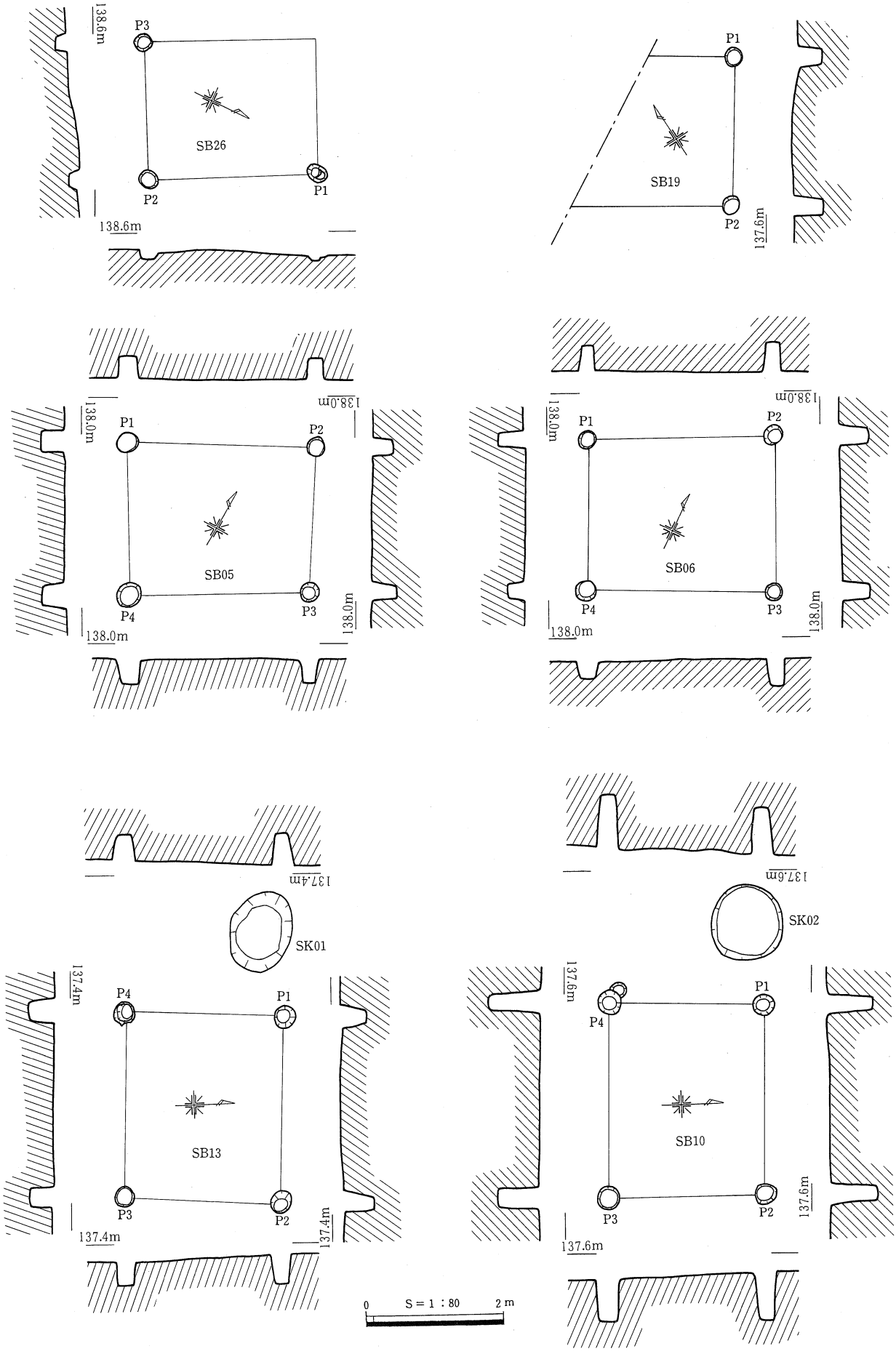
１区D～Ｅ４グリッドに位置する１間×１間のもの。梁行2.3m、桁行2.6mで、主軸はN－18°－Eである。北



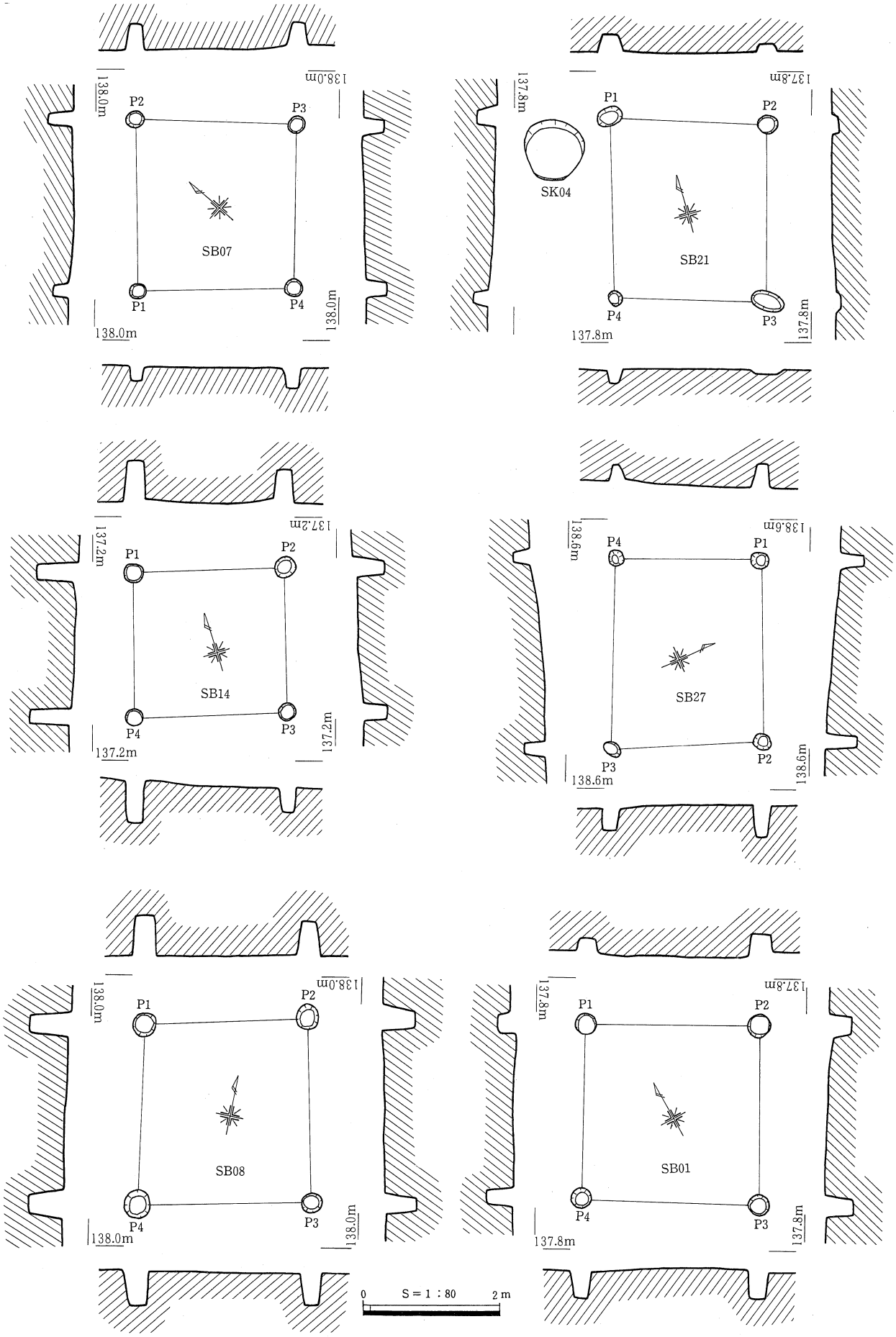
挿図36　SB03，04，09遺構図、SB03出土遺物実測図



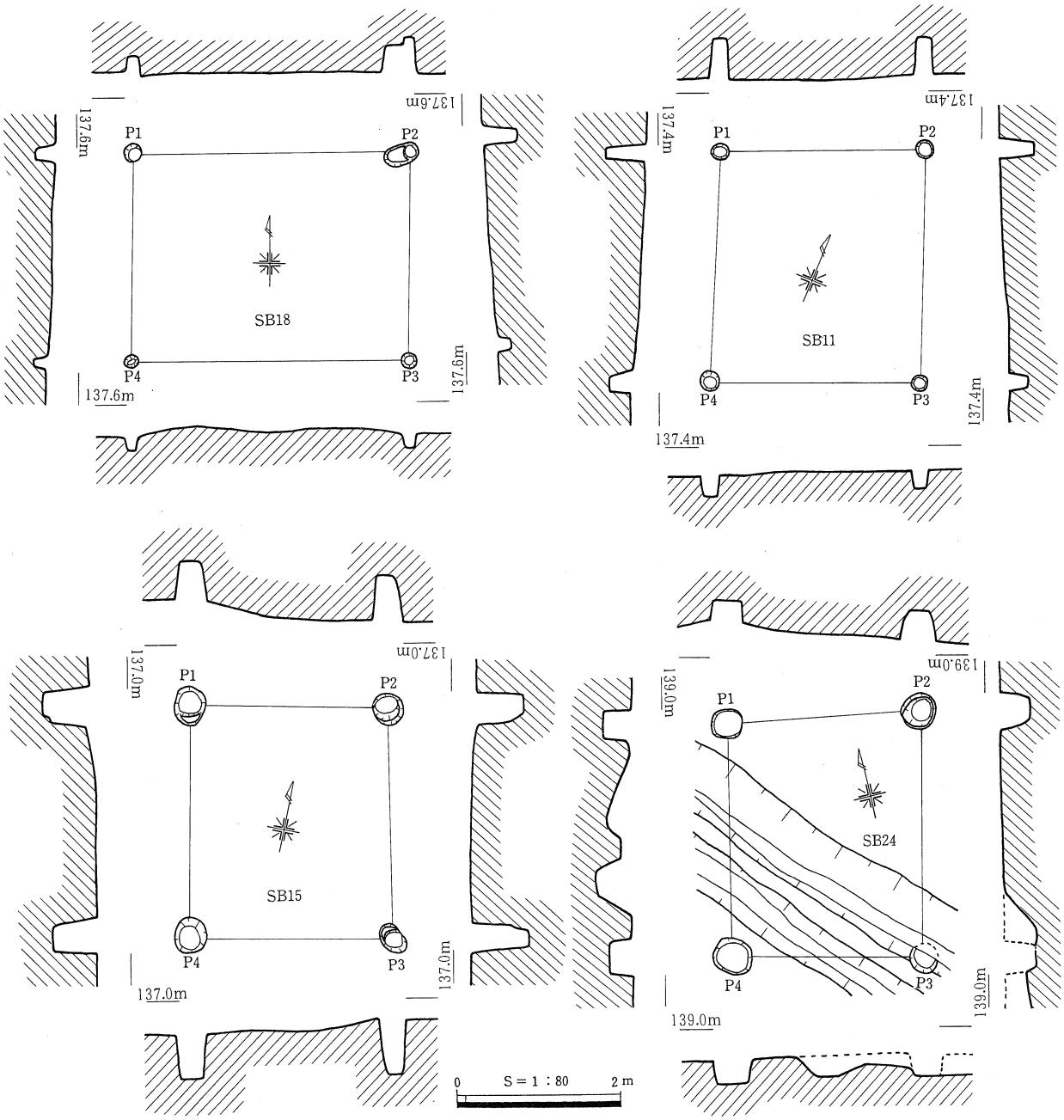
挿図37　SB02，12，16，17，22，23遺構図



挿図38　SB05，06，10，13，19，26遺構図



挿図39　SB01，07，08，14，21，27遺構図



挿図40　SB11，15，18，24遺構図

西にSK04がある。

SB22（挿図37、図版18）

２区Ｏ12グリッドに位置する１間×１間のもので、Ｐ２は農道にかかる。梁行1.8m、桁行2.5mで、主軸はN－16°－Wである。ピット径が30～43㎝、深さも60～83㎝と他のものに比べ大きくしっかりしている。

SB23（挿図37、図版18）

２区と３区の中間の農道部分、Ｏ12グリッドに位置する１間×１間のもの。建て替え前（SB23－ａ）の梁行1.8m、桁行1.9m、建て替え後（SB23－ｂ）の梁行1.8m、桁行2.1mと他のものに比べ小さく、調査区中最小のSB16とほぼ同じ大きさである。主軸はN－38°－Eである。

SB24（挿図40、図版18）

３区Ｎ10グリッド、SI07とSI09の間に位置する１間×１間のもの。梁行2.4m、桁行3.0mで、主軸はN－12°－Eである。後世の溝による攪乱のためＰ３の一部は消失している。

SB25（挿図35、図版19）

３区Ｏ～Ｐ11グリッドに位置する１間×２間のもの。梁行4.1m、桁行4.4mと調査区中最大で、他の１間×２間のものに比べても大きく、桁行方向の柱穴間平均距離は2.2mを測る。主軸はN－32°－Wである。図化できなかったがＰ4から甕の頸部が出土しており、くびれ部の下が表面刺突文、内面ヘラ削りであることから弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期に相当する。

SB26（挿図38、図版19）

２区Ｎ12グリッドに位置し、SB27に重なる１間×１間のもの。削平により北西隅の１穴を欠く。梁行2.0m、桁行2.5mで、主軸はN－28°－Wである。

SB27（挿図39、図版19）

２区Ｎ12グリッドに位置し、SB26に重なる１間×１間のもの。梁行2.2m、桁行2.7mで、主軸はN－60°－Wである。図化できなかったがＰ１から弥生土器の甕の胴部が出土している。

SB名	新ピット名	旧ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　色
SB01	P1	P 11	30	28	30	黒褐色粘質土
	P2	P 13	36	34	32	黒褐色粘質土
	P3	P 23	32	40	40	黒褐色粘質土
	P4	P 16	30	28	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB02	P1	P 8	44	38	22	黒褐色粘質土
	P2	P 17	40	35	35	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 18	35	35	47	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 440	38	35	38	黒褐色粘質土
SB03	P1	P 30	32	32	29	黒褐色粘質土
	P2	P 29	34	30	28	黒褐色粘質土
	P3	P 25	27	27	17	黒褐色粘質土
	P4	P 28	35	35	23	黒褐色粘質土
	P5	P 33	38	34	20	黒褐色粘質土
	P6	P 37	40	40	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB04	P1	P 404	55	45	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 67	45	36	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 49	38	36	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 65	36	36	38	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P5	P 70	46	38	46	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P6	P 72	38	34	42	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB05	P1	P 48	30	30	30	黒褐色粘質土
	P2	P 66	28	25	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 069	28	28	34	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 71	38	34	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混

SB名	新ピット名	旧ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　色
SB06	P1	P 331	26	24	38	黒褐色粘質土
	P2	P 406	30	28	45	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 407	24	24	39	黒褐色粘質土
	P4	P 327	30	30	20	黒褐色粘質土
SB07	P1	P 168	24	24	22	黒褐色粘質土
	P2	P 167	25	25	36	黒褐色粘質土
	P3	P 166	26	25	32	黒褐色粘質土
	P4	P 170	25	25	28	黒褐色粘質土
SB08	P1	P 142	35	35	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 140	35	32	48	黒褐色粘質土
	P3	P 144	32	30	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 145	40	40	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB09	P1	P 307	22	20	20	暗褐色粘質土
	P2	P 300	25	22	45	黒褐色粘質土
	P3	P 298	22	22	40	黒褐色粘質土
	P4	P 291	18	18	16	黒褐色粘質土
	P5	P 301	24	24	20	黒褐色粘質土
	P6	P 310	22	18	15	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB10	P1	P 189	32	30	68	黒褐色粘質土
	P2	P 192	32	30	68	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 195	34	32	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 186	50	30	77	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB11	P1	P 198	20	18	48	黒褐色粘質土、暗褐色粘質土ブロック混
	P2	P 422	24	24	46	黒褐色粘質土
	P3	P 211	22	22	14	黒褐色粘質土
	P4	P 200	24	24	28	黒褐色粘質土

挿表11　堀立柱建物跡ピット一覧表（1）

SB名	新ピット名	旧ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　色
SB12	P1	P 205	20	18	37	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混
	P2	P 455	26	26	40	暗褐色粘質土
	P3	P 208	24	22	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 203	20	20	44	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB13	P1	P 204	32	30	46	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 207	34	30	46	黒褐色粘質土、灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 209	28	26	33	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 202	35	30	38	黒褐色粘質土
SB14	P1	P 460	28	25	60	黒褐色粘質土
	P2	P 415	30	30	53	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 262	25	25	37	黒褐色粘質土
	P4	P 265	25	25	60	黒褐色粘質土
SB15	P1	P 463	46	38	58	不明
	P2	P 465	40	36	54	不明
	P3	P 368	38	25	70	暗褐色粘質土、橙褐色土ブロック混
	P4	P 366	46	38	56	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB16	P1	P 443	23	20	17	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 459	30	25	20	黒褐色粘質土
	P3	P 27	25	25	19	暗褐色粘質土
	P4	P 24	30	20	20	暗褐色粘質土
SB17	P1	SI02-P13	41	38	44	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混
	P2	SI02-P4	35	27	35	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 609	42	33	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	SI02-P5	46	40	57	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P5	SI02-P25	38	34	47	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB18	P1	P 317	22	20	25	黒褐色粘質土
	P2	P 308	40	25	44	黒褐色粘質土
	P3	P 311	20	18	16	黒褐色粘質土
	P4	P 316	17	15	15	黒褐色粘質土
SB19	P1	P 431	30	25	34	黒褐色粘質土
	P2	P 429	26	26	42	暗褐色粘質土
SB20	P1	P 1014	50	45	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 1013	34	30	47	不明
	P3	P 1012	35	25	45	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 1011	35	30	54	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P5	P 1010	30	30	48	黒褐色粘質土
	P6	P 1009	33	30	50	黒褐色粘質土

SB名	新ピット名	旧ピット名	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	土　色
SB21	P1	P 171	24	26	30	暗褐色粘質土、炭化物混
	P2	P 173	28	28	13	暗褐色粘質土
	P3	P 174	50	28	7	黒褐色粘質土
	P4	P 295	24	18	23	黒褐色粘質土
SB22	P1	P 1119	30	28	54	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混
	P2	P 1251	38	35	83	不明
	P3	P 1270	35	34	65	黒褐色粘質土、裏込土黄褐色土ブロック混
	P4	P 1114	43	35	60	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB23	P1	P 1247	23	20	30	黒褐色粘質土
	P2	P 1246	20	20	16	不明
	P3	P 1249	20	16	28	暗褐色粘質土
	P4	P 1245	22	20	25	黒褐色粘質土、裏込土黄褐色土ブロック混
	P5	P 1250	20	20	26	暗褐色粘質土
	P6	P 1244	25	23	34	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB24	P1	P 1272	40	34	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 1103	43	40	36	灰褐色土、黄褐色土ブロック混
	P3	P 1273	30	36	14	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 1104	50	44	30	灰褐色土、黄褐色土ブロック混
SB25	P1	P 1304	44	36	25	暗灰褐色粘質土
	P2	P1026	40	36	30	黒褐色粘質土
	P3	P 1028	32	30	36	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P4	P 1023	54	43	38	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P5	P 1025	35	54	50	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P6	P 1295	30	25	20	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
SB26	P1	P 1108	30	24	8	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 1109	27	25	8	淡灰褐色土
	P3	P 1312	25	23	10	不明
SB27	P1	P 1111	25	23	35	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混
	P2	P 1313	25	25	45	不明
	P3	P 1113	25	20	34	暗褐色粘質土
	P4	P 1112	35	30	48	黒褐色粘質土

挿表12　堀立柱建物跡ピット一覧表（2）

第４節　土坑状遺構

SK01（挿図41、図版20・21）

１区Ｆ４グリッド、SB12、SB13の北西に位置する楕円形のもの。長径1.2m、短径0.9m、深さ0.5mである。埋土は地山土のブロックを多く含んでおり、土坑の壁が崩れながら堆積したと思われる。表層から土器が２点出土しているが、小片のため器種は不明である。

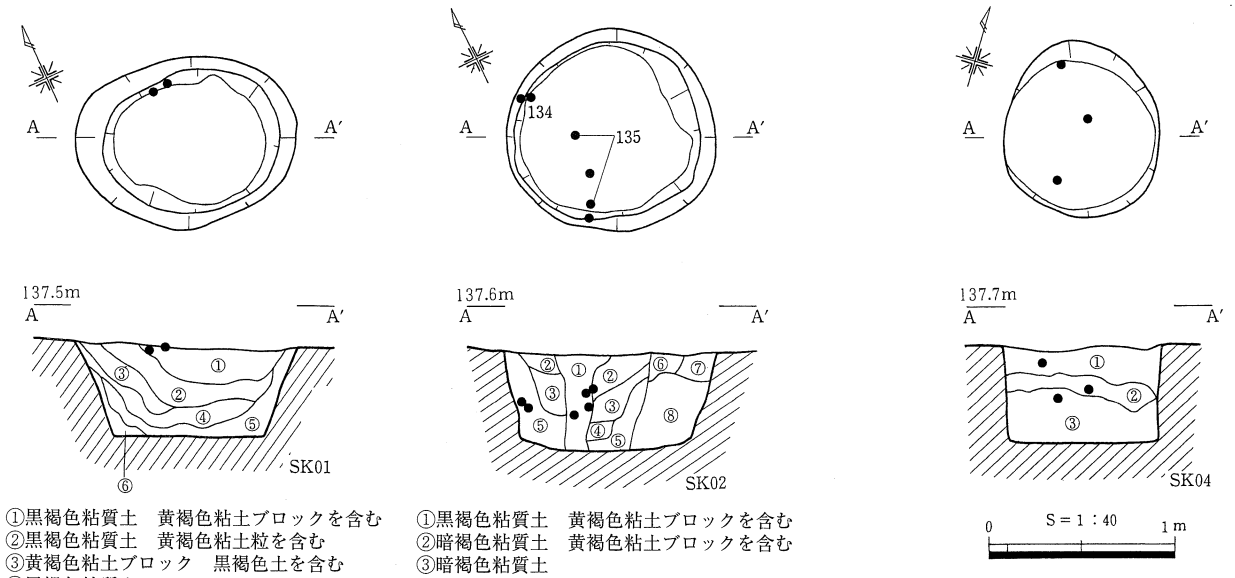
SK02（挿図41、図版20・21・28）

１区Ｅ４グリッド、SB10の北西に位置する円形のもの。直径1.1m、深さ0.5mである。検出状況では、埋土の差異により西端で内接する２重の円を呈していた。直径約0.8mの円の内側には黒ボク系の土が堆積し、その東寄りの外周は地山土のブロックを多く含む土で埋められていて、堅く締まっていた。土層断面では内側の埋土の中央に柱状の痕跡が見られたが、平面では確認できなかった。内側の埋土を除去したが、外周埋土内の地山土ブロックの混ざり方にばらつきがあったため、壁面を明確にすることはできなかった。外周の埋土は、土坑の内側に円筒形の容器のようなものを収め、それを固定していた裏込め土のような性格のものと考えられる。

埋土中より壺（134）、甕（135）が出土しており、弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階に相当する。

SK04（挿図41、図版20・21）

１区Ｃ～Ｄ０グリッド、SB21の北西に接する。平面は円形で、長径0.9m、短径0.8m、深さ0.5mである。壁はほぼ垂直に落ち、底部は平坦な面を持つ。上半の埋土は黒ボク土を主とし、下半は約30㎝の厚さで地山土のブロックが堆積していた。その上面で黒い斑がいくつ認められ、その部分の掘り下げをおこなった。しかし壁面が不明確で、配列に規則性もないことから、黒ボク土ブロックの混入あるいは小動物や植物による撹乱と見なした。このように上半と下半とでは明らかに異なる堆積状況を示すことから、下半の埋土は、本来袋状であった土坑の入り口部分が崩れて中に落ち込んだものと考えられ、貯蔵穴として使用されていたと推定される。埋土下層から外面ハケメ内面ヘラ削りの弥生土器の小片が出土している。



①黒褐色粘質土　黄褐色粘土ブロックを含む
②黒褐色粘質土　黄褐色粘土粒を含む
③黄褐色粘土ブロック　黒褐色土を含む
④黒褐色粘質土
　黄褐色粘土ブロックを１層より多く含む
⑤黄褐色粘土ブロック　暗褐色粘質土を含む
⑥黒褐色粘質土

①黒褐色粘質土　黄褐色粘土ブロックを含む
②暗褐色粘質土　黄褐色粘土ブロックを含む
③暗褐色粘質土
　黄褐色粘土ブロックを２層より多く含む
④暗褐色粘質土
　黄褐色粘土ブロックを３層より多く含む
⑤暗褐色粘質土
　黄褐色粘土ブロックを４層より多く含む
⑥灰褐色粘質土　黄褐色粘土ブロックを含む
⑦灰褐色粘質土
　黄褐色粘土ブロックを６層より多く含む
⑧黄褐色粘土ブロック　暗褐色土ブロックを含む

①暗褐色粘質土
　黄褐色土ブロックを含む
②暗褐色粘質土
　黄褐色土ブロックを
　１層より多く含む
③黄褐色土ブロック
　暗褐色土を含む

挿図41　SK01，02，04遺構図

SK06（挿図42、図版22・23）

１区Ｄ４グリッド、SB02の西北西に接する隅丸方形のもの。長径1.2m、短径0.7m、深さ0.4mで、壁面から底面にかけて丸みをおびている。埋土は上層に比べ下層の締まりが悪い。遺物は出土していない。

SK11（挿図42、図版22・23・38）

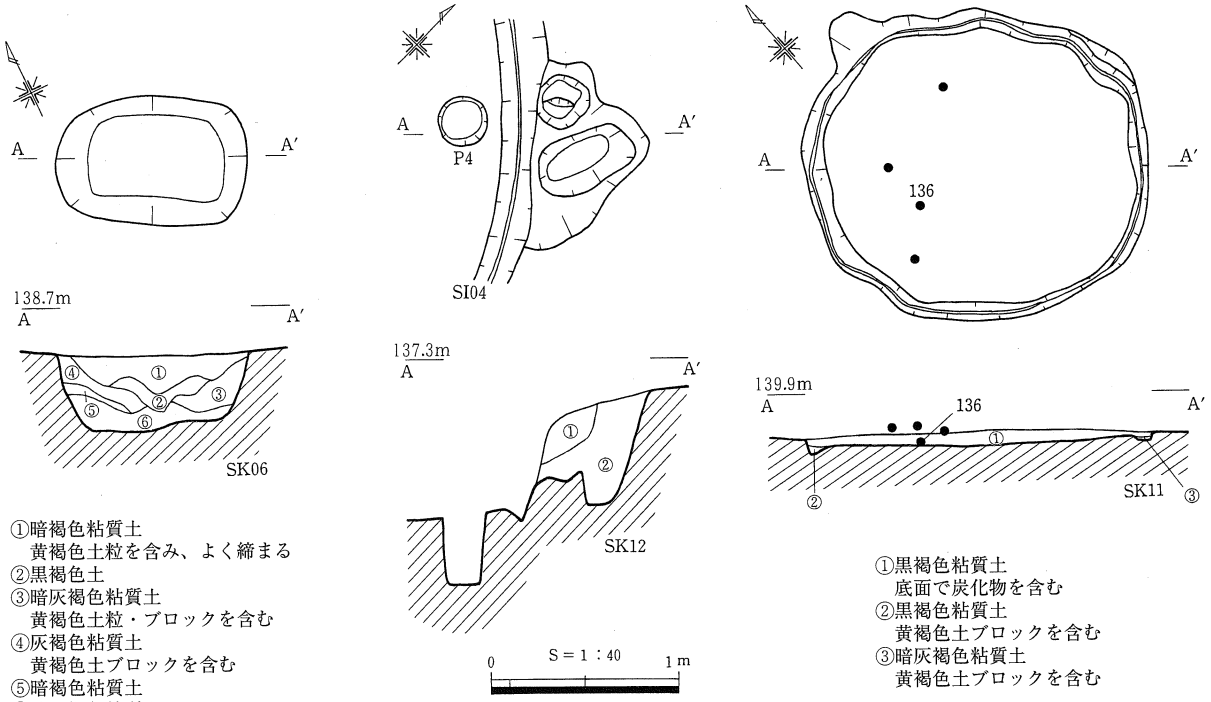
２区Ｐ14グリッドにある円形のもの。長径1.8m、短径1.7m、深さ8cmで、上部は削平によって失われている。底面の外周には幅４～18cm、深さ４～８cmの側溝が掘られている。床面には無数の窪みがあるが、不整形で浅いため柱穴とはならない。埋土中より甕（136）が出土しており、弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階に相当する。

SK12（挿図42、図版22・23・38）

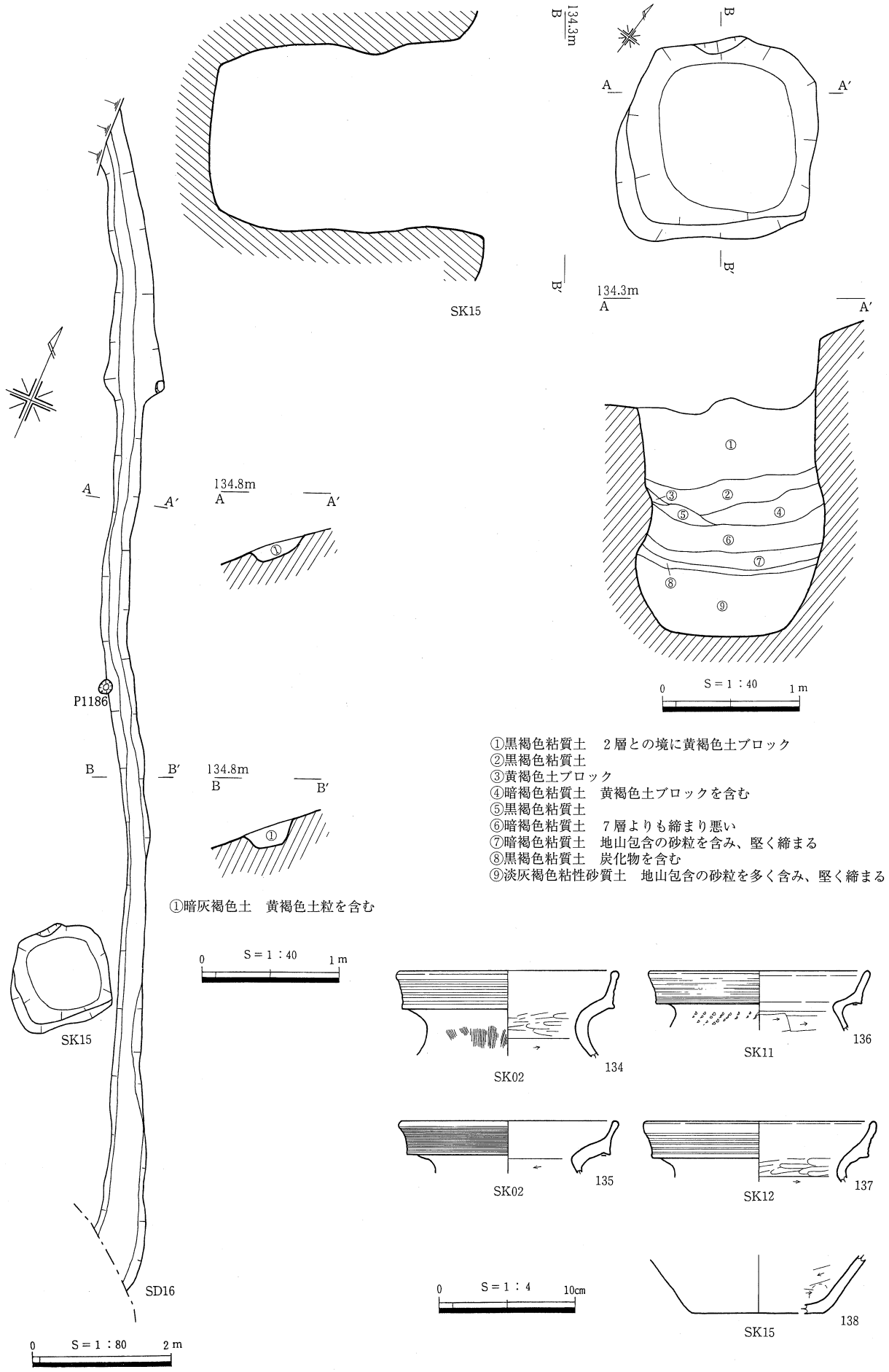
１区Ａ３グリッド、SI04の北西側で切りあい、SI04に先行する。平面形は不整方形で、底面にはピット状の窪みが２つあるが、柱痕や裏込め土は検出していない。甕（137）が出土しており、弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期古段階に相当する。

SK15（挿図43、図版24）

２区Ｌ13グリッドの斜面上で検出、東側の斜面上方にSD16がある。平面は隅丸正方形を呈し、一辺1.5m、深さ2.2mで、ほぼ垂直に掘られている。底面は多少の起伏をもつが、杭痕跡などの掘りこみはない。検出面は造成土に覆われていた。埋土は自然堆積であり、下層は堅く締まる。図化できなかったが、２層から複合口縁の甕の頸部と鼓形器台の受部、８層から壺または甕の底部（138）、底面から摩滅した甕の胴部片が出土している。弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階に相当する。



挿図42　SK06，11，12遺構図



挿図43　SK15，SD16遺構図、SK出土遺物実測図

第５節　溝状遺構

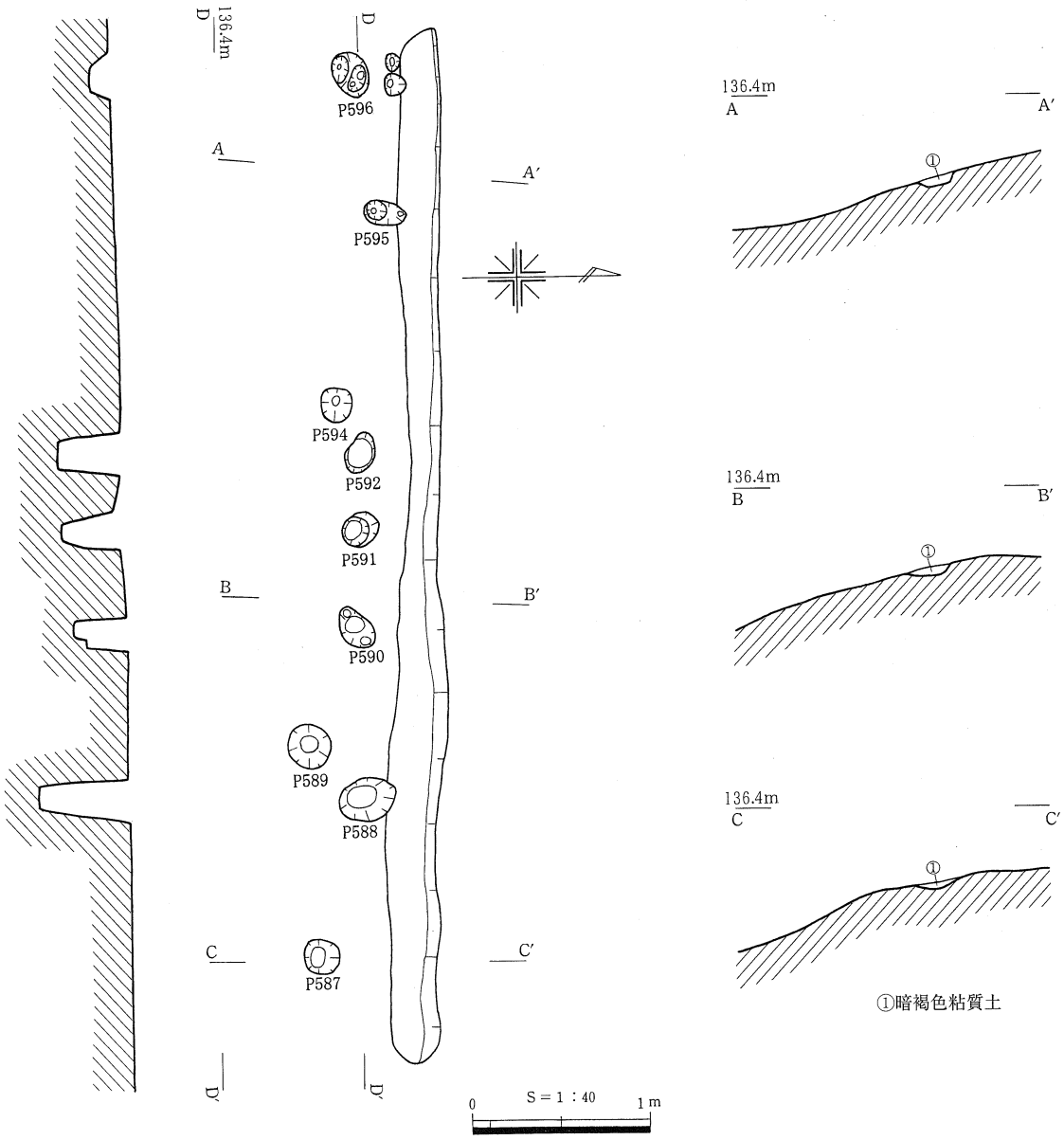
SD16（挿図43、図版25）

２区L～M－12～13グリッド、SK15の東にある。北西から南東に直線的に伸び、南東は調査区外へ続く。長さ17.2m、幅0.3～0.8m、深さ20～40cmを測る。図化できなかったが埋土から甕の頸部が出土している。頸部のくびれの下の表面はわずかに貝殻腹縁による刺突文が残り、内面はヘラ削りを施すことから、弥生時代後期中葉、越敷山Ⅳ期新段階に相当する。

第６節　段状遺構

SS01（挿図44、図版25）

２区G～H－５～６グリッド、農道のあった平坦面から斜面に移る傾斜変換地点に東西方向に伸びるもの。長さ5.8m、幅0.2～0.3m、壁高８cmを測る。南側に径24～34cm、深さ34～50cmのしっかりしたピットが並び、柵状遺構のあった可能性がある。遺物は出土していない。



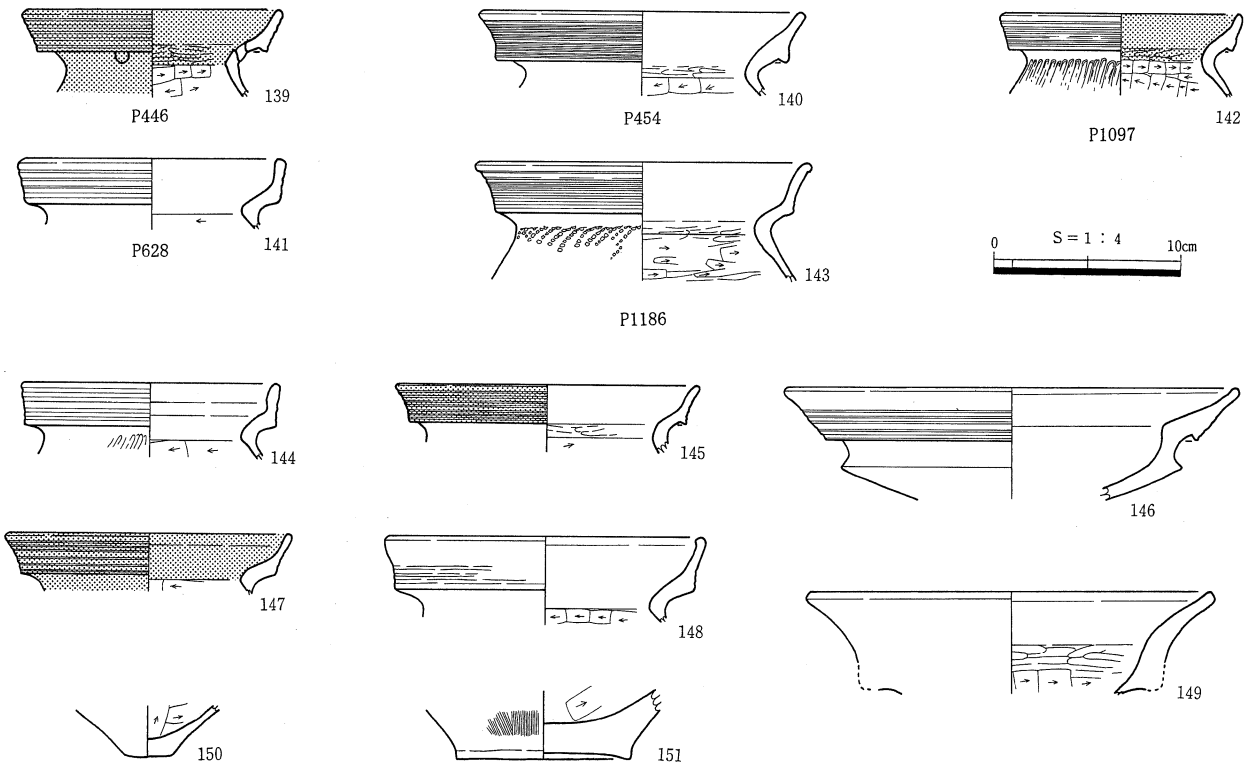
挿図44　SS01遺構図

第７節　ピット（挿図45、図版35・38）

１区において261基、２・３区において183基のピットを検出している。１区では標高の高い東部、SB03周辺及びSI02周辺と南側斜面に多く分布している。２・３区でも標高の高い東部のSK11周辺と西側斜面の分布密度が高い。本来は調査区全域に広く分布していたものが、後世の削平や土砂の流出によって失われたものと考えられる。第３節で、規則的な配列をもつピットを掘立柱建物跡として報告したが、それ以外にもしっかりとした掘り方を持つピットがあり、その中には残存状態のよい土器が出土するものがある。

１区Ｇ４グリッドにあるＰ446は直径24cm、深さ28cmで、甕の口縁（139）が出土している。内外面ともに赤色顔料が塗布され、頸部のほぼ対面する位置に２カ所、焼成前に穿孔されている。孔内に擦痕は認められないが、紐などを通して使ったと考えられる。１区Ｇ５グリッドにあるＰ454は長径40cm、短径30cm、深さ30cm、Ｆ６グリッドの斜面部にあるＰ628は長径40cm、短径22cm、深さ25cmで、それぞれ甕の口縁（140、141）が出土している。140は外反する口縁端部、141は直立する口縁端部にそれぞれ擬凹線が施文されている。２区Q15グリッドのＰ1097は直径28cm、深さ57cmの規模をもつ。埋土中位から、口縁を上にした状態で甕（142）が出土した。口縁は全周し、内面は赤色顔料が塗布されている。頸部には強いヘラミガキの痕跡が連続刺突文のように残っている。検出地点と規模から、調査区外に本体をもつ掘立柱建物跡の一部と考えられる。２区Ｌ12グリッドの斜面部に位置し、SD16と切り合うＰ1186は長径20cm、短径16cm、深さ50cmで、甕（143）が出土している。外反する口縁端部に擬凹線、頸部には連続刺突文が施され、いずれも二枚貝の腹縁部を使用している。SD16との前後関係は不明である。

これらのピットは１区のSB19のように調査区外へ続く掘立柱建物跡や、柵状の施設を構成してしていたと推測される。



挿図45　ピット内、遺構外出土遺物実測図

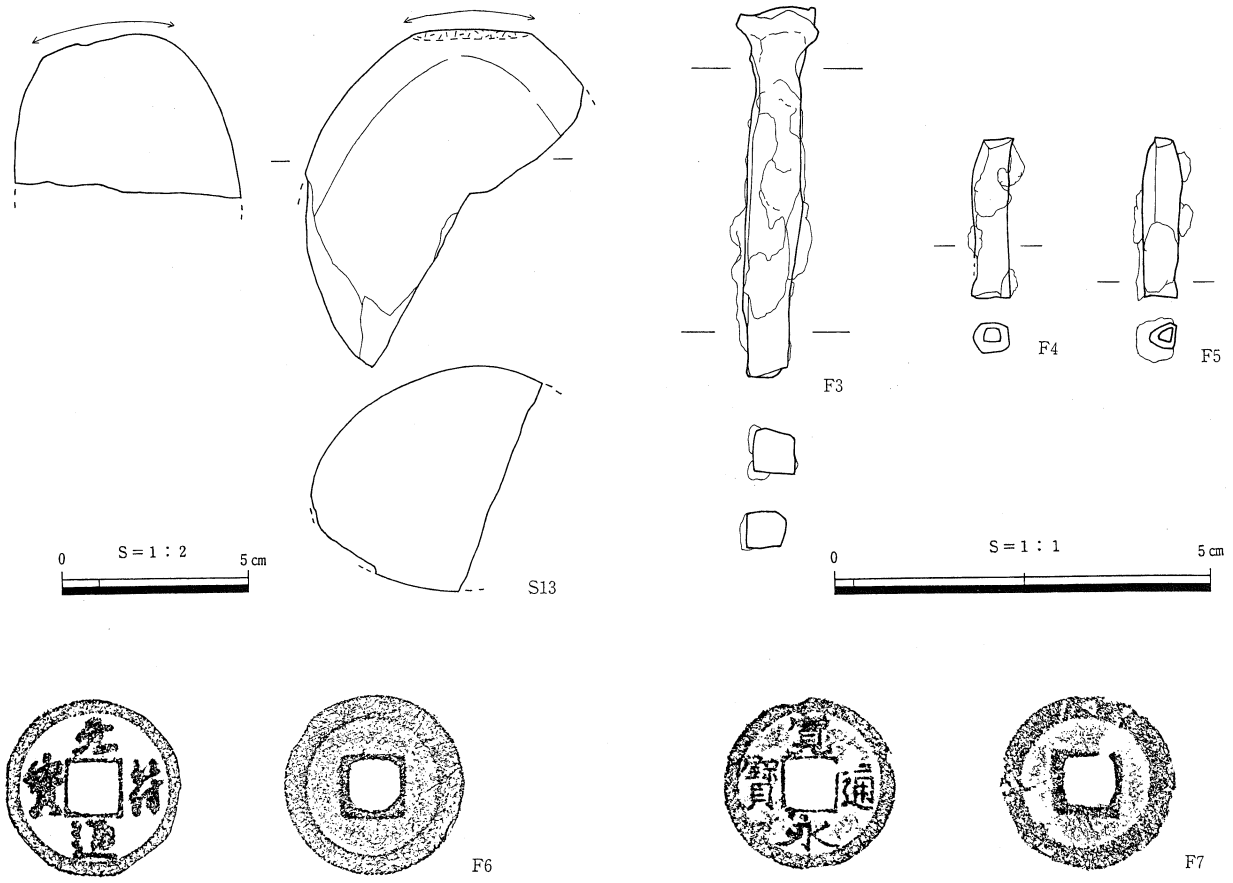
第８節　遺構外出土遺物（挿図45・46、図版37～39）

甕（144）は２区Ｊ10グリッドの斜面埋土の黒ボク土中から出土した。直立する口縁端部に擬凹線を施している。甕（145）、高坏（146）は３区の表土掘り下げ中に出土した。145は口縁端部外面に赤色顔料を塗布している。146は坏部に明瞭な稜をもち、複合口縁部に擬凹線を施している。甕（147）、器台（149）は１区平坦面の表土掘り下げ中に出土した。147は内外面に赤色顔料を塗布している。149は内外面ともにヘラミガキが施され、外面の稜が欠損している。甕底部（151）は１区の農道の側溝内から出土した。底径が大きく、厚手の作りである。外面にハケメが残っている。甕（148、150）は１区の南側斜面の埋土掘り下げ中に出土した。148は風化が著しいが、複合口縁の外面にわずかに擬凹線が残る。150は小型の甕の底部であろう。

敲石（Ｓ13）は２区西側斜面の客土掘り下げ中に出土した。半分を欠損している。

Ｆ３、Ｆ４、Ｆ５は棒状鉄製品である。Ｆ３は３区の農道側溝中から出土した。断面形が方形で、端部の一方が肥大していることから、尖端部を欠損した釘の可能性がある。Ｆ４は３区の農道部、SI07の検出時に出土した。SI07－ｃの床面出土かと思われたが、推定復元した周溝の外に位置することから、遺構外出土遺物とした。Ｆ５は１区の耕作土中から出土した。いずれも断面は円形で中空である。

１区農道部の表土除去中に銅銭（Ｆ６、Ｆ７）が出土した。Ｆ６は元符通寶（北宋　初鋳1098年）、Ｆ７は寛永通寶（1697～1747年、1767～1781年）である。



挿図46　遺構外出土遺物実測図

（計測値の単位はcm）

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
Ｐ１	Ｄ０	38	35	7	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ２	Ｄ０	32	30	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ５	Ｄ０	35	32	18	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ６	Ｄ０	45	43	14	暗褐色粘質土	
Ｐ７	Ｄ０	30	30	10	暗褐色粘質土	
Ｐ８	Ｄ０	44	38	22	黒褐色粘質土	SB02
Ｐ９	Ｄ０	30	20	25	黒褐色粘質土	
Ｐ10	Ｄ０	33	33	15	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ11	Ｄ０	30	28	30	黒褐色粘質土	SB01
Ｐ12	Ｄ０	36	34	18	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ13	Ｄ０	36	34	32	黒褐色粘質土	SB01
Ｐ14	Ｄ０	42	30	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ15	Ｄ０	30	28	15	暗褐色粘質土	
Ｐ16	Ｄ０	30	28	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB01
Ｐ17	Ｄ０	40	35	35	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB02
Ｐ18	Ｄ１	35	35	47	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB02
Ｐ21	Ｄ１	32	10	10	黒褐色粘質土	
Ｐ22	Ｄ０	35	16	16	暗褐色粘質土	
Ｐ23	Ｄ０	32	40	40	黒褐色粘質土	SB01
Ｐ24	Ｄ１	30	20	20	暗褐色粘質土	SB16
Ｐ25	Ｄ１	27	27	17	黒褐色粘質土	SB03
Ｐ26	Ｄ１	40	33	30	暗褐色粘質土	
Ｐ27	Ｄ１	25	25	19	暗褐色粘質土	SB16
Ｐ28	Ｄ１	35	35	23	黒褐色粘質土	SB03
Ｐ29	Ｄ１	34	30	28	黒褐色粘質土	SB03
Ｐ30	Ｄ１	32	32	29	黒褐色粘質土	SB03
Ｐ32	Ｄ１	24	24	10	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ33	Ｄ１	38	34	20	黒褐色粘質土	SB03
Ｐ34	Ｄ１	22	20	16	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ35	Ｄ１	22	20	20	暗褐色粘質土	
Ｐ36	Ｄ１	25	20	15	黒褐色粘質土	
Ｐ37	Ｄ１	40	40	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB03
Ｐ38	Ｄ１	48	46	28	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ39	Ｄ１	40	30	26	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ40	Ｄ１	30	26	27	黒褐色粘質土	
Ｐ42	Ｃ２	30	30	15	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ43	Ｃ２	30	25	26	黒褐色粘質土	
Ｐ44	Ｃ２	32	30	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ48	Ｃ２	30	30	30	黒褐色粘質土	SB05
Ｐ49	Ｄ２	38	36	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB04
Ｐ50	Ｄ２	28	28	9	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ51	Ｄ２	20	20	14	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ53	Ｄ１	28	24	27	暗褐色粘質土	

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
Ｐ54	Ｄ１	45	36	21	暗褐色粘質土	
Ｐ55	Ｄ１	28	26	41	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ59	Ｅ１	30	26	36	黒褐色粘質土	
Ｐ60	Ｅ１	34	32	12	暗褐色粘質土	
Ｐ61	Ｅ１	28	25	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ62	Ｄ２	52	28	21	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ65	Ｄ２	36	36	38	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB04
Ｐ66	Ｄ２	28	25	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB05
Ｐ67	Ｄ２	45	36	40	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB04
Ｐ68	Ｄ２	23	18	10	暗褐色粘質土	
Ｐ69	Ｄ２	28	28	34	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB05
Ｐ70	Ｄ２	46	38	46	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB04
Ｐ71	Ｄ２	38	34	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB05
Ｐ72	Ｄ２	38	34	42	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB04
Ｐ73	Ｄ３	30	25	56	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ75	Ｄ３	34	30	23	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ78	Ｄ２～３	35	30	28	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ81	Ｄ３	22	20	27	黒褐色粘質土	
Ｐ82	Ｄ３	25	25	20	黒褐色粘質土	
Ｐ90	Ｅ２	20	10	10	暗褐色粘質土	
Ｐ91	Ｅ２	20	20	13	暗褐色粘質土	
Ｐ94	Ｅ２	28	28	31	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ95	Ｅ２	30	30	15	黒褐色粘質土	
Ｐ96	Ｅ２	45	30	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
Ｐ99	Ｅ２	22	22	54	黒褐色粘質土	
Ｐ101	Ｅ２	20	20	18	黒褐色粘質土	
Ｐ116	Ｄ３	35	30	24	黒褐色粘質土	
Ｐ117	Ｄ３	40	25	32	黒褐色粘質土	
Ｐ124	Ｅ２	20	20	20	暗褐色粘質土	
Ｐ130	Ｅ２	28	25	7	暗褐色粘質土	
Ｐ140	Ｆ２～３	35	32	48	黒褐色粘質土	SB08
Ｐ141	Ｅ３	30	26	10	黒褐色粘質土	
Ｐ142	Ｅ３	35	35	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB08
Ｐ144	Ｆ３	32	30	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB08
Ｐ145	Ｅ３	40	40	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB08
Ｐ147	Ｆ３	36	34	10	黒褐色粘質土	
Ｐ148	Ｆ３	35	35	12	暗褐色粘質土	
Ｐ149	Ｆ３	20	20	15	暗褐色粘質土	
Ｐ150	Ｆ３	20	20	18	黒褐色粘質土	
Ｐ155	Ｆ４	18	18	19	黒褐色粘質土	
Ｐ157	Ｆ４	24	20	15	黒褐色粘質土	
Ｐ166	Ｅ３	26	25	32	黒褐色粘質土	SB07
Ｐ167	Ｄ３	25	25	36	黒褐色粘質土	SB07

挿表13　ピット一覧表（1）

（計測値の単位はcm）

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 168	D 3	24	24	22	黒褐色粘質土	SB07
P 170	D 3	25	25	28	黒褐色粘質土	SB07
P 171	D 4	24	26	30	暗褐色粘質土、炭化物混	SB21
P 173	E 4	28	28	13	暗褐色粘質土	SB21
P 174	E 4	50	28	7	黒褐色粘質土	SB21
P 176	E 4	16	16	10	暗褐色粘質土	
P 177	E 4	20	20	8	暗褐色粘質土	
P 186	E 4	50	30	77	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB10
P 187	E 4	40	30	18	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 189	E 4	32	30	68	黒褐色粘質土	SB10
P 192	F 4	32	30	68	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB10
P 195	F 4	34	32	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB10
P 196	F 4	20	20	23	黒褐色粘質土	
P 198	F 4	20	18	48	黒褐色粘質土、暗褐色粘質土ブロック混	SB11
P 200	F 4	24	24	28	黒褐色粘質土	SB11
P 201	F 4	20	20	20	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 202	F 4	35	30	38	黒褐色粘質土	SB13
P 203	F 4	20	20	44	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB12
P 204	F 4	32	30	46	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB13
P 205	F 4	20	18	37	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混	SB12
P 207	F 4	34	30	46	黒褐色粘質土、灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB13
P 208	F 4	24	22	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB12
P 209	F 4	28	26	33	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB13
P 210	F 4	16	16	15	黒褐色粘質土	
P 211	F 4	22	22	14	黒褐色粘質土	SB11
P 214	F 4	38	28	10	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 215	F 4	24	24	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 216	F 4	36	24	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 218	F 4	30	25	13	暗褐色粘質土	
P 219	G 4	22	20	28	黒褐色粘質土	
P 220	G 4	25	22	20	暗褐色粘質土	
P 221	G 4	22	22	10	暗褐色粘質土	
P 222	G 4	24	20	23	黒褐色粘質土	
P 223	G 4	25	22	28	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 225	H 5	44	28	60	暗褐色粘質土	
P 227	G 5	25	20	20	暗褐色粘質土	
P 229	H 5	50	50	10	黒褐色土、黄褐色土ブロック混、締まり悪い	
P 230	H 5	24	20	20	暗褐色粘質土、灰褐色土混	
P 231	G 5	24	22	14	暗褐色粘質土	
P 233	H 5	26	26	20	暗褐色粘質土	
P 234	H 5	38	32	54	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 236	H 5	30	26	25	黒褐色粘質土	
P 238	H 5	20	20	13	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 239	H 5	24	28	24	暗褐色粘質土	
P 240	G 5	32	30	30	黒褐色粘質土	
P 241	G 5	24	20	7	暗褐色粘質土	
P 242	G 5	47	36	32	黒褐色粘質土	
P 246	H 5	20	16	12	暗褐色粘質土	
P 262	E 5	25	25	37	黒褐色粘質土	SB14
P 264	E 5	26	22	17	暗褐色粘質土	
P 265	E 5	25	25	60	黒褐色粘質土	SB14
P 268	D 5	24	24	13	灰褐色粘質土	
P 278	C 4～5	25	20	15	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 279	C 4	23	18	8	褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 284	D 4	32	20	17	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 289	D 4	26	24	12	灰褐色土、黄褐色土ブロック混	
P 291	D 4	18	18	16	黒褐色粘質土	SB09
P 292	D 4	24	20	40	黒褐色粘質土	
P 293	D 4	21	17	10	暗褐色粘質土	
P 295	D 3	24	18	23	黒褐色粘質土	SB21
P 297	D 4	32	28	9	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 298	D 4	22	22	40	黒褐色粘質土	SB09
P 300	D 4	25	22	45	黒褐色粘質土	SB09
P 301	D 4	24	24	20	黒褐色粘質土	SB09
P 302	D 4	20	16	17	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 306	C 3	20	15	10	黒褐色粘質土	
P 307	C 4	22	20	20	暗褐色粘質土	SB09
P 308	C 4	40	25	44	黒褐色粘質土	SB18
P 310	C 4	22	18	15	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB09
P 311	C 4	20	18	16	黒褐色粘質土	SB18
P 313	C 5	26	26	15	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 314	C 4	46	44	13	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 316	C 4	17	15	15	黒褐色粘質土	SB18
P 317	C 4	22	20	25	黒褐色粘質土	SB18
P 321	D 3	20	15	24	黒褐色粘質土	
P 323	D 3	20	18	17	暗灰褐色粘質土	
P 324	D 3	32	30	33	黒褐色粘質土	
P 327	D 3	30	30	20	黒褐色粘質土	SB06
P 328	C 3	20	20	12	暗褐色粘質土	
P 330	D 3	28	26	54	黒褐色粘質土	
P 331	C 3	26	24	38	黒褐色粘質土	SB06
P 332	D 3	28	20	10	暗褐色粘質土	
P 334	C 3	25	25	9	暗褐色粘質土	
P 340	C 2	22	18	7	黒褐色粘質土	
P 343	C 2	25	25	10	黒褐色粘質土	
P 344	C 2	28	28	4	暗褐色粘質土	

挿表14　ピット一覧表（2）

（計測値の単位は㎝）

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P347	C 3	22	25	17	黒褐色粘質土	
P348	C 3	28	25	20	不明	
P350	B 3	30	20	11	暗褐色粘質土	
P352	B 4	74	70	47	断面図	
P359	B 3	25	20	15	暗褐色粘質土	
P361	B 3	45	45	17	淡褐色粘質土	
P362	B 3	30	25	44	暗褐色粘質土	
P364	A 2	25	22	8	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロック混	
P365	A 2	22	22	18	不明	
P366	A 2	46	38	56	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB15
P367	A 2	30	26	29	暗褐色粘質土	
P368	A 2	38	25	70	暗褐色粘質土、橙褐色土ブロック混	SB15
P381	B 3	25	23	23	黒褐色粘質土	
P383	A 3	22	20	19	黒褐色粘質土	
P387	B 4	28	24	8	暗褐色粘質土	
P389	B 5	25	20	22	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P390	C 5	20	20	9	黒褐色粘質土	
P398	C 4	24	20	10	黒褐色粘質土	
P404	B 2	55	45	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB04
P405	D 3	24	24	38	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P406	D 3	30	28	45	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB06
P407	D 3	24	24	39	黒褐色粘質土	SB06
P409	D 3	26	26	28	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P410	D 3	22	18	10	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P411	E 4	16	16	13	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P415	E 5	30	30	53	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB14
P420	G 5	28	24	30	不明	
P421	F 4	16	16	17	黒褐色粘質土	
P422	F 4	24	24	46	黒褐色粘質土	SB11
P426	B 1	26	26	14	暗褐色粘質土	
P428	D 1	20	20	20	黒褐色粘質土	
P429	C 0	26	26	42	暗褐色粘質土	SB19
P430	C 0	32	30	18	褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P431	C 0	30	25	34	黒褐色粘質土	SB19
P432	C 0	45	30	14	褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P433	C 0	35	30	15	褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P434	E 1	30	30	24	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P435	E 1	25	25	37	黒褐色粘質土	
P437	D 0～1	40	28	17	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P438	D 1	25	20	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P440	D 0	38	35	38	黒褐色粘質土	SB02
P441	C～D 0	22	18	15	暗褐色粘質土	
P442	D 0	36	28	15	灰褐色粘質土	

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P443	E 1	23	20	17	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB16
P446	G4	24	24	28	不明	
P453	D 4	24	24	11	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P454	G 5	40	30	30	黒褐色粘質土	
P455	F 4	26	26	40	暗褐色粘質土	SB12
P458	E 1	30	30	30	黒褐色粘質土	
P459	E 1	30	25	20	黒褐色粘質土	SB16
P460	E 4	28	25	60	黒褐色粘質土	SB14
P463	A 2	46	38	58	不明	SB15
P465	A 2	40	36	54	不明	SB15
P470	D 1	42	36	23	淡褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P472	C 1	28	25	9	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P473	C 1	34	25	25	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P474	C 1	46	36	15	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P475	C 2	20	20	14	黒褐色粘質土	
P486	C 5	30	22	30	黒褐色粘質土	
P493	C 6	40	35	32	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P495	C 6	34	32	21	黒褐色粘質土	
P496	C 6	32	22	15	黒褐色粘質土	
P497	C 6	32	25	20	灰褐色土、締まり悪い	
P500	C 6	32	25	32	黒褐色粘質土	
P501	C 5	24	20	15	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P502	D 5	32	18	10	灰褐色粘質土	
P504	D 6	24	20	17	黒褐色粘質土	
P505	D 6	22	20	11	暗褐色粘質土	
P510	C 6	33	20	25	黒褐色粘質土	
P522	C 6	36	25	25	黒褐色粘質土	
P523	C 6	22	20	20	黒褐色粘質土	
P524	C 6	26	14	14	暗褐色粘質土	
P525	C 6	28	28	35	黒褐色粘質土	
P526	C 6	20	20	30	暗褐色粘質土	
P530	C 6	32	22	48	暗褐色粘質土	
P531	C 6	25	25	35	暗褐色粘質土	
P532	C 6	32	20	45	褐色粘質土	
P533	C 6	22	22	33	褐色粘質土	
P539	C 6	23	20	20	暗褐色粘質土	
P546	C 6	55	30	16	暗褐色粘質土	
P547	C 6	25	25	38	褐色土	
P549	C 6	32	24	20	暗褐色粘質土	
P550	D 6	50	30	40	褐色粘質土	
P551	C 6	25	22	30	暗褐色粘質土	
P552	C 6	25	20	20	暗褐色粘質土	
P556	D 6	24	18	19	暗褐色粘質土	

挿表15　ピット一覧表（3）

（計測値の単位はcm）

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 557	D 6	18	16	12	黒褐色粘質土	
P 558	D 6	18	15	15	黒褐色粘質土	
P 560	D 5	35	26	30	黒褐色粘質土	
P 562	D 6	30	20	12	黒褐色粘質土	
P 587	H 6	20	20	52	黒褐色粘質土	
P 588	G 6	34	24	55	暗褐色粘質土	
P 589	G 6	25	23	不明	暗褐色粘質土	
P 590	G 6	24	16	33	暗褐色粘質土	
P 591	G 6	20	16	33	暗褐色粘質土	
P 592	G 6	22	16	35	暗褐色粘質土	
P 594	G 6	20	18	25	暗褐色粘質土	
P 595	G 6	20	12	40	暗褐色粘質土	
P 596	G 6	25	18	35	暗褐色粘質土	
P 597	G 6	24	20	33	黒褐色粘質土	
P 600	G 6	30	24	9	黒褐色粘質土	
P 602	G 6	22	20	40	暗褐色粘質土	
P 603	G 6	24	20	23	褐色粘質土	
P 607	G 6	28	22	50	暗褐色粘質土	
P 609	E 3	42	33	70	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB17
P 611	G 6	38	20	42	黒褐色粘質土	
P 613	F 6	16	16	20	黒褐色粘質土	
P 614	F 6	23	18	24	暗褐色粘質土	
P 615	F 6	22	18	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 616	F 6	30	24	41	暗褐色粘質土	
P 617	F 6	52	35	64	黒褐色粘質土	
P 618	F 6	30	30	30	黒褐色粘質土	
P 619	F 6	30	30	46	黒褐色粘質土	
P 620	F 6	24	20	46	黒褐色粘質土	
P 622	F 6	40	30	43	黒褐色粘質土	
P 623	F 6	45	30	55	黒褐色粘質土	
P 626	F 6	32	30	60	黒褐色粘質土	
P 627	F 6	30	26	38	黒褐色土	
P 628	F 6	40	22	25	黒褐色粘質土	
P 630	E 6	24	20	20	暗褐色粘質土	
P 631	E 6	20	20	17	暗灰褐色粘質土	
P 632	E 6	30	22	36	黒褐色粘質土	
P 633	E 6	25	20	38	黒褐色粘質土	
P 637	E 6	25	22	40	暗褐色土	
P 638	E 6	36	32	24	暗褐色土	
P 639	E 6	30	25	32	暗褐色土	
P 640	E 6	38	27	30	暗褐色土、黄褐色土ブロック混	
P 641	D 6	44	34	40	黒褐色粘質土	
P 646	D 6	21	18	37	黒褐色粘質土	
P 650	D 6	50	30	40	暗褐色土、黄褐色土ブロック混	

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 651	D 6	20	20	20	褐色粘質土	
P 657	G 5	34	18	27	黒褐色粘質土	
P 662	A 3	20	18	16	黒褐色粘質土	
P 664	B 3	30	30	53	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 665	C 0	40	34	17	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 668	C 3	26	26	3	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 671	C 3	20	18	7	暗褐色粘質土	
P 673	C 6	30	30	8	暗褐色粘質土	
P 674	C 6	28	20	40	暗褐色粘質土	
P 675	C 7	28	28	32	暗褐色粘質土	
P 676	C 7	30	25	20	暗褐色粘質土	
P 677	C 7	28	28	38	暗褐色粘質土	
P 678	D 6	30	25	34	暗褐色粘質土	
P 679	D 6	24	22	36	暗灰褐色粘質土	
P 681	D 6	22	18	19	暗灰褐色粘質土	
P 682	D 7	20	17	22	黒褐色粘質土	
P 683	D 7	20	18	20	暗褐色粘質土	
P 684	D 6	18	18	18	暗褐色粘質土	
P 685	E 5	15	15	50	暗褐色粘質土	
P 686	E 5	20	15	20	暗褐色粘質土	
P 687	E 6	36	34	10	暗褐色粘質土	
P 688	E 6	60	45	67	暗褐色粘質土	
P 690	E 6	30	20	9	暗褐色粘質土	
P 691	E 6	30	24	66	黒褐色粘質土	
P 692	E 6	15	12	32	暗褐色粘質土	
P 693	E 6	42	38	40	黒褐色粘質土	
P 695	E 6	25	20	17	暗褐色粘質土	
P 696	E 6	20	15	24	暗褐色粘質土	
P 697	F 3	24	24	50	黒褐色粘質土	
P 698	F 6	30	25	20	暗褐色粘質土	
P 699	G 6	26	26	58	暗褐色粘質土	
P 700	G 6	35	34	40	黒褐色粘質土	
P 701	G 6	26	26	48	黒褐色粘質土	
P 702	H 6	25	24	25	黒褐色粘質土	
P 703	H 6	20	20	14	暗褐色粘質土	
P 704	H 5	22	20	14	黒褐色粘質土	
P 705	H 5	32	22	7	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 706	H 6	25	20	33	暗褐色粘質土	
P 707	D 2	20	16	15	不明	
P 708	D 6	42	25	37	不明	
P 709	G 3	20	20	23	不明	
P 710	F 3	34	28	25	暗褐色粘質土	
P 711	F 3	40	28	35	暗灰褐色粘質土	
P 712	G 5	24	20	30	不明	

挿表16　ピット一覧表（4）

（計測値の単位はcm）

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P1001	M9	42	28	9	淡灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1002	M9	30	22	15	暗褐色粘質土	
P1003	N9	25	20	12	暗褐色粘質土	
P1004	N9	28	22	11	暗褐色粘質土	
P1006	N10	30	33	17	暗灰褐色粘質土	
P1008	N10	37	32	25	暗褐色粘質土	
P1009	N10	33	30	50	黒褐色粘質土	SB20
P1010	N10	30	30	48	黒褐色粘質土	SB20
P1011	O10	35	30	54	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB20
P1012	O10	35	25	45	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB20
P1013	O10	34	30	47	不明	SB20
P1014	O10	50	45	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB20
P1015	O10	33	30	21	暗灰褐色粘質土	
P1016	O10	35	33	30	暗灰褐色粘質土	
P1021	O11	30	30	13	灰褐色粘質土	
P1022	O11	32	30	35	黒褐色粘質土	
P1023	O11	54	43	38	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB25
P1024	O11	25	25	32	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1025	O11	35	54	50	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB25
P1026	O11	40	36	30	黒褐色粘質土	SB25
P1027	P11	35	35	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1028	P11	32	30	36	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB25
P130	P11	20	20	15	暗灰褐色粘質土	
P1040	O12	25	20	20	黒褐色粘質土	
P1049	P12	30	25	20	灰褐色粘質土	
P1050	P12	34	32	25	暗灰褐色粘質土	
P1051	Q13	45	28	20	暗褐色粘質土	
P1052	P13～14	26	24	50	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1053	P13	28	28	43	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1054	P13	23	23	20	黒褐色粘質土	
P1056	P13	20	20	23	黒褐色粘質土	
P1057	P13	23	23	20	黒褐色粘質土	
P1058	P13	22	20	14	暗褐色粘質土	
P1059	P13	30	25	78	暗褐色土、黄褐色土ブロック混	
P1061	P13	22	22	20	暗褐色粘質土	
P1062	P13	24	24	20	黒褐色粘質土	
P1063	P13	27	20	10	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P1064	O13	32	32	22	黒褐色粘質土	
P1068	O13	30	30	15	灰褐色粘質土	
P1083	Q14	28	25	30	黒褐色粘質土	
P1084	Q14	25	20	23	黒褐色粘質土	
P1088	Q14	36	30	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1089	Q14	30	25	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1091	Q14	20	20	20	暗褐色粘質土	
P1097	Q15	28	28	57	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1098	P15	24	24	44	黒褐色粘質土	
P1099	P15	30	18	17	黒褐色粘質土	
P1100	P15	22	20	15	暗褐色粘質土	
P1101	N10	30	22	15	灰褐色土、黄褐色土ブロック混	
P1102	N10	33	28	30	灰褐色土、黄褐色土ブロック混	
P1103	N10	43	40	36	灰褐色土、黄褐色土ブロック混	SB24
P1104	N10	50	44	30	灰褐色土、黄褐色土ブロック混	SB24
P1105	O10	25	25	17	暗褐色粘質土	
P1107	O11	25	22	18	灰褐色土	
P1108	N11	30	24	8	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB26
P1109	N11	27	25	8	淡灰褐色土	SB26
P1110	N11	28	28	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1111	N11	25	23	35	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB27
P1112	N11	35	30	48	黒褐色粘質土	SB27
P1113	N11	25	20	34	暗褐色粘質土	SB27
P1114	O12	43	35	60	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB22
P1115	O11	40	30	17	淡褐色粘質土	
P1118	P14	38	26	41	淡褐色粘質土、黄褐色土ブロック混、炭化物混	
P1119	O12	30	28	54	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	SB22
P1120	N12	52	50	24	淡褐色土、黄褐色土ブロック混	
P1122	M13	20	18	50	黒褐色粘質土	
P1123	M13	24	18	30	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P1124	M13	20	18	26	黒褐色粘質土	
P1125	M13	25	20	28	暗褐色粘質土	
P1127	M13	25	20	44	暗灰褐色土	
P1130	M13	34	32	55	黒褐色粘質土	
P1133	M13	20	18	30	暗褐色粘質土	
P1134	M13	25	18	53	暗褐色粘質土	
P1135	M13	25	20	40	黒褐色粘質土	

挿表17　ピット一覧表（5）

（計測値の単位はcm）

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 1138	M13	25	22	70	黒褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1139	M13	18	18	18	黒褐色粘質土	
P 1141	M13	30	30	50	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1143	L 13	25	20	40	暗褐色粘質土	
P 1144	L 13	25	14	16	黒褐色粘質土	
P 1145	L 13	22	22	20	暗灰褐色粘質土	
P 1146	M13	25	22	60	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1147	M13	24	16	34	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1152	M12	25	20	35	暗褐色粘質土	
P 1153	M12	25	20	42	暗褐色粘質土	
P 1154	M12	20	14	17	暗褐色粘質土	
P 1156	L 12	18	18	40	暗褐色粘質土	
P 1157	L 12	25	22	44	暗褐色粘質土	
P 1158	L 12	18	18	34	灰褐色土	
P 1159	L 12	15	14	28	黒褐色粘質土	
P 1162	L 12	17	17	21	暗褐色粘質土	
P 1163	L 12	25	22	22	暗褐色粘質土	
P 1164	L 12	20	18	30	黒褐色粘質土	
P 1165	L 12	11	11	22	灰褐色粘質土	
P 1167	L 12	18	16	20	黒褐色粘質土	
P 1171	N 13	30	25	14	黒褐色粘質土	
P 1172	N 13	25	20	16	暗灰褐色粘質土	
P 1173	N 13	25	20	11	灰褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1175	N 13	18	16	14	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1176	N 13	30	25	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1177	N 12	60	55	25	灰褐色土、橙褐色土粒多混	
P 1179	M10	20	20	16	黒褐色粘質土、	
P 1180	N 10	36	3	15	暗灰褐色土	
P 1185	L 12	30	26	28	黒褐色土	
P 1186	L 12	20	16	50	黒褐色土	
P 1187	L 12	25	25	30	黒褐色土	
P 1188	L 12	18	16	20	黒褐色土、黄褐色土ブロック混	
P 1189	L 12	32	20	25	黒褐色土	
P 1190	L 12	25	25	26	黒褐色土	
P 1191	L 12	20	20	20	黒褐色土	
P 1192	L 12	35	25	62	黒褐色土、黄褐色土ブロック混	
P 1193	L 12	20	15	30	暗褐色粘質土	

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 1194	L 12	26	22	42	黒褐色粘質土	
P 1196	L 12	38	30	10	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1197	L 12	25	20	32	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1198	L 12	28	25	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1199	L 12	25	22	52	黒褐色粘質土	
P 1203	L 12	30	27	13	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1204	K 12	22	22	52	黒褐色粘質土	
P 1205	K 12	25	22	45	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1206	L 12	40	25	62	黒褐色粘質土	
P 1207	L 12	22	20	32	黒褐色粘質土	
P 1209	L 12	48	20	46	黒褐色粘質土	
P 1210	L 11	15	15	20	黒灰色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1211	L 11	33	20	60	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1212	L 11	25	14	20	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1213	L 11	20	20	40	黒褐色粘質土	
P 1214	L 11	20	20	10	灰褐色粘質土	
P 1215	L 11	30	30	30	灰褐色粘質土	
P 1216	L 11	28	22	38	灰褐色粘質土	
P 1217	L 11	26	25	22	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1218	L 11	25	25	17	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1220	K 11	43	28	24	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1221	K 11	36	25	60	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1222	K 11	38	30	87	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1223	K 11	24	22	10	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1224	K 10	22	22	40	黒褐色粘質土	
P 1225	K 10	32	30	57	暗褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1226	K 10	34	34	44	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1227	K 10	30	24	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1228	K 10	32	22	37	暗褐色粘質土	
P 1229	K 10	28	25	14	暗褐色粘質土	
P 1230	K 10	25	25	25	黒褐色粘質土	
P 1231	K 10	24	20	40	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1233	K 10	30	25	21	暗褐色粘質土	
P 1234	K 10	20	20	8	暗灰褐色粘質土	
P 1235	K 10	20	20	17	暗灰褐色粘質土	
P 1236	K 10	18	18	13	暗灰褐色粘質土	
P 1237	K 9	24	20	46	暗褐色粘質土	

挿表18　ピット一覧表（6）

（計測値の単位は㎝）

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 1238	K 9	26	18	14	暗灰褐色粘質土	
P 1239	K 9	30	24	7	灰褐色粘質土	
P 1240	K 9	20	20	11	暗灰褐色粘質土	
P 1241	J 9	26	18	10	灰褐色粘質土	
P 1242	Q 13	25	25	40	暗褐色粘質土	
P 1243	Q 13	45	34	20	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1244	Q 12	25	23	34	暗褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB23
P 1245	P 12	22	20	25	黒褐色粘質土、裏込土黄褐色土ブロック混	SB23
P 1246	P 12	20	20	16	不明	SB23
P 1247	O 12	23	20	30	黒褐色粘質土	SB23
P 1248	O 12	20	17	16	暗褐色粘質土	
P 1249	P 12	20	16	28	暗褐色粘質土	SB23
P 1250	P 12	20	20	26	暗褐色粘質土	SB23
P 1251	O 12	38	35	83	不明	SB22
P 1253	K 10	22	20	30	暗褐色粘質土	
P 1254	K 10	20	18	22	暗褐色粘質土	
P 1255	K 9	18	18	10	暗灰褐色粘質土	
P 1256	K 9	22	20	20	暗灰褐色粘質土	
P 1257	K 9	28	26	20	暗灰褐色粘質土	
P 1258	K 9	20	20	26	暗灰褐色粘質土	
P 1259	K 9	26	23	20	暗灰褐色粘質土	
P 1260	K 9	15	15	23	暗灰褐色粘質土	
P 1261	J 9	26	20	23	黒褐色粘質土	
P 1262	L 12	30	25	36	灰褐色粘質土	
P 1263	L 12	22	22	26	黒褐色粘質土	
P 1264	L 12	25	25	30	黒褐色粘質土	
P 1265	L 12	20	14	45	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1266	L 12	30	30	11	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1270	O 12	35	34	65	黒褐色粘質土、裏込土黄褐色土ブロック混	SB22
P 1271	N 10	20	20	10	暗灰褐色粘質土	
P 1272	N 10	40	34	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB24
P 1273	N 10	30	36	14	暗灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB24
P 1274	N 10	18	18	33	灰褐色粘質土	
P 1275	O 11	25	22	8	暗褐色粘質土	
P 1276	Q 14	28	28	32	黒褐色粘質土	
P 1277	K 10	38	38	75	黒褐色粘質土	
P 1278	K 10	42	34	60	黒褐色粘質土、黄褐色土粒混	

ピット名	グリッド	長径	短径	深さ	土　　色	備考
P 1279	K 10	44	32	70	黒褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1280	K 10	28	22	30	黒褐色粘質土、黄褐色土粒混	
P 1281	K 10	40	30	30	黒褐色粘質土	
P 1282	K 10	25	15	24	暗灰褐色粘質土	
P 1283	J 9	32	24	36	黒褐色粘質土	
P 1285	K 10	32	21	9	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1286	K 10	26	24	30	黒褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	
P 1287	L 10	30	18	34	黒褐色粘質土	
P 1288	K 10	32	25	18	黒褐色粘質土	
P 1289	Q13	32	30	30	暗褐色粘質土	
P 1290	J 9	20	16	21	黒褐色粘質土	
P 1291	J 9	20	15	18	黒褐色粘質土	
P 1292	J 9	22	22	20	黒褐色粘質土	
P 1294	J 10	20	20	20	黒褐色粘質土	
P 1295	O 11	30	25	20	灰褐色粘質土、黄褐色土ブロック混	SB25
P 1296	K 12	20	18	25	黒褐色粘質土	
P 1297	K 11	18	16	44	黒褐色粘質土	
P 1298	K 11	38	30	43	黒褐色粘質土	
P 1299	K 10	25	23	41	黒褐色粘質土	
P 1300	K 10	25	25	24	黒褐色粘質土	
P 1301	K 10	30	24	22	黒褐色粘質土	
P 1302	K 10	30	27	27	黒褐色粘質土	
P 1304	O 11	44	36	25	暗灰褐色粘質土	SB25
P 1305	K 10	25	22	26	黒褐色土	
P 1306	K 10	20	20	14	黒褐色粘質土	
P 1307	K 12	22	20	21	黒褐色粘質土	
P 1309	K 10	25	25	10	黒褐色粘質土	
P 1310	K 11	22	15	18	黒褐色粘質土	
P 1311	D 11	55	45	12	不明	
P 1312	N 12	25	23	10	不明	SB26
P 1313	N 12	25	25	45	不明	SB27

捕表19　ピット一覧表（7）

（＊…復元値）

遺物番号	出土地点	器種	口径(cm)	器高(cm)	底部径(cm)	手法上の特徴	凹線の本数／1cm	焼成	色調	備考	実測No.	取り上げNo.
1	SI01	甕	*12.2			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、口縁部下横ヘラ磨き頸部縦ハケ。内面調整不明。	4	良好	内外面淡黄灰褐色		1	24
2	SI01	甕	*15.0			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部下方に貝殻刺突文。内面口縁から頸部を横ナデ、胴部ヘラ削り。	4	良好	内外面淡橙色		2	143
3	SI01	甕	*15.5			外面口縁部に擬凹線。内面口縁部横ナデ。	4	良好	内外面淡黄褐色		92	256
4	SI01	甕	*11.3			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ。	4.5	良好	内外面淡橙色		88	22
5	SI01	甕	*15.1			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁縦ヘラ磨きのち横ナデ、胴部ヘラ削り。	3	良好	外面淡灰褐色、内面淡黄灰褐色	外面頸部スス付着	4	212
6	SI01	甕	*19.0			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部横ナデ。内面口縁部縦ヘラ磨きのち横ナデ。	3.5	良好	内外面淡黄褐色		8	184
7	SI01	甕	*14.0			口縁部2条以上の凹線のち横ナデ、頸部横ナデ。内面口縁部調整不明、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	1.5	良好	内外面淡黄色	風化著しい	91	216
8	SI01	甕	*15.6			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁から頸部を横ナデ、胴部ヘラ削り。	4	良好	内外面淡灰褐色	外面スス付着	7	200
9	SI01	甕	*19.8			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁部縦・横ヘラ磨きのち横ナデ、頸部以下ヘラ削り。	5	良好	外面淡橙褐色、内面淡灰褐色		6	203
10	SI01	壺	14.6	11.4	丸底	外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、肩部3段にわたり貝殻刺突文、上から2～3段間に1条の沈線、胴部～底部ヘラ磨き。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り、底部中央から外へ螺旋状の強い指ナデ整形。	5	良	内外面淡黄褐色	施文は粗雑	58	302
11	SI01	甕底部			*8.6	外面縦ヘラ磨き、底面ヘラ磨き。内面ヘラ削り。		良好	外面淡灰褐色、内面淡橙褐色		93	261
12	SI01	甕底部			*10.2	外面ヘラ磨き、底面ナデ。内面ナデ。		良好	内外面淡褐色		90	196
13	SI01	甕底部			*6.8	外面縦ヘラ磨きのち縦ハケ。内面ヘラ削り、底面指押え。		良好	外面淡橙褐色、内面淡灰褐色		5	205
14	SI01	甕底部			*6.3	外面ナデ。内面指押え。		良好	外面淡灰褐色		3	27
15	SI01	甕底部			*4.6	底面ナデ。内面調整不明。		良好	外面淡黄褐色～橙色、内面淡灰褐色	風化著しい	89	159
16	SI02	壺	*20.2			外面横ナデのち、ヘラ工具による斜めの平行沈線、口縁端部に3条の凹線。内面横ナデ。	2	良好	内外面淡黄褐色		14	45
17	SI02	壺	*17.0			外面口縁部擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、内面口縁部～頸部ヘラ磨きのち口縁端部横ナデ。	2	良好	内外面淡黄褐色		9 115	766
18	SI02	甕	*14.0			外面口縁部に擬凹線。内面口縁部横ナデ。	3	やや不良	内外面淡褐色		96	95
19	SI02	甕	*17.6			外面口縁部に3条の凹線のち横ナデ、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ内面口縁部～頸部横ナデ。	2	やや不良	外面淡灰褐色、内面暗灰褐色	外面口縁部丹塗り	95	66
20	SI02	甕	*16.0			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、頸部下方に工具による刺突文。内面口縁部ヘラ磨きのち横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	3	良好	内外面淡灰褐色	外面スス付着	16	35
21	SI02	甕	*14.9			外面口縁部に擬凹線。内面口縁部横ナデ。	4	良好	外面淡褐色、内面淡黄色		94	60
22	SI02	甕	*21.1			外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、頸部下方にハケ状工具による刺突文。内面口縁から頸部を横ナデ、胴部ヘラ削り。	3.5	良好	内外面橙色	風化著しい	10	87,88
23	SI02	甕	*16.4			外面口縁部に凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁部ヘラ磨きのち端部横ナデ、胴部ヘラ削り。	3	良好	内外面淡灰褐色	外面スス付着	13	64
24	SI02	甕	*22.0			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部下方に刺突文。内面口縁から頸部を横ナデ、胴部ヘラ削り。	1.5	良好	外面赤褐色、内面淡灰褐色	外面丹塗り	12	68
25	SI02	甕	*21.4			外面頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁部～頸部横ナデ、胴部ヘラ削りのち横ナデ。	不明	良好	外面淡灰褐色、内面淡橙褐色	外面口縁部風化し剥落	11	81
26	SI02	甕底部			*7.1	外面縦ヘラ磨き。内面ヘラ削り、底面指押え、ナデ。		良好	内外面灰褐色		15	41
27	SI02	甕底部			*2.8	外面底部付近指押えのちナデ。内面指ナデ。		良好	外面黒色～淡黄灰色、内面暗褐色	外面黒斑あり	17	53
28	SI02	甕	*8.2			外面口縁部調整不明、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。		良好	内外面淡黄色		97	287
29	SI02	高坏脚部			*13.2	外面脚部縦ハケ、端部に擬凹線。内面ヘラ削り。	4	やや不良	外面赤褐色、内面灰褐色	外面丹塗り	18	65
30	SI02	有孔鉢	12.8	13.1	5.3	内外面下から上にヘラ削りに似た強いナデ整形。輪積みの段が器壁に残る。口縁端部外側に指頭圧痕。底部に焼成前穿孔。		良	外面淡黄褐色～灰色、内面黄褐色～褐色	底部外面に縄目圧痕、内外面黒斑あり	57	635
31	SI03	壺	*18.1			外面口縁部に擬凹線のち端部横ヘラ磨き、頸部横ヘラ磨き。内面口縁部横ヘラ磨き。	3	良好	外面淡褐色、内面淡橙褐色	内面頸部剥落	100	269,341
32	SI03	甕	*19.8			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、内面口縁部調整不明、胴部ヘラ削り。	5	良好	外面暗褐色、内面淡灰褐色	外面スス付着	109	336

挿表20　土器観察表（1）

（＊…復元値）

遺物番号	出土地点	器種	口径(cm)	器高(cm)	底部径(cm)	手法上の特徴	凹線の本数／１cm	焼成	色調	備考	実測No.	取り上げNo.
33	SI03	甕	*19.1			外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、内面口縁部横ヘラ磨きのち横ナデ、頸部横ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	3	良好	外面淡黄灰褐色、内面淡褐色		108	318
34	SI03	甕	*16.7			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ、頸部下ヘラ状工具による刺突文。内面口縁部縦ヘラ磨きのち横ナデ、頸部横ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4.5	良好	外面黄白色、内面淡橙色		103	272
35	SI03	甕	*21.6			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、口縁端部面取り、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、内面口縁部縦ヘラ磨きのち横ナデ、頸部横ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	3.5	良好	内外面淡黄褐色		102	271
36	SI03	甕	*18.2			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、内面口縁部縦ヘラ磨きのち横ナデ、頸部横ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	3.5	良好	外面淡灰褐色、内面淡黄褐色	外面スス付着	105	273
37	SI03	甕	*14.2			外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁部縦ヘラ磨きのち端部横ナデ、頸部下ヘラ削り。	5	良好	内外面淡黄灰褐色		101	270
38	SI03	甕	*18.4			外面口縁部に３条の凹線のちナデ消し、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	2	やや不良	内外面灰褐色～淡黄褐色	外面口縁部スス付着	111	660
39	SI03	甕	*19.8			外面口縁部に擬凹線、頸部下方に小口刺突文。内面口縁部横ナデ、頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。		良好	内外面淡灰褐色～淡黄褐色	外面スス付着	104	237
40	SI03	甕	*25.1	*33.4	*6.6	外面口縁部に擬凹線、頸部下方に小口刺突文。内面口縁部横ナデ、頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4.5	良好	外面淡黄褐色～淡灰褐色。内面淡黄褐色～淡褐色	外面スス付着	71	377,380,381 382,391,394 396,397,398
41	SI03	甕底部			*5.3	外面ナデ。内面ヘラ削り。		良好	外面淡褐色、内面暗灰褐色		98	31
42	SI03	甕？	*14.6			外面横ナデ。内面調整不明。		良好	内外面淡黄色橙色		106	304
43	SI03	台付鉢	*16			外面口縁部横ナデ、体部ヘラ磨き。内面口縁端部横ナデ、体部ヘラ削り。		良好	外面淡橙褐色、内面暗灰色～淡黄灰色	風化著しい	112	735
44	SI03	器台脚部			*17.3	外面横ナデ、脚端部擬凹線のち横ナデ。内面ヘラ削り、脚端部ナデ。	3	良好	内外面淡黄色～淡橙色		99	665
45	SI03	器台脚部			*17.1	外面ヘラ磨き、脚端部擬凹線。内面ヘラ削り。	4	良好	内外面淡橙色		110	657
46	SI06	甕	*15.9			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁部ヘラ磨き、頸部ヘラ削り。	4	やや不良	内外面淡灰色		154	403
47	SI06	壺	*7.4			内外面調整不明。		良好	風化著しい		155	408
48	SI06	器台脚部			*12.5	外面横ナデ、脚端部擬凹線。内面ヘラ削り。	4	良好	内外面淡橙色	風化著しい	114	416
49	SI04	甕	*16.9			外面口縁部に擬凹線、頸部下方に貝殻刺突文。内面口縁部～頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4	良好	内外面黄褐色	外面スス付着、口縁部黒斑あり	43	627,628
50	SI04	甕	*17.0	*23.8	4.5	外面口縁部に擬凹線、頸部下方にハケ状工具による刺突文、胴部ハケメ。内面口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り。	4	良好	外面淡橙色～淡灰褐色、内面淡灰褐色	外面スス付着	51	621,622
51	SI04	甕	*15.1	*20.5	4.6	外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ、頸部下方に貝殻刺突文。内面口縁部横ナデ、頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4	良好	外面淡灰褐色、内面淡橙褐色～淡灰褐色		45	627
52	SI04	甕	*16.4			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁部～頸部調整不明、胴部ヘラ削り	3	良好	外面淡黄褐色、内面淡橙褐色		80	670
53	SI04	甕			5.4	外面胴部縦ハケ、内面ヘラ削り。		良好	外面淡灰褐色、内面暗灰色	外面スス付着	42	624,625,627
54	SI04	甕	*13.4			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部横ナデ、頸部下方にハケ状工具あるいは貝殻による刺突文。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	3.5	良好	内外面淡橙褐色	外面スス付着	75	543
55	SI04	甕	*15.0	*17.1	5	外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、頸部下方に板状あるいはヘラ状工具による刺突文、胴部縦ハケ、底部ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り。	4	良好	内外面黄褐色	外面スス付着	48	624,626,627 628
56	SI04	注口土器	13.4	16.6	5.4	外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、胴部縦ハケ、底部ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り。	3	良好	内外面淡黄褐色	外面スス付着、内面口縁に丹塗り	52	618
57	SI04	甕	*15.2	14.4	3	外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部横ナデ、頸部下方に貝殻刺突文、胴部上半横ハケ下半縦ハケ。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	5	良好	内外面淡灰褐色	外面スス付着、口縁に黒斑あり	47	623
58	SI04	甕	*17.6			外面口縁部に擬凹線、頸部下方に刺突文、胴部上半横、縦ハケ。内面口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り。	4	良好	内外面淡黄褐色	外面スス付着	49	619
59	SI04	甕	*17.2	*17.2	*5.4	外面口縁部に擬凹線、頸部下方に刺突文、胴部下半縦ハケ、底部ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り。	4	良好	内外面淡黄褐色	外面スス付着	46	620
60	SI04	甕	*18.8	*21.9	*4.2	外面口縁部に擬凹線、頸部下方に板状工具による刺突文。胴部下半縦ハケ。内面口縁部横ナデ、頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4.5	良好	外面淡灰褐色内面黄褐色	外面口縁～頸部にスス付着	44	624,626,627 628
61	SI04	甕底部			*8.2	外面胴部縦ハケ、底部付近縦ヘラ磨き、底部ナデ。内面ヘラ削り。		良好	外面淡橙褐色、内面暗褐色		79	669

挿表21　土器観察表（2）

（＊…復元値）

遺物番号	出土地点	器種	口径(cm)	器高(cm)	底部径(cm)	手法上の特徴	凹線の本数／1cm	焼成	色調	備考	実測No.	取り上げNo.
62	SI04	器台受部	*21.0			外面口縁部に擬凹線、内面調整不明。	3	良好	内外面淡橙褐色	風化著しい	86	551
63	SI04	器台筒部				外面縦ハケ。内面受け部～筒部上半縦ハケ、下半以下ヘラ削り。		良好	内外面淡黄褐色		50	629
64	SI04	甕	*17.7			外面口縁部に擬凹線、胴部縦ハケ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り	3.5	良好	内外面黄褐色	外面スス付着	36	583,590,591
65	SI04	甕	*17			外面口縁部に擬凹線、頸部にヘラ磨きのち強い横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	2.5	良好	外面淡灰褐色～淡黄褐色、内面淡黄褐色		63	428
66	SI04	甕	18			外面口縁部に擬凹線。胴部縦横斜めハケ。内面口縁部横ナデ、頸部を横ハケ、胴部ヘラ削り。	3	良好	外面灰褐色、内面黄褐色		39	612
67	SI04	甕	*22.5			外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、頸部下方にヘラ状工具による刺突文。内面口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り	4	良好	内外面淡黄褐色	外面スス付着	34	582,586,588 595,604
68	SI04	甕	*20.5			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部～頸部ヘラ磨き。	5	良好	内外面淡黄褐色		64	468
69	SI04	甕	*17.2			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4	良好	内外面淡灰褐色～淡黄褐色	外面スス付着	62	430,451
70	SI04	甕	*16.8	*27.5	*5.0	外面口縁部に擬凹線、頸部下方に貝殻刺突文、胴部上半横ハケ、下半縦ハケ。内面口縁部を横ナデ、頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4	良好	内外面淡黄褐色～淡橙色		41	593,596,597 598,599,601 605,606,607 608,609,610 613,614,617
71	SI04	甕	*13.8			外面口縁部に擬凹線、頸部下方にハケ状工具による刺突文。内面調整不明。	3	良好	内外面淡橙褐色	外面スス付着	77	600
72	SI04	甕	*14.0			外面口縁部に擬凹線のち端部横ナデ、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ。	4	良好	外面淡灰褐色、内面淡橙褐色	外面スス付着	83	581
73	SI04	甕底部			*6.2	外面底部付近横ナデ、底部ナデ。内面ヘラ削り。		良好	外面淡黄褐色、内面淡灰褐色		78	656
74	SI04	甕底部			*6.5	胴部縦ハケ、底面ナデ。内面ヘラ削り。		良好	内外面淡灰褐色		65	450
75	SI04	甕底部			5.6	外面底部付近ヘラ磨き、胴部縦ハケ。内面ヘラ削り。		良好	外面淡灰褐色、内面淡橙褐色	外面スス付着	66	449,453
76	SI04	鉢	17	8.8	7.5	外面下半縦方向、上半横方向のヘラ磨き後横ナデ。内面ヘラ削り後ナデ。		良好	内外面淡黄褐色	黒斑あり。	40	615
77	SI04	台付鉢	20	9.8	10	外面口縁部横ナデ、胴部上半横ハケあるいは横ナデ、下半ヘラ磨き、台部横ナデ。内面口縁部横ナデ、胴部ナデ、脚部横ナデ。底部、口縁下方に圧痕。		良好	内外面淡橙色		37	594
78	SI04	台付鉢	*21.5			外面口縁部横ナデ、口縁下方に擬凹線のち横ナデ、体部～脚部縦ヘラ磨き。内面口縁部ヘラ磨きのち端部横ナデ、体部ヘラ削りのち横ナデ、底面ナデ、脚部ヘラ削り。	4	良好	内外面淡黄褐色		35	587
79	SI04	台付鉢	*20.6			外面口縁部横ナデ、口縁部下擬凹線。内面調整不明。	4	良好	内外面淡黄褐色	風化著しい	61	426
80	SI04	器台受部	24.7			外面口縁部擬凹線、受部縦方向幅1cmのハケメ状直線文。内面ハケあるいはナデ。	4	良好	外面淡黄褐色、内面淡黄灰褐色	外面全体に丹塗り、口縁部に黒斑あり	33	579
81	SI04	器台受部	*20.0			外面口縁部に擬凹線、内面調整不明。	3	良好	内外面淡橙褐色	風化著しい	87	580
82	SI04	器台脚部			*30	外面脚端部に8条の凹線あるいは擬凹線のち横ナデ。内面右方向のヘラ削り。	2	良好	内外面淡褐色		60	424
83	SI04	壺	*19.5			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き。	3	良好	内外面淡黄褐色	口縁端部内面に一部丹塗りが残る	53	683
84	SI04	壺	*14.1			外面口縁部調整不明、頸部に3段の擬凹線。内面口縁部～頸部上半ヘラ磨き、口縁端部横ナデ、頸部下半ヘラ削り。	5	良好	外面淡黄褐色、内面淡黄褐色～暗灰色	風化著しい	25	570
85	SI04	甕	*15.9			外面口縁部に2～3条の凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ。	2	良好	内外面淡橙褐色		82	651
86	SI04	甕	*15.9			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面調整不明。	3	良好	外面淡橙色～黄褐色、内面黄褐色	外面丹塗り	81	641
87	SI04	甕	15.6	*14.3	*5.1	外面口縁部に擬凹線、頸部下方に貝殻刺突文。内面口縁から頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4.5	良好	外面灰褐色、内面淡黄褐色	外面スス付着	29	573
88	SI04	甕	*16.4			外面口縁部に擬凹線、頸部下方にハケ状工具による刺突文。内面口縁～頸部をヘラ磨き、口縁端部を横ナデ。胴部ヘラ削り。	3.5	良好	外面淡黄灰褐色、内面淡黄褐色	外面スス付着	28	572
89	SI04	甕	24	*29.3	6.2	外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、胴部ハケメ。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	4	良好	外面淡黄褐色～淡灰褐色、内面黄褐色	外面スス付着	31	576
90	SI04	甕	*16.1	*16	4.5	外面口縁部に擬凹線、頸部下方に貝殻刺突文。内面口縁～頸部をヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	6	良好	内外面黄褐色	外面スス付着、内面口縁部に丹塗り	26	571

挿表22　土器観察表（3）

（＊…復元値）

遺物番号	出土地点	器種	口径(cm)	器高(cm)	底部径(cm)	手法上の特徴	凹線の本数／1cm	焼成	色調	備考	実測No.	取り上げNo.
91	SI04	甕	*13.8			外面口縁部に擬凹線のち端部横ナデ、頸部に強い横ナデ、屈曲部ヘラ切り痕あり。内面口縁部ヘラ磨き。	4	良好	内外面淡黄褐色～淡灰褐色		84	648,649
92	SI04	鉢	16.5	8.3	6.3	外面口縁部に擬凹線、頸部～体部ヘラ磨きのち頸部横ナデ。内面口縁部ヘラ磨きのち端部横ナデ、体部ヘラ削り後ナデ。	4.5	やや不良	内外面淡黄灰褐色	黒斑あり	32	577
93	SI04	器台受部	*19.3			外面口縁部に擬凹線、内面調整不明。	3	良好	内外面淡橙褐色	風化著しい	85	646
94	SI04	高坏	*20.5	*13.3	*13.2	外面脚端部に擬凹線。	4	不良	内外面灰褐色～淡橙色	風化著しい	30	574
95	SI04	甕	*21.5	*16.7	*3.2	外面口縁部に擬凹線。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	5	やや不良	内外面淡褐色		23	566,569
96	SI04	甕	*18.9			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部から口縁にヘラ磨きのち横ナデ、頸部下方にハケ状工具あるいは貝殻の刺突文。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	2	良好	内外面淡黄褐色	外面スス付着	76	565
97	SI04	甕	*22.0	*30.5	6.6	外面口縁部に擬凹線、頸部下方に貝殻刺突文、胴部上半横不明瞭下半縦ハケ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り	5	良好	内外面淡黄灰褐色	外面スス付着	54	681,682,685 687,688,689 690,691
98	SI04	甕底部			*5.1	外面底部付近ヘラ磨き。内面ヘラ削り。		良好	外面淡橙色、内面淡灰褐色		67	499
99	SI04	甕底部			*6.2	底部付近横ナデ。底面ナデ。内面ヘラ削り。		良好	外面暗褐色、内面淡黄褐色	外面スス付着	72	519
100	SI04	甕底部			*6.2	内外面調整不明。		良好	外面淡灰褐色～淡橙色、内面淡黄灰色		70	512
101	SI04	甕底部			*6.0	外面調整不明、内面ヘラ削り。		良好	外面灰褐色～淡黄褐色、内面淡黄褐色		69	513
102	SI04	甕底部			*6.3	底部付近縦の指ナデ整形のち横ナデ。底面ナデ。内面ヘラ削り。		良好	内外面淡橙褐色		74	525
103	SI04	甕底部			*9.2	内外面調整不明。		良好	内外面淡橙褐色		73	520
104	SI04	器台脚部			*15.7	外面脚端部擬凹線のち横ナデ。内面ヘラ削り、端部横ナデ。	3	良好	外面淡橙色～淡黄褐色、内面淡黄褐色		68	504
105	SI04	高坏脚部			*11.2	外面脚端部擬凹線か。	5	良	外面淡黄色、内面淡灰褐色	外面受部と脚部の境に丹塗り	24	568
106	SI05	甕	*19.9			外面口縁部に板小口状工具による擬凹線、頸部に指頭圧痕貼付突帯文のち横ナデ。内面口縁部～頸部横ナデ。	3	良好	内外面淡黄褐色		22	107,234
107	SI05	甕	*17.0			外面口縁部に３条の凹線、頸部下方に左下から右上への強いヘラ磨きによる圧痕、胴部縦ハケ。内面口縁部～頸部横ナデ、胴部ヘラ削り。	2	良好	内外面淡黄褐色	外面スス付着	55	279
108	SI05	甕	*12.4			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部下方に棒状工具による刺突文。内面口縁から頸部を横ナデ、胴部ヘラ削り。	3	良好	内外面淡橙褐色	外面スス付着	21	135
109	SI05	甕	*14.0			外面口縁部に櫛状工具による擬凹線、頸部下方にヘラ状工具による刺突文。内面口縁部横ナデ、頸部以下ヘラ削り。	3	良好	外面淡橙褐色、内面淡黄褐色	外面スス付着	59	282
110	SI05	甕	*15.7			外面口縁部に３条の沈線、頸部横ナデ。内面口縁ぶ横ナデ、胴部ヘラ削り。	2.5	良好	内外面淡黄灰色		20	121,123
111	SI05	台付鉢	17.2	13.4	9.1	外面口縁部横ナデ、胴部ハケメ、台部上方向の磨き後横ナデ。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。		良好	内外面淡黄褐色、台部淡赤橙色	外面スス付着	56	281,283,284
112	SI05	甕底部			*9.2	外面ナデ。内面調整不明。		良好	外面暗灰色、内面黄褐色		19	109
113	SI05	甕底部			*8.5	外面縦ヘラ磨き。内面ヘラ削り、底面ナデ。		良好	外面暗灰色～淡黄灰褐色、内面淡橙色	外面黒斑あり	113	242
114	SI07	甕	*20.6			外面口縁部に擬凹線、頸部下方にハケ状工具刺突文。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	4	良好	外面淡黄灰褐色、内面淡橙褐色		144 129	937,944,960
115	SI07	甕	*15.5			外面調整不明、内面頸部下ヘラ削り。		良好	内外面淡黄褐色	風化著しい	147	964
116	SI07	壺頸部				外面縦ハケ。内面肩部にヘラ削り。		良好	内外面暗灰褐色		156	978,979
117	SI07	甕底部			*6	外面斜め方向ハケメ、底部ナデ。内面ヘラ削り。		良好	内外面灰褐色		145	937
118	SI07	甕底部			*5.7	外面縦方向ハケメ、底部ナデ。内面ヘラ削り。		良好	内外面淡黄褐色		143	931
119	SI07	甕底部			*6.2	外面縦方向ハケメ、底部ナデ。内面ヘラ削り。		良好	内外面淡灰褐色		148	976
120	SI07	器台受部	*17.8			脚端部に１条ないし２条の凹線もしくは強い横ナデ、内面横ナデ。	1.5	良好	外面淡黄褐色、内面暗灰褐色	内面黒斑あり	146	862,929

挿表23　土器観察表（4）

（＊…復元値）

遺物番号	出土地点	器種	口径(cm)	器高(cm)	底部径(cm)	手法上の特徴	凹線の本数／1cm	焼成	色調	備考	実測No.	取り上げNo.
121	SI07	器台受部	*14			外面口縁部に擬凹線、内面ヘラ磨きのち端部横ナデ。	3	良好	外面淡橙色～淡黄色、外面暗灰色		142	930
122	SI08	甕	*15.6			外面口縁部擬凹線、頸部横ナデ、頸部下方に棒状工具による刺突文。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	3	良好	外面淡橙色、内面淡黄褐色	外面スス付着	135	873
123	SI08	甕	*15.6			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4	良好	外面淡黄褐色、内面淡灰褐色		134	883
124	SI08	甕	*27.4			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	3	良好	内外面淡橙色～淡黄褐色		132	892
125	SI08	甕	*16.2			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	3.5	良好	内外面橙色	外面スス付着	130	891
126	SI08	甕	*17.2			外面口縁部に擬凹線、頸部横ナデ。内面調整不明。	3	良好	内外面淡黄褐色	風化著しい	131	894
127	SI08	甕底部	*9.1			外面胴部下方タタキのちナデ、底部付近縦ハケ。内面ヘラ削り。		良好	外面淡橙色、内面淡灰褐色	外面底部に黒斑あり。	136	895
128	SI08	鉢	*10.5			内外面口縁端部横ナデ。		良好	外面淡褐色、内面灰褐色		133	886
129	SI09	甕	*17.1			口縁端部に擬凹線、頸部横ナデ。内面調整不明。	3	良好	内外面淡黄褐色	風化著しい	149	906
130	SI09	甕	*13.6			口縁端部に擬凹線のち横ナデ。内面口縁部横ナデ。	3	良好	内外面淡黄褐色		151	917
131	SI09	甕	*13.8			口縁端部に擬凹線、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き。	4	良好	内外面灰褐色		150	912
132	SB03-P6	甕底部			*5.5	外面胴部下半縦ハケ、底部付近ヘラ磨き、底面ナデ。内面ヘラ削り、底面ナデ。		良好	外面灰褐色、内面暗黄褐色	外面スス付着	122	781
133	SB03-P6	甕底部			*6.1	外面胴部下半縦ハケ、内面ヘラ削り。		良好	外面淡灰褐色～淡橙色、内面暗灰褐色		123	781
134	SK02	壺	*16.4			外面口縁部5条の凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、胴部縦ハケ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	2	良好	内外面明黄褐色		117	748,749
135	SK02	甕	*16.2			外面口縁部擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ、内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	5	良好	外面灰褐色、内面灰褐色～黄褐色	外面スス付着	116	224,750
136	SK11	甕	*16.4			外面口縁部擬凹線のち横ナデ、頸部ヘラ磨きのち横ナデ、頸部下方に工具あるいは貝殻による刺突文。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	3.5				137	900
137	SK12	甕	*17.1			外面口縁部擬凹線、頸部横ナデ、内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	3	良好	外面淡黄灰色、内面淡黄褐色		118	846
138	SK15	甕底部			*9.7	外面調整不明、内面ヘラ削り。		良好	内外面淡灰褐色		138	982
139	P446	甕	*14			外面口縁部擬凹線、頸部横ナデ、内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。頸部に焼成前穿孔対面2個所。	3	良好	内外面赤褐色～淡橙色	内外面丹塗り	124	779
140	P454	甕	*17.4			外面口縁部に擬凹線、頸部縦ヘラ磨きのち横ナデ。内面口縁部～頸部横ナデ、胴部ヘラ削り。	5	良好	内外面淡黄褐色		121	773
141	P628	甕	*14.3			外面口縁部擬凹線のち横ナデ、頸部横ナデ、内面口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	3	良好	内外面淡黄色	外面スス付着	120	839
142	P1097	甕	*12.4			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部下方に左下から右上への強いヘラ磨きによる圧痕、のち横ナデ、胴部縦ハケ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	4.5	良好	内外面淡橙褐色～淡黄褐色	内面丹塗り、外面スス付着	140	979
143	P1186	甕	*17.8			外面口縁部擬凹線のち横ナデ、頸部ヘラ磨きのち横ナデ、頸部下方に貝殻による刺突文。内面口縁部～頸部ヘラ磨きのち口縁部横ナデ、胴部ヘラ削り。	3	良好	内外面淡橙褐色	外面口縁部にスス付着	139	996
144	J10	甕	*13.8			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、頸部横ナデ。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き、胴部ヘラ削り。	2	良好	外面淡灰褐色、内面淡橙色		141	985
145	O11	甕	*15.2			外面口縁部に擬凹線。内面口縁部横ナデ、頸部ヘラ磨き。	4.5	良好	内外面淡黄褐色	外面丹塗り	153	998
146	P12	高坏受部	*24.2			外面口縁部に擬凹線のち横ナデ、体部横ナデ。内面横ナデ。	3	良好	内外面明黄褐色		152	820
147	D2	甕	*15.3			外面口縁部擬凹線のちナデ、頸部横ナデ。内面口縁部～頸部ヘラ磨きのち端部横ナデ、頸部下ヘラ削り。	4	良好	内外面赤褐色～淡橙色	内外面丹塗り	127	849
148	F6	甕	*17.2			外面口縁部擬凹線、頸部縦ヘラ磨き。内面口縁部～頸部ヘラ磨きのち横ナデ、頸部下ヘラ削り。	3	良好	外面淡黄灰褐色、内面黄褐色	口縁部外面風化著しい	128	851
149	E5	器台受部	*22.0			外面ヘラ磨き、口縁端部横ナデ。内面ヘラ磨き、端部横ナデ。		良好	内外面淡黄灰色	外面屈曲部剥落	126	845
150	D6	甕底部			*2.7	外面調整不明。内面ヘラ削り、		良好	外面褐色、内面淡黄褐色	風化著しい	125	828
151	G5	甕底部			9.5	外面縦ハケ、底部付近横ナデ、底面ナデ。内面ヘラ削り。		良好	内外面淡黄褐色		119	824

挿表24　土器観察表（5）

遺物番号	出土地点	器　種	石　材	長さ(㎜)	幅（㎜）	厚さ(㎜)	重さ(ｇ)	形態上の特徴
Ｓ１	SI01	台石	玄武岩	230	200	47	3060	表面に使用痕は認められない。
Ｓ２	SI01	打製石鏃	黒曜石	15	12	2.5	0.4	凹基無茎
Ｓ３	SI02	台石	玄武岩	287	269	75	6900	表面に使用痕は認められない。
Ｓ４	SI02	砥石	玄武岩	121	82	40	620	使用面は２面か。板状。
Ｓ５	SI04	砥石	粗粒黒雲母花崗岩	218	143	100	5750	使用面は１面。直方体状。
Ｓ６	SI04	砥石	玄武岩	200	119	61	2520	使用面は１面。
Ｓ７	SI04	砥石	玄武岩	136	96	36	640	使用面は２面か。板状。
Ｓ８	SI04	磨石	閃緑玢岩	135	84	61	1050	使用面は２面。砲弾状。
Ｓ９	SI05	砥石	閃緑玢岩	166	90	92	2350	使用面は３面。直方体状。
S10	SI09	砥石	玄武岩	163	93	42	1190	使用面は１面か。板状。
S11	SI09	砥石	玄武岩	196	113	92	2800	使用面は１面で浅く窪む。反対面は被熱。
S12	SI09	砥石	玄武岩	184	116	49	1800	使用面は１面。
S13	L13	敲石	閃緑玢岩	83	60	60	350	半分を失う。敲打面は１ヶ所。砲弾状。

挿表25　石器・石製品観察表

遺物番号	出土地点	種　類	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重さ(ｇ)	形態上の特徴	備　　考
Ｆ１	SI03	棒状鉄製品	59	8	7	8..4	断面円形で中空。	表面に繊維痕、木質が残る。
Ｆ２	SI08－P1	鉄鏃	45	32	5	11.8	三角形凹基式。	錆下に穿孔の可能性。
Ｆ３	３区	棒状鉄製品	50	6～10	5	7.0	断面方形。	農道側溝中
Ｆ４	M10	棒状鉄片	21	5	4	0.7	断面円形で中空。	農道表土中
Ｆ５	１区	棒状鉄片	22	5	3	1.2	断面円形で中空。	耕土中
Ｆ６	１区	銅銭	24	24	0.7	3.0	元符通寶	農道表土中
Ｆ７	Ｇ６	銅銭	23	23	0.7	1.5	寛永通寶	農道表土中

挿表26　金属製品観察表

第4章　まとめ

1．土器について

今回の調査で出土した土器は越敷山編年Ⅳ期を中心としたもので、壺、甕、器台の口縁部が大きく拡張され、外面に擬凹線文を施すのが特徴である。古段階・新段階の区分は口縁部の拡張の度合いと、外傾あるいは外反の度合い、擬凹線文の疎密によるもので、青木編年のⅢ期古・新にそれぞれ相当する。越敷山遺跡群全体では多量の土器が出土しているが、セット関係を捉える一括資料に恵まれているとは言い難い。SI04から出土した土器群は一括性が高くⅣ期新段階の土器セット関係を補強する資料として捉えることができよう。また、越敷山ではⅣ期古段階の資料が少ないせいもあり、Ⅳ期新段階との差は区別し難いものがあったが、今回SI02、SI05といった良好な標識を得ることができた。

甕の形態に着目すると、Ⅳ期古段階の土器は、拡張した口縁端部が直立または外傾するもので、外面に1㎝あたり約3条の擬凹線あるいは凹線を施すものである。それに対して新段階の土器は口縁部の拡張は古段階に比べてそれほど顕著ではないが、端部が外反するものが多い。また単位あたりの擬凹線の本数は1㎝あたり約4条となる。ただし中には甕49、67、87のように古いプロポーションを採りながら細い擬凹線文を持つものや、甕66のように口縁部が外反しながらも擬凹線は太いままのものがある。肩部の刺突文はヘラ、ハケ（板小口）状工具に加えて二枚貝腹縁が新たに用いられる。Ⅴ期古段階は口縁部がさらに拡張・外反し、外面の平行線文が波状文になるものやナデ消されるものが現れる段階とされている。荻名第3遺跡では口縁部に波状文を施した土器は出土していないが、土器の形態ではSI01出土の壺10やSI04出土の甕88、91にⅤ期の特徴を見いだすことができる。

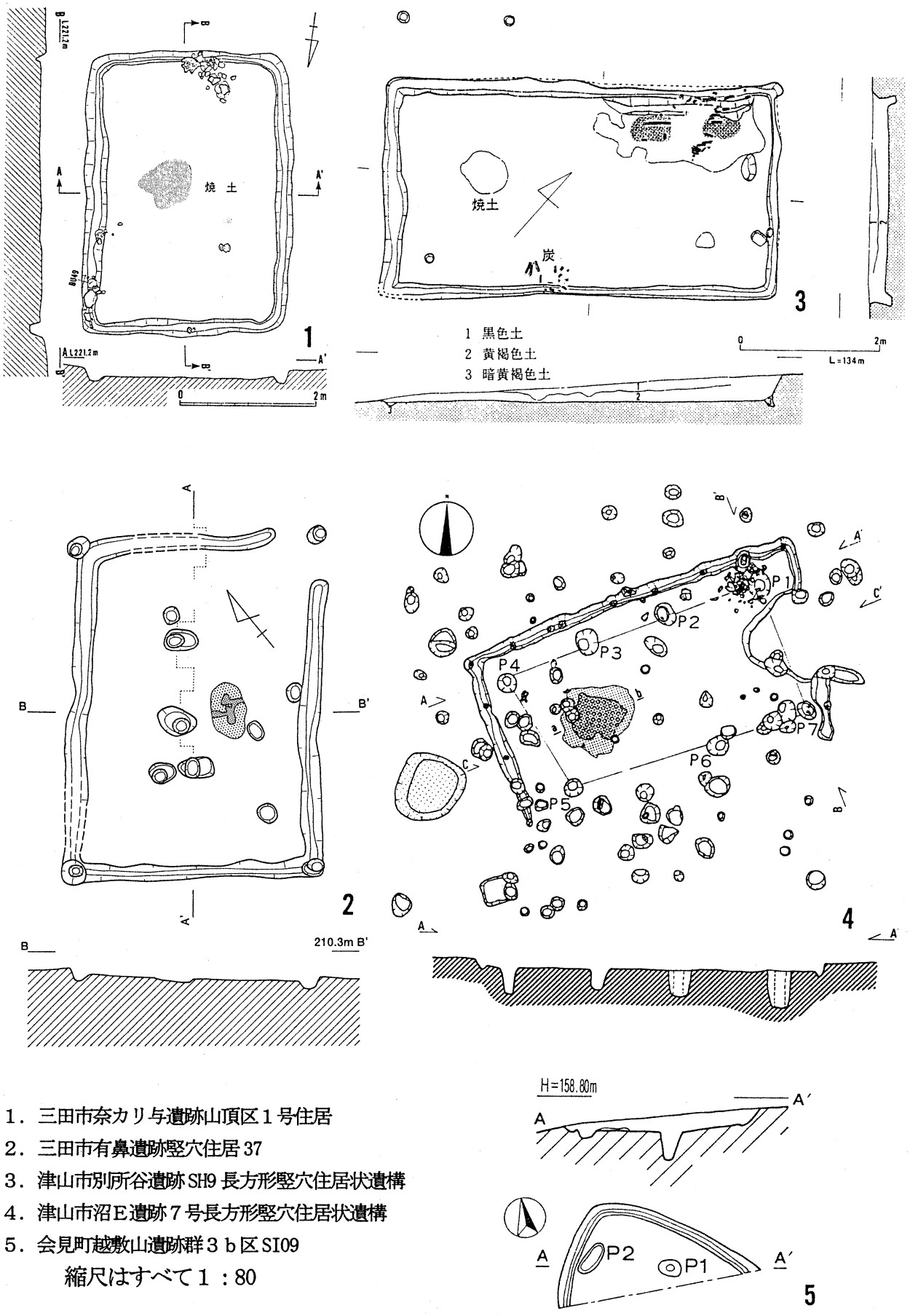
SI02から有孔鉢30が出土しているが、山陰地方では鳥取市西大路土井遺跡SI04での出土例がある。後期中葉から後葉にかけての在地の土器とともに外面に叩き目を残す畿内系の土器や北陸系の土器が出土しており、この有孔鉢も外来系のものと見られる。しかし有孔鉢30は焼成前に底部を穿孔している点の他は、形状において畿内、北陸地方のものとは全く異なる。在地土器と同じ土を使用しており、交流のあった外地の土器を模倣して作った土器といえよう。SI08の埋土中から出土した127は外面に叩き目を残しており、畿内系の技法を用いた土器と見られる。会見町では天萬土井前遺跡の土器溜から弥生時代終末～古墳時代初頭の土器とともに畿内系の土器が出土している。西伯地方で出土するのは庄内式併行期以降とされており、今回の資料は最古の出土例となろう。

2．竪穴住居跡について

荻名第3遺跡の竪穴住居跡の主柱間隔は平均して2.5mであり、平面形、規模、柱の数にかかわらずほぼ一定である（挿表27）。都出比呂志は著書の中で、主柱間隔は桁材の長さを反映するものであり、桁材の長さには限度があるために、平面規模を大きくするには、それだけ桁材の数ひいては主柱の数を増加させる必要があったとしている。住居の建て替えを行う時に、建材の再利用をしていたことは十分に想像される。新しい建材を補充する場合、もとからの建材の寸法に合わせる必要があったのではないだろうか。そうすることによって自然と建材の寸法に規格が生まれ、SI02－bのような正八角形の主柱配列をもつ住居が生まれたと考える。しかしSI02－aやSI07－cのように、間隔から判断して主柱があるべき場所が、浅い窪みにすぎない例もある。設計上では等間隔を意識しながらも実際には、建材の寸法と床面の広さなどにに制限されたのであろう。

荻名第3遺跡では唯一長方形の床面をもつSI05であるが、越敷山遺跡群では3b区SI09、3c区SI04、12a区SI02、15c区SI03、19b区SI26の5棟が存在する。その中でも3b区SI09は西壁際に長円形のピットを持ち、床面に焼土層がみられるなど、荻名第3遺跡SI05との共通性が認められる。

他地域に類例を探すと、兵庫県三田市の有鼻遺跡は丘陵の尾根上に立地する、弥生時代中期後葉の集落遺跡であるが、そこで検出された竪穴住居37は四隅に柱穴を配し、床面中央が赤化するほど焼けているという、荻名第3遺跡SI05との共通点が認められる（挿図47）。周辺の丘陵上に立地する遺跡でも焼土面をもつ長方形の住居跡が見つかっているが、遺跡内での立地はいずれも尾根上で、ほかの住居から離れた位置にあり、集落内において



1．三田市奈カリ与遺跡山頂区１号住居
2．三田市有鼻遺跡竪穴住居37
3．津山市別所谷遺跡SH9長方形竪穴住居状遺構
4．津山市沼Ｅ遺跡７号長方形竪穴住居状遺構
5．会見町越敷山遺跡群３ｂ区SI09
縮尺はすべて１：80

挿図47　SI05に類似する方形竪穴住居跡

遺構名	平面形	面積（㎡）	長径（m）	短径（m）	壁高（m）	主柱数	柱間平均（m）
SI01-a	円形	32.3	6.8	6.5	0.4	6	2.7
SI01-b	円形	32.3	6.8	6.5	0.4	7	2.7
SI02-a	円形	33.9	7.2	6.8	0.25	7	2.2
SI02-b	円形	41.0	7.6	7.3		8	2.5
SI03-a	楕円形	25.6	6.2	5.6		6	2.5
SI03-b	楕円形	28.5	6.6	6.1		6	2.6
SI03-c	楕円形	39.3	8.0	7.0	0.5	8	2.5
SI04	円形	20.1	5.4	5.4	0.4	5	2.5
SI05	隅丸方形	10.6	3.2	2.7	0.3	4	2.5
SI06	楕円形	30.7	7.1	6.4	0.4	6	2.6
SI07-a	円形	26.0	6.0	6.0		4	2.2
SI07-b	円形	42.0	7.7	7.7		7	2.6
SI07-c	円形	42.0	7.7	7.7	0.5	8	2.5
SI08	楕円形	33.6	7.3	6.5	0.4	8	2.4
SI09-a	円形	30.2	6.2	6.2		4	2.7
SI09-b	円形	26.3	5.9	5.9		5	2.8
SI09-c	円形	36.5	7.2	7.2	0.25	6	2.7
SI09-d	円形	36.5	7.2	7.2	0.25	7	2.5
平均値		31.5	6.7	6.4	0.4	6.2	2.5

挿表27　竪穴住居跡規模一覧表

遺構名	タイプ	梁行(m)	桁行(m)	桁間(m)	桁／梁
Sb23-a	A-a	1.8	1.9		1.1
Sb16	A-a	1.8	2.0		1.1
Sb23-b	A-a	1.8	2.1		1.2
Sb12	A-b	1.8	2.5		1.4
Sb22	A-b	1.8	2.5		1.4
SB02	A-b	2.0	2.5		1.3
Sb26	A-b	2.0	2.5		1.3
Sb17	A-c	2.0	2.8		1.4
Sb14	A-c	2.2	2.2		1.0
Sb05	A-c	2.2	2.7		1.2
Sb06	A-c	2.2	2.7		1.2
Sb27	A-c	2.2	2.7		1.2
Sb19	A-c	2.2			
Sb21	A-c	2.3	2.6		1.1
Sb07	A-c	2.3	2.7		1.2
Sb10	A-c	2.3	2.8		1.2
Sb13	A-c	2.3	2.8		1.2
Sb24	A-d	2.4	3.0		1.3
Sb08	A-d	2.5	2.7		1.1
Sb15	A-d	2.5	2.9		1.2
SB01	A-d	2.6	2.6		1.0
Sb11	A-d	2.6	2.9		1.2
Sb18	A-d	2.6	3.4		1.3
Sb20	B-a	2.8	2.8	1.4	1.0
Sb09	B-b(A-c)	2.8	4.5	2.2	1.6
Sb04	B-b(A-d)	2.8	5.0	2.5	1.8
Sb03	B-b(A-c)	3.0	4.6	2.3	1.5
Sb25	B-a	4.1	4.4	2.2	1.1

挿表28　掘立柱建物跡規模一覧

遺構名	平面形	長径(m)	短径(m)	深さ(m)
SK01	楕円形	1.2	0.9	0.5
SK02	円形	1.1	1.1	0.5
SK04	円形	0.9	0.8	0.5
SK06	隅丸方形	1.2	0.7	0.4
SK11	円形	1.8	1.7	0.08
SK12	不整方形	0.9	0.7	0.6
SK15	隅丸方形	1.5	1.5	2.2

挿表29　土坑規模一覧表

同様の住居が存在しないという共通点がある。また、岡山県津山市の遺跡においても床面が焼土化した長方形住居が存在している。一般の住居跡では床面が焼土化している例がないため、これらの住居は単に居住を目的としたものではなく、工房や炊事場といった火を用いる共同施設として考えられている。

鳥取県内の竪穴住居跡は床面に焼土面をもつものが通常であり、その点ではSI05に他の住居との大きな差があるとは言えないが、SI05のもう一つの特徴は西壁際に平面円形と長円形のピットを配していることにある。播磨・北摂地域の住居跡の中央土坑には円と長円の組み合わせが多く見られ、「10（いちまる）型中央土坑」と呼称されている。ただしその配置は数字の「10」のように並列するもので、必ず長円の方が南側に位置している。この土坑の埋土は炭化物や灰を多く含んでおり、室内の暖をとる囲炉裏のような用途を持つものと考えられている。SI05の配置は直列であるが、Ｐ５からは多くの炭化物が出土する点においては類似性が認められる。SI05のＰ５、Ｐ６の用途を考えると、壁際という位置は暖をとるには非効率と思われる。中央ピットを持たないことは建物の中央に広い空間を必要としたことを意味しており、Ｐ５、Ｐ６と焼土面との間には空間があることから、両方が関連しあった作業場としての性格が強いものと考える。越敷山遺跡群で多量に出土する鉄製品の存在をを考慮すれば、小鍛冶場の可能性もあろう。

３．掘立柱建物跡について

荻名第３遺跡で検出した27棟の掘立柱建物跡の規模を比較し、分類を行った（挿表28）。まずＡ（１×１間）と、Ｂ（１×２間）に大別する。Ａは規模からＡ－ａ（梁行1.8m、桁行1.9～2.1m）、Ａ－ｂ（梁行1.8～２m、桁行2.5m）、Ａ－ｃ（梁行２～2.2m、桁行2.2～2.8m）、Ａ－ｄ（梁行2.4～2.6m、桁行2.7～3.4m）の４つのタイプに分けられる。Ｂは平面形からａ（正方形）とｂ（長方形）の２タイプに分けられる。このうちＢ－ｂのSB03とSB09はＡ－ｃを、SB04はＡ－ｄを横に２つ連ねたものと見ることができ、Ａ－ｃとＡ－ｄを基本形とする同一のタイプとみなした。

タイプ別の分布状況を示した挿図48を見ると、同一のタイプ同士で切り合う例が認められないことが分かる。１区においては、Ａ－ｂタイプの SB12がＡ－ｃタイプのSB13に先行することが判明しており、Ａ－ｃタイプを取り囲むようにＡ－ｄが分布している。これらのことからタイプの違いが掘立柱建物の建設時期の違いを表していると考えた。建材の再利用が行われたとするならば、ある時期に一定の規格が集中することも予想される。建物規模の拡大が時代の流れに対応しているならば、［Ａ－ａ］→［Ａ－ｂ］→［Ａ－ｃ］→［Ａ－ｄ］→［Ｂ－ａ］の順に立てられたと考えられる。

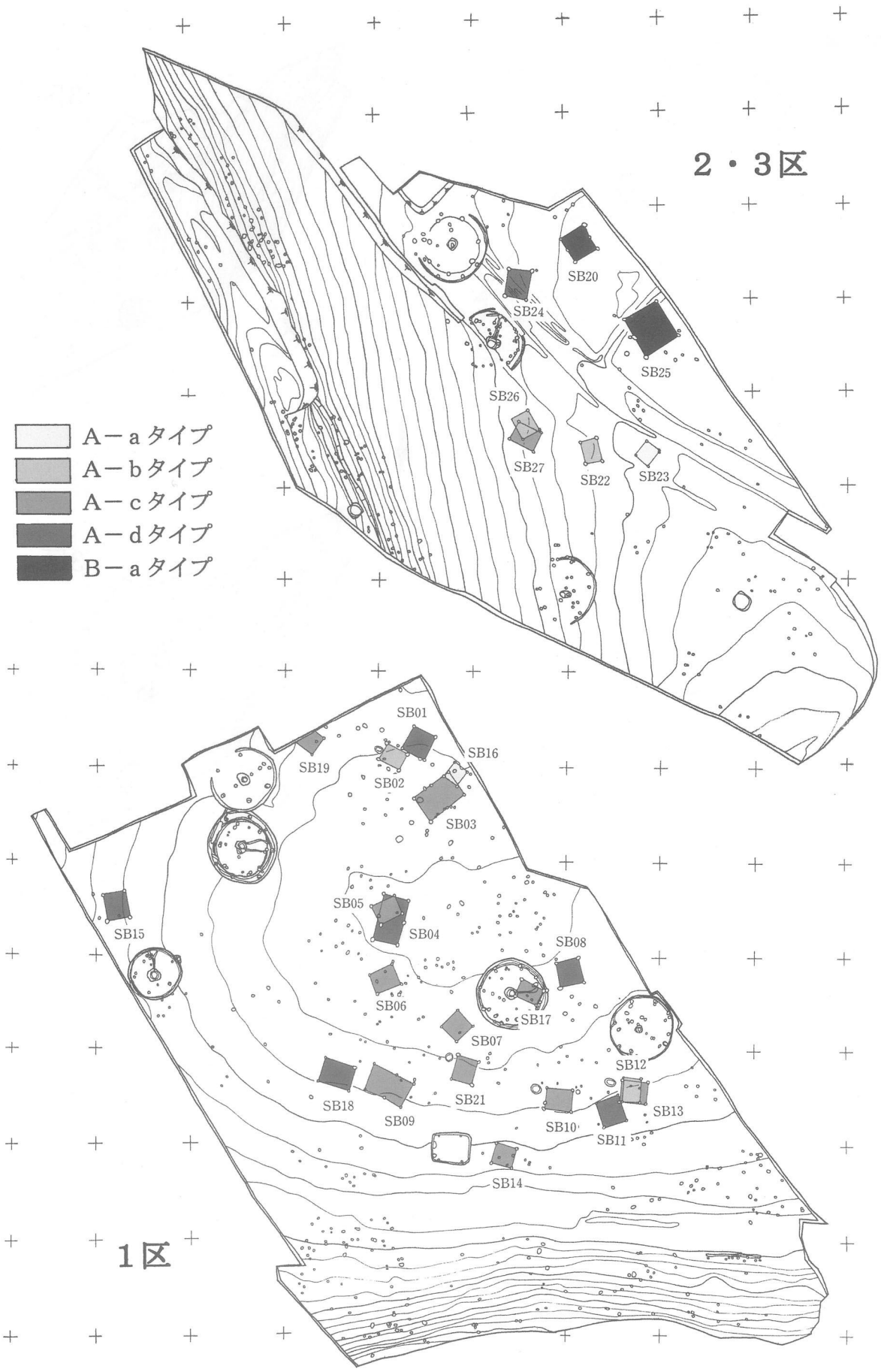
越敷山遺跡群では86棟の掘立柱建物跡が検出されている。内訳は１×１間が31棟（36.0%）、１×２間が49棟（57.0%）、１×３間が２棟（2.3%）、２×２間が４棟（4.7%）となり、１×２間のＢタイプが全体の過半数を占める。しかしその規模は1.6～2.4m×2.3～3.8mの範囲に集中しており、これは荻名第３遺跡のＡタイプの規模とほぼ一致している。そこで越敷山遺跡群のＡＢ両タイプの掘立柱建物跡を、荻名第３遺跡のＡタイプ細分法によって分類を試みたが、遺跡内における立地の傾向は見いだせなかった。

４．土坑状遺構について

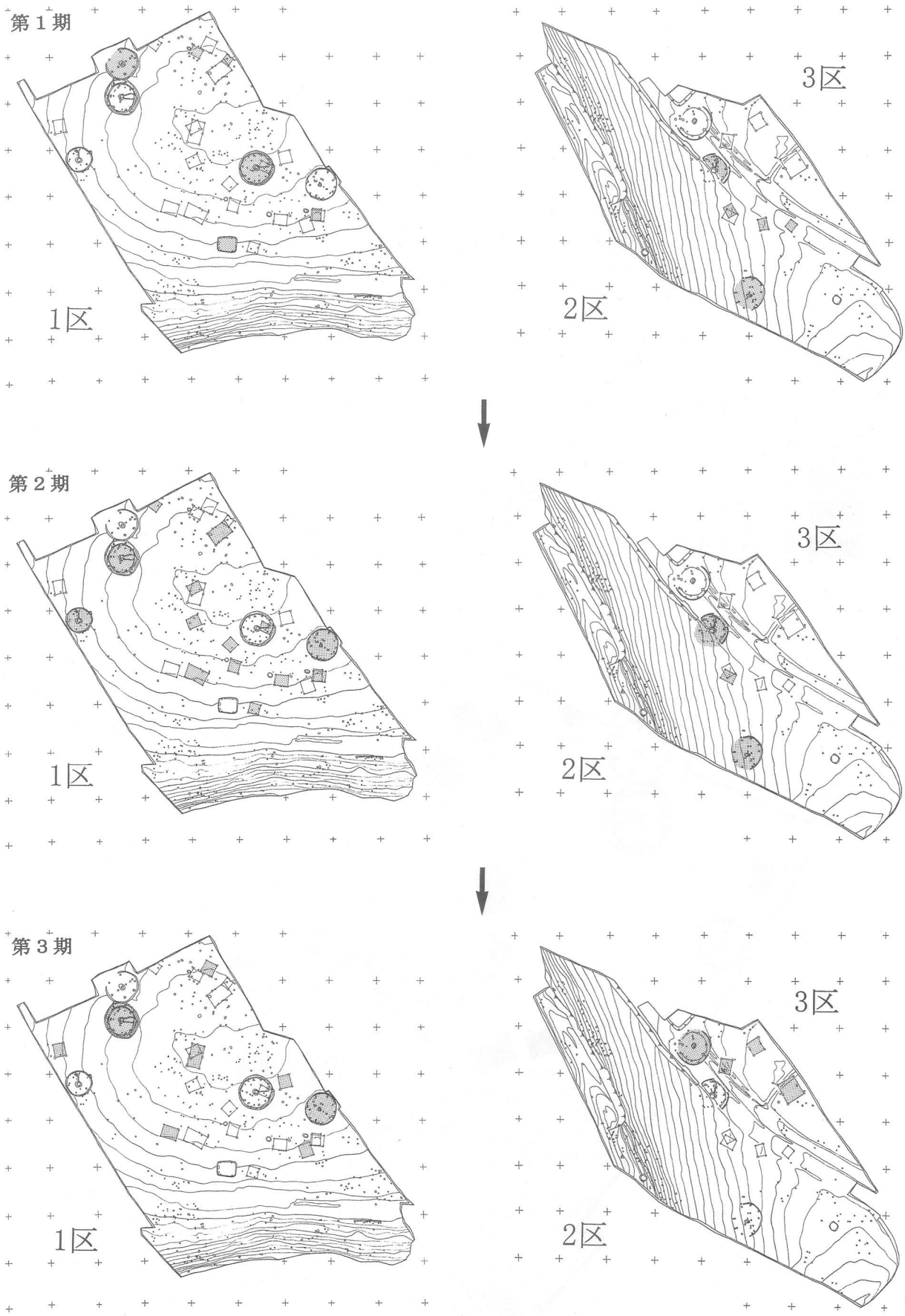
SK01、02、04、06の四つは掘立柱建物跡の北西に隣接している。特にSK01の周りにはSB11、12、13という３時期の掘立柱建物が建てられており、土坑と建物との関連性を強く示している。越敷山３ｃ区は中期後葉、越敷山Ⅱ期の竪穴住居と貯蔵穴が検出されている。他の調査区においても土坑の多くから弥生時代中期の遺物が出土しており、越敷山の中期の貯蔵施設は穴蔵が主流であったと考えられる。後期には掘立柱建物を倉庫として使用したが、荻名第３遺跡では穴蔵が併用されていたと考える。品物によって収納を分けたのであろう。こうした土坑と掘立柱建物との組み合わせを越敷山遺跡群で探したが、該当するものは存在しなかった。

側溝を持つSK11については越敷山３ｃ区SK－32、天王原遺跡Ｃ区SK－09、Ｅ区SK－27、29に類例が見られる。これらの土坑は入り口が窄まる袋状を呈し、貯蔵穴と推測されるものである。底面しか残らないSK11もまたこのような形態の貯蔵施設であったと考えられる。

５．遺跡内の変遷



挿図48　堀立柱建物跡タイプ別分布図



挿図49　荻名第3遺跡変遷図

調査区内における遺構の変遷を、すべての遺構が越敷山Ⅳ期に属するものと仮定したうえで、出土した土器の編年と掘立柱建物のタイプ差、遺構の切り合いから、大きく3時期に分けて図示した（挿図49）。

第1期　Ⅳ期古段階の時期で、竪穴住居は土器編年からSI02、SI05、SI06、SI08、SI09、掘立柱建物はA－a、bタイプとした。土坑は掘立柱建物との関連からSK01、SK06と、SI04との切り合いからSK12を想定する。この時期は1×2間の大型の倉庫を伴わず、1×1間の小型倉庫と貯蔵穴を使用していたと考える。2・3区ではSI08とSI09の中間に掘立柱建物が立ち並び、またSK11が使用された。

第2期　Ⅳ期新段階前半を想定した。竪穴住居SI06に代わりSI03が立ち、小型の住居SI04がその南西側の離れた位置に立つ。第1期のSI02とSI05の位置関係と類似するものである。SI01がSI02の隣に立ち、SI02の廃絶後に掘立柱建物SB17が建てられる。1区の平坦面はA－cタイプの建物が立ち並ぶ様相を見せる。1×2間の大型の倉庫が現れるが、貯蔵穴を伴う1×1間の小型倉庫も依然として存在する。2、3区ではSI08、SI09が継続する。西側斜面で貯蔵穴SK15が使用され、SD16はその排水施設と考える。

第3期　Ⅳ期新段階後半。1区ではSI01、SI03が継続し、掘立柱建物はA－cタイプにA－dタイプが加わり、順次移行していく。2・3区ではSI07が現れ、その東側に掘立柱建物A－d、B－aタイプが建てられる。

調査区全体の傾向としては集落の立地する平坦面の中央は掘立柱建物群が立地し、竪穴住居跡がそれを取り囲むように建てられている。この配置は越敷山の中心地区である17～20区で共通して見ることができる（挿図50）。共有スペースの平坦な広場とそこに建てられた掘立柱建物の倉庫群、それを囲む竪穴住居が小さな集落単位を形成していたとみられる。これらの集団間では建物の規模や出土遺物に差異を認めることはできない。越敷山遺跡群は尾根上に立地する複数の集落単位がそれぞれ対等の関係で共存し、結びついていたと考える。

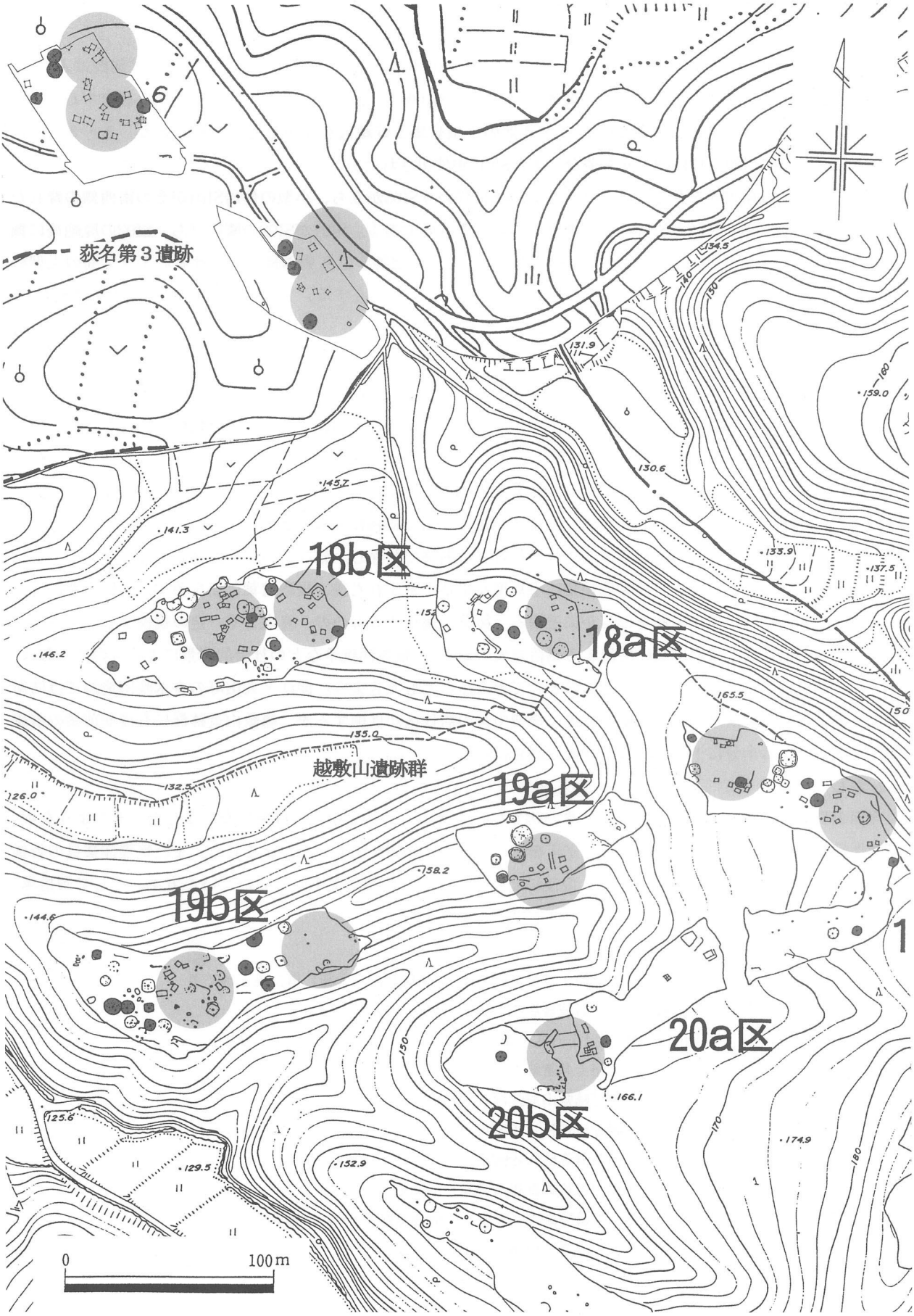
越敷山遺跡群の集落は弥生時代中期後葉に小規模な集落が営まれた後、後期前葉に姿を消す。後期中葉に再び人々が集住し、その規模は中期をはるかに上回る。後葉に縮小するものの、終末まで一定の規模を有している。後期前葉の空白期間と後期中葉に突出する集落規模の拡大が、地域間抗争などの社会的背景によるものであれば、出土する鉄鏃は軍事的緊張を示唆するものとして捉えることもできよう。淀江・大山町の妻木晩田遺跡では防衛拠点とみられる後期前葉の環濠集落の背後に後期中葉の居住区が展開するが、越敷山遺跡群にも後期前葉の前線的な地区の存在は十分に予想される。今後の調査に期待したい。

6．おわりに

今回の発掘調査は現場に水源がなく、また例年になく暑い日が続く中での作業になりました。そのような中、発掘作業員の皆様には、未熟な調査員を支えながら献身的に作業をしていただきました。また整理作業員の皆様には様々な面で御協力いただきました。最後になりましたが、作業に従事していただいた方々、そして御指導、御協力いただいた方々に厚く御礼を申し上げます。

参考文献

中川　寧「山陰の後期弥生土器における編年と地域間関係」『島根考古学会誌』第13集　1996年
都出比呂志『日本農耕社会の成立過程』岩波書店 1989年
湯村　功「庄内式併行期の山陰の様相」『庄内式土器研究』18　1998年
財団法人鳥取市教育福祉振興会『西大路土井遺跡』1993年
会見町教育委員会・岸本町教育委員会『越敷山遺跡群』1994年
会見町教育委員会『天王原遺跡発掘調査報告書』1993年
財団法人鳥取県教育文化財団『天萬土井前遺跡』1997年
兵庫県教育委員会『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅱ』1983年
兵庫県教育委員会『北摂ニュータウン内遺跡調査報告書Ⅳ－有鼻遺跡(1)－』1999年
兵庫県教育委員会『玉津田中遺跡　第6分冊』1996年
津山市教育委員会『沼E遺跡Ⅱ』1981年
津山市教育委員会『別所谷遺跡』1994年



挿図50　越敷山Ⅳ期の集落分布図

図　　版

図版１

調査前遠景［１区］
（南東から）

調査前遠景［１区］
（北東から）

調査前遠景［２，３区］
（南東から）

図版 2

調査後遠景［1区］
（北西から）

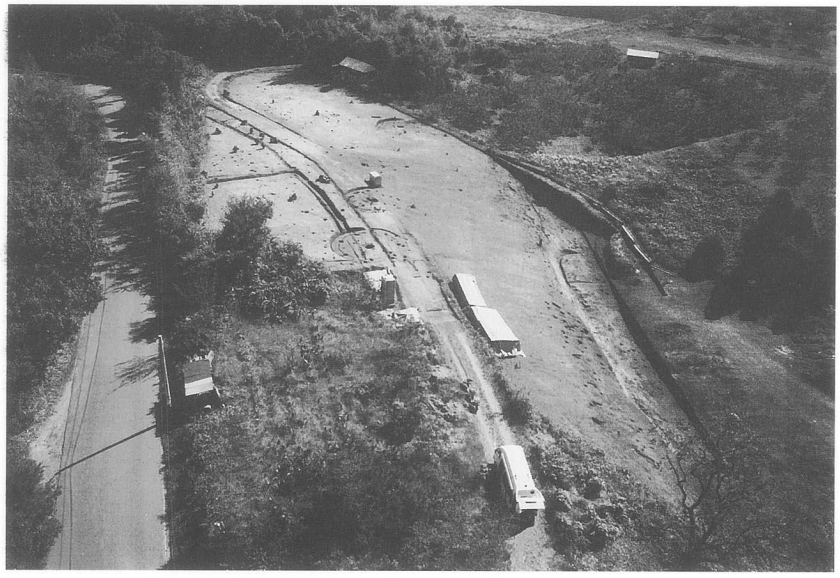
調査後遠景［1区］
（東から）

調査後遠景［1区］
（北東から）

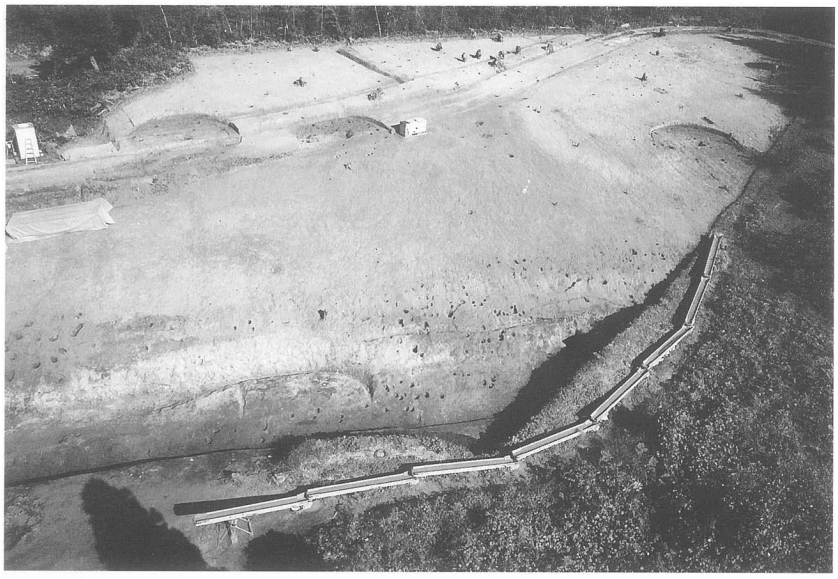
図版 3

調査後遠景［1，2，3区］
（南東から）

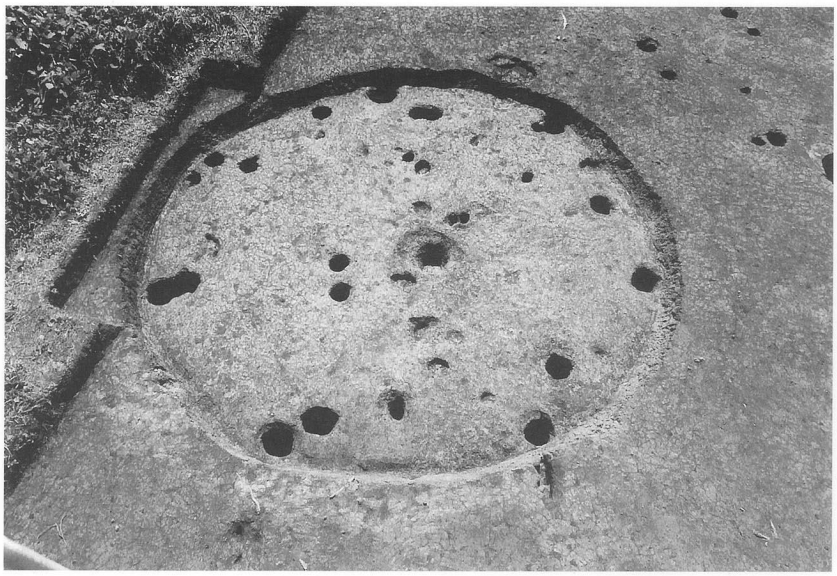
調査後遠景［2，3区］
（北西から）



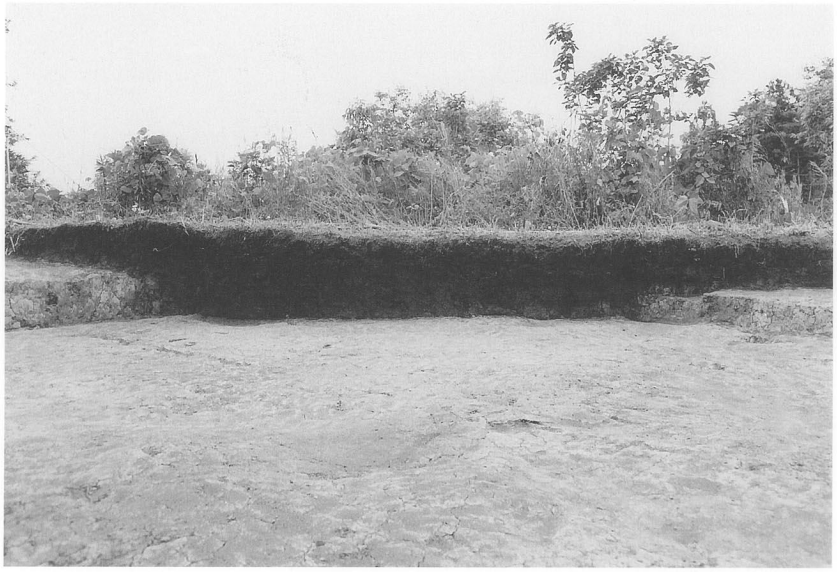
調査後遠景［2，3区］
（南西から）



図版 4

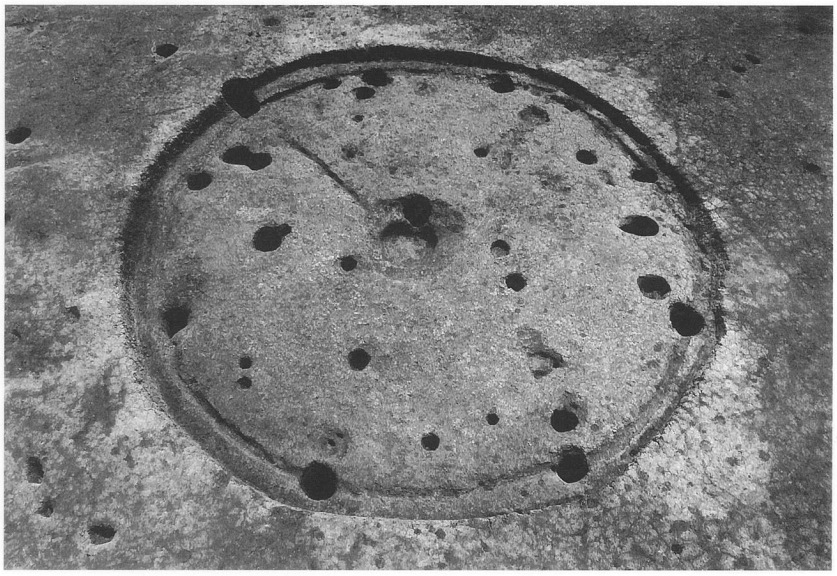


SI01完掘状況
（北北西から）

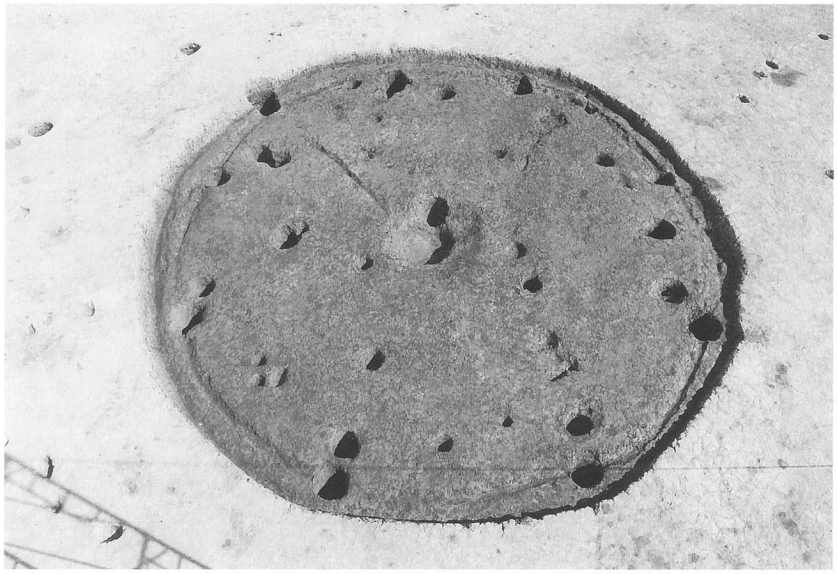


SI01F-F' 土層断面
（南西から）

SI01壺10出土状況
（東から）



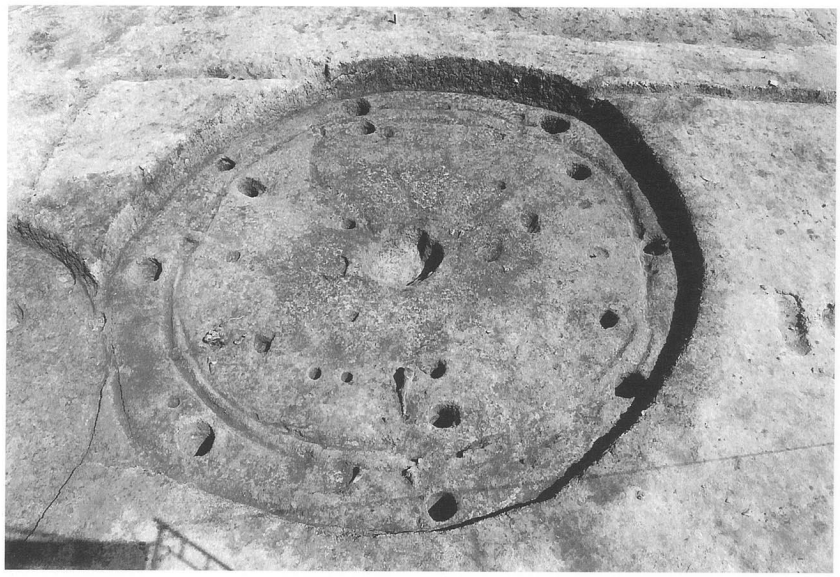
SI02- b 完掘状況
（北西から）



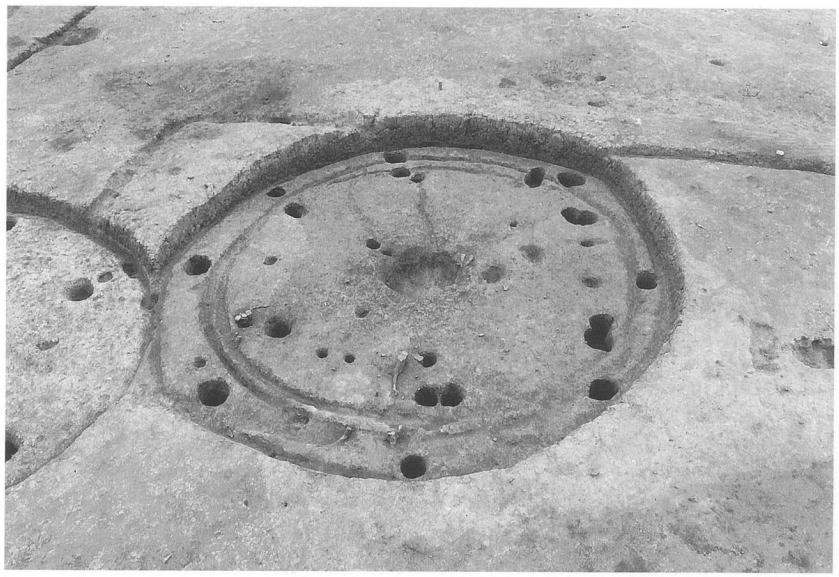
SI02- a 完掘状況
（北西から）

SI02有孔鉢30出土状況
（南から）

図版 6



SI03- c 完掘状況
（西から）

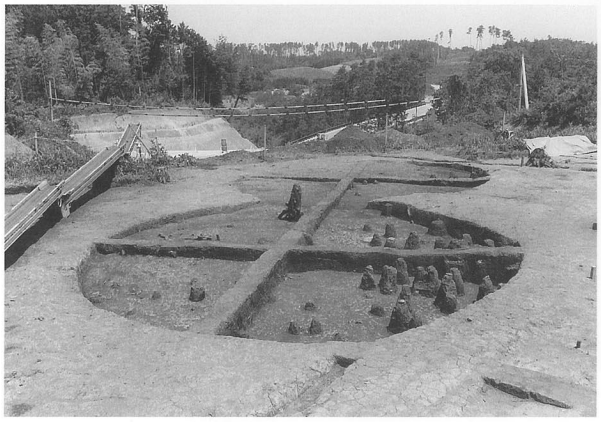


SI03- a， b 完掘状況
（西から）

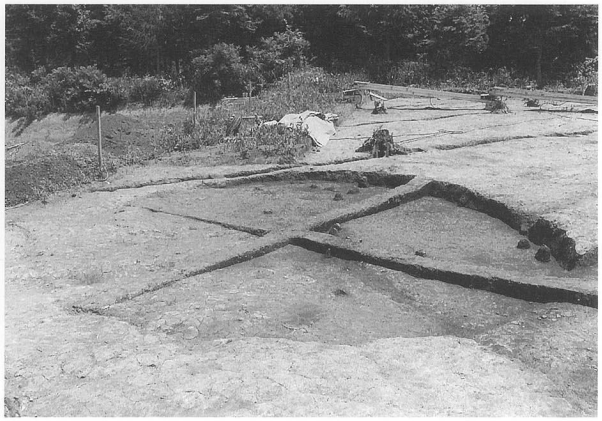
SI03，06A-A’土層断面
（東から）

SI03C-C' 土層断面［西半］（南から）

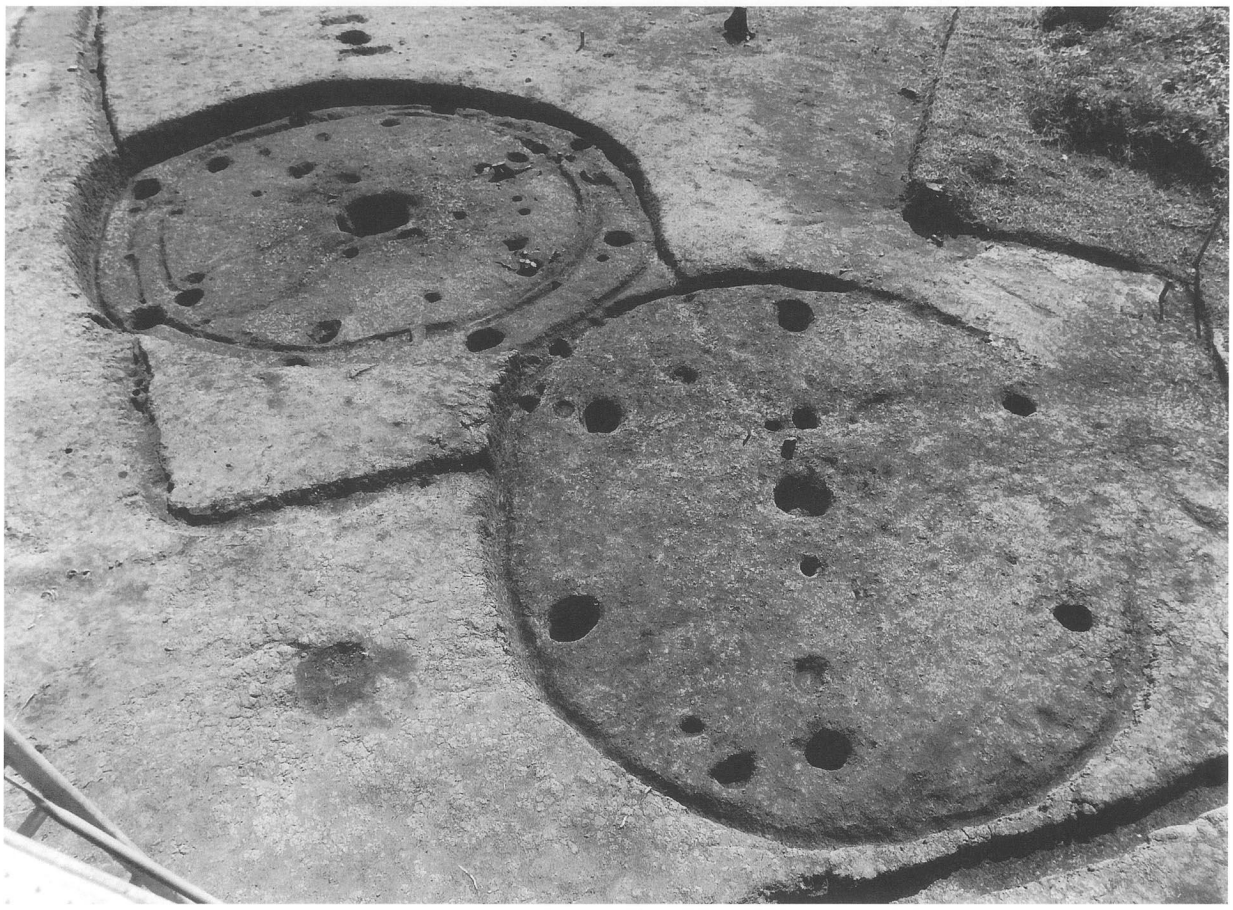
SI03C-C' 土層断面［東半］（南から）



SI03遺物出土状況（南南東から）

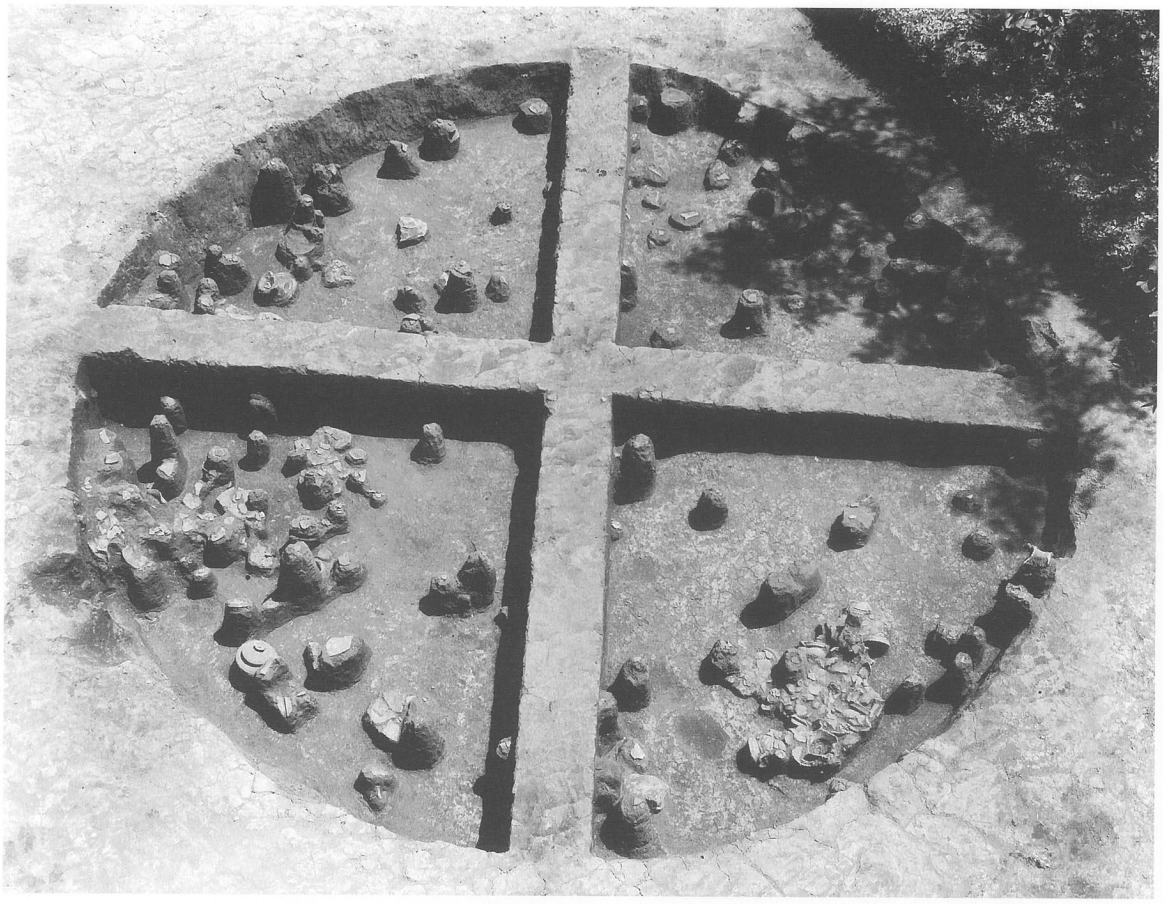


SI06遺物出土状況（南西から）

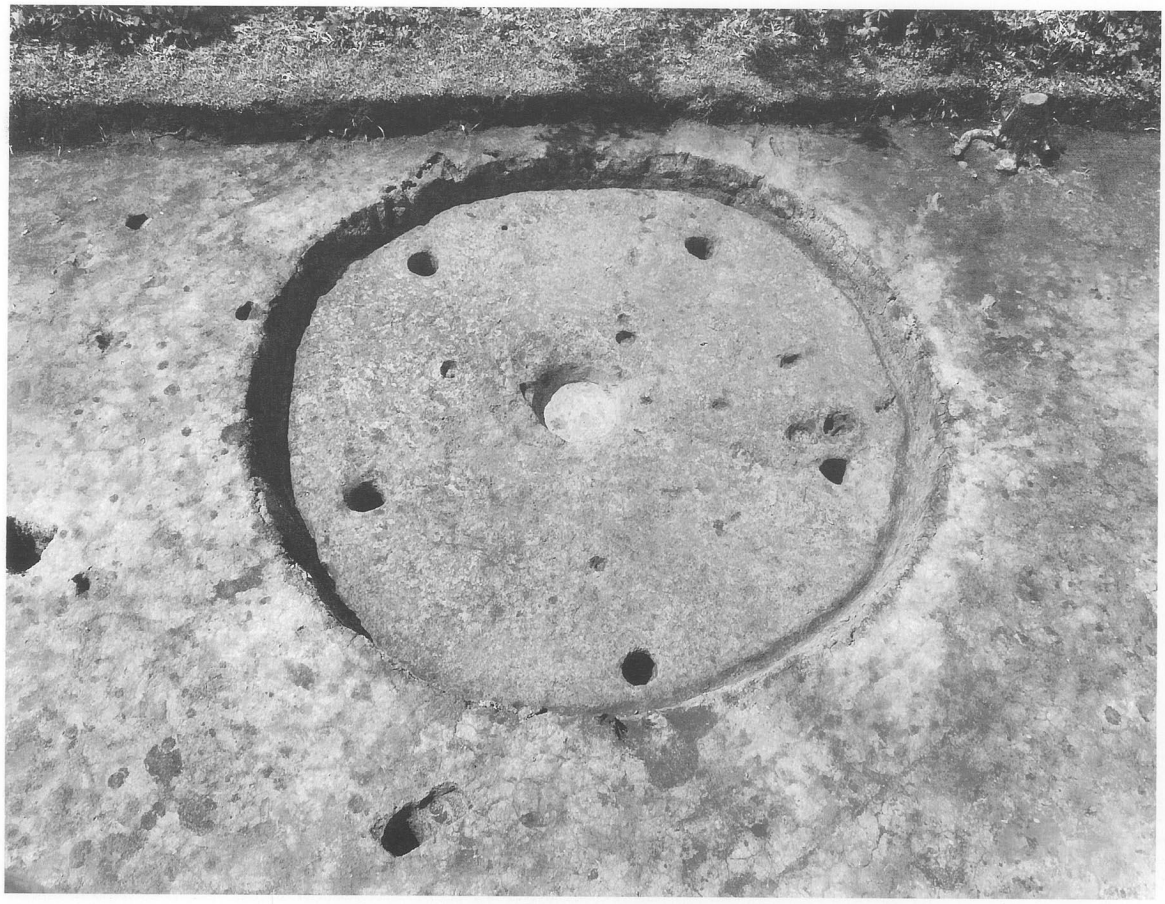


SI03，06完掘状況（北東から）

図版 8



SI04遺物出土状況（北から）



SI04完掘状況（東から）

SI04北西側遺物出土状況（南西から）

SI04北東側遺物出土状況（南東から）

図版10

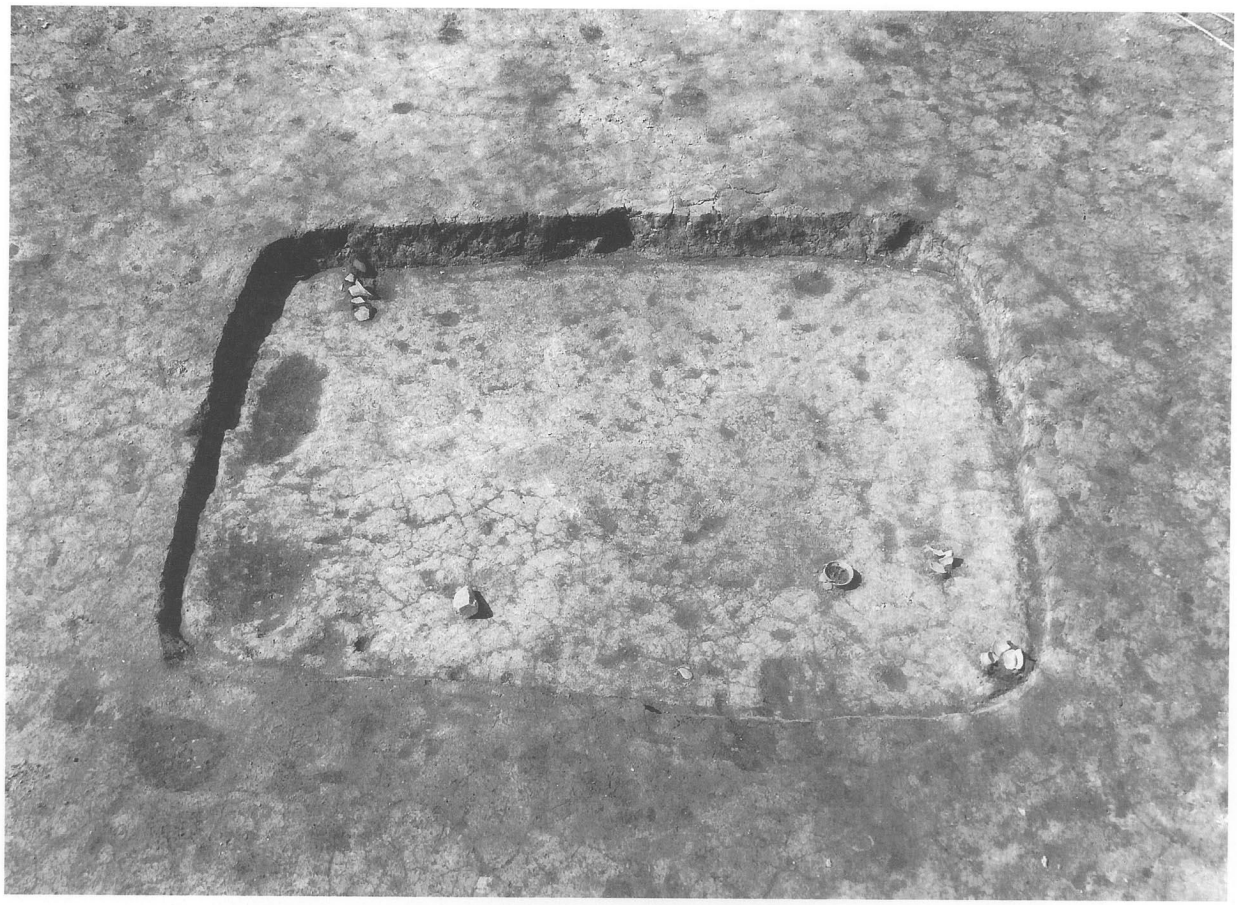
SI04南東側遺物出土状況（南西から）

SI04北東側遺物出土状況（北西から）

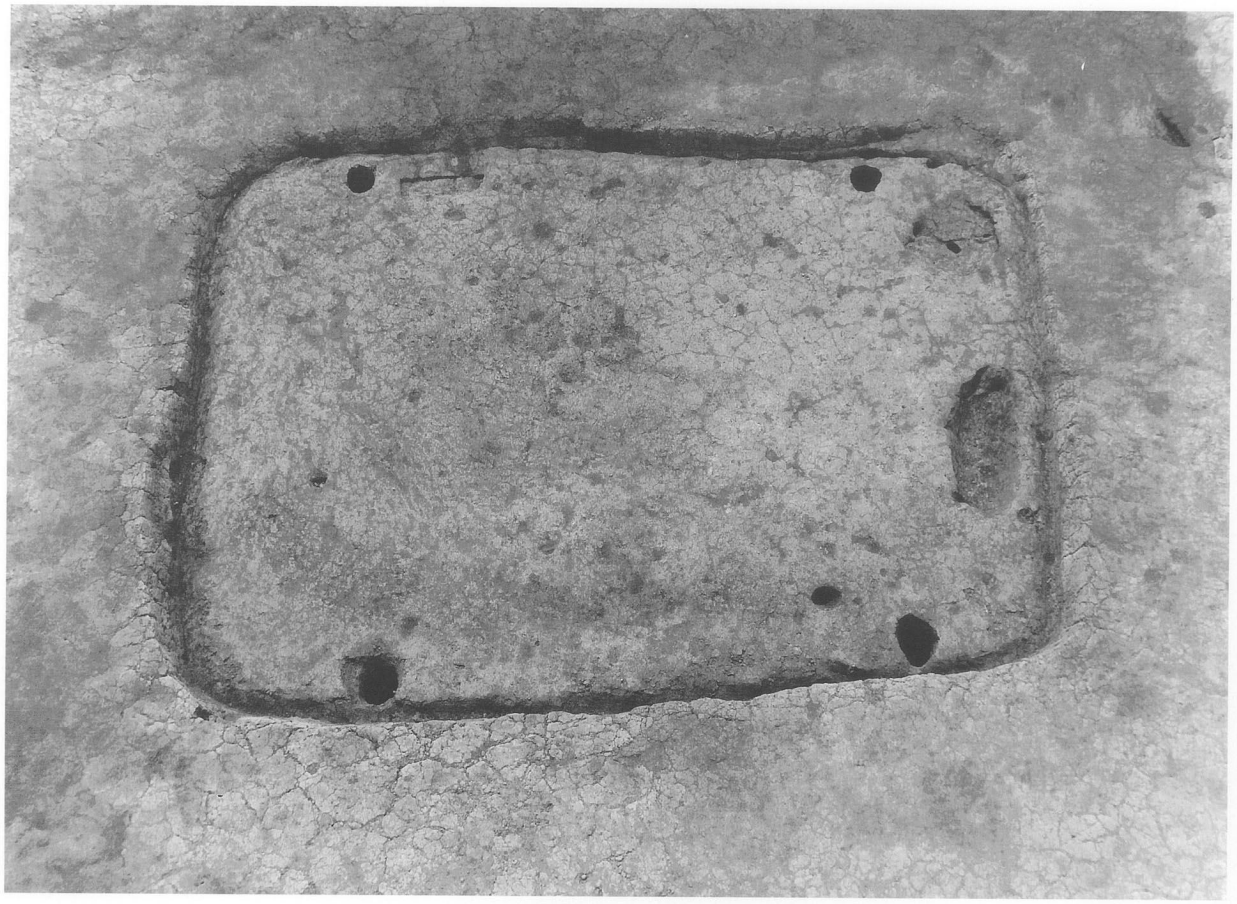
SI04南西側遺物出土状況（北西から）

SI04北西側遺物出土状況（北東から）

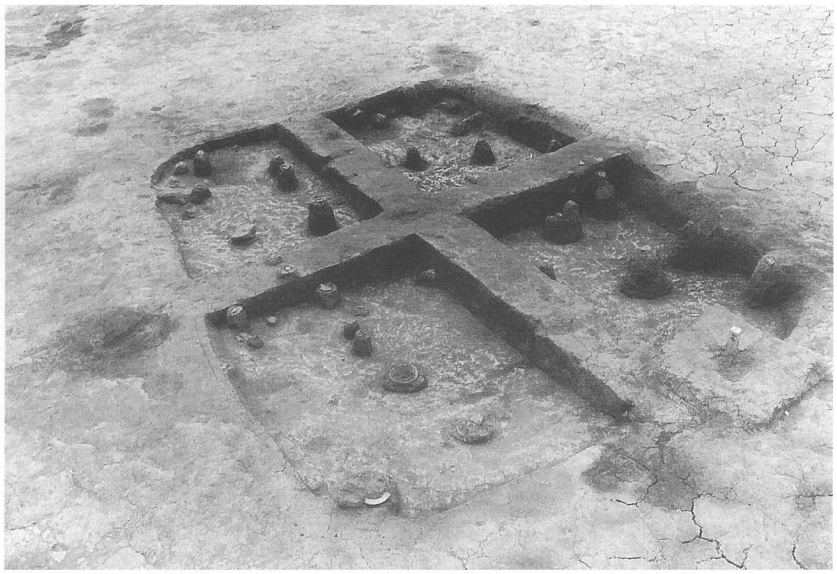
図版12



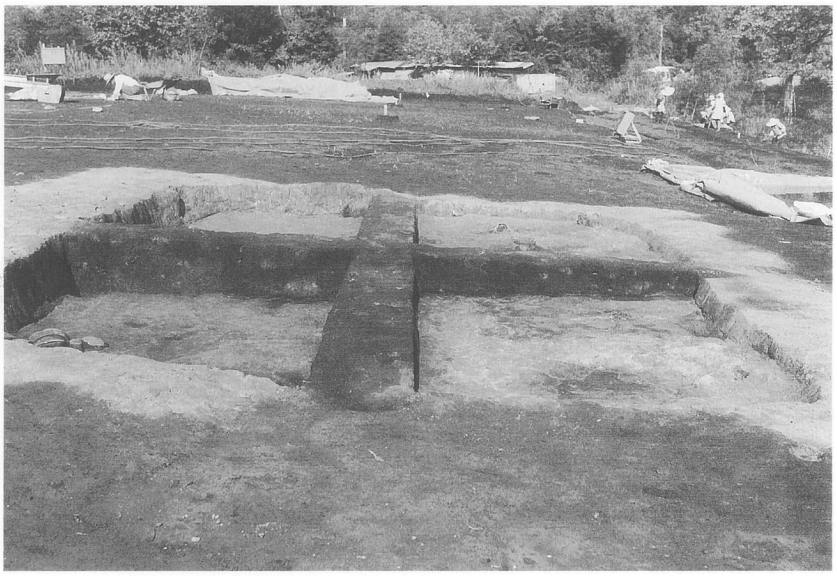
SI05床面遺物出土状況（南から）



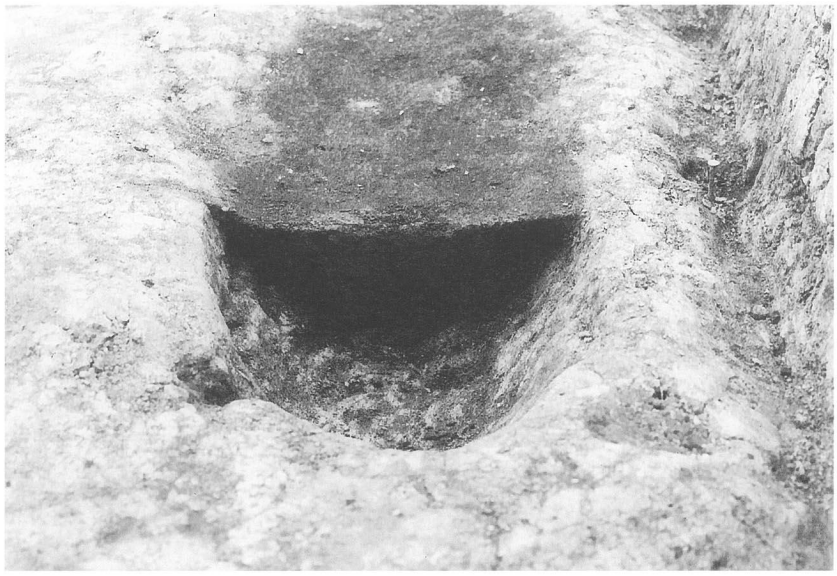
SI05完掘状況（北から）



SI05遺物出土状況
（南東から）

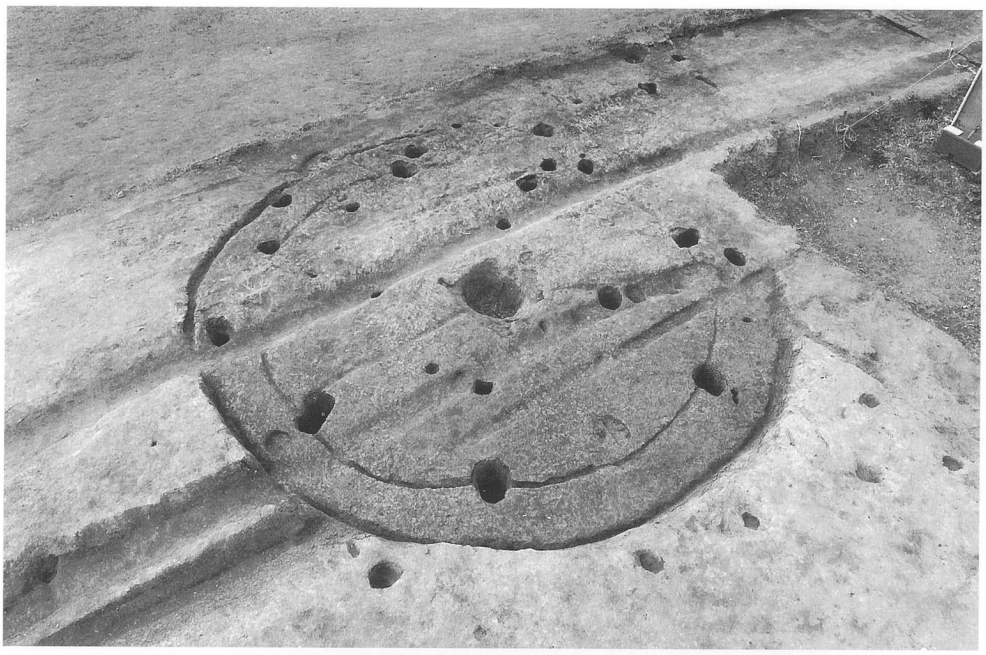


SI05D-D’土層断面
（西から）

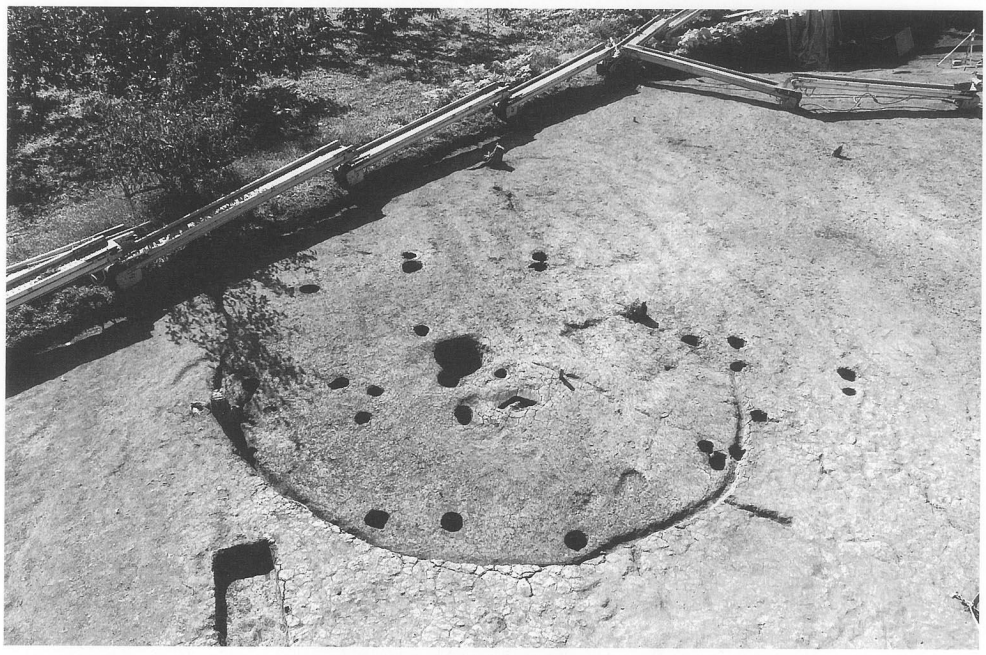


SI05-P 5 土層断面
（北から）

図版14



SI07完掘状況（東から）



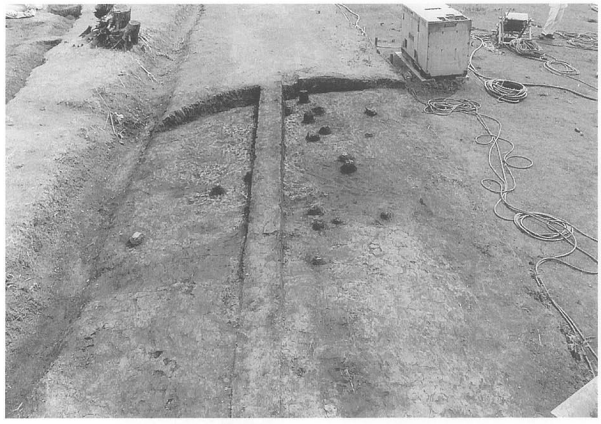
SI08完掘状況（東から）

SI08遺物出土状況（東から）

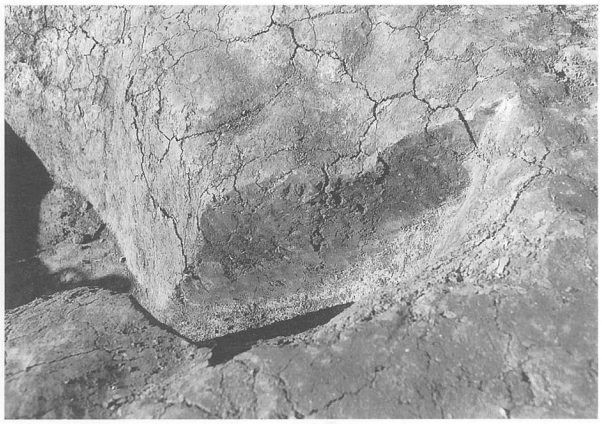
SI08E-E'土層断面（南から）

SI07遺物出土状況（北西から）

SI07A'-A土層断面（東から）



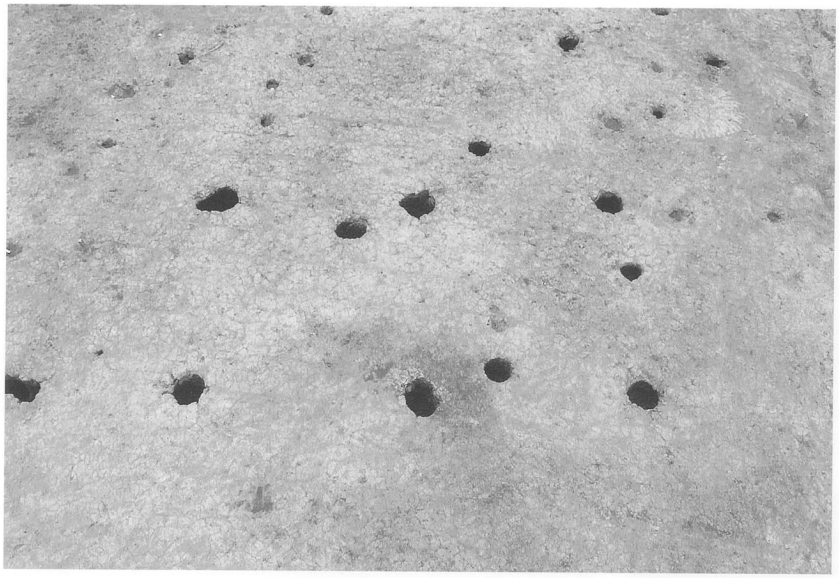
SI09遺物出土状況（北西から）



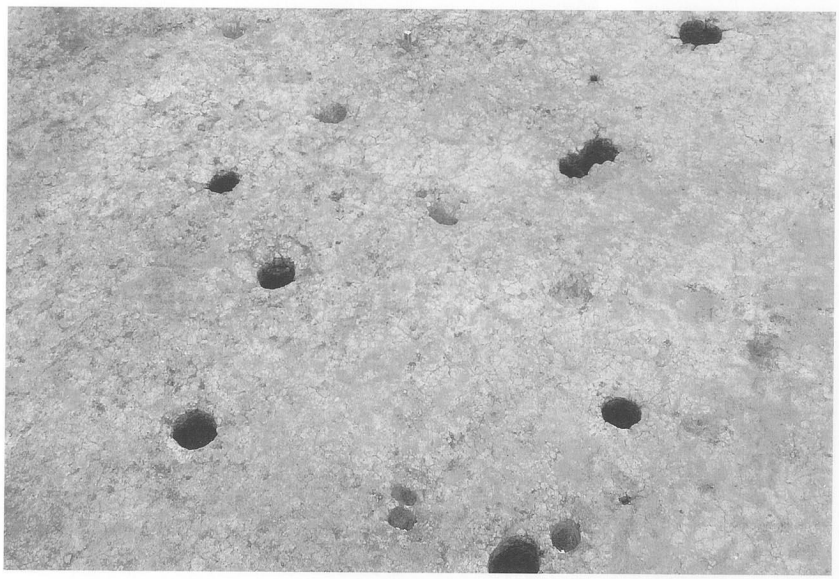
SI09-a中央ピット土層断面（南から）

SI09，07完掘状況（南東から）

図版16



SB04，05完掘状況
（東から）

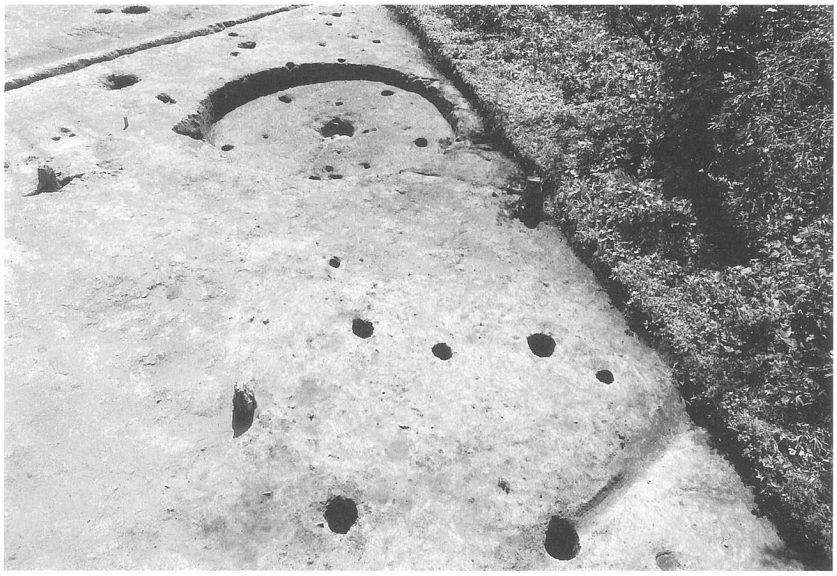


SB06完掘状況
（南南東から）

SB07完掘状況
（西から）

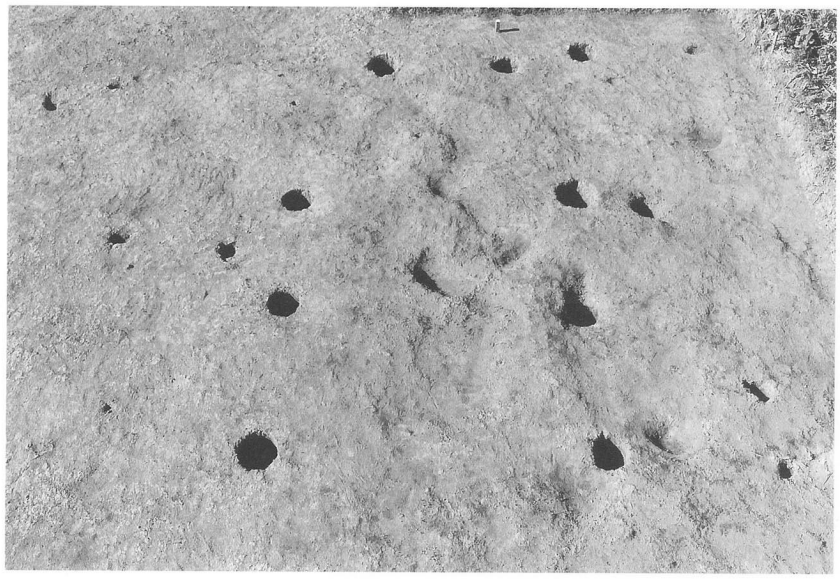
SB09完掘状況
（南西から）

SB11，12，13完掘状況
（南から）



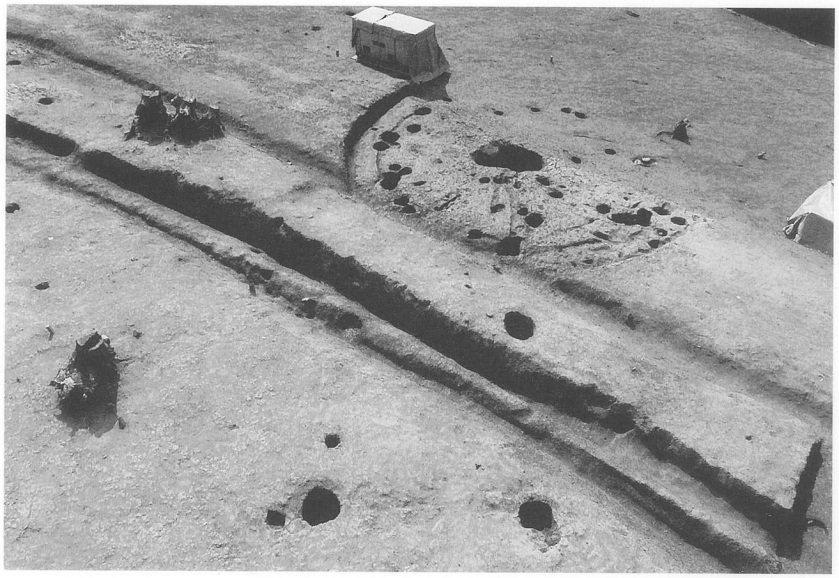
SI04，SB15完掘状況
（北北東から）

図版18



SB20完掘状況
（南東から）

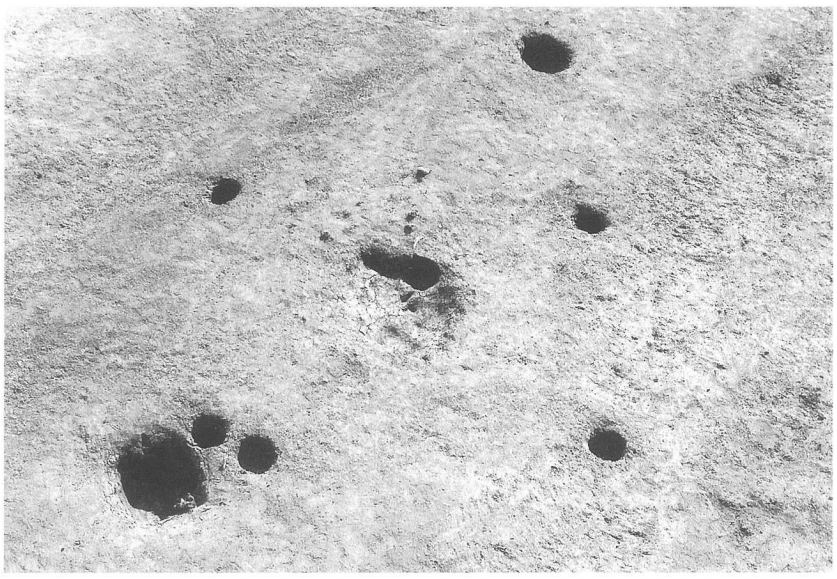
SB22，23完掘状況
（北西から）



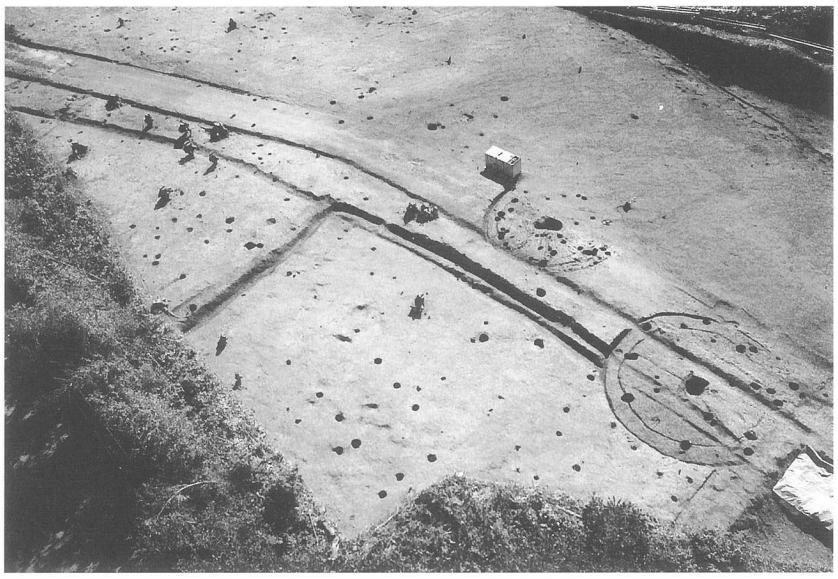
SB24完掘状況
（北から）

SB25完掘状況
（北西から）

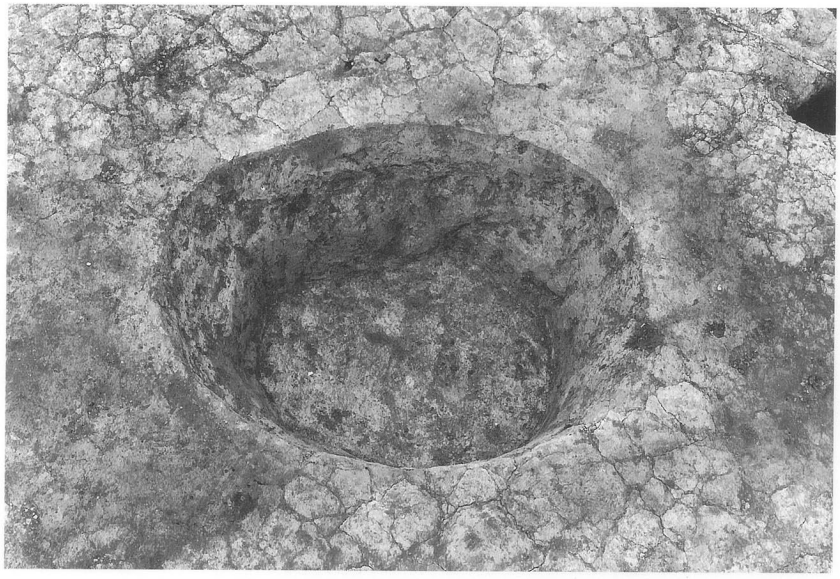
SB26，27完掘状況
（北東から）



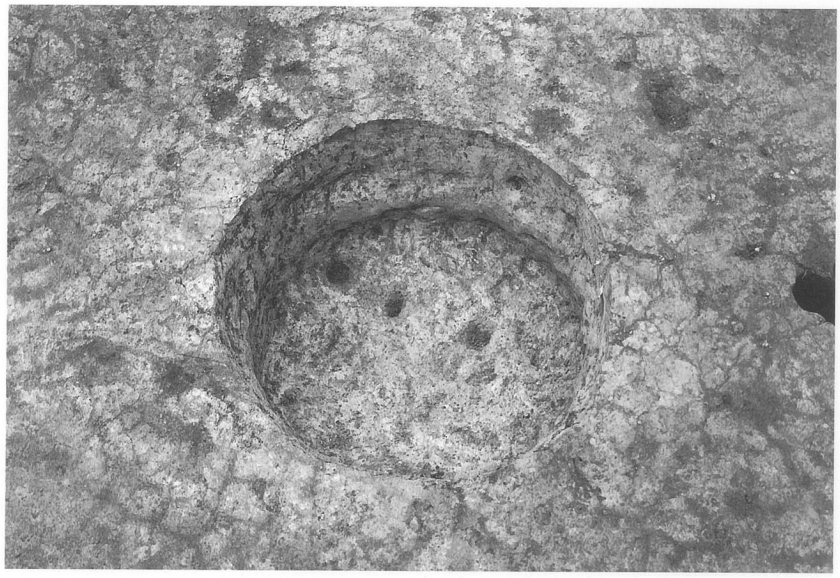
2，３区中央遺構群
（北から）



図版20

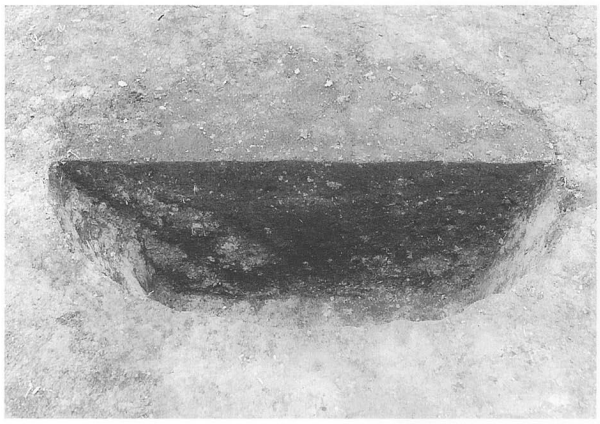


SK01完掘状況
（南西から）

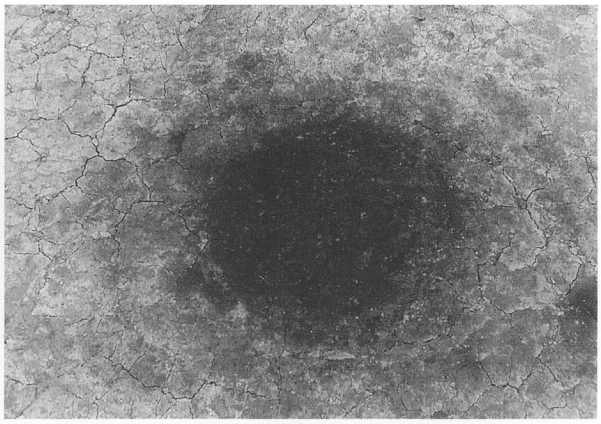


SK02完掘状況
（南から）

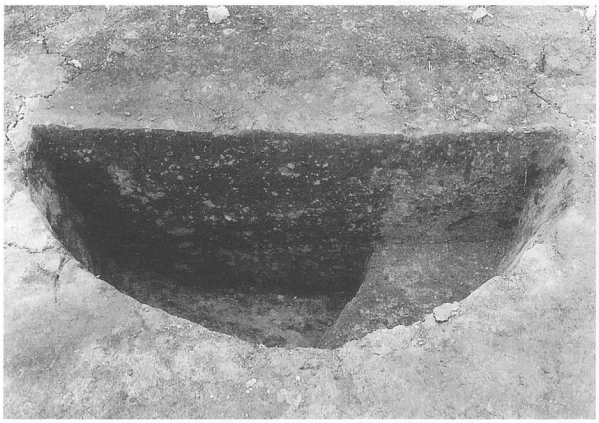
SK04完掘状況
（北から）



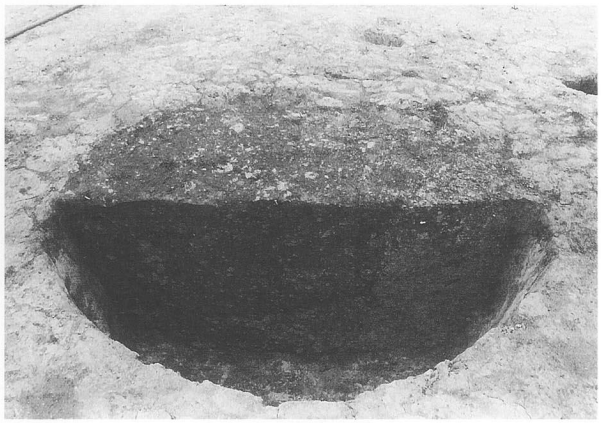
SK01土層断面（南西から）



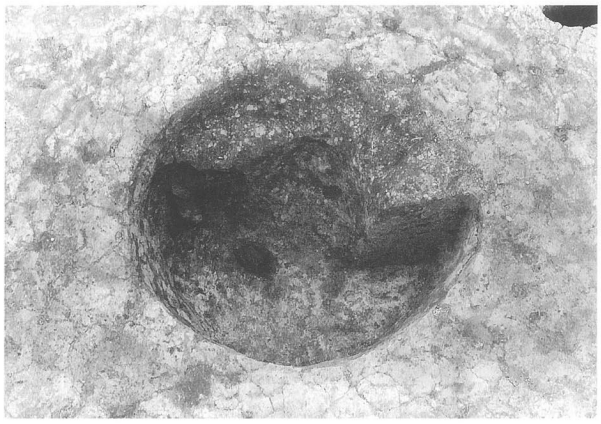
SK02検出状況（南から）



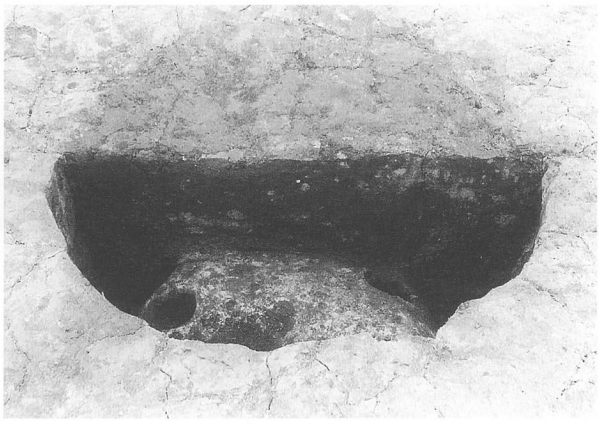
SK02土層断面（南から）



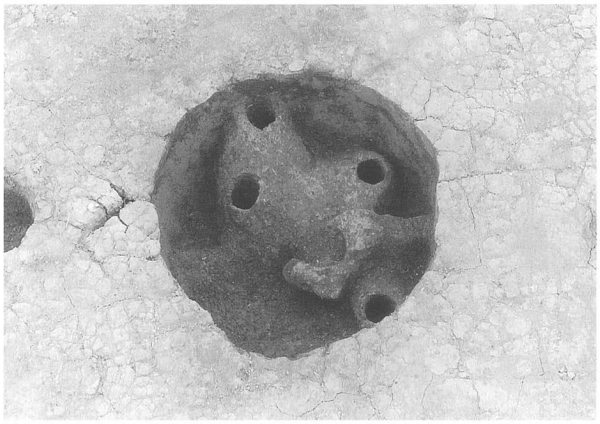
SK02土層断面（南から）



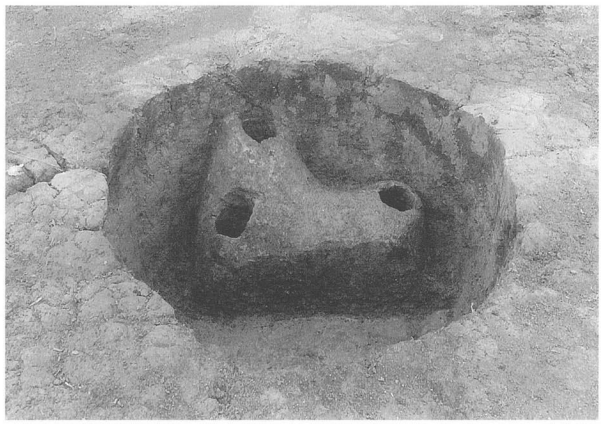
SK02遺物出土状況（南から）



SK04土層断面（南から）



SK04埋土下層検出状況（北から）

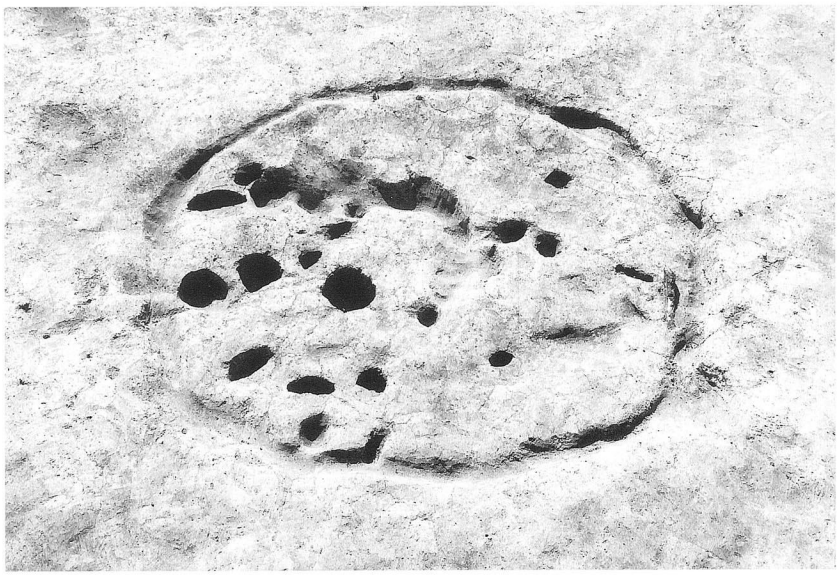


SK04埋土下層土層断面（北から）

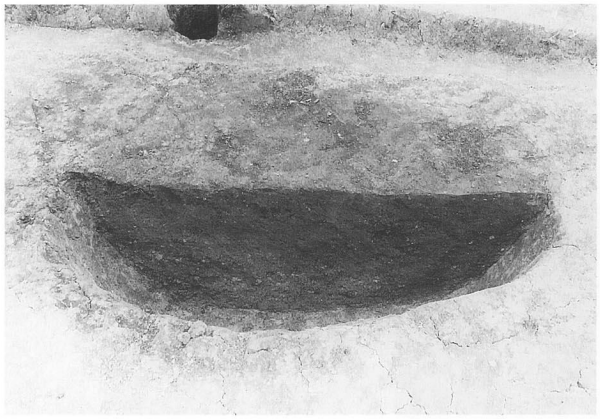
図版22

SK06完掘状況
（北東から）

SK12完掘状況
（北北東から）

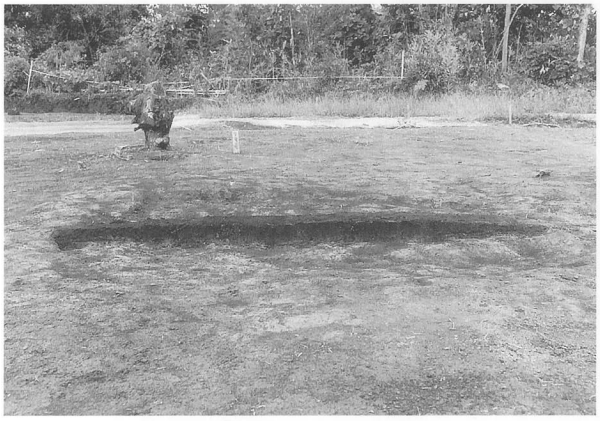


SK11完掘状況
（北東から）

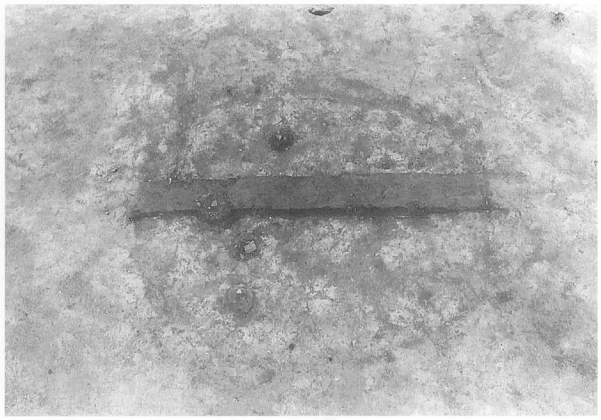


SK06土層断面（北北東から）

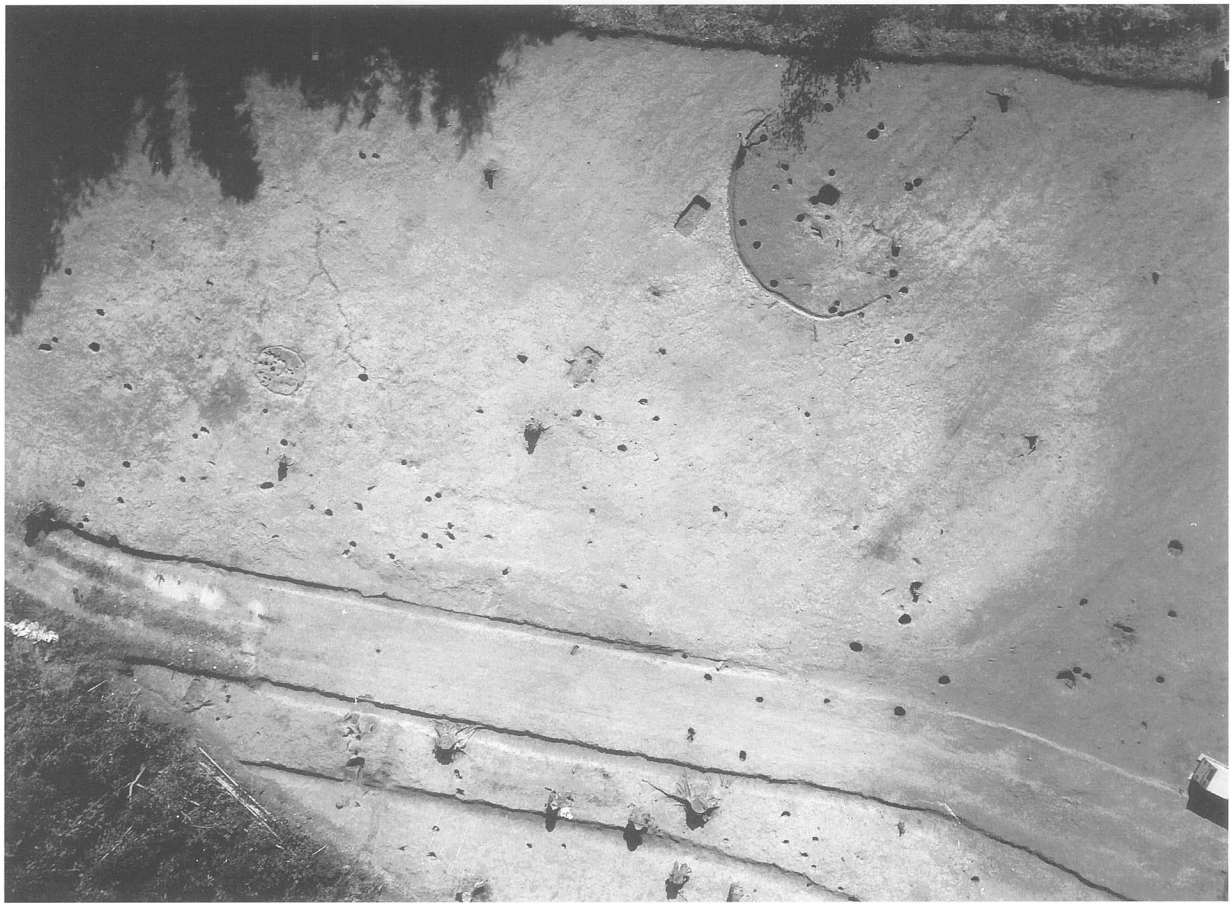
SK12土層断面（南東から）



SK11土層断面（南西から）

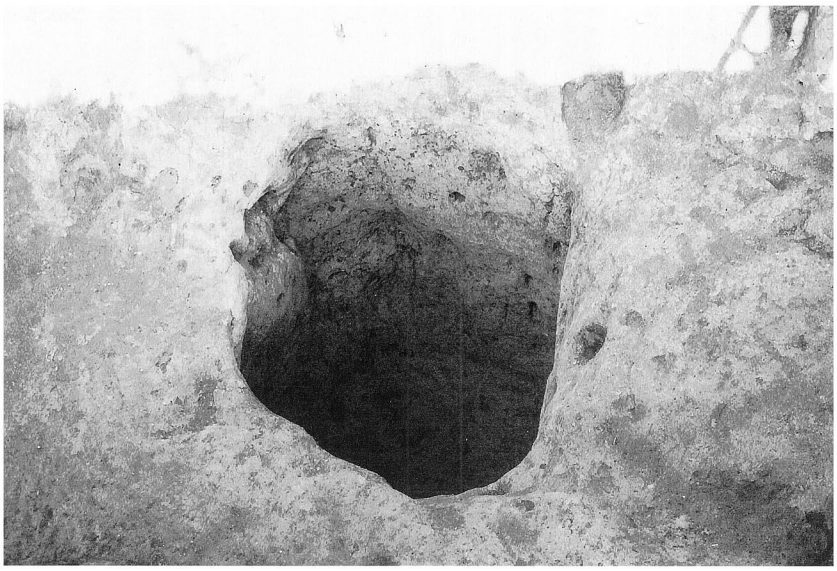


SK11遺物出土状況（南西から）

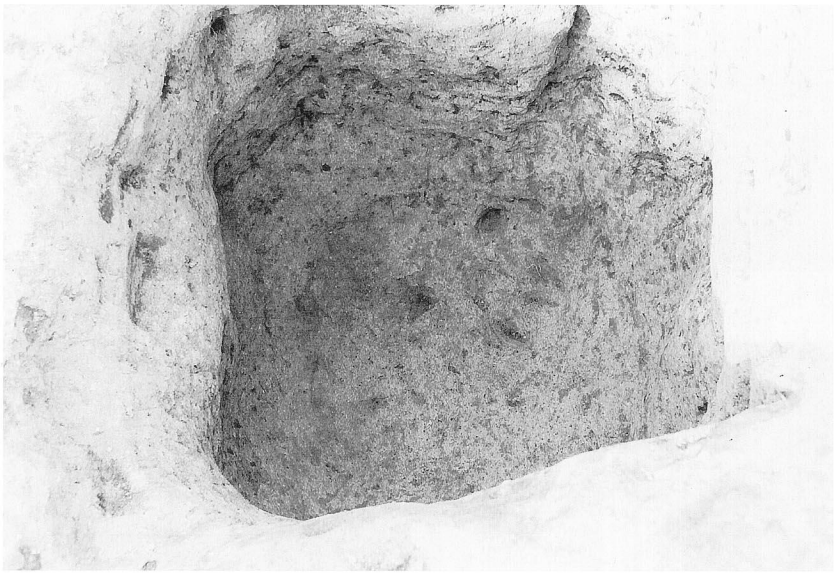


2区東側遺構群（北から）

図版24



SK15完掘状況
（南西から）

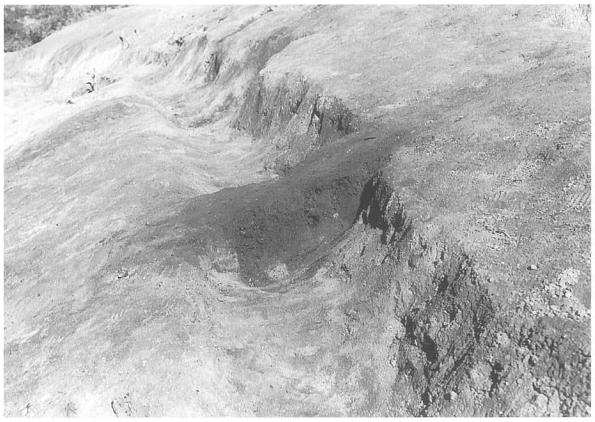


SK15底面
（南東から）

SK15土層断面
（南から）

SS01完掘状況（東から）

SD16完掘状況（南南東から）



SD16A-A’土層断面（南から）

SD16B-B’土層断面（南から）

図版26

10

SI01

39

24

40

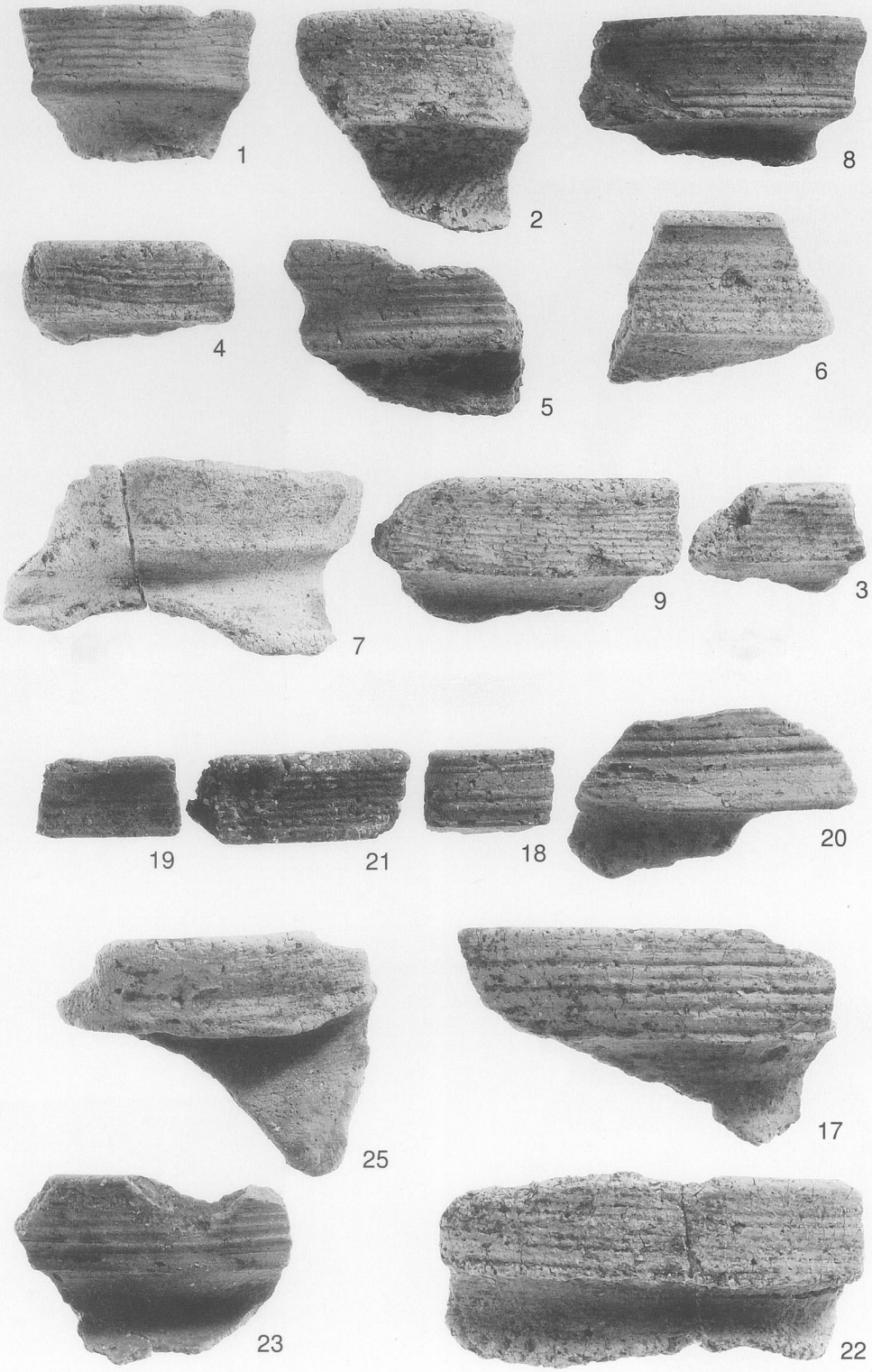
SI03

30

29

SI02

SI01，02，03出土土器

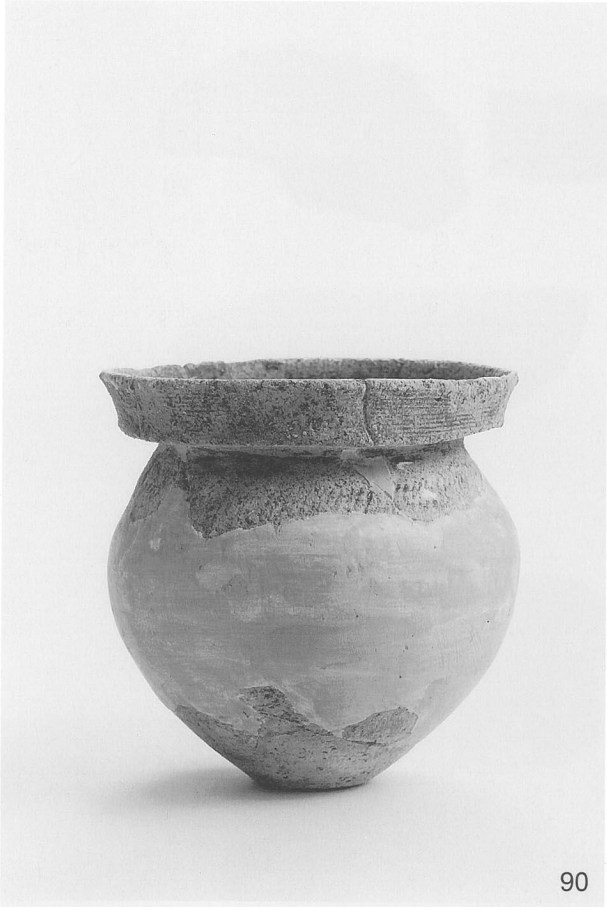


SI01，02出土土器

図版28

57

83


90

84

SI04出土土器（1）

50

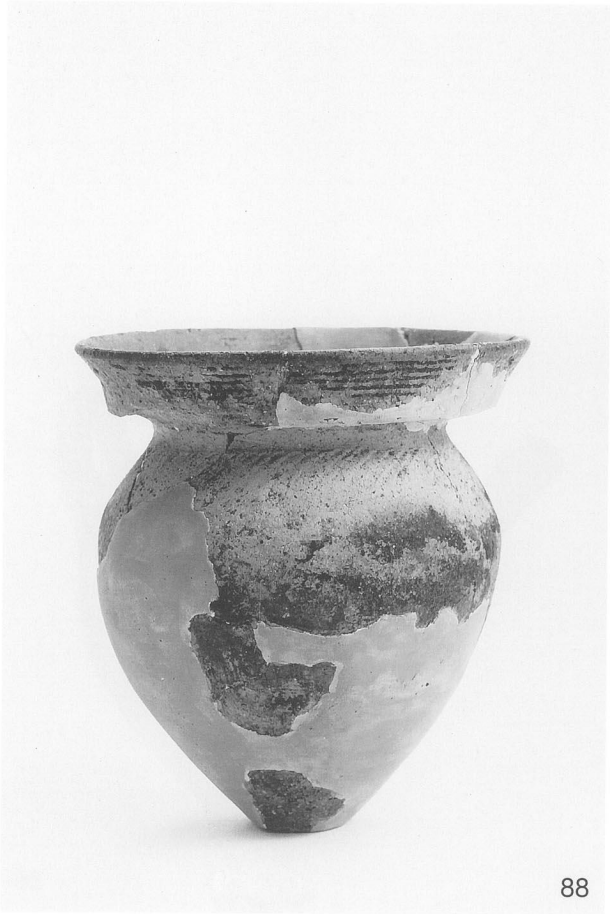
56

51

55

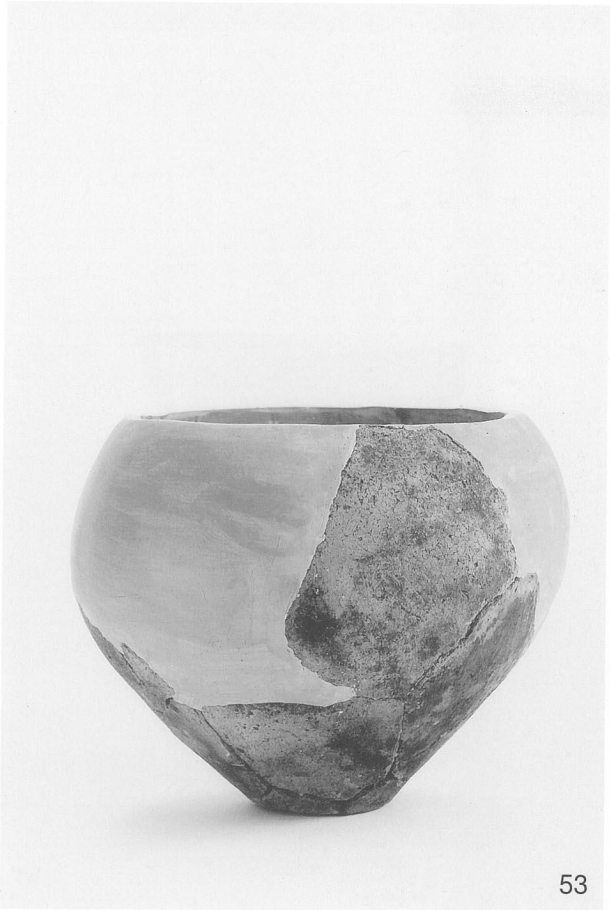
SI04出土土器（2）

図版30


88

59

60


53

SI04出土土器（3）

87

70

89

97

SI04出土土器（4）

図版32

64

95

49

67

66

58

SI04出土土器（5）

76

77

92

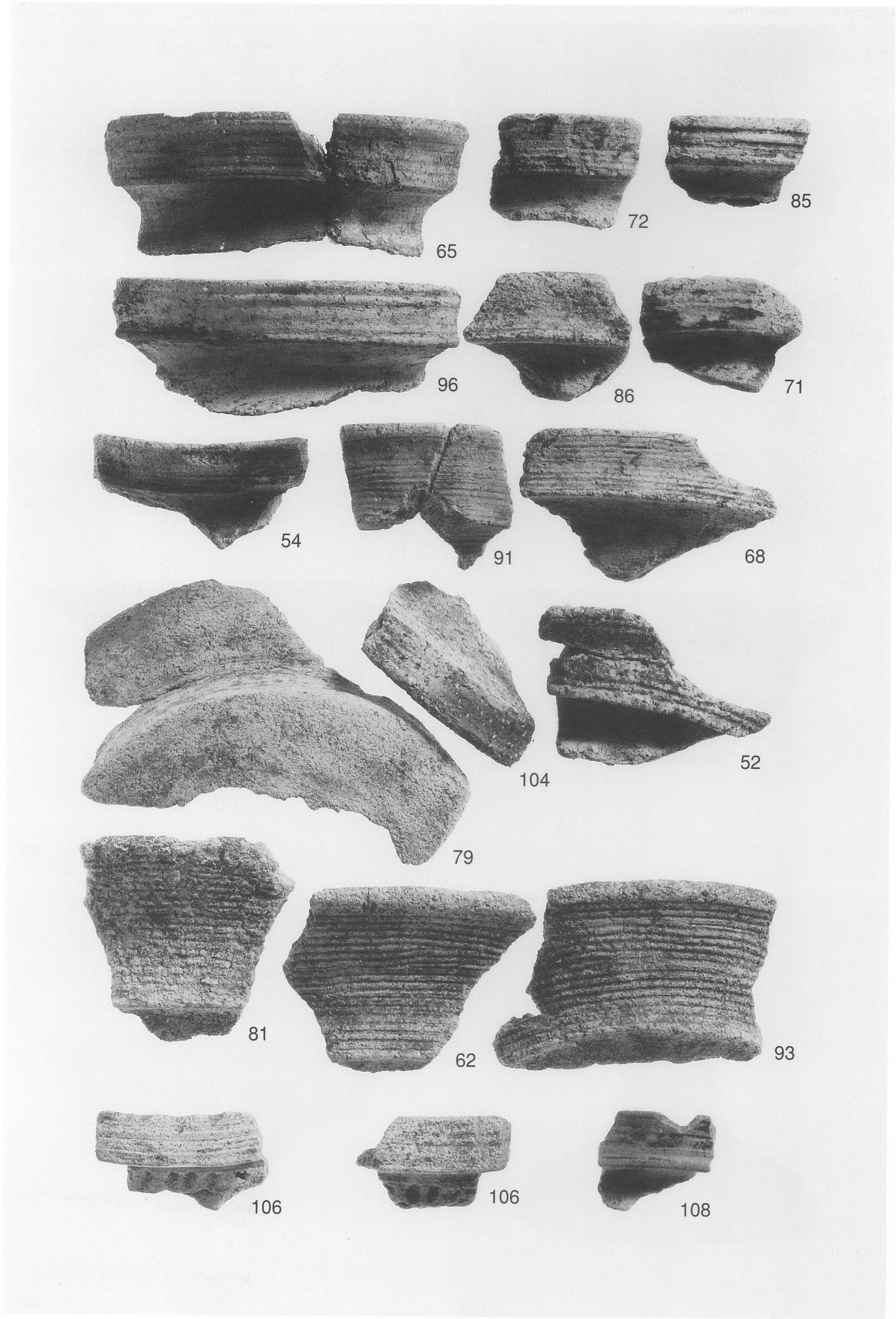
78

105

80

SI04出土土器（6）

図版34



SI04，05出土土器

107

114

SI07

109

139

P446

111

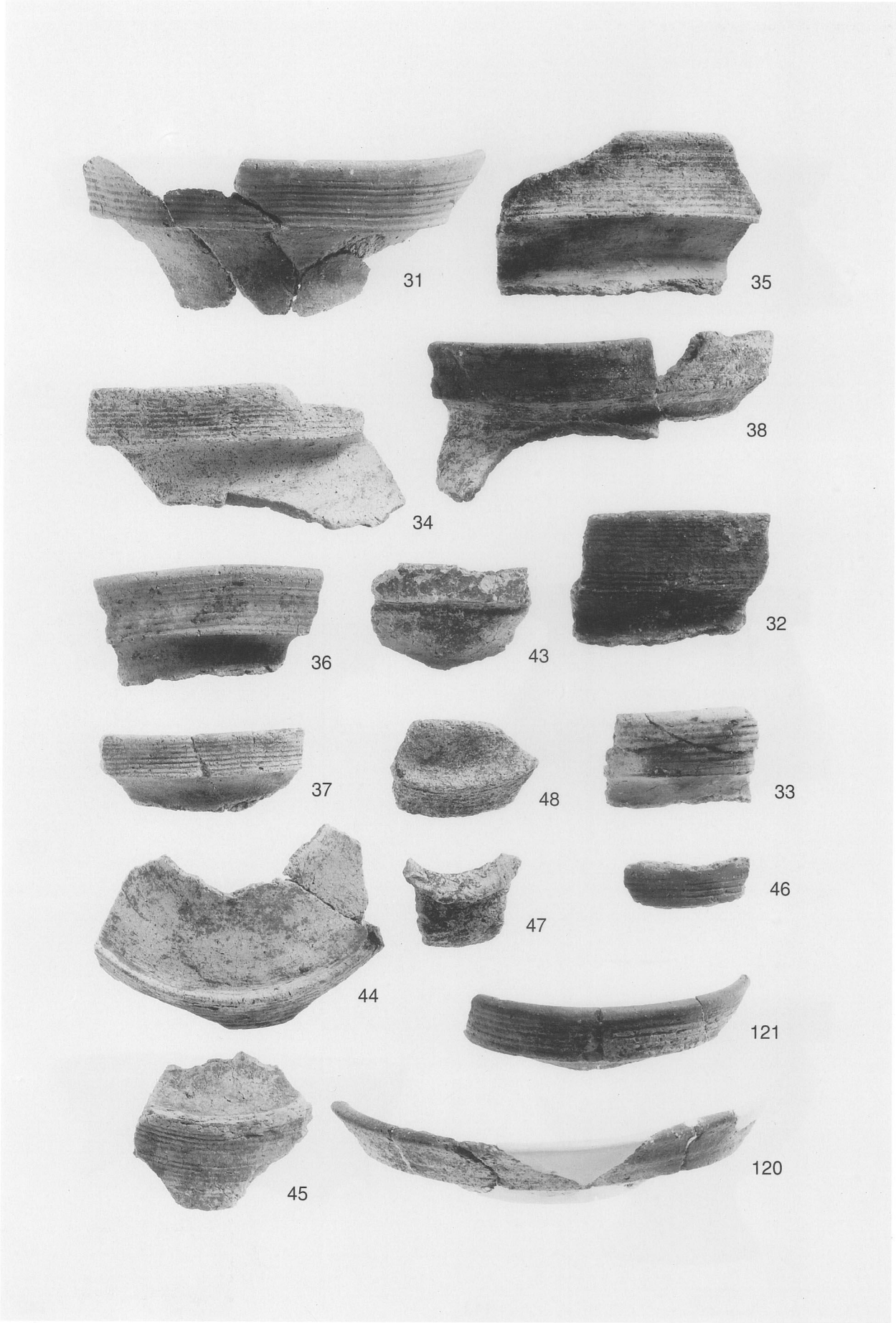
SI05

142

P1097

SI05，07，ピット出土土器

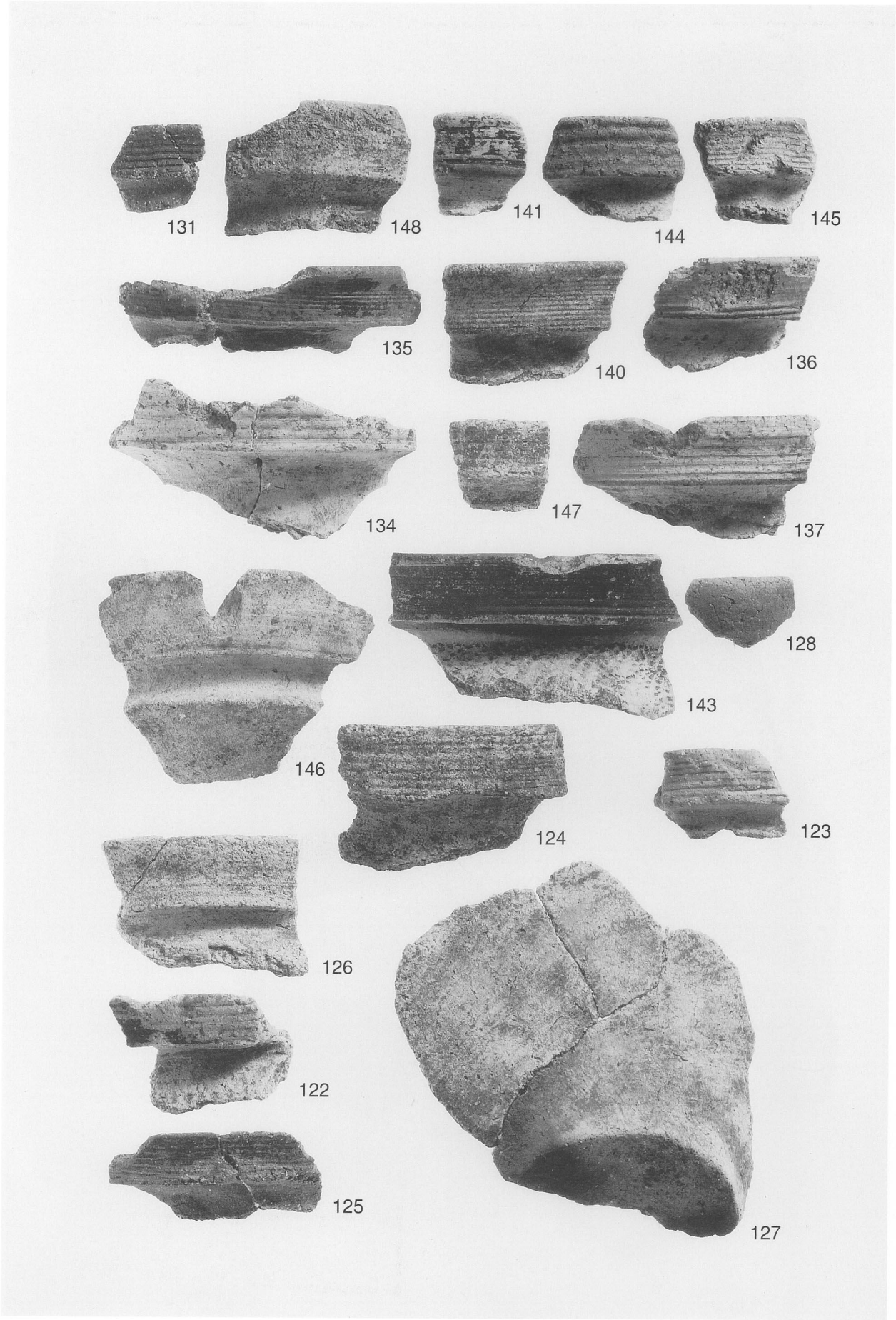
図版36



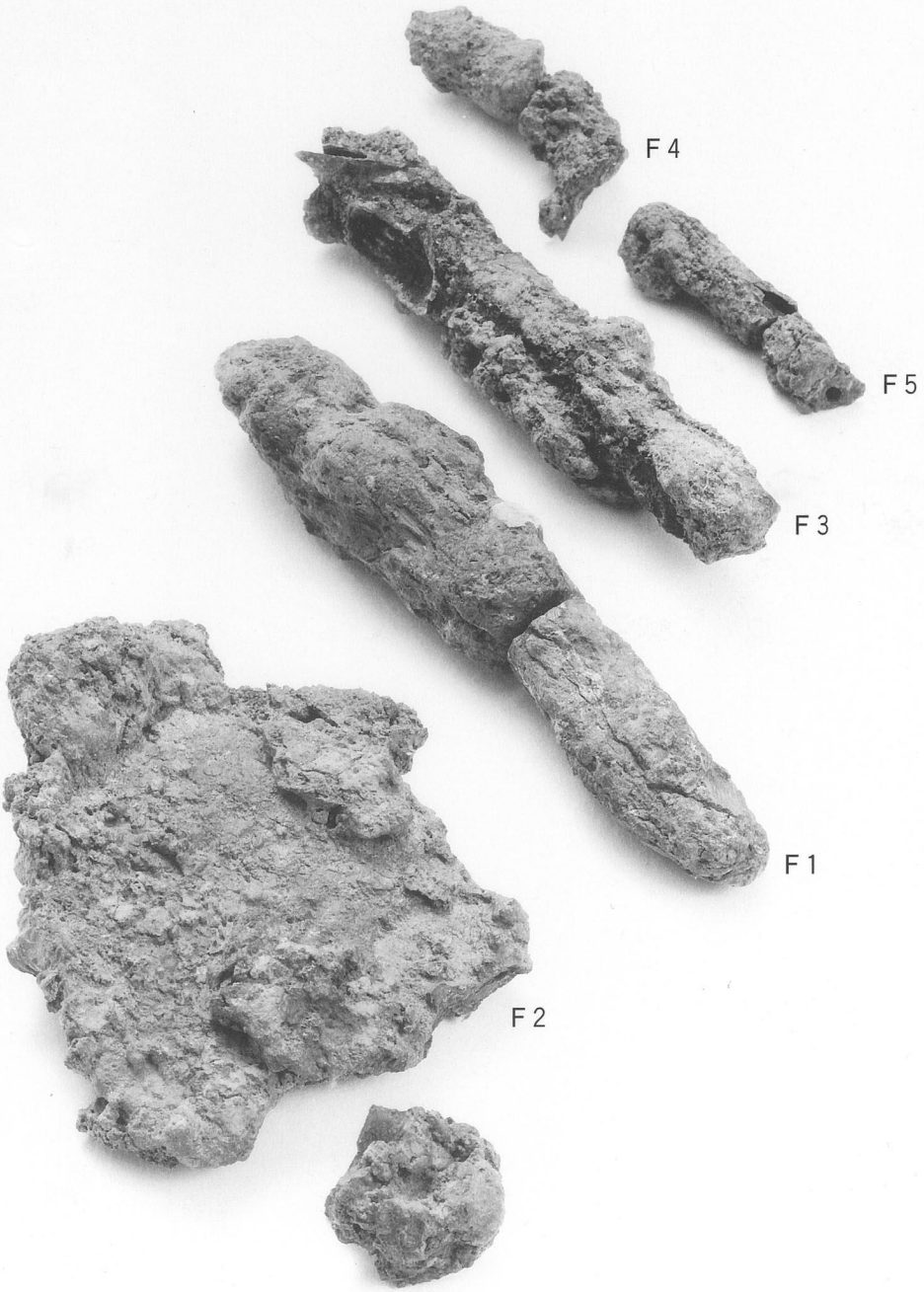
SI03，06，07出土土器

荻名第３遺跡出土石器

図版38



SI08，09，ピット，土坑，遺構外出土土器



荻名第３遺跡出土鉄器・鉄製品

報告書抄録

ふりがな	こしきさんいせきぐん～おぎなだいさんいせき～
書名	越敷山遺跡群～荻名第3遺跡～
副書名	一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書
シリーズ番号	63
編著者名	家塚英詞、柴田親臣、塚田文子
編集機関	財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター
所在地	〒680－0151　鳥取県岩美郡国府町宮下1260　Tel. 0857－27－6711
発行年月日	西暦2000（平成12）年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
荻名第3遺跡（おぎなだいさんいせき）	鳥取県西伯郡（とっとりけんさいはくぐん）会見町荻名（あいみちょうおぎな）字天野（あざあまの）、字上ヶ市（あざかみがいち）、字上ナル（あざかみなる）	31832	337	35度21分51秒	133度23分45秒	19990401～19991029	6,050	一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
荻名第3遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居跡　9 掘立柱建物跡　27 土坑　7 溝状遺構　1 段状遺構　1 ピット　444	弥生土器 石器・石製品 鉄器・鉄製品	会見町、岸本町教育委員会が、1989年に発掘調査した越敷山遺跡群と一体の遺跡

鳥取県教育文化財団調査報告書　63

一級町道諸木鶴田線道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

鳥取県西伯郡会見町

越敷山遺跡群

荻名第3遺跡

発　行　2000年3月31日
編　集　財団法人鳥取県教育文化財団
　　鳥取県埋蔵文化財センター
　　〒680－0151　岩美郡国府町宮下1260
　　電話（0857）27－6711
発行者　財団法人　鳥取県教育文化財団
印　刷　有限会社　米子プリント社